

商 学 研 究 科 履 修 案 内

平 成 21 年 度

(2 0 0 9 年 度)

慶 應 義 塾 大 学 大 学 院

商 学 研 究 科

この履修案内は、慶應義塾大学大学院商学研究科における一般的な留意事項や履修、授業、修了等に関する案内をまとめたものです。本冊子をよく読み、学位取得までの学習計画に役立ててください。また、修了後も本冊子を必要とする場合がありますので、大切に保管してください。

目次

三田キャンパスガイド	4	第6 試験	19
主な事務室と事務取扱時間		1 試験	19
振鈴表		2 レポート	19
掲示板		第7 学生総合センター	20
校舎と教室番号		1 窓口案内	20
三田キャンパスマップ		2 学生生活支援	20
第1 学事関連スケジュール (三田)	6	3 遺失物の取扱い	21
第2 学 籍 (休学・留学・退学)	10	4 奨学金	21
1 休 学	10	5 就職・進路支援	21
2 留 学	10	6 学生相談室	21
3 退 学	10	7 学生健康保険互助組合	21
海外の教育機関に留学する場合の取扱い	11	8 学生教育研究災害傷害保険	22
第3 学生証・諸届・証明書	12	9 任意加入の補償制度	22
1 学生証	12	定期健康診断	23
2 住所変更 (本人・保証人)	12	第8 履修要項	24
3 保証人変更	12	1 課程修了にいたるまでの要件	24
4 改姓・改名	12	2 履修方法	24
5 国籍変更	12	3 分野番号表	25
6 通学区間の変更	12	4 開講科目と単位数	28
7 証明書 (成績証明書・学割証等)	13	5 研究職コースと会計職コース間の コースの変更について	36
第4 Webシステム	14	6 学位請求論文の提出について	36
1 Web システム概要	14	7 単位取得退学および在学期間延長 (博士課程のみ)	38
2 Web システム操作上の注意	15	講義要綱・シラバス	39
3 パスワード再発行	15	諸研究所設置講座	113
第5 履修・授業・成績	16	教職課程センター	114
1 履修申告	16	国際センター	115
2 教員を訪ねる場合	17	アート・センター	143
3 教室使用申請 (三田)	17	関係規程抜粋	144
4 緊急時における授業の取扱い	18	学位請求論文製本表紙見本	153
5 早慶野球戦時における授業の取扱い	18		
6 成 績	18		

商学研究科役職者

研 究 科 委 員 長 : 清 家 篤
学 習 指 導 : 榊 原 研 互
学 習 指 導 (留 学 生 担 当) : 遠 藤 正 寛
学 習 指 導 (会 計 職 コース 担 当) : 永 見 尊

後期博士課程の適用学則について

商学研究科後期博士課程は、2009年度に改組しました。これにより、適用される学則が2種類存在します。

09学則：2009年度以降に商学研究科後期博士課程に入学した者に適用される学則です。

95学則：2008年度以前に商学研究科後期博士課程に入学した者に適用される学則です。

2009年度の改組にかかわらず、当面、その所属や修了単位数、授与される学位の名称等に変更はありません。

不明点等は学事センター商学研究科係に問い合わせてください。

商学研究科は、福澤諭吉の「実学の精神」を忠実に受け継ぎ、現代の社会や産業の変化を、理論と実証の両面から分析し、進歩と変革の方向性を洞察することを基本理念としています。ここで福澤の実学とは、実証科学の意味であり、従ってそれを受け継ぐわれわれの「商学」も、実際の商売の役に立つ技術や知識の伝授や研究を意味するものではありません。現代産業社会の実態をマクロ的視点とミクロ的視点の両面から捉え、そこにあるまだ解答を得られていない問題に答えるための研究とその能力の伝授を目的としています。

そのためには、まず解答すべき問題を見つけ、それについて独自の仮説を構築し、それを科学的に検証し、それを誰もが理解できるように説明することが求められます。これは、まさに論文作成のプロセスにはかなりません。つまり、実学の精神は、具体的には科学的な論文を完成させることによって実現されるといってよいでしょう。みなさんが商学研究科に提出される、修士論文、博士論文がその典型です。そうした実学の精神に満ちた論文を書くために、さまざまな講義、演習も準備されているわけです。

商学研究科は商業学、経営学、会計学、経済学（金融・証券論、保険論、交通・公共政策・産業組織論、計量経済学、国際経済学、産業史・経営史、産業関係論）、および会計職分野から構成されています。そのカリキュラムも理論と実証のバランスに配慮しています。このように多様な分野における、理論、実証両面での研究・教育の経験豊富な教員を擁していますので、学生諸君は、特定分野に偏ることなくさまざまな学問分野の視点、知識、方法論などを学ぶことができます。

われわれはこのようなカリキュラムを通じて、社会を先導する研究者、専門職、経営幹部等を養成することを目的としています。商学研究科はその中に研究職コースと会計職コースの両方をもっていますが、後者は高度な専門職に就くひとたちのために、上述のような実証科学にもとづくより高度な知識や思考能力を身に付けてもらおうというものであり、修士論文は課せられていませんが、その教育の目的は研究職コースと基本的には変わりません。いずれのコースで学ぶとしても、商学研究科の基本理念に従い、多角的な知識、独創的な構想力、確実な分析能力、豊かな情報発信能力を兼ね備えた人材を社会の各方面（企業や大学の研究・教育者、会計士などの専門職、企業・官庁・その他非営利組織等の幹部職員として）に送り出すことを目指しており、すでに多くの先輩がそれらの分野で活躍しています。自らのキャリア設計に基づいて履修計画を立て、その中でしっかりと学習、研究されることを期待しています。

商学研究科委員長
清 家 篤

商学研究科学習指導委員
榊 原 研 互

三田キャンパスガイド

主な事務室と事務取扱時間

事務室	主な業務	事務取扱時間	場所
学事センター	履修・授業・成績	授業期間中 平日 8:45～16:45 ※休業期間中の11:30～12:30は閉室	5月下旬以前 南校舎地下1階 5月下旬以後 大学院校舎1階
学生総合センター	学生生活・奨学金・就職		5月下旬以前 南校舎地下1階 5月下旬以後 仮設A棟
	学生相談	平日 9:30～11:30/12:30～16:30	西校舎地下2階
国際センター	留学	授業期間中 平日 8:45～16:45 ※休業期間中の11:30～12:30は閉室	5月下旬以前 南校舎1階 5月下旬以後 仮設A棟
教職課程センター	教職課程		南館地下1階
保健管理センター	健康診断・ヘルスケア	平日 8:45～11:30/13:00～16:15	北館1階
三田ITC	keio.jp, PC関連	授業期間中 平日 8:45～18:15 ※休業期間中は8:45～17:00	大学院校舎地下1階

- ※ 南校舎の建て替え工事に伴い、学事センターと学生総合センター、国際センターの事務室はそれぞれ5月下旬までに移転する予定です。詳細は掲示とホームページで適時お知らせします。
- ※ 土曜、日曜、祝日、大学が定める休日および大学の事務一斉休業期間（三田）は閉室します。
大学が定める休日 … 1月10日（福澤先生誕生記念日）、4月23日（開校記念日）
大学の事務一斉休業期間（三田）… 8月中旬および年末年始
- ※ 変更等は適時ホームページ「塾生の皆様へ」でお知らせします。

振鈴表

時限	授業期間	定期試験期間	
	三田・日吉	三田	日吉
第1時限	9:00～10:30	9:00～10:30	9:30～10:30
第2時限	10:45～12:15	10:45～12:15	10:50～11:50
第3時限	13:00～14:30	13:00～14:30	12:50～13:50
第4時限	14:45～16:15	14:45～16:15	14:10～15:10
第5時限	16:30～18:00	16:30～18:00	15:30～16:30
第6時限	18:10～19:40	18:15～19:45	16:50～17:50

掲示板

大学院の掲示板は大学院校舎1階に研究科ごとに設置されています。学部の掲示板は西校舎正面入口と西校舎地下1階、地下2階にあります。他研究科、学部設置科目を履修した場合は、その科目を設置している研究科、学部の掲示板を確認してください。諸研究所・センターの設置科目・講座等については、各研究科掲示板の右側にある「共通」掲示板と、西校舎の学部共通掲示板を確認してください。他地区設置科目を履修した場合はその科目を設置している地区の掲示板を確認してください。主な掲示内容は、授業の休講・補講、時間割の変更、教室の変更、緊急通達、各種試験の実施要項、学事日程、呼出等です。掲示内容の一部については学事Webシステム、塾生ページでも確認できます（「第4 Webシステム」の項を参照してください）。

学事センター（商学研究科担当）からのお知らせ：<http://www.gakuji.keio.ac.jp/mita/shoken/index.html>

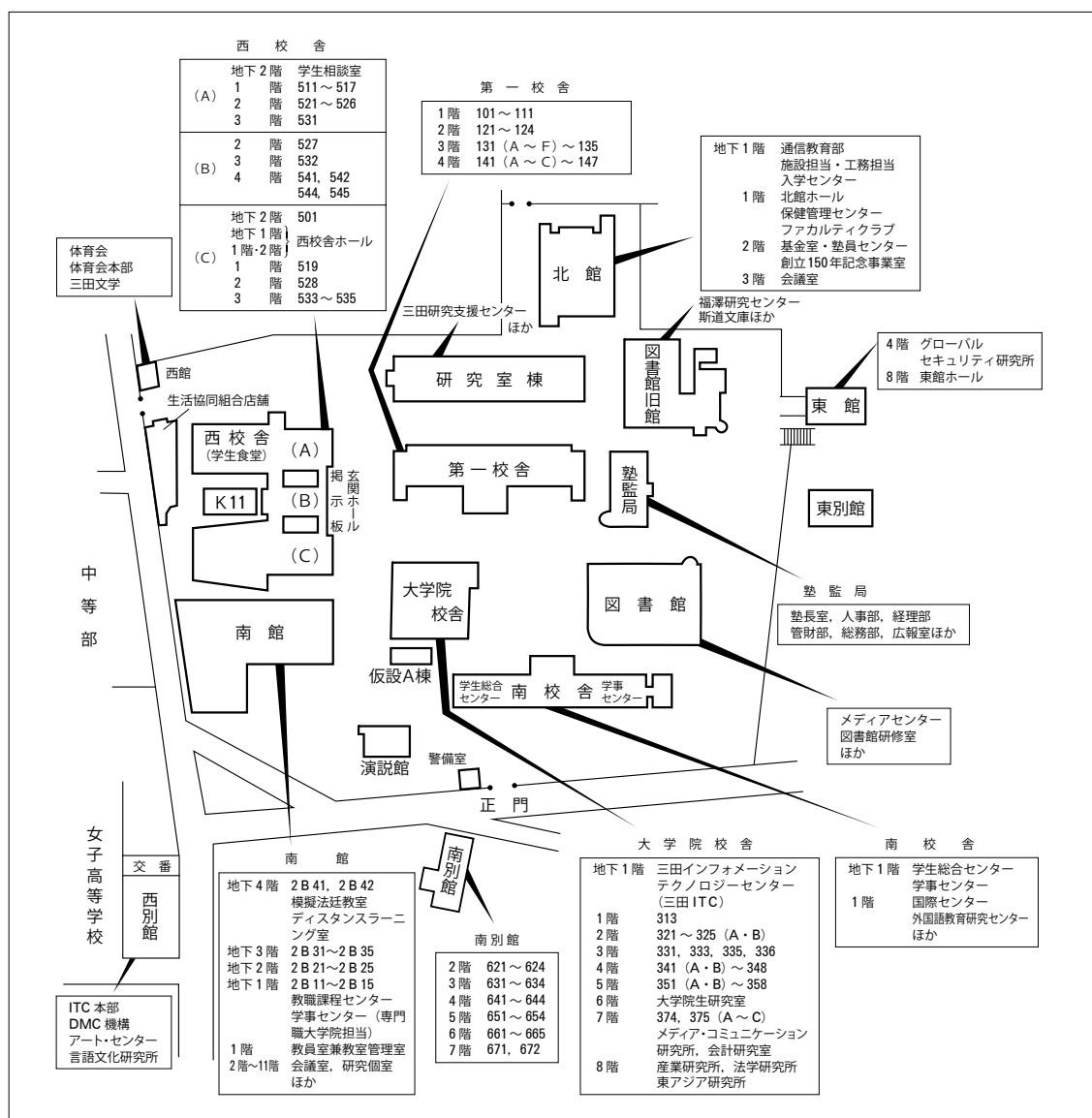
校舎と教室番号

第一校舎	大学院校舎	西校舎	南館	※南別館	※仮設教室
101～147	313, 321-A～375-C	501～545 西校舎ホール	2B11～2B42	621～672	K11

- ※ 「仮設教室」は、「西校舎」地下2階の出口近辺に建設し、2009年4月に竣工する予定です。
- ※ 「南別館」は正門を出て直進数十メートルの距離にありますが、時間には十分な余裕をもって移動してください。信号待ち、混雑状況等によっては、定刻に間に合わないことも考えられます。

三田キャンパスマップ（2009年4月現在）

- ※ 「南校舎」は、2009年の5月下旬以降に建て替え工事に入る予定です。建て替え工事期間中の代替教室や各事務室の移転先等について、掲示やHPで確認してください。
- ※ 「南別館」は正門を出て直進数十メートルの距離にありますが、信号待ちのある国道を横断しなくてはなりません。



その他

(1) PC アカウント・パスワード

三田キャンパス内のPCを利用するためには、三田ITCでアカウントとパスワードを作成する必要があります。他地区のアカウントとパスワードでログインすることはできません。

(2) PC を利用できる場所

PCは第一校舎、大学院校舎、メディアセンター、南館図書室、東館等に設置されています。

(3) 証明書自動発行機

証明書自動発行機は学事センター内に1台、南校舎中庭側に3台設置されています。ただし、南校舎建て替え工事の開始にあわせ、設置場所を移転します。詳細は、掲示やホームページで確認してください。

(4) コピー

コピーは生協購買部、生協食堂、メディアセンター等で行うことができます。

(5) 食堂

三田キャンパス内には、西校舎に、「山食（やましょく）」と「生協食堂」の2つの食堂があります。

第1

学事関連スケジュール (三田)

2009年
4月

授業期間

休業期間

休日

日 月 火 水 木 金 土

			1 成績証明書発行開始 (12:30)	2	3	4
			ガイダンス期間 (1日～7日)			
5	6	7 入学式 履修案内等資料配付・ガイダンス (10:30～519番) 学事WebシステムPW変更 締切(学事センター提出)	8 春学期授業開始	9	10	11
					Web履修申告期間 (10日16:00～16日10:00)	
12	13	14	15	16 履修申告用紙による履修申告 (8:45～10:00)	17	18
19	20	21	22	23 開校記念日	24	25
26	27	28	29 昭和の日	30 授業料等納入期限 (全納または春学期分納)	※諸研究所ガイダンスの詳細は後述 下旬 定期健康診断	

5月

					1	2
3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6 振替休日	7 修士2年修了見込証明書 博士3年単位取得見込証明書発行開始 履修申告修正期間 (7日～11日予定)	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30 早慶野球戦(予定)
31	上旬 履修申告科目確認表送付(本人宛) 上旬 定期健康診断					

6月

	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

諸研究所ガイダンス日程

国際センター在外研修プログラムガイダンス	4月6日(月)10時45分～	526番教室
教育実習事前指導I(今年度実習予定者)	4月6日(月)14時45分～	519番教室
アート・センターガイダンス	4月7日(火)12時30分～	524番教室
教職課程ガイダンス	4月7日(火)16時30分～	515番教室

7月

※「補講日」には補講の設定がなされた授業のみが行われます。

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
					補講日	
12	13	14	15	16	17	18
			春学期授業終了	春学期末定期試験(16日~27日予定)(この期間は授業は行われません)		
19	20	21	22	23	24	25
	海の日					
26	27	28	29	30	31	
		夏季休業(~9月23日)				

8月

						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
三田キャンパス一斉休業(9日~15日)						
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31	下旬 研究報告会(博士課程対象)募集締切(秋開催分)				

9月

		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
					9月学位授与式	
20	21	22	23	24	25	26
	敬老の日	国民の休日	秋分の日	9月入学式(学部・院)ガイダンス	秋学期授業開始	
27	28	29	30	上旬 春学期学業成績表送付(本人宛)		

授業期間 休業期間 休日

10月

日 月 火 水 木 金 土

					1	2	3
4	5	6	7	8	9	10	
11	12 体育の日	13	14	15	16	17	
18	19	20	21	22	23	24	
25	26	27	28	29	30 授業料等納入期限 (秋学期分納)	31 早慶野球戦(予定)	

11月

※「補講日」には補講の設定がなされた授業のみが行われます。

1	2	3 文化の日	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18 補講日(午前) ----- 三田祭準備(午後)	19 三田祭準備	20 三田祭	21 三田祭
22 三田祭	23 勤労感謝の日 三田祭	24 三田祭片付け	25	26	27	28
29	30 休学願提出期限 (今年度分)	中旬 修士論文題目届提出締切				

12月

		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23 天皇誕生日 冬季休業(~1月5日)	24	25	26
27	28	29	30	31		
		三田キャンパス一斉休業(29日~1月5日)				

**2010年
1月**

※「月曜代替講義日」には実際の曜日にかかわらず月曜日として授業が行われます。
 ※「補講日」には補講の設定がなされた授業のみが行われます。

日	月	火	水	木	金	土
					1 元日	2
3	4	5 授業開始	6	7	8	9
10 福澤先生 誕生日	11 成人の日	12	13	14	15 月曜代替講義日	16
17	18	19 補講日 秋学期授業終了	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31	初旬 研究報告会(博士課程対象)募集締切(春開催分) 下旬 修士論文提出締切 会計職コース小論文提出締切					

2月

	1	2	3 福澤先生生日	4	5	6
7	8	9	10	11 建国記念の日	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	上旬~3月下旬 春季休業 上旬 在学期間延長許可願・単位取得退学届提出締切 下旬 修士論文審査および会計職コース最終審査(面接)					

3月

	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21 春分の日	22 振替休日	23	24	25	26	27
28	29	30	31	中旬 学業成績表送付(本人宛)		

1 休学

(1) 休学願

「休学願」提出期限：当該年度の11月末日の事務取扱日

休学希望者は、期限までに学習指導と面接し、所定の「休学願」に学習指導の承認印を受け、学事センターに提出してください。

病気・怪我を理由に休学をする場合は、医師の診断書が必要です。

休学期間は当該年度末(3月31日)までとなります。休学が次の年度に及ぶ場合はあらためて「休学願」を提出してください。

(2) 就学届

休学期間が終了し、再び学業に戻る場合は、速やかに所定の「就学届」を提出してください。

病気・怪我を理由に休学をしていた場合は、医師の診断書が必要です。

2 留学

(1) 国外留学申請

研究科委員会が教育上有益と認めるときは、休学することなく外国の大学の大学院に留学することを許可することがあります。

留学を希望する場合は、あらかじめ学事センターで確認・相談のうえ必要書類を用意し、所定の「国外留学申請書」を学事センターに提出してください。また、学習指導と面接し、研究科委員会での承認も必要です。これらを含めて出発の1ヶ月前までに済ませてください。

その他留学に関する詳細については「海外の教育機関に留学する場合の取扱い」を参照してください。

(2) 就学届

留学期間が終了し再び学業に戻る場合は、速やかに所定の「就学届」を提出してください。

(3) 留学に伴う単位認定

10単位を超えない範囲で慶應義塾大学での履修単位として認定することがあります。認定を希望する場合は、「就学届」の提出とあわせて、所定の「留学に伴う単位申請書」と留学先での成績証明書、講義要綱を用意して学事センターで確認・相談をしてください。

3 退学

(1) 自主退学

事情により退学をする場合は、所定の「退学届」を学事センターに提出し、学生証を返却してください。「退学届」には、退学の具体的理由、保証人連署、本人および保証人の捺印が必要です(本人と保証人は異なる印を使用してください)。

(2) 退学処分

① 学則第128条において、同一研究科に在学し得る最長年限は、修士課程においては4年、後期博士課程においては6年と定められており、この年限を越える者は退学処分となります。

② 大学の学則もしくは諸規律に違反したと認められたとき、履修申告を期日までに提出せず休学・退学の願い出もなく修学の意志が確認できないときなどには学則第161条により退学処分となります。

(3) 単位取得退学(博士課程のみ)

「第8 履修要項」の項を参照してください。

海外の教育機関に留学する場合の取扱い

在学中に留学を希望する場合、学籍は「留学」と「休学」に分けられます。

		留 学	休 学
種 類		「交換留学」「奨学金による留学」「私費留学」の3種類。研究科委員会において適正と認められた海外の大学で、正式な手続を経て正規生と同じ授業を受ける場合（「編入制度による留学」「STUDY ABROAD PROGRAM」等）のみ「留学」として認められる。	語学研修やその他左記の留学として認定されない場合。
期 間	対象期間	「留学」の開始日から最長1年間まで。年度途中で開始し、年度途中で終了することが可能。 [例] 2009.9.22～2010.9.21	提出年度の4月1日から年度末日（翌年3月31日）までの1年間。休学開始日にかかわらず、当該年度はすべて休学扱いとなる。申請期日はその年度の11月末日の事務取扱日まで。
	延長	2回まで可能。最長で留学開始日から3年間まで。4年目以降は「休学」。希望する場合は所定の「国外留学申請書」の再提出が必要。	年度をまたいで休学する場合、新年度に「休学願」の再提出が必要。
学 費・ 渡 航 費	学費減免措置	【交換留学・奨学金による留学】 1年目：減免制度なし。 2年目以降：減免される場合あり。 留学開始日から1年ないし2年を経過した日の属する年度の授業料（在学料）および実験実習費の半額を免除。（留学許可通知とともに申請書類を保証人宛に送付します） 【私費留学】 （留学開始日が平成18年4月1日以降の者にのみ適用） 「私費留学」により在学しなかった期間（学期単位）に対し、その学期の属する年度の在学料および実験実習費について、年額の4分の1を学期毎に免除。免除される期間は最長6学期まで。ただし、留学期間中に交換または奨学金による留学が含まれる場合は、その期間に該当する学期を含んで6学期まで。	減免制度なし。
	渡航費補助	「交換留学」または「奨学金による留学」の場合は渡航費が補助される場合あり。窓口は国際センター。	渡航費補助制度なし。
単 位 取 得・ 認 定	留学期間をはさむ履修	年度途中から留学する場合、留学前に履修申告した科目を留学後に継続履修し、単位取得することが可能。ただし、同一科目同一担当者であることが条件（留学前に科目担当者に留学後に継続履修する意志があることを伝えておく必要あり）。	休学開始日にかかわらず、当該年度の1年間はすべて休学扱いとなるため、年度途中から休学する場合、履修申告した科目はすべて削除となる。 [例] 秋学期から休学をしても、春学期終了科目など既に取得した当該年度の単位はすべて削除。
	留学先で取得した単位	10単位を超えない範囲で、慶應義塾大学大学院の単位として認定される場合あり。認定希望の場合は、帰国後速やかに学事センターに申し出、「就学届」提出時に要申請。	単位認定なし。
在 学 年 数 へ の 算 入	進級・卒業（修了）	1年間に限り留学期間を在学年数に算入する場合あり。希望する場合は学事センターまで。ただし、遡及卒業（修了）は不可能。	在学年数に算入されない。（ただし、実質的な在学年数にかかわらず、休学中も最高学年まで進級します。）

※注意 TOEFL, GRE, GMAT 等受験の際、身分証明書としてパスポートが必要になります。

1 学生証

学生証は本大学大学院生であることを証明する身分証明書です。様々な場面で必要になるので常に携帯してください。

(1) 再交付

学生証または学生証裏面シールを紛失、汚損した場合は、速やかに学事センターで再交付を受けてください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

－必要書類（＜所定用紙＞は学事センターにあります）

証明書用写真（縦4cm横3cm、カラー光沢仕上げ、脱帽、上半身正面、背景なし、3ヶ月以内に撮影されたもの）、2,000円（証紙※証紙は学事センター内の券売機で販売しています）、学生証再交付願＜所定用紙＞

(2) 学生証の返却

再交付を受けた後に前の学生証が見つかった場合、また、退学・卒業等で離籍した場合はただちに学事センターへ返却してください。

(3) 国際学生証

国際学生証については生協事務室に問い合わせてください。（TEL:03-3455-6651）

2 住所変更（本人・保証人）

住所（本人・保証人）を変更した場合は、速やかに学事センターへ届け出てください。住居表示・地番変更の場合も届け出てください。本人の住所変更の場合、学生証裏面シールの記載事項変更も同時に行い、窓口で証明印を受けてください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

－必要書類（＜所定用紙＞は学事センターにあります）

学生証、在学カード＜所定用紙＞

3 保証人変更

保証人を変更する場合は、速やかに学事センターへ届け出てください。保証人は日本国内に居住し一家計を立てている成年者で、本人の学費と一身上に関する一切の責任を負うことのできる者とし、父または母としてください。父母が保証人となり得ない場合は、兄、姉、伯父、伯母等後見人またはこれに準ずる方としてください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

－必要書類（＜所定用紙＞は学事センターにあります）

学生証、保証人変更届＜所定用紙＞、在学カード＜所定用紙＞、誓約書（本人・新保証人押印）＜所定用紙＞、新保証人の住民票

4 改姓・改名

改姓・改名をした場合は、速やかに学事センターへ届け出てください。届出後、履修中の科目担当者に必ずその旨申し出てください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

－必要書類（＜所定用紙＞は学事センターにあります）

学生証、改姓（名）届＜所定用紙＞、在学カード＜所定用紙＞、誓約書（本人・保証人押印）＜所定用紙＞、学生証再交付願（写真貼付〔縦4cm横3cmカラー光沢仕上げ、脱帽、上半身正面、背景なし、3ヶ月以内に撮影されたもの〕、手数料不要）＜所定用紙＞、新姓名の戸籍抄本

5 国籍変更

国籍を変更した場合は、速やかに学事センターへ届け出てください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

－必要書類

学生証、戸籍謄本（コピーでも可）、住民票

6 通学区間の変更

住所変更等に伴い学生証裏面に記入している通学区間を変更する場合は、速やかに学事センターへ届け出てください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

通学定期券の発売区間は「自宅最寄駅」から「学校最寄駅」の最も経済的な経路による区間に限ります。学生証裏面シールの通学区間欄は、必ず「自宅最寄駅」から「学校最寄駅」を明記してください。なお、通学区間が適正でない場合は、通学定期券の発売が停止されます。

－必要書類

学生証

7 証明書（成績証明書・学割証等）

(1) 証明書自動発行機

設置場所と利用時間（他キャンパス（日吉・矢上・藤沢・芝共立）に設置されている発行機も利用できます。）

- 南校舎1階（中庭側） 月～土 9:00-20:00 ※授業・定期試験のない土曜日は利用できません。

- 学事センター内 月～金 8:45-16:45 ※授業・定期試験のない日は8:45-11:30/12:30-16:45

5月下旬からの南校舎建て替え工事に伴う設置場所の移転先情報や、メンテナンス・故障等による利用停止情報は、適時HP等でお知らせします。 <http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/shoumei/index.html>

(2) 証明書の厳封

厳封を希望する場合は窓口で申し込んでください。発行済みの証明書を後から厳封することはできません。なお、厳封には手数料はかかりませんが、発行する証明書の枚数分の手料は必要です。

(3) 代理人による申請

代理人による証明書の申請は、学生本人が大学に行くことが困難な場合（留学中、入院中等）に限り受け付けます。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

- 必要書類

本人の学生証の写し、委任状、代理人の身分証明書

※委任状に所定の書式はありません。例を参照のうえ、学生本人の意思が確認できるように作成してください。

[例] 委任状

私「(本人氏名)」は、「(代理人氏名)」に、証明書の申込みと受け取りを一任します。

20××年○月△日・本人署名・捺印

※身分証明書とは、慶應義塾大学学生証、免許証、パスポート、健康保険証、外国人登録証明書、住民基本台帳カード（写真付のもの）を原則とします。社員証、他大学学生証等は受け付けません。

(4) 証明書一覧

証明書	言語	手数料	発行場所	発行日数	発行開始日	備考
在学証明書	和文 英文	200円	自動発行機	即日	4月1日	
成績証明書	和文 英文	200円	自動発行機	即日	4月1日	
修士課程修了見込証明書	和文 英文	200円	自動発行機	即日	5月7日	修士課程2年生のみ発行されます。
修士課程修了見込付成績証明書	和文	400円	自動発行機	即日	5月7日	修士課程2年生のみ発行されます。
教育課程終了見込証明書 (単位取得退学見込証明書)	和文 英文	200円	窓口	数日 ^(注)	—	
履修科目証明書	和文	200円	自動発行機	即日	6月1日	
	英文	200円	窓口	即日		
健康診断証明書	和文	200円	自動発行機	即日	6月中旬	受診した年度の年度末まで発行できます。
	英文					
学割証	和文	無料	自動発行機	即日	4月1日	定期健康診断を未受診の場合は発行できません。1人1日10枚まで発行できます。
通学証明書	和文	無料	窓口	即日	—	学生証で購入できない区間またはバスを利用する際に必要な証明書です
各種資格試験等受験用単位取得証明書 提出先所定の用紙(リクエストフォーム) に証明を要するもの	和文	200円	窓口	数日 ^(注)	—	
	和文	200円	窓口	数日 ^(注)	—	
博士学位申請中証明書	和文	200円	窓口	数日 ^(注)	—	
	英文					
前学籍(学部)成績証明書	和文 英文	400円	自動発行機	即日	—	1978年3月31日以降の学部卒業者のみ。
前学籍(学部)卒業証明書	和文 英文	400円	自動発行機	即日	—	
前学籍(修士)成績証明書	和文 英文	400円	自動発行機	即日	—	1991年3月31日以降の修士修了者のみ。
前学籍(修士)修了証明書	和文 英文	400円	自動発行機	即日	—	

(注)発行までに時間がかかる場合がありますので、余裕を持って申請してください。

※証明書発行には学生証が必要です。

※2002年度以前の入学者が初めて英文の証明書を発行する場合は、窓口で申し出てください。

※学割証の有効期限は発行日から3ヶ月以内です(有効期間内でも学籍を失った場合は無効)。必要な枚数だけ発行するようにしてください。

※特別学割証と団体旅行申込書(団体割引)を発行する場合は、窓口で申し出てください。

※学費未納の場合は、すべての証明書が発行できません。

1 Webシステム概要

インターネットに繋がるパソコンがあれば、各種サービスを利用できます。

「塾生の皆様へ」ホームページ	
URL	http://www.gakuji.keio.ac.jp/
概要	塾生の皆様に向けて各種情報を提供するポータルサイトです。最新のお知らせや各種ホームページのリンク等を提供しています。
主な提供サービス	<ul style="list-style-type: none"> ■ 授業 / 履修 / 試験 ・ 履修案内 / 講義要綱 / 時間割 (PDF) の公開 / 修了発表 (学籍番号のみ公開) 等 ■ 学生生活 / 進路 ・ 窓口利用案内 / イベントや奨学金についての情報等

学事 Web システム	
URL	http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/
ID/パスワード	学籍番号 / 学事 Web パスワード
マニュアル	http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/
概要	履修申告や登録済科目の確認、休講・補講情報の確認等ができます。学事 Web システムを利用するためには ID (学籍番号) と事前に通知した学事 Web パスワードが必要です。パスワードを忘れた場合は学事センターにお問い合わせください。
主な提供サービス	<ul style="list-style-type: none"> ■ 履修申告 時間割や登録番号から科目を選択し履修申告を行うシステムです。履修申告期間に何度でも申告内容の修正が行えます。受付期間中に時間割が変更する場合があります。各キャンパスの掲示板に注意し、必要があれば締め切りまでに申告の修正を行ってください。 ■ 履修確認 一定の期間に履修中科目の一覧を表示します。ただし、表示される履修中科目は暫定的な内容となります。最終的な履修科目は、履修申告科目確認表で確認してください。 ■ 休講・補講 休講・補講のある授業の一覧が表示されます。携帯端末からも利用できます。ただし、公式の情報は科目設置の各キャンパスの掲示板とします。休講・補講情報は変更することがありますので、直前にも掲示板を確認するようにしてください。 ■ 連絡・呼出 事務室からのお知らせやキャンパスの掲示板に掲示される呼出がある場合は、学事 Web システムにログインした直後にメッセージが表示されます。連絡・呼出は、携帯端末からのログイン時にも表示されます。

keio.jp (共通認証システム)	
URL	http://keio.jp/
ID/パスワード	慶應 ID / パスワード
マニュアル	http://keiojp.itc.keio.ac.jp
概要	共通の ID (慶應 ID) で様々なサービスを提供するためのシステムです。利用するには、慶應 ID の取得 (アクティベーション) が必要です。また、一部のサービスでは、厳密に個人認証を行うために第 2 パスワードとして学事 Web パスワードが必要となる場合もあります。
主な提供サービス	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学業成績表閲覧 ※学事 Web パスワードを第 2 パスワードとして利用 本人へ郵送した学業成績表の原本から、個人を特定できる項目を除いた学業成績表の閲覧が可能です。利用可能期間は、研究科、学年等で異なります。詳細は「塾生の皆様へ」ホームページで告知します。 ■ 健診結果お知らせ ※学事 Web パスワードを第 2 パスワードとして利用 当該年度に受診した学生のみ健康診断の結果の閲覧ができます。閲覧開始時期は健診受診時にお知らせします。結果についての質問等は保健管理センターにお問い合わせください。 ■ 就職・進路支援システム 進路希望, 進路届, 就職体験記, 求人票等 ■ その他 ・ 慶應メール / 教育支援システム等 (詳しくは上記のマニュアルページでご確認ください)
慶應 ID 取得	慶應 ID を取得していない方は「アクティベーション」を行ってください。その際に個人認証として学籍番号と学事 Web パスワードが必要です。詳細は、以下を参照してください。 http://keiojp.itc.keio.ac.jp/manual/activation/stdact.html アクティベーションは 1 度しかできません。慶應 ID や設定したパスワードを忘れてしまった場合は、各キャンパスの ITC 窓口にお問い合わせください。

2 Webシステム操作上の注意

- (1) 複数のブラウザーを起動して同時にログインしないでください。
- (2) Web システムにログインした後は、ブラウザーの [戻る] および [進む] ボタンは使用しないでください。誤ってクリックしてしまい画面が正しく表示されなくなった場合には、[更新] ボタンを押してリロードしてください。
- (3) Web システムへログインしたまま長時間画面の前から離れた際に他人に悪用されないようにする等のセキュリティ上の目的で、長時間同じ画面が表示された場合は、次の画面には進めないようになっています。そのような場合は、一旦ブラウザーを終了し、10 秒程度待ってから再度ブラウザーを起動し直してください。
- (4) 氏名等に難しい字が使われている場合、画面上にうまく表示できない場合がありますが、システム上問題はありません。
- (5) Web システムは、推奨された環境ではない場合や各種設定 (Cookie, SSL, Proxy 等) を正しく行わない場合は、ログインできないことがあります。推奨環境, 設定方法, 操作方法については、各 Web システムのマニュアルを参照してください。

3 パスワード再発行

各 Web システムのパスワード再発行窓口は以下のとおりです。

	ログイン ID	ログインパスワード	再発行窓口	必要書類
学事 Web システム	学籍番号	学事 Web システムパスワード	学事センター	学生証
Web エントリーシステム	学籍番号	学事 Web システムパスワード	学事センター	学生証
keio.jp (共通認証システム)	慶應 ID	keio.jp パスワード	三田 ITC	学生証・慶應 ID
塾生の皆様へ	不 要	不 要	—	—

三田キャンパス内の PC を利用するための ID およびパスワードは三田 ITC で再発行できます。

1 履修申告

(1) 履修申告方法

学事 Web システムによる申告期間	4月10日(金) 16:00 ~ 4月16日(木) 10:00
学事 Web システム URL	http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/
※ 操作方法・注意は学事 Web システムのオンラインマニュアルを参照してください。	

① 履修申告期間前

- a 最新の学業成績表ですすでに取得している科目・単位を確認し、本項や「第8 履修要項」の項を正確に理解し、「講義要綱・シラバス」等本冊子の各部を参照のうえ、今年度の履修計画をたててください。
- b 履修に関する疑問点その他を指導教授または学習指導、学事センターで確認しておいてください。
- c 住所等が変わっている場合は、「第3 学生証・諸届・証明書」の項を参照し、「住所変更届」等を提出してください。履修・修了等にかかわる連絡は、大学に届け出のある住所に郵送します。

② 履修申告期間中

- a 学事 Web システムにより履修申告をしてください。
期間最終日に初めて申告するのではなく、期間中の早い時期に申告してください。期間中は何度でも申告内容の修正ができます。なお、毎日午前4時から1時間程度は定期メンテナンスのためシステムの稼働を停止します。
- b 時間割が変更すること等がありますので、随時掲示版等で最新の情報を確認してください。
※登録していない授業科目を受験しても一切無効です。単位は取得できません。
※期日までに履修申告をしない場合は、修学の意志がないものとして退学処分になります。(学則第161条)
※やむを得ない理由がある場合は、Webによらずに履修申告をすることができます。本項の「履修申告用紙による履修申告」を参照してください。

③ 履修申告期間後

- a 履修の変更・追加・取消は原則として認めません。また、閲覧・照会にも応じません。学事 Web システムによる登録科目の一覧画面を印刷し、時間割とともに控えとして保管してください。
- b 5月上旬に、「履修申告科目確認表」(申告した科目のリスト)を、大学に届出のある本人の住所宛に郵送します。登録エラーや科目間違い等の有無を確認のうえ、修正期間中に学事センター窓口に申し出て修正を行ってください。
- c 修正期間は掲示で案内します(送付後約一週間の予定)。この期間経過後は本年度の履修確認が終了したものとみなし、履修内容は原則として確定されます。以上を怠ったために生じた問題(申告漏れ、科目間違い等)により、結果として修了単位不足となる、住所変更届が未提出であったために確認表が届かない等)について大学は一切責任を持ちません。

(2) 履修科目の登録方法

- ① 授業科目名、担当者名と登録番号(5桁)を十分確認してください。
- ② 1つの授業科目には1つの登録番号が付いています。集中講義等、曜日・時限が複数にわたって開講している授業科目についても、登録番号は1つだけです。その登録番号を1つ登録することで他の時限についても登録されます。この場合、どの曜日・時限にも別の科目を登録することはできません。
- ③ 商学研究科設置科目のうち、他研究科・研究所と併設している科目については、必ず商学研究科の設置科目を履修しなければなりません。商学研究科の時間割で登録番号を確認してください。
- ④ 諸研究所設置科目の登録番号は商学部時間割の巻末で確認してください。商学部時間割は学事センターで閲覧できます。
- ⑤ 履修科目により、登録番号を登録するだけで自動的に分野が登録される場合(「A欄」申告)と、各自分野を選択しなければならない場合(「B欄」申告:2桁のB欄分野番号を登録)があります。どちらの欄で登録するかは「第8 履修要項」の項で分野番号表を参照してください。

(3) 履修申告用紙による履修申告

やむを得ない理由で Web による履修申告が行えない場合には、用紙によって履修申告をしてください。学事 Web システムによる申告と併用はできません（すべての科目をどちらか一方の方法により申告してください）。履修申告用紙による申告日は、4月16日（木）8：45～10：00 です。希望者は以下の注意事項をすべて把握したうえで学事センターに所定の申告用紙の入手を申し出てください。

- ① HB か B の鉛筆を使用してください。
- ② 研究科、専攻、学年、氏名、学籍番号および提出日を記入してください。学籍番号は数字で記入するとともに、該当する数字をマークしてください。
- ③ A 欄記入上の注意事項
 - a 形態欄：その科目の形態（春学期・秋学期・通年）を○で囲み、曜日・時限を記入します。
 - b 科目名・教員名を記入します。複数の教員が担当する科目は、時間割上段に記載されている教員名を記入します。
 - c 登録番号欄：履修する授業科目の時間割表記載の登録番号 5 桁を記入し、マークします。
- ④ B 欄記入上の注意事項
 - a 形態欄：その科目の形態（春学期・秋学期・通年）を○で囲み、曜日・時限を記入します。
 - b 科目名・教員名を記入します。
 - c 登録番号欄：履修する授業科目の時間割表記載の登録番号 5 桁を記入し、マークします。
 - d 分野欄：2 桁の履修申告用 B 欄分野番号を記入し、マークします。
- ⑤ 「無効マーク」（A 欄・B 欄に共通）にマークすると、その枠内を無効にすることができます。訂正は消しゴムを使用して修正することができますが、跡が残ったり、黒くこすれたりした場合は、「無効マーク」を利用してください。
- ⑥ 履修申告用紙の再交付について
 - a 履修申告用紙提出前の科目の訂正および変更等は、なるべく無効マーク欄を使用して無効にしたうえで正しい科目を登録してください。それでも訂正し切れない場合は交換しますので、その履修申告用紙を持参のうえ、学事センターに申し出てください。
 - b 交付された履修申告用紙では記入欄が足りない場合も学事センターに申し出てください。

2 教員を訪ねる場合

授業のある日に研究室か教員室を訪ねてください。学事センターで仲介等はいりません。メールでアポイントをとる場合は、Web 上の教員紹介等を参照してください。（<http://www.fbc.keio.ac.jp/professorate/index.html>）

- (1) 三田所属専任教員（教授・准教授・専任講師・助教） …… 研究室（研究室棟または南館）
- (2) 日吉所属専任教員および塾外からの出講者（講師） …… 教員室（南館 1 階）

※専任教員か講師か不明な場合はシラバス等で確認してください。

3 教室使用申請（三田）

(1) 研究会の教室使用申請

所定の「学内集会届」を窓口へ提出し、「申請者控」を後日窓口で受け取ってください。なお、休業期間中の利用申請には、「学内集会届」に研究会担当教員の捺印が必要です。

使用不可能期間 ……	土曜・日曜・祝日、大学が定めた休日、定期試験期間中
受付窓口 ……	三田学事センター教室担当
申込期日 ……	使用希望日の 2 週間前から事務取扱日換算の前日まで

(2) 外部団体の教室使用申請

詳細は管財部管財担当に問い合わせてください。施設使用費等が必要となります。

※他地区の教室利用については、各地区で申請方法等を確認してください。

4 緊急時における授業の取扱い

政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合や、各種自然災害・大規模な事故等による鉄道等交通機関の運行停止、その他緊急事態が発生した場合の授業の取扱いは次のとおりとします。

(1) 政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合

首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震発生が予想され、政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合は、ただちに全学休校とします。なお、地震が発生することなく「東海地震注意情報」が解除されたときの対応については、ホームページ等を通じてお知らせします。

(2) 鉄道等交通機関の運行停止やその他緊急事態発生の場合

台風・大雨・大雪・地震等の各種自然災害や大規模な事故等による鉄道等交通機関の運行停止、その他緊急事態の発生により、休講措置をとらざるを得ない場合はホームページ等を通じてお知らせします。

URL <http://www.gakuji.keio.ac.jp/index.html>

<その他の注意事項>

授業開始後に緊急事態が発生した場合は、状況により授業の短縮や早退など別途措置を講じます。

掲示や構内放送、上記のホームページによる大学からの指示に従ってください。

5 早慶野球戦時における授業の取扱い

授業は1時限のみとし、2時限以降は応援のため休講とします。雨天中止による延期や、同点終了による3回戦以降もこれに準じます。試合結果は、東京6大学野球連盟オフィシャルサイトで確認してください(<http://www.big6.gr.jp/>)。雨天等による当日試合中止の判断は、明治神宮野球場(神宮球場)の判断によります。神宮テレフォンサービス：TEL 03-3236-8000

6 成績

(1) 成績評語

所定の授業内で随時行われる試験を受けた後に評語が決まります。学業成績の評語はA・B・C・Dの4種で示すことを基本とし、A・B・Cを合格、Dを不合格とします。ただし、特定の科目は、評語をP・Fの2種とし、この場合、Pを合格、Fを不合格とします。さらに、他大学等で履修した科目をA・B・CまたはPの評語を用いずに認定する場合は、これをGとします。

(2) 学業成績表

学業成績表を春学期終了科目については9月中旬に、通年科目や秋学期終了科目も含めた当該年度最終の学業成績表については3月中旬に本人宛に郵送します。学業成績表はいかなる事情があっても再発行しません。また、事前、事後の成績照会は一切受け付けません。

(3) Web 閲覧

特定期間内に学業成績表をWebで閲覧可能です。利用にあたっては「keio.jp」のID・パスワードおよび「学事Webシステム」のパスワードが必要です。閲覧期間等の詳細は「塾生の皆様へ」ホームページで告知します。なお、パスワードの再発行等、Webシステムの利用案内については、「第4 Webシステム」の項を参照してください。

(4) 学業成績証明書

学業成績証明書を発行する時期は翌年度以降(4月以降)です。ただし、修士修了決定者については事前申請により学位授与式の日以降に発行します。詳細は1月に掲示します。学位授与式の日程については、「第1 学事関連スケジュール(三田)」の項を参照してください。

1 試験

随時授業時間内に行われます。別途指示がある場合には掲示されることがありますので、掲示板にも留意してください。なお、学部と併設する修士課程の科目については学部に基づき定期試験を行うことがあり、追加試験の対象ともなります。掲示を確認してください。日程は「第1 学事関連スケジュール(三田)」の項を参照してください。

※定期試験時間割, 持ち込み指示, 受験に関する注意事項等の詳細を掲示で必ず確認してください。

※定期試験・追加試験のURL：<http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/shiken/index.html>

① 定期試験に関する注意

- a 受験に際しては不正行為のないように、真摯な態度で臨んでください。
- b 答えは必ず提出しなければなりません。持ち帰った場合は不正行為と判断され、処分の対象とされます。
- c 学生証を必ず携帯し、提示してください。
- d 試験当日、万一学生証を携帯しなかった場合は、学事センターで必ず仮学生証(発行当日に限り全キャンパスで有効, 図書館入館も可)の交付を受けてください。なお、仮学生証の発行には、手数料500円が必要となります。
- e 学生証または仮学生証を携帯せずに試験教室に入室することは一切認められません。
- f 仮学生証発行手続により、試験教室への入室が遅れても試験時間の延長はありません。また追加試験の対象とはなりません。
- g 答案用紙の担当者および科目名ならびに学籍欄の記入事項はすべて略さず正確に記入してください。記入がない場合、成績はつきません。
- h 試験開始後20分までの遅刻の場合は、試験を受験することができます(試験期間の延長はありません)。ただし、遅刻理由が電車遅延等追加試験の対象となるものの場合、当該試験をそのまま受験するのか、それとも追加試験の申請をするのかは、本人の判断に依ります。電車遅延発生に伴い試験開始時間を遅らせる場合がありますので、必ず試験会場に向かって試験監督の指示に従ってください。
- i 試験開始後の体調不良等の理由で途中退室する場合は、追加試験の対象とはなりません。

2 レポート

レポートを三田学事センターへ提出する場合は以下を厳守してください。

- ① 指定された期間に指定された場所へ提出してください。それ以外は受け付けません。
- ② 一度提出したレポートの変更・訂正は、提出期間内でも認めません。
- ③ 学事センターへ提出を指示された場合は、所定のレポート提出用紙(2枚複写式)に必要な事項を記入し、レポートに添付して提出してください(2枚とも)。レポート提出用紙は学事センターにあります。
- ④ 学事センターレポートボックス受付時間(時間厳守)

受付曜日： 火・水曜日, 木・金曜日

受付時間： 8:45～16:45

※受付曜日・時間等を変更する場合は、掲示等でお知らせします。

※授業期間中であっても、都合により閉室することがあります。

1 窓口案内

(1) 学生生活支援

課外活動, 課外教養, 奨学金, 学生健康保険互助組合等に関することを取り扱っています。

(2) 就職・進路支援

就職・進路相談, OB・OG情報, 就職ガイダンス, 求人情報等に関することを取り扱っています。

(3) 学生相談室

さまざまな悩みや相談を受け付けています。

2 学生生活支援

(1) 学生食堂の使用申請

対 象 …… 公認学生団体・研究会・教職員・塾員等のパーティー

使用可能期間 …… 日曜・祝日以外

手 続 …… 窓口に「学内集会届」を提出
予約後2週間以内に「学内集会届」にて正式申込をしてください。

備 考 …… 「学内集会届」が提出されなかった場合, 予約が取り消されます。食事の内容等については「学内集会届」提出後に, 当該食堂に直接相談をしてください。

(2) 学外行事の届出, 団体割引の届出

対 象 …… 公認学生団体や研究会の学外行事 [例] 合宿, コンサート, 懇親会

手 続 …… 窓口に「学外行事届」を提出

申 込 期 日 …… 行事の4日前(土・日・祝日を除く)まで

備 考 …… 受理されると傷害保険の対象となります(学生教育研究災害傷害保険の項参照)。
また, 団体割引やゴルフ場使用税免除に関する証明も受け付けます。

(3) 備品借用の申請

対 象 …… 備品借用 [例] ステッカー, ワイヤレスマイク, 塾旗, 水差, 椅子, 机等

手 続 …… 窓口に「借用書」を提出

申 込 期 日 …… 借用希望日の4日前(土・日・祝日を除く)まで

(4) 掲示・チラシ配布の申請

対 象 …… ポスターの掲示やチラシ・パンフレットの配布

手 続 …… 窓口に「届出書」を提出

申 込 期 日 …… 行事の4日前(土・日・祝日を除く)まで

(5) 伝言板および「DENGON」

対 象 …… 塾生間の連絡用

手 続 …… 窓口に申し出て「掲示物受付簿」を記入

備 考 …… A4用紙1枚のみ掲示可能

(6) 車輛入構の申請

塾生の車輛入構は認められていません。やむを得ず車輛入構の必要がある場合のみ下欄を参照してください。

手 続 …… 窓口に「届出書」を提出

申 込 期 日 …… 入構希望日の4日前(土・日・祝日を除く)まで

(7) 大学生生活懇談会

講演会や見学会をはじめ, スキー企画等さまざまな催物を随時開催しています。企画内容については構内のチラシやポスター, 学生総合センターホームページを参照してください。

(8) 配布物・閲覧物関係

財団法人セミナーハウスの利用案内や展覧会等の割引券・招待券を置いています。また, ボランティア募集や公募関係の案内もファイル等で公開しています。

3 遺失物の取扱い

届出のあった遺失物は、学生総合センター学生生活支援窓口にて保管しています。

ただし、学生証のみの拾得については、学事センター（総合窓口）にて保管します（学生証が、財布や定期入れ等に入っている場合は、学生総合センターで保管されます）。

4 奨学金

(1) 「奨学金案内」

学生総合センターで「奨学金案内」を配布し、「奨学金案内」にて別途詳細を案内しています。「奨学金案内」は、概ね4月初旬に配布し、配布後に随時出願受付を行います。

(2) 主な奨学金の概略

募集日程は、その都度西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

慶應義塾大学大学院奨学金〔給付〕… 5月中旬に出願受付を行います。

日本学生支援機構奨学金〔貸与〕… 4月上旬から中旬に出願受付を行います。第一種（無利子）と、第二種（有利子）があり、その他に家計急変者を対象とした緊急採用（第一種）・応急採用（第二種）もあります。

地方公共団体、社・財団法人等の… 募集は主に4・5月に行います。
各種奨学金〔給付・貸与〕

指定寄付奨学金〔給付〕… 募集は主に4月に行います。

(3) 奨学融資制度（利子給付奨学金制度付き学費ローン）

学生諸君の学費の調達の手助けになるよう配慮した制度で、学生本人に金融機関が低金利で学費を直接貸し出しする方式です。在学生であれば、誰でも申請することが可能です。在学中の借りに伴う利子は、本人の申請に基づいて規程に従い、慶應義塾が奨学金として給付します。入学年度等により、適用制度が異なりますので、詳細は奨学金窓口までお問い合わせください。

5 就職・進路支援

就職・進路支援は、就職活動に関するさまざまな情報を収集して提供しています。企業からの求人票・説明会案内をはじめ、会社案内、OB・OG情報、インターンシップ情報等を、学生総合センター事務室、就職資料室にて、提供しています。また、keio.jp上から求人票や就職活動体験記を閲覧することもできます。

修士1年生に対しては、10月から2月にかけて多様な専門家等による講演会、就職ガイダンス、公務員志望者のための説明会、OB・OGや内定者によるパネルディスカッション等をキャンパス内で開催しています。また、就職活動の進め方を解説した『就職ガイドブック』を作成し、修士1年生全員に配布しています。皆さんが就職活動をする中でわからないこと、困ったこと等があった場合には、いつでも個別相談にも応じています。

6 学生相談室

学生相談室は、学生生活を送っていく中で出会うさまざまな事柄について、気軽に相談できる場所です。相談には、可能な限りその場で応じますが、原則として予約制となります（電話予約可）。相談内容については、固く秘密を守ります。友人や家族と一緒に来談されても結構です。また、相談内容によっては、必要に応じて他部署・他機関への紹介も行います。また、学生相談室では、カウンセリングだけでなくより豊かで充実したキャンパスライフをおくれるよう、さまざまなグループ企画を用意しています。参加ご希望の方はお問い合わせください。

7 学生健康保険互助組合

保険証を提示し、病院や診療所で受診した場合、学生健保から医療費給付が受けられます。給付手続は、医療機関によって異なりますので、以下に従って手続してください。なお、給付方法は銀行振込（ゆうちょ銀行は不可）となりますので、口座登録が必要です。

- 慶應病院で受診した場合 … 病院で診察を受ける際、保険証と学生証を提示してください。また「医療給付金振込口座届」を学生生活支援窓口へ提出し、振込口座を登録してください。通院は受診月の翌月20日に、入院は翌々月20日に給付金が振り込まれます。
- 一般病院で受診した場合 … 学生生活支援窓口においてある「医療費領収証明書」に、病院で1か月ごとの診療内容を記入してもらい、塾生記入欄には各自記入して、学生生活支援窓口へ提出してください。ただし、「学生氏名」「保険点数または保険適用金額」「負担割合」の3点が明示された領収証が発行されている場合は領収証の添付でかまいませんが、必ず「医療費領収証明書」に保険者番号、傷病名等を記入して提出してください。受診月を含め、4カ月以内に提出されない場合は無効となります。振込日は証明書を提出した月の翌月20日です。

組合ではこのほか、契約旅館に対する宿泊費補助や、海の家、スキーハウスの開設等を行っています。また、日吉塾生会館内にトレーニングルームを設置しています。

その他、入学時に配布した『健保の手引き』でさまざまな案内をしていますので、詳細を確認してください。『健保の手引き』は学生総合センター窓口でも閲覧可能です。

8 学生教育研究災害傷害保険

教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために、大学で保険料の全額を負担し、日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。この保険の適用を受ける「教育研究活動中」とは次の場合をいいます。

(1) 正課を受けている間

講義、実験・実習、演習または実技による授業（総称して以下「授業」といいます）を受けている間をいい、次に掲げる間を含みます。

- ① 指導教員の指示に基づき、卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。ただし、もっぱら被保険者の私生活にかかわる場所において、これらに従事している間を除きます。
- ② 指導教員の指示に基づき、授業の準備もしくは後片付けを行っている間、または授業を行う場所、大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

(2) 学校行事に参加している間

大学の主催する入学式、オリエンテーション、卒業式等の教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

(3) (1)(2) 以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有、使用または管理している施設内にいる間。ただし、寄宿舎にいる間、大学が禁じた時間もしくは場所にいる間、大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

(4) 学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続により、大学の認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし山岳登山やハングラライダー等の危険なスポーツを行っている間を除きます。

保険金は本人（被保険者）の申請に基づき支払われますので、上記活動中に万一事故にあった場合は、学生生活支援窓口で相談のうえ、所定の手続を行ってください。また、本保険の適用が円滑に行われるよう、ゼミ合宿を学外で行う場合、および公認学生団体が学外で活動する場合は、その都度「学外行事届」を提出してください。

その他この保険に関する詳細については、直接学生生活支援窓口で尋ねてください。

9 任意加入の補償制度

任意加入の補償制度としては、以下の2種類があります。資料請求や加入希望の場合は直接連絡をしてください。

(1) 「学生総合補償制度」

(株)慶應学術事業会（慶應義塾関連会社） TEL 03-3453-3846

(2) 「学生総合共済」・「学生賠償責任保険」

慶應生活協同組合 TEL 045-563-8489

定期健康診断

定期健康診断は学校保健法に基づいて全学年を対象に年1回実施しています。大学院学則第159条(学部学則179条)にも「学生は毎年健康診断を受けなければならない」と定められていますので必ず受診してください。未受診の場合には「体育実技」の履修および健康診断証明書・学割証(学校学生生徒旅客運賃割引証)の発行はできません。

また学内における麻疹の集団感染を予防するために、母子健康手帳等を確認し、ワクチン未接種でかつ罹患したことのない方、あるいはワクチンを1回接種し10年以上経過した方は、かかりつけ医師と相談し、ワクチン接種を受けることをお勧めします。また、風疹・水痘(みずぼうそう)・流行性耳下腺炎(おたふく)等の感染症予防についてもかかりつけ医師とご相談ください。学内集団感染予防のため、ご協力ください。

1 課程修了にいたるまでの要件

(1) 修士課程 (大学院学則第 76 条, 77 条, 109 条参照)

① 研究職コース

2 年間以上商学研究科修士課程に在籍し, 学位論文 (修士論文) の審査ならびに最終試験に合格すること, および次の必要単位を充たすこと。

基礎科目, 専門科目, 演習科目から合計 32 単位以上を履修・合格すること。ただし, そのなかに演習科目を 8 単位以上含むこと。

② 会計職コース

2 年間以上商学研究科修士課程に在籍し, 学位論文 (修士論文) に代わる演習科目で作成した小論文 3 本の審査ならびに最終試験に合格すること, および次の必要単位を充たすこと。

基礎科目, 専門科目, 演習科目から合計 32 単位以上を履修・合格すること。ただし, そのなかに基礎科目, 会計職分野の専門科目および会計職分野の演習科目をそれぞれ 6 単位以上含むこと。

(2) 後期博士課程 (大学院学則第 83 条, 109 条参照)

3 年間以上商学研究科後期博士課程に在籍し, 学位論文 (博士論文) の審査ならびに最終試験に合格すること, および次の必要単位を充たすこと。

【09 学則】

演習 8 単位以上を含む授業科目 12 単位以上を履修・合格すること。

【95 学則】

自分の所属する専攻の演習 8 単位以上を含む授業科目 12 単位以上を履修・合格すること。

なお, 上記要件のうち, 学位論文の審査および最終試験を除き, 所定の教育課程を終えた段階で終了する場合は「単位取得退学」として扱われます。(「7 単位取得退学および在学期間延長」の項を参照してください)

2 履修方法

履修にあたっては, 指導教授と必ず相談して決定してください。不明な点がある場合は, 学習指導, または学事センター商学研究科係に問い合わせてください。

なお, 会計職コースでは, 究めたい分野に応じて次のような履修モデルを用意しています。もちろん, ここに記されている科目以外の履修も可能です。

会計職コース履修モデル

	プロフェッショナルアカウンティング			マネジメント コンサルティング	タックス コンサルティング	フィナンシャル マネジメント
	財務会計	管理会計	会計監査			
基礎科目	会社法 I・II Academic Writing Business Communication 統計学基礎理論 ビジネス・エコノミクス I・II ビジネス中国語 I・II ファイナンス I・II					
専門科目 (基礎)	国際会計論 I-IV 会計史 会計測定論	マネジメント・アカウンティング 戦略の経営・会計 リスク・コミュニケーション論	内部監査論 コーポレート・ガバナンス論 職業倫理と公認会計士法	リスク・コミュニケーション論 コーポレート・ガバナンス論 戦略の経営・会計	租税法概論 法人税法	コーポレート・ガバナンス論
専門科目 (応用)	民間非営利組織会計論 環境会計論 現代会計論 中国会計論 公会計論	マネジメント・コントロール	IT監査(システム監査)論 アシュアランス論 監査実務	ビジネスリスク・マネジメント論 情報セキュリティ論 中国会計論	中小企業とタックス・プランニング 海外進出とタックス・プランニング 国際税務論 倒産法制	ビジネスリスク・マネジメント論 ベンチャー株式公開論 組織再編論 事業再生論 倒産法制
演習科目	経営分析演習 会計政策演習 管理会計演習 会計監査演習 企業倫理演習 コーポレート・ガバナンス演習					

3 分野番号表

(1) 修士課程

① 研究職コース

科目の分野	分野番号	分類の説明
基礎科目	01-01-01	商学研究科修士課程に基礎科目として設置されている授業科目で、修了要件単位に算入されます。 <u>A欄で申告してください。</u>
専門科目	01-02-01	商学研究科修士課程に専門科目として設置されている授業科目で、修了要件単位に算入されます。 <u>A欄で申告してください。</u>
演習科目	01-03-01	商学研究科修士課程に演習科目として設置されている授業科目で、修了要件単位に算入されます。 <u>A欄で申告してください。</u>
指定他研究科科目	01-04-01	指導教授が必要と認める他の研究科修士課程の授業科目で、修了要件単位に算入されます。 <u>B欄で申告してください。(B欄分野：21)</u>
指定科目(自由)	09-01-01	指導教授が必要と認める学部の授業科目で、修了要件単位に算入されません。 <u>B欄で申告してください。(B欄分野：30)</u>
自由科目	09-02-01	上記以外の授業科目で修了要件単位に算入されません。 <u>B欄で申告してください。(B欄分野：31)</u>

8単位以上

32単位以上

② 会計職コース

科目の分野	分野番号	分類の説明	
基礎科目	01-01-01	商学研究科修士課程に基礎科目として設置されている授業科目で、修了要件単位に算入されます。 <u>A欄で申告してください。</u>	6単位以上
専門科目	01-02-01	商学研究科修士課程に専門科目として設置されている授業科目で、修了要件単位に算入されます。 <u>A欄で申告してください。</u>	
専門科目(会計職分野)	01-02-02	商学研究科に専門科目として設置されている授業科目のうち会計職分野の授業科目で、修了要件単位に算入されます。 <u>A欄で申告してください。</u>	6単位以上
演習科目	01-03-01	商学研究科修士課程に演習科目として設置されている授業科目で、修了要件単位に算入されます。 <u>A欄で申告してください。</u>	
演習科目(会計職分野)	01-03-02	商学研究科に演習科目として設置されている授業科目のうち会計職分野の授業科目で、修了要件単位に算入されます。 <u>A欄で申告してください。</u>	6単位以上
指定他研究科科目	01-04-01	指導教授が必要と認める他の研究科修士課程の授業科目で、修了要件単位に算入されます。 <u>B欄で申告してください。(B欄分野：21)</u>	
指定科目(自由)	09-01-01	指導教授が必要と認める学部の授業科目で、修了要件単位に算入されません。 <u>B欄で申告してください。(B欄分野：30)</u>	32単位以上
自由科目	09-02-01	上記以外の授業科目で修了要件単位に算入されません。 <u>B欄で申告してください。(B欄分野：31)</u>	

(2) 博士課程

【09学則】

科目の分野	分野番号	分類の説明
講義科目	01-01-01	商学研究科博士課程に設置されている講義科目で、修了要件単位に算入されます。 <u>A欄で申告してください。</u>
演習科目	01-02-01	商学研究科博士課程に設置されている演習科目（特殊演習または特殊合同演習）で、修了要件単位に算入されます。 <u>A欄で申告してください。</u>
指定他研究科科目	01-03-01	指導教授が必要と認める他の研究科博士課程の授業科目で、修了要件単位に算入されます。 <u>B欄で申告してください。</u> （B欄分野：21）
指定科目（自由）	09-01-01	指導教授が必要と認める研究科修士課程の授業科目または学部の科目で、修了要件単位に算入されません。 <u>商学研究科修士課程の授業科目はA欄で、他はB欄で申告してください。</u> （B欄分野：30）
自由科目	09-02-01	上記以外の授業科目で修了要件単位に算入されません。 <u>B欄で申告してください。</u> （B欄分野：31）

8単位以上

12単位以上

【95学則】

科目の分野	分野番号	分類の説明
講義科目	01-01-01	商学研究科博士課程に設置されている講義科目で、修了要件単位に算入されます。 <u>A欄で申告してください。</u>
自専攻内演習科目	01-02-01	商学研究科博士課程に設置されている演習科目（特殊演習または特殊合同演習）のうち、自分の所属する専攻の演習科目で修了要件単位に算入されます。 <u>A欄で申告してください。</u>
他専攻演習科目	01-03-01	商学研究科博士課程に設置されている演習科目（特殊演習または特殊合同演習）のうち、自分の所属する専攻以外の専攻に設置されている演習科目で修了要件単位に算入されます。 <u>A欄で申告してください。</u>
指定他研究科科目	01-04-01	指導教授が必要と認める他の研究科博士課程の授業科目で、修了要件単位に算入されます。 <u>B欄で申告してください。</u> （B欄分野：21）
指定科目（自由）	09-01-01	指導教授が必要と認める研究科修士課程の授業科目または学部の科目で、修了要件単位に算入されません。 <u>商学研究科修士課程の授業科目はA欄で、他は、B欄で申告してください。</u> （B欄分野：30）
自由科目	09-02-01	上記以外の授業科目で修了要件単位に算入されません。 <u>B欄で申告してください。</u> （B欄分野：31）

8単位以上

12単位以上

4 開講科目と単位数

2009年度に商学研究科に開講される科目と単位数は次のとおりです。特定期間集中の科目は、掲示でその期間を確認してください。

なお、修士課程在籍者が博士課程設置科目を履修することはできません。

また、博士課程在籍者が修士課程設置の会計職分野の演習科目を履修することはできません。

(1) 修士課程

① 基礎科目

科 目 名	単位数	授業形態
ビジネス・エコノミクスⅠ	2	春学期
ビジネス・エコノミクスⅡ	2	秋学期
Business Economics	2	春学期・春特定
Basic Business History	2	休 講
社 会 科 学 方 法 論	2	春学期
専 門 外 国 書 研 究 (英 書)	2	休 講
専 門 外 国 書 研 究 (独 書)	2	通 年
専 門 外 国 書 研 究 (仏 書)	2	通 年
Japanese Economy	2	秋学期
統 計 学 基 礎 理 論	2	春学期
統 計 解 析	2	秋学期
Academic Writing	2	春学期
Business Communication	2	秋学期
経 済 数 学 基 礎 理 論	4	通 年
経 済 数 学 基 礎 理 論	2	春学期
Introduction to Econometrics	2	春学期
マ ク ロ ・ マ ー ケ テ ィ ン グ 論	2	春学期
ミ ク ロ ・ マ ー ケ テ ィ ン グ 論	2	秋学期
Domestic Tax Law	2	春学期
International Tax Law	2	秋学期
リ ス ク ・ マ ネ ジ メ ン ト 論	2	春学期
交 通 ・ 公 共 政 策 論	2	休 講
産 業 組 織 論	2	春学期
計 量 経 済 学	2	春・秋学期
理 論 経 済 学	2	休 講
国 際 経 済 学	2	秋学期
International Economy	2	春学期
産 業 史 ・ 経 営 史	2	春学期
現 代 日 本 経 営 論	2	春学期
経 営 学 説	2	春学期
Acco un t i n g	2	休 講
労 働 経 済 学	2	春学期
産 業 関 係 論	2	春学期
フ ァ イ ナ ン ス Ⅰ	2	春学期
フ ァ イ ナ ン ス Ⅱ	2	秋学期

科 目 名	単位数	授業形態
会 社 法 I	2	春学期
会 社 法 II	2	秋学期
ビ ジ ネ ス 中 国 語 I	2	春学期
ビ ジ ネ ス 中 国 語 II	2	秋学期

② 専門科目

a 商業学分野

科 目 名	単位数	授業形態
マ ク ロ ・ マ ー ケ テ ィ ン グ 特 論	2	春・秋学期
ミ ク ロ ・ マ ー ケ テ ィ ン グ 特 論	2	春・秋学期・秋特定

b 金融・証券論分野

科 目 名	単位数	授業形態
金 融 特 論	2	春・秋学期
証 券 特 論	2	春・秋学期
財 政 特 論	2	春・秋学期
税 制 ・ 経 済 政 策 特 論	2	休 講
税 務 行 政 特 論	2	秋学期

c 保険論分野

科 目 名	単位数	授業形態
リ ス ク ・ マ ネ ジ メ ン ト 特 論	2	春・秋学期
保 険 特 論	2	春学期
保 険 経 営 特 論	2	秋学期

d 交通・公共政策・産業組織論分野

科 目 名	単位数	授業形態
交 通 ・ 公 共 政 策 特 論	2	春・秋学期
経 済 地 理 特 論	2	休 講
産 業 組 織 特 論	2	春学期

e 計量経済学分野

科 目 名	単位数	授業形態
計 量 経 済 学 特 論	2	春・春特定・秋学期
数 理 統 計 学 特 論	2	春学期
産 業 連 関 特 論	2	春学期

f 国際経済学分野

科 目 名	単位数	授業形態
国際関係特論	2	秋学期
国際金融特論	2	秋学期
国際経済特論	2	春・秋学期

g 産業史・経営史分野

科 目 名	単位数	授業形態
産業史特論	2	秋学期
経営史特論	2	春・秋学期
流通史特論	2	休講

h 経営学分野

科 目 名	単位数	授業形態
現代企業経営特論	2	春・秋学期
経営管理特論	2	春・秋学期
比較経営特論	2	春特定

i 会計学分野

科 目 名	単位数	授業形態
財務会計特論	2	春・秋学期
管理会計特論	2	春・秋学期
会計史特論	2	春・秋学期

j 産業関係論分野

科 目 名	単位数	授業形態
労働経済特論	2	秋学期
産業関係特論	2	春・秋学期
産業社会特論	2または4	春・春集・秋学期
社会保障特論	2	春・秋学期

k 会計職分野

科 目 名	単位数	授業形態
国 際 会 計 論 I	1	春学期
国 際 会 計 論 II	1	春学期
国 際 会 計 論 III	1	秋学期
国 際 会 計 論 IV	1	秋学期
会 計 史	1	休 講
会 計 測 定 論	1	春学期
公 会 計 論	1	春学期
民 間 非 営 利 組 織 会 計 論	1	休 講
マネジメント・アカウンティング	1	秋学期
リスク・コミュニケーション論	1	春学期
内 部 監 査 論	1	春学期
コーポレート・ガバナンス論	1	秋学期
職 業 倫 理 と 公 認 会 計 士 法	1	春学期
租 税 法 概 論	1	春学期
法 人 税 法	1	秋学期
環 境 会 計 論	1	休 講
現 代 会 計 論	1	秋学期
中 国 会 計 論	1	春学期
マネジメント・コントロール	1	休 講
I T 監 査 (シ ス テ ム 監 査) 論	1	春学期
ア シ ュ ア ラ ン ス 論	1	秋学期
監 査 実 務	1	春学期
ビジネスリスク・マネジメント論	1	秋学期
情 報 セ キ ュ リ テ ィ 論	1	秋学期
中小企業とタックス・プランニング	1	春学期
海外進出とタックス・プランニング	1	春学期
国 際 税 務 論	1	秋学期
倒 産 法 制	1	秋学期
ベ ン チ ャ ー 株 式 公 開 論	1	秋学期
組 織 再 編 論	1	秋学期
事 業 再 生 論	1	秋学期

1 学際領域分野

科 目 名	単位数	授業形態
経 済 学 と 法 制 度	2	秋学期
戦 略 の 経 済 ・ 商 業	2	秋学期
戦 略 の 経 営 ・ 会 計	2	秋学期
イノベーションの経営・商業	2	春学期
環 境 と 経 済 政 策	2	春学期

③ 演習科目

a 商業学分野

科 目 名	単位数	授業形態
商 業 学 演 習	2	春・秋学期
商 業 学 合 同 演 習	2	休 講

b 金融・証券論分野

科 目 名	単位数	授業形態
金 融 論 演 習	2	春・秋学期
金 融 論 合 同 演 習	2	春・秋学期
財 政 論 演 習	2	春・秋学期
税 制 ・ 経 済 政 策 演 習	2	春・秋学期

c 保険論分野

科 目 名	単位数	授業形態
リ ス ク ・ 保 険 論 演 習	2	春・秋学期
リ ス ク ・ 保 険 論 合 同 演 習	2	休 講

d 交通・公共政策・産業組織論分野

科 目 名	単位数	授業形態
交 通 ・ 公 共 政 策 演 習	2	春・秋学期
産 業 組 織 論 演 習	2	秋学期
公 共 政 策 ・ 産 業 組 織 論 合 同 演 習	2	春学期

e 計量経済学分野

科 目 名	単位数	授業形態
計 量 経 済 学 演 習	2	春・秋学期
計 量 経 済 学 合 同 演 習	2	春・秋学期

f 国際経済学分野

科 目 名	単位数	授業形態
国 際 経 済 学 演 習	2	春・秋学期
国 際 経 済 政 策 演 習	2	休 講
国 際 経 済 学 合 同 演 習	2	春・秋学期

g 産業史・経営史分野

科 目 名	単位数	授業形態
産 業 史 ・ 経 営 史 演 習	2	春・秋学期
産 業 史 ・ 経 営 史 合 同 演 習	2	休 講

h 経営学分野

科 目 名	単位数	授業形態
経 営 学 演 習	2	春・秋学期
経 営 学 合 同 演 習	2	秋学期

i 会計学分野

科 目 名	単位数	授業形態
会 計 学 演 習	2	春・秋学期
会 計 学 合 同 演 習	2	春・秋学期

j 産業関係論分野

科 目 名	単位数	授業形態
産 業 関 係 論 演 習	2	春・秋学期
産 業 関 係 論 合 同 演 習	2	春・秋学期

k 会計職分野

科 目 名	単位数	授業形態
経 営 分 析 演 習	2	春学期
会 計 政 策 演 習	2	秋学期
管 理 会 計 演 習	2	秋学期
会 計 監 査 演 習	2	春学期
企 業 倫 理 演 習	2	秋学期
コーポレート・ガバナンス演習	2	秋学期

(2) 後期博士課程

【09 学則】

商学専攻

科 目 名	単位数	授業形態
商業学特殊研究	2	春・秋学期
商業学特殊演習	2	春・秋学期
商業学特殊合同演習	2	休講
金融論特殊研究	2	春・秋学期
金融論特殊演習	2	春・秋学期
金融論特殊合同演習	2	春・秋学期
財政論特殊研究	2	春・秋学期
財政論特殊演習	2	休講
リスク・保険論特殊研究	2	春・秋学期
リスク・保険論特殊演習	2	春学期
リスク・保険論特殊合同演習	2	秋学期
交通・公共政策特殊研究	2	春学期
交通・公共政策特殊演習	2	秋学期
産業組織論特殊研究	2	春学期
産業組織論特殊演習	2	秋学期
交通・公共政策・産業組織論特殊合同演習	2	春学期
計量経済学特殊研究	2	春・秋学期
計量経済学特殊演習	2	春・秋学期
計量経済学特殊合同演習	2	春・秋学期
統計学特殊研究	2	春学期
統計学特殊演習	2	休講
国際経済学特殊研究	2	秋学期
国際経済学特殊演習	2	春・秋学期
国際経済学特殊合同演習	2	春・秋学期
産業史・経営史特殊研究	2	春・秋学期
産業史・経営史特殊演習	2	春・秋学期
産業史・経営史特殊合同演習	2	休講
経営学特殊研究	2	春・秋学期
経営学特殊演習	2	春・秋学期
経営学特殊合同演習	2	秋学期
会計学特殊研究	2	春・秋学期
会計学特殊演習	2	春・秋学期
会計学特殊合同演習	2	春・秋学期
産業関係論特殊研究	2	春・秋学期
産業関係論特殊演習	2	春・秋学期
産業関係論特殊合同演習	2	春・秋学期

【95学則】

① 商学専攻

科 目 名	単位数	授業形態
商業学特殊研究	2	春・秋学期
商業学特殊演習	2	春・秋学期
商業学特殊合同演習	2	休講
金融論特殊研究	2	春・秋学期
金融論特殊演習	2	春・秋学期
金融論特殊合同演習	2	春・秋学期
財政論特殊研究	2	春・秋学期
財政論特殊演習	2	休講
リスク・保険論特殊研究	2	春・秋学期
リスク・保険論特殊演習	2	春学期
リスク・保険論特殊合同演習	2	秋学期
交通・公共政策特殊研究	2	春学期
交通・公共政策特殊演習	2	秋学期
産業組織論特殊研究	2	春学期
産業組織論特殊演習	2	秋学期
交通・公共政策・産業組織論特殊合同演習	2	春学期
計量経済学特殊研究	2	春・秋学期
計量経済学特殊演習	2	春・秋学期
計量経済学特殊合同演習	2	春・秋学期
統計学特殊研究	2	春学期
統計学特殊演習	2	休講
国際経済学特殊研究	2	秋学期
国際経済学特殊演習	2	春・秋学期
国際経済学特殊合同演習	2	春・秋学期
産業史・経営史特殊研究	2	春・秋学期
産業史・経営史特殊演習	2	春・秋学期
産業史・経営史特殊合同演習	2	休講

② 経営学・会計学専攻

科 目 名	単位数	授業形態
経営学特殊研究	2	春・秋学期
経営学特殊演習	2	春・秋学期
経営学特殊合同演習	2	秋学期
会計学特殊研究	2	春・秋学期
会計学特殊演習	2	春・秋学期
会計学特殊合同演習	2	春・秋学期
産業関係論特殊研究	2	春・秋学期
産業関係論特殊演習	2	春・秋学期
産業関係論特殊合同演習	2	春・秋学期

5 研究職コースと会計職コース間のコースの変更について

修士課程では、一定の条件を満たしていれば1年次末にコースを変更できる制度が設けられています。コースを変更した場合でも在籍年数や成績に影響はありません。概要は次のとおりです。詳細は掲示で案内します。

(1) 研究職コースから会計職コースへ変更する場合

出願資格 簿記検定2級以上の資格（あるいは同程度の資格）を有していること

必要書類 資格証明書（原本）

現指導教授の承認印（申請書）

審査方法 資格確認

(2) 会計職コースから研究職コースへ変更する場合

出願資格 研究職コースの演習科目2単位以上を履修していること

必要書類 所定用紙による研究計画書

希望指導教授の承認印（申請書）

審査方法 面接（2月下旬予定）

6 学位請求論文の提出について

(1) 修士論文の提出と修士学位の授与（研究職コース）

「修士の学位は、大学院前期博士課程を修了した者に与えられる。」（学位規程第3条）

「第3条の規定に基づき修士学位を申請する者は、学位論文3部を指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。」（同第7条①）

研究職コース在籍者については、修士論文提出と修士論文審査に関する手順は次のとおりです。

① 修士論文題目届（11月中旬締切予定）

指導教授と相談のうえ、修士論文の提出が許可された場合は、所定用紙（学事センターで交付）にて論文題目を届け出てください。詳細は10月中旬に掲示にて指示します。

なお、論文題目届を提出した後は、題目（副題も含む）は原則変更できません。また、この届を提出した後に論文提出を辞退する場合は、必ず学事センターに申し出てください。

② 論文提出（1月下旬締切予定）

提出日、提出方法については掲示板にて指示します。なお、論文題目については①で提出した題目（副題も含む）と同じものとします。

③ 修士論文審査（2月下旬または3月上旬予定）

提出された論文をもとに面接が行われます。面接日時および合否の結果については後日、掲示で通知します。

(2) 小論文の提出と修士学位の授与（会計職コース）

会計職コース在籍者については、修士学位の審査に関しては、特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えるため（学則78条）、小論文の提出と最終審査に合格することが必要です。

小論文の提出と最終審査に関する手順は次のとおりです。

① 小論文提出（1月下旬締切予定）

会計職分野の演習科目で作成・合格した論文3本を、1部ずつ期日までに学事センターに提出してください。詳細は10月中旬に掲示にて指示します。

② 小論文体裁

小論文の体裁は、授業内で作成した論文と同様で結構です。授業内での指示に従ってください。製本の必要はありません。

③ 最終審査（2月下旬または3月上旬予定）

提出された3本の小論文およびその演習科目の成績をもとに最終審査（面接）を行います。日時および合否の結果については後日、掲示で通知します。

(3) 博士論文の提出と博士学位の授与

① 課程による博士学位の授与（「課程博士」）

「博士の学位は、大学院博士課程を修了した者に与えられる。」(学位規程第4条)

「第4条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部および所定の書類を添え、指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。」(同第7条②)

商学研究科では課程による博士論文の早期作成および研究水準維持を目的とした特別な研究指導制度が設けられていますので、巻末の関連規程1-3「商学研究科における課程による博士学位の授与要件に関する内規」も参照してください。

② 論文による博士学位の授与（「論文博士」）

「博士の学位は、研究科委員会の承認を得て学位論文を提出して論文の審査に合格し、かつ大学院博士課程の修了者と同等以上の学識があることを確認（以下「学識の確認」という）された者に与えられる。」(学位規程第5条)

「第5条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部および所定の書類を添え、その申請する学位の種類を指定して、学長に提出しなければならない。」(同第8条)

博士論文を提出する場合は、学事センター窓口で提出書類、手続方法について確認してください。なお、博士論文の審査については、「博士の学位論文の審査並びにこれに関連する試験および学識の確認等は、論文受理後1年以内に終了するものとする」(学位規程第10条②)と規定されています。

(4) 論文体裁

学位請求論文については三田メディアセンター（図書館）および国立国会図書館（博士論文のみ）に所蔵しますので、以下の体裁に整えるよう協力をお願いします。提出する論文について修士論文の場合は製本したものを1冊と、簡易製本を3冊提出してください。博士論文の場合は最低限2冊を製本してください。（但し、博士論文については論文の整理・保管・審査の都合上できる限り3冊とも製本するよう協力をお願いします。）いずれの場合でも論文の提出締切りは厳守してください。なお、資料等の都合で規定の大きさに入らない場合は、以下に従って表紙を付けて製本してください。

① 本文の縦書き・横書きにかかわらず、原則として縦A4版で製本してください。

② 縦書きの場合は右綴じ、横書きの場合は左綴じとしてください。

③ 製本の表紙は、本文が縦書きの場合は縦書き、横書きの場合は横書きとしてください。

④ 製本の背文字は、本文の縦書き、横書きにかかわらず縦書きとしてください。

⑤ 製本は黒表紙を原則とし、白文字を使用してください。

⑥ 表紙の見本をこの案内の巻末に示します。既に公刊されている書物等を学位請求論文とする場合についてはこの限りではありません。

(5) 三田メディアセンターからの学位論文利用許諾協力依頼

三田メディアセンター（図書館）では学位論文を保存し、利用に供しています。メディアセンターが利用者に提供するサービスのうち以下の項目については、事前に著作権者からの許諾を必要としています。学位論文を学事センターに提出する際に、「学位論文利用許諾書」に必要事項を記入のうえ、一緒に提出してください。なお、学位授与にいたらなかった場合は、メディアセンターが責任をもって廃棄します。

許諾を必要とする項目

・ 修士論文提出者：「館外への貸出」、「複写」、「電子媒体の公衆送信」※

・ 博士論文提出者：「論文全体の2分の1以上の分量の複写」、「電子媒体の公衆送信」※

（※は将来的に可能性がある利用方法です）

7 単位取得退学および在学期間延長（博士課程のみ）

(1) 単位取得退学

大学院博士課程修了に必要な単位を取得し、規定の在学年数（3年）を満たした場合、単位取得退学者として教育課程を終了することができます。

上記の条件に該当し、単位取得退学を希望する場合は、所定の期間内（2月上旬締切）に、「単位取得退学届」（所定用紙）を学事センターに提出してください。

※単位取得退学者のメディアセンターの利用について

3年以内に博士論文を提出する目処がある場合に限り、三田メディアセンターの図書貸出を受けることができる「塾員貸出券」(有料)を発行しています。詳細は三田メディアセンター1階メインカウンターまでお尋ねください。

有効期間：申込日より6ヶ月もしくは1年

サービス範囲：三田メディアセンターに関しては大学院生と同等の貸出規則を適用する。日吉、理工学、湘南藤沢の各メディアセンター、白楽サテライトライブラリーへの入館・閲覧が可能。

(2) 在学期間延長許可願

3年間の在学中に博士課程修了に必要な単位を取得した者で、博士論文作成にまだ時間を要する場合、1年を単位として在学最長年限（6年）を越えない範囲で在学期間の延長を許可することができます。希望する場合は、所定の期間内（2月上旬締切）に、「在学期間延長許可願」（所定用紙）を学事センターに提出してください。

以上の取扱いについては巻末諸規程抜粋を併せて参照してください。

関連規程	1-1	学位規程（抜粋）
	1-2	学位の授与に関する内規
	1-3	商学研究科における課程による博士学位の授与要件に関する内規（抜粋）
	4-1	大学院在学期間延長者取扱い内規
	4-2	大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学料その他の学費に関する取扱い内規

講義要綱・シラバス

修士課程設置科目

1. 基礎科目
2. 専門科目
3. 演習科目

博士課程設置科目

※ 今年度の開講科目のみ掲載しています。

修士課程設置科目

1. 基礎科目

ビジネス・エコノミクスⅠ（春学期）

教授 中島 隆信

授業科目の内容：

米国のビジネス系大学院では、ファイナンス等の応用経済学分野を専攻する学生はもちろんのこと、会計学や経営学やマーケティングを専攻する学生も Managerial Economics を1年次に履修することが義務づけられている。それは、企業や消費者の経済行動についての理解なしにはそれらの分野を究めることができないという認識があるからである。

本講義では、商学研究科の大学院生なら誰もが身に付けていることが望ましい経済学的考え方を、Managerial Economics のテキストを用いて解説する。使用する教材(下記)は、企業という組織を利害の異なる集団(経営者・従業員・顧客・株主・債権者等々)間の「契約の束」としてとらえる立場から書かれた、まったく新しいタイプのテキストであり、どのように組織を構築すべきかという点に主眼が置かれている。春学期に行われる本授業は Part1 および Part2 をとり上げ、残りは秋学期の谷口教授の授業に引き継がれる。

授業は履修者による報告形式をとる。教材は各自で入手しておくこと。

ビジネス・エコノミクスⅡ（秋学期）

教授 谷口 和弘

授業科目の内容：

近年、企業組織のミクロ的な制度分析が注目されている。とくに、経営・商学研究者やビジネス・スクールの理論家によって、戦略や組織の経済学を扱ったテキストが数多く出版されている。本講は、取引費用経済学や比較制度分析などの分析枠組を理解するとともに、その有効性を検証するために、現実の企業経営にかんする事例研究にもふれる。とりわけ、「企業の組織アーキテクチャ」に関連した研究成果を扱い、企業の性質にかんする理解を深めていくことになる。

本講においては、受講者の報告形式を採用する。第1回目の授業の際に、報告担当の配分などを行うので、受講者はかならず出席すること。また、連絡をeメールで行うことがある。なお、受講希望者は、あらかじめ「ビジネス・エコノミクスⅠ」を履修しておくこと。

Business Economics（春学期）（Spring term）

特別招聘教授 鞍谷 雅敏

Guest Professor Masatoshi KURATANI

授業科目の内容：

Introduction to micro-economic concepts and principles: scarcity principle and demand curve, indifference system and choice behavior, production by firms, demand and supply, markets and incentives, uncertainty and information, investment in human capital, and capital markets.

Business Economics（Game Theory）

（春学期特定期間集中）（Spring term）

特別招聘講師 シャピロ, ドミトリー

Guest Lecturer Dmitry SHAPIRO

授業日：6月と7月に開講予定（水曜日・木曜日・金曜日の3時限目）。詳細な日程は掲示で確認してください。

授業科目の内容：

Course Aims and Methods

Game Theory is a part of economics that studies strategic situations that occur when the outcome of your choice depends not only on some given parameters of the environment (prices, production function, demand curve), but also on choices of other agents (i.e. almost always). One aim of the course is to teach you some strategic considerations to take into account when making your own choices. A second aim is to predict how other people or organizations behave when they are in strategic settings. Yet another is to apply these tools to settings from economics and elsewhere (sociology, evolutionary biology, psychology and political science). We will see that these aims are closely related. To reach these goals we will learn new concepts and methods. The course will use many examples to illustrate new concepts and ideas. Also, it will emphasize reality, in particular we will play many games in class to give you the insight of the reasoning that people use when they face game-theoretical situations in their everyday life, and how (and why) it is different from theoretical concepts. Many results from the experiments conducted in recent years will be discussed.

Outline and Reading

Reading is recommended but not required. It is possible to succeed in the class just by following the lectures and solving Problem Sets. However, obviously the books are very useful, and they will help back up the class material. Since the pace will depend on how well students are keeping up with it, the provided outline is only tentative (especially dates of the

midterm and the final). The Dixit-Nalebuff book makes fun bed-time reading.

D=Datta; W=Watson; DN=Dixit-Nalebuff.

A number such as 2.1 refers to chapter 2 section 1.

- Class 1 Introduction: Prisoners dilemma, coordination.
Ingredients of Strategic Form Games.
Dominance & Iterative Deletion.
Reading. D:1.1-1.3, 2.3, 3-4; W:1, 6-8; DN:3.1-3.3.
- Class 2 Applications of dominance argument.
Best Response and Rationalizability: Applications.
Reading. D:2.3,3-4 (except 3.1.2), 4; W:6-9; DN:3.1-3.3.
- Class 3 Introduction to Nash Equilibrium. Examples.
Applications: Cournot Competition.
Reading. D:5-7; W:9-10; DN:3.4-3.6.
- Class 4 Nash Equilibrium continued.
Applications: Bertrand competition, Voting; Location
Reading. D:6-7; W:10; DN:9.5.
- Class 5 Mixed Strategies: Theory and Applications
Reading. D:8-9; W:11; DN:7
- Class 6 Evolution and Game Theory.
Reading: the extra package will be posted on-line
- Class 7 Intro to Sequential Games: Backward Induction..
Commitment, first and second mover advantage
Reading. D:11; W:2;
- Class 9 Backward Induction Continued
Zermelo theorem, Credibility, Reputation, Duels
Reading. D:11-12, W:21
- Class 10 Ultimatums, Bargaining, Intro to imperfect information
Information sets, Sub-game Perfection, Strategies
Reading. D:13; W19; W15-16 (but be selective)
- Class 11 SPE continued; Applications of SPE
Direct and Strategic Effects, Wars of Attrition.
Reading. D:13; W16

Class 12 Repeated Games

Reading D14-18; W22-3 (but be selective)

社会科学方法論（春学期）

教授 堀越比呂志

授業科目の内容：

科学的知識と呼ばれる知識は、広大な様々な知識の中のひとつの形態に過ぎない。宗教、文学、超能力、占い、経験としての暗黙知等々、他の様々な形がありうる。こうした様々な知識の中から、科学的知識とはどのように生れ落ちてきたのか。その特徴は何か。社会科学の知識はそれとどのように関連して生じてきたのか。こうした問題に関する理解を深めることが、本講義の目的である。

知識は、対象を眺めているだけでは生み出せない。それをどのように見るか、どのようにアプローチするかといった方法が不可欠である。対象が同じでも、方法が異なれば、知識は異なってくる。そして、その生み出された知識の妥当性や客観性は方法に大きく依存している。それゆえ、科学的知識を他の形態の知識と区別する特徴は、まさにその方法にあるといえる。この点から、客観的知識を生産しようとする研究者ならば、自らが生み出す知識の方法を自覚し、その妥当性を常に吟味する必要がでてくる。

このように、本講義で扱う方法論とは、データの収集方法やその処理といった技法のことよりも、その基礎にある基本的な態度や考え方のことであり、世界観、人間観といった存在論、知識に対する態度としての認識論といった哲学的な議論の成果がその主たる内容となる。

専門外国書研究（独書）（通年）

教授 前田 淳

授業科目の内容：

アメリカの政策決定に大きな影響力を与えた「ネオコン」について扱うテキスト、『Neokonservatismus, Think Tanks und New Imperialism』を読んでいく。「ネオコン」の思想とその影響力拡大のための方法を理解して欲しい。

専門外国書研究（仏書）（通年）

講師 大井 正博

授業科目の内容：

フランス語の基礎を学んだ人に対して、経済記事や専門書を読むために必要な手引きをするのがこの講座の目的である。テキストとしては下記のものを使用し、日本人にはあまりなじみのないフランス経済の諸問題に対する知識を学ぶとともに、慣用的なフランス語の経済用語のマスターに努める。

Japanese Economy (経商連携 Global COE 科目)
(秋学期) (Autumn term)

教授 (フジタ・チェアシップ基金) 柏木 茂雄
Professor Shigeo KASHIWAGI

授業科目の内容:

Course Description:

The objective of this course is to discuss and understand the developments in the Japanese economy and its policies from a global perspective.

The course will provide opportunities for students, especially for those coming from abroad, to examine various policy issues that have arisen in Japan in the last three decades. The focus will be to understand the economic as well as political and social background of the specific economic actions taken during these years. Efforts will be made to enable students to understand the recent economic and political developments in Japan, based on my 34 years of experience with the Japanese government.

Topics to be covered include the following (subject to change):

- Introduction and overview
- Historical background of the Japanese economy
- Economic and political institutions in the 1970s
- The "High-Water Mark" from 1980 to 1985
- The bubble economy from 1985 to 1990
- Economic and financial distress from 1990 to 2001
- Why did the economic and financial distress last so long?
- The transition of political institutions in the 1990s
- Political economy of the fiscal program
- The Koizumi reform
- Corporate governance, labor practices and citizens' life
- Japanese political economy in the new century

The course will be organized as a combination of lectures and seminars, and will be conducted in English. There are no pre-requisites for this course, but it would be advisable for students to have strong interest in the Japanese economy and some basic knowledge about macro-economics.

Students should take turns to report to the class the discussions made in the assigned chapters of the textbook or other relevant papers. Students are expected to actively participate in classroom discussions in English.

統計学基礎理論 (春学期)

教授 早見 均

授業科目の内容:

分布理論を軸に期待値の計算や不等式など基礎的なことがらを学習する。さまざまな統計的モデルに応じた分布の計算ができるようにすることが目標である。秋学期に開講される「統計解析」とつながっている。現在、最も標準的な統計学の教科書である Casella and Berger に準拠しておこなう。

統計解析 (秋学期)

教授 早見 均

授業科目の内容:

統計的推定・検定のやや進んだ内容を理解して、利用上の制約や最近の統計学で話題となっている分野がどのようにしてその制約を乗り越えようとしているかを概観する。

内容: 漸近理論, 十分統計量, 最尤法, 尤度比検定などを解説したのち, ブートストラップ推定法や最近の計算統計の簡単な話題, 確率過程のパラメータの推定方法など時間があるかぎり紹介していきたい。

この授業は単独でも履修可能だが, 春学期の「統計学基礎理論」の続きである。そのため「統計学基礎理論」のシラバスも参考にして欲しい。応用や具体例については, 「計量経済学」やその他の講義で勉強すること。

Academic Writing (春学期) (Spring term)

教授 トビン, ロバート I.

Professor Robert I. TOBIN

授業科目の内容:

Description: This course emphasizes the development of research, writing, reading, analytical and presentation skills. This will help prepare students for writing research papers and their graduation theses in English. Students will review current research in their field and prepare reports for presentation to the class.

The course is conducted in English and is open to all graduate students.

Texts:

- On Writing Well [Zinnser]
- English in Research World [Swales]

Supplementary materials include Presentation Zen by Garr Reynolds and other assigned readings as well as as readings and case studies obtained from Harvard Business School Online.

Expectations and evaluation: Weekly assignments and contribution to discussions are required in this class which will be conducted as a seminar. Class discussion will be based on texts and current reading, case studies, video segments, group projects and research projects. Evaluation based on reports and examination.

Student Questions: When students have questions, they can contact the instructor before or after class or by email.

Business Communication (秋学期) (Autumn term)

教授 トビン, ロバート I.

Professor Robert I. TOBIN

授業科目の内容 :

Description: This course focuses on development of effective leadership and management skills in order to assist students in becoming leaders in their organizations as well as understanding and initiating organizational change.

The course is conducted in English and is open to all graduate students.

Text book and other required will be listed on www.tobinkeio.com

Supplementary materials and readings will be assigned as well as readings case studies obtained from Harvard Business School Online.

Expectations and evaluation: Weekly assignments and contribution to discussions are required in this class which will be conducted as a seminar. Class discussion will be based on texts and current reading, case studies, video segments, group projects and research projects. Evaluation based on reports and examination.

Student Questions: When students have questions, they can contact the instructor before or after class or by email.

経済数学基礎理論 (通年)

准教授 木戸 一夫

授業科目の内容 :

目 的

数学を直観的に理解し、自在に使いこなせるようになることを目指す。精確な直観を得る為に、この授業では下記内容を厳密に学んでいく。

内 容

戦略型ゲーム, 展開型ゲーム, 完全均衡点, 情報不完

備ゲーム, 繰り返しゲームなど

方 法

教科書を、学生による輪読形式で読み進める。数学を理解しようという積極的な質問はどのような分野のものであろうとも、いつでも歓迎する。学生は、自分の専門分野に関連付けながら学び進んで欲しい。

経済数学基礎理論 (数学的論文への手ほどき) (春学期)

特別招聘教授 高橋 渉

授業科目の内容 :

中学程度の数学の知識があれば、2次元ユークリッド空間をモデルにして現代解析学を展開するに十分な n 次元ユークリッド空間やヒルベルト空間、バナッハ空間が簡単に議論できる。一方、最適化理論や理論経済学において重要である均衡問題を、ある2変数関数の解の存在やその解を求める近似の問題として一般的に捉えると、いくつもの新しい問題を見つけることができる。

この講義では、均衡問題を簡単な2変数関数の問題として捉え、その問題から新しい意味のある非線形写像を発見し、その非線形写像を n 次元ユークリッド空間やヒルベルト空間、バナッハ空間で議論することにより、理論経済学における新しい定理の見つけ方等を学ぶ。この過程において、数学的基礎知識を身につけ、さらには論文の読み方、新しい定理の見つけ方、証明の方法などを自然な形で身につけることができる。

小, 中, 高校で学んだ数学が随所に現れる形で講義を進めるので、講義を聴いていけば中学程度の数学の知識で数学の面白さ, 高等な数学の構築法が身につくはずである。この講義で数学が身近に思え、経済数学が好きになるはずである。

Introduction to Econometrics (春学期) (Spring term)

教授 早見 均

Professor Hitoshi HAYAMI

授業科目の内容 :

Purpose of Course: There are three major purposes of this course:

- (1) To provide an introduction to the theory and practice of statistics
- (2) To study the Classical Linear Regression Model with special respect to quantitative economic modeling
- (3) To be familiar with the statistical computer language such as R

Prerequisites: basic calculus, elementary skills of handling PC including spread sheet, word processing.

Evaluation: Homework problems (three times, each supposed to be an econometric analysis using the data collected individually).

Topics:

- (1) A brief introduction to R
- (2) Review of basic statistics and its applications
 - (2.1) Random variables,
 - (2.2) Probability density functions,
 - (2.3) Central limit theorem,
 - (2.4) Interval Estimation,
 - (2.5) Hypothesis test
- (3) Regression models
 - (3.1) Ordinary least squares (OLS),
 - (3.2) Diagnostics for OLS,
 - (3.3) Maximum likelihood estimator,
 - (3.4) Choice of models
- (4) Some recent topics on statistical inference

マクロ・マーケティング論 (マクロ・マーケティング・システムと社会とのインタラクション) (春学期)

教授 高橋 郁夫

授業科目の内容:

生産、流通、消費の連係を巨視的に捉え、それをマクロ・マーケティング・システムと呼ぶとき、本講はそのシステムとそれを取り巻く社会とのインタラクションについて研究を行う。そのためには基本的文献（主に、英文による学術論文）の研究によってその理論的背景や研究枠組について理解を深めると共に、そこで用いられる各種の分析手法についても検討を加える。

毎回の予習と報告が義務付けられ、また、履修者の人数によっては、学期末にレポート試験を課す予定である。

ミクロ・マーケティング論 (秋学期)

名誉教授 梶原 正勝

授業科目の内容:

マーケティングの原理と実践に関する基本的諸問題を講義する。講義内容は以下のとおり。

なお、月1回履修者によるマーケティング関連の英文論文の翻訳発表をしてもらう。

< 講義内容 >

1. 原理や理論を学ぶ意味
 - 1) 知識と実践
 - 2) マーケティング管理者の持つ知識の重要性
2. マーケティングの概念と役割
 - 1) マーケティングとは
 - 2) 市場経済におけるその役割
 - 3) 企業経営におけるその役割
3. 消費者価値を出発点とするマーケティングの考え方
4. 消費者志向にもとづくマーケティング活動 — 4p に即して
5. 今日的マーケティングの特徴

- 1) マスマーケティングから関係性マーケティングへ
- 2) マスカスタマイゼーション—マスと個客対応の両立
- 3) 差別的優位競争から棲み分けの競争へ
- 4) サービスマーケティングの重要性
- 5) マーケティングの公共性
6. マーケティングの実践への道

Domestic Tax Law (春学期) (Spring term)

特別招聘教授 青山 慶二

Guest Professor Keiji AOYAMA

授業科目の内容:

1. An outline of Japanese Taxes, focused on Individual income tax, Corporate income tax, Inheritance tax and Consumption tax
2. Selected issues regarding the recent major changes in Japanese tax laws; Taxation of remuneration, Taxation of Mergers & Acquisitions, Partnership taxation, Taxation of trust, Transfer pricing, etc
3. Selected issues regarding modern tax administrations

International Tax Law (国際租税法)

(秋学期) (Autumn term)

准教授 高久 隆太

Associate Professor Ryuta TAKAKU

授業科目の内容:

As the countries of the world have become increasingly integrated economically, the importance of the international taxation issues has mushroomed. Not only large multinational corporations but also small and medium size firms now engage in cross-border transactions that cause them international taxation issues. Accordingly, adequate tax planning is needed to minimize and avoid unnecessary taxes for taxpayers. On the other hand, national governments must care about international taxation, both to present a hospitable environment for foreign investment and to protect their revenue base.

In this seminar, the following issues which most countries are facing will be discussed.

1. Jurisdiction to Tax
 - (1) Defining Residence
 - (2) Source Jurisdiction
2. Taxation for non-resident
 - (1) Individuals
 - (2) Foreign Corporations (PE)
3. Tax Treaty
 - (1) OECD Model Convention
 - (2) Bilateral Tax Treaty
4. Elimination of International Double Taxation

5. Measures to Cope with International Tax Avoidance

- (1) Transfer Pricing Taxation
- (2) Controlled Foreign Corporations Provisions (Anti-Tax Haven Measures)
- (3) Thin Capitalization Rules

6. Competent Authority Consideration

リスク・マネジメント論（危険と保険）（春学期）

講師 真屋 尚生

授業科目の内容：

日本時間 2001 年 9 月 11 日の、ニューヨークの世界貿易センター・ビルを標的にした、ハイジャックした航空機を使つてのテロ事件は、世界の人びとを震撼させ、この事件をきっかけに、何かにつけて危機管理の重要性について議論されるようになりましたが、保険に関連する分野では、リスク・マネジメントの研究と実践が、20 世紀の後半に入ると、活発になり、脚光を浴びてきました。

一般に危険管理と危機管理は混同されがちで、保険料と保険金の関係同様、両者の違いを理解することは、なかなかやっかいです。日本リスク研究学会『リスク学事典』では、危険管理と危機管理は、大略、次のように明確に区分されています。

危険管理は、リスクの顕在化、すなわちリスク事象の発生を防ぐ予防策である。危機は損害の大きいリスク事象であつて、危険管理が有効に機能しない結果として、リスクが実際に起こってしまった事象である。危機管理は起こってしまった危機への対処である。緊急事（時）対策が不十分であつた結果として、危機が的確に収束できないようなことにならないように、十分な緊急事（時）対策を用意しておくことも危険管理の一分野である。一般的に、危機は緊急事（時）対策において想定していなかつたような原因や様式で発生することが多く、そのような場合には対応準備の枠組みを超えての、臨機応変の、的確な危険管理に基づく、危機の克服が求められる。これが真の意味での危機管理である。

本講義では、こうした視点から、次の三つの課題に焦点を合わせ、現代社会における「危険と保険」の関係についての考察を試みます。

- (1) 保険の対象としての危険のとらえ方
- (2) 社会経済の発展と付保可能な危険の変遷
- (3) 付保可能性を広げる方法としての再保険

産業組織論（春学期）

教授 井手 秀 樹

授業科目の内容：

「競争政策と政府規制の経済学」の観点から理論的かつ実証的な文献を中心的に検討する。

随時、レポート等を課す。

計量経済学（経商連携 Global COE 科目）（春学期）

准教授 山 本 勲

授業科目の内容：

近年、データの整備が進められてきたパネルデータを用いた実証分析に必要な計量経済学の方法を講義する。なお、この講義は、グローバル COE プログラム「市場の高質化と市場インフラの総合的設計」の連携科目として設置され、経済学研究科の「ミクロ計量経済学」（担当は清水雅彦名誉教授、宮内環准教授、河井啓希教授）と合同で行う。授業内容の予定は以下のとおり。

- 1 パネルデータとは
- 2 One-way Error Component Model
- 3 Two-way Error Component Model
- 4 仮説検定
- 5 パネルデータと不均一分散・系列相関
- 6 同時方程式モデル

春学期と秋学期は強い関連性をもつため、両方を履修することが望ましい。

成績評価方法は、各学期末に各自の研究と計量経済学の関連について述べたタームペーパーを提出してもらう。

計量経済学（経商連携 Global COE 科目）（秋学期）

准教授 山 本 勲

授業科目の内容：

近年、データの整備が進められてきたパネルデータを用いた実証分析に必要な計量経済学の方法を講義する。なお、この講義は、グローバル COE プログラム「市場の高質化と市場インフラの総合的設計」の連携科目として設置され、経済学研究科の「ミクロ計量経済学」（担当は清水雅彦名誉教授、宮内環准教授、河井啓希教授）と合同で行う。授業内容の予定は以下のとおり。

- 1 Dynamic Panel Data Model
- 2 Unbalanced Panel Data と Sample Selection
- 3 Limited Dependent Variable のパネルデータ分析
- 4 Nonstationary Panels

春学期と秋学期は強い関連性をもつため、両方を履修することが望ましい。

成績評価方法は、各学期末に各自の研究と計量経済学の関連について述べたタームペーパーを提出してもらう。

International Economy（経商連携 Global COE 科目）

（春学期）（Spring term）

教授（フジタ・チェアシップ基金） 柏 木 茂 雄

Professor Shigeo KASHIWAGI

授業科目の内容：

The objective of this course is to discuss and understand how international economic issues are being addressed by policy makers around the world.

The course will take up issues such as those related to global economic situations and various policy issues that have recently arisen in the international context. Students will have the opportunity to study and discuss the challenges imposed on policy makers in the current globalized world. The focus of the discussions will be on issues that are particularly relevant to developing countries and will be discussed from the perspective of policy makers. The class discussions will enable students to familiarize themselves with these issues and to engage in discussions in a more informed and effective manner.

There will be no textbooks. Handouts and/or copies of background material will be distributed from time to time. Students are expected to make presentations on his/her assigned papers and engage in active class discussions.

Issues to be covered include the following (subject to change):

- Introductory discussions
- The world economic outlook
- The global financial crisis
- The global imbalance
- The role of the IMF
- Climate change and economic policies
- Poverty reduction and economic development
- Aid effectiveness
- Foreign direct investment
- The role of effective institutions

This course will be organized as a combination of lectures and seminars, and will be conducted in English. The emphasis of this course will be more on what is happening in the real world and less on theoretical aspects of the issues. There are no pre-requisites for this course, but it would be preferable and advisable for students to have strong interest in and basic knowledge about international economics.

国際経済学（国際貿易論）（秋学期）

准教授 安藤光代

授業科目の内容：

グローバル化の進展とともに企業活動が国際化し、国際取引チャンネルの多様化が進行する中、国と国との生産配置や貿易パターン（国際分業体制）は大きく変化してきている。特に東アジア経済の変貌はめざましい。東アジアでは、積極的に誘致した直接投資をテコに、広域に渡る国際的生産・流通ネットワークが形成されている。

この授業では、国際貿易論（直接投資を含む）について数回講義を行ったあと、国際貿易論に関する実証分析を中心とした専門論文を輪読する。グローバル化の進行によって世界各地で形成されつつある新たな国際分業体制のメカニズムやその政策的含意について議論していきたい。

産業史・経営史（春学期）

教授 工藤教和

授業科目の内容：

イギリス経営史に関する包括的なテキストブック作成の試みである下に掲げる文献を基礎としながら、産業史・経営史を考える枠組を検討してみたい。この本の題材自体はイギリスにあるが、授業では日本、アメリカその他の諸国の事例を随時とりあげて考察枠組の有効性を議論する。

テキストが提供する考察の枠組

Business Environment: Market, Technical Change, State.

Business Organisation: Business Structure and Strategies, Big Business, Multinational Activity, Finance, Small and Medium Enterprises.

Entrepreneurship and Management: Origins, Education and Training, R&D, Industrial Relations, Management and Marketing, Company Culture, Business Ethics and Values.

現代日本経営論（春学期）

教授 佐藤和

授業科目の内容：

現代日本における企業経営がどのような特徴を持っているのかについて、日本型経営論、日本の経済・社会の特徴、比較経営からの視点、そして日本型経営の将来という観点から、それぞれ代表的な文献を輪読することにより考えていきたい。

毎回担当を決めてそれぞれ1冊の文献について要旨をレジュメ形式で30分程度発表してもらい、その後、他の学生を含めて質疑応答をする形で授業を進めたい。

1. 日本型経営論（3冊）
2. 日本の経済・社会（3冊）
3. 比較経営からの視点（3冊）
4. 日本型経営の将来（3冊）

成績評価は発表の内容と4回のレポート、および質疑応答等の授業への貢献度合いにより行う予定である。

経営学説（春学期）

教授 榊原研互

授業科目の内容：

今日の経営学の現状は多様な研究プログラムやアプローチの併存という事態によって特徴づけられ、まさに

錯綜した様相を呈している。こうした状況にあつてさらに実りある発展を経営学に期待するならば、何よりも諸理論、諸学説を批判的に整序し、かつその限界を明らかにすることが重要である。本授業では経営学の科学化のために先人たちが払ってきた努力を明らかにしながら、経営学の今日的な問題を考察する。

労働経済学（経商連携 Global COE 科目）（春学期）

教授 清 家 篤

授業科目の内容：

労働市場における主体均衡と市場均衡について講義する。具体的には、労働力の測定、労働供給の理論、労働需要の理論、労働市場の均衡についての講義である。この授業は、「労働経済特論」（秋学期）において取り扱う労働市場の諸問題について考えるために必須のものである。

産業関係論（春学期）

教授 八 代 充 史

授業科目の内容：

下記の文献をテキストに用い、授業参加者の報告と討論によって授業を行う。

2. 専 門 科 目

< 商 業 学 分 野 >

ファイナンスⅠ（企業金融論）（春学期）

講 師 手 嶋 宣 之

授業科目の内容：

この講義は、コーポレートファイナンスに関する理論の全体像をつかむことを目的としている。講義内容としては、将来キャッシュフローの割引現在価値を求めるという資産評価の一般的なフレームワークを提示し、それを発展させる形で企業価値を評価する手法を導く。また、企業価値を高めるための意思決定ならびに企業価値を減少させる要因など、コーポレートガバナンスにかかわる問題をファイナンスの視点から検討する。

受講生は、学期中に2回、課題レポートを提出する。成績はその合計点によって評価する。

ファイナンスⅡ（証券投資論）（秋学期）

講 師 高 橋 豊 治

授業科目の内容：

この講義においては、証券投資を行なう際に必要な分析手法について、キャッシュ・フローの時間価値、株式投資・債券投資などにおいて用いられる分析・評価手法、

ポートフォリオ理論を理解・習得することを目的としています。特に、平均＝分散分析(MV approach)、資本資産評価モデル(CAPM)、裁定価格理論(APT)などの、現代ポートフォリオ理論(MPT)に重点を置いて以下の項目を基本として、講義を進めることにします。これらの項目は、あくまで基本項目としてあげたものなので、実際の講義にあたっては、参加者の専門分野、背景となる理論の理解度等により、調整を行ないながら進めます。

- 1 時間価値
- 2 投資収益率
- 3 分散投資のリスク軽減効果
- 4 最適ポートフォリオの決定
- 5 数値例による最適ポートフォリオ分析演習
- 6 市場モデルとポートフォリオ効果
- 7 資本資産評価モデル(capital Asset Pricing Model: CAPM)
- 8 裁定価格理論 (Arbitrage Pricing Theory: APT)
- 9 数値例によるシングル、マルチ・ファクター・モデル分析演習
- 10 債券の分析
- 11 債券投資戦略
- 12 財務分析による株式評価
- 13 株式評価モデル

なお講義においては、概念的な説明だけでなく、机上の空論と言われないように、できるだけ証券投資の現場の雰囲気に近い実例を交えた説明を心がけたいと考えています。

会社法Ⅰ（春学期）／会社法Ⅱ（会社法に関する高度な講義）（秋学期）

法学部教授 加 藤 修

授業科目の内容：

前半は、①会社定款目的論、②会社の営利法人性、③会社の社団性、④株式売買単位、⑤株式譲渡の制限、⑥株式会社における議決権、⑦議決権代理行使論、⑧株主総会の開催、⑨株主総会の儀式化と形骸化、⑩取締役会の権限、⑪株主代表訴訟論という会社法の重要問題について、どのようにして問題意識を持ち、それをどのように学問的に解決すべきかについて講義がなされる。後半は、受講者が各自の問題意識のもとに、どのように会社法上の重要問題を学問的に解決すべきかをレジュメを用意し口頭報告する。

ビジネス中国語Ⅰ（春学期）

准教授 孟 若 燕

授業科目の内容：

ビジネス中国語の専門的な語彙・表現・ライティングなどを総合的に習得するコースです。また、中国に関連

する知識を中国語で学びます。

ビジネス中国語Ⅱ（秋学期）

准教授 孟 若 燕

授業科目の内容：

中国経済・ビジネスに関する文章を中国語で勉強します。

マクロ・マーケティング特論（流通問題）（春学期）（秋学期）

名誉教授 清 水 猛

授業科目の内容：

本講義ではマクロ・マーケティング研究の一環として、主に流通問題を取り上げ、社会システム論の視点から多変量解析による分析について学ぶ。英文文献をベースにして、講義、報告、議論をおこなう予定である。各学期毎にレポートを課す。

マクロ・マーケティング特論（マーケティングの歴史と理論）（春学期）

名誉教授 堀 田 一 善

授業科目の内容：

本講では、マーケティング研究の分野における理論的進化の軌跡を、現実世界における諸条件の変化と関連づけて理解するとともに、この理論的進化の判断基準をめぐる方法論的諸問題を検討する。

春学期は、知識理論をめぐる諸立場を中心に、非正当主義的な知識の見方、批判的討論の意義、規制概念としての真理、科学的説明の性質、批判的テストと理論の客観性、普遍言明と情報内容等の問題を扱う。

マクロ・マーケティング特論（マーケティングの歴史と理論）（秋学期）

名誉教授 堀 田 一 善

授業科目の内容：

本講では、春学期の内容を基礎に、マーケティング分野で展開されてきた方法論議を検討する。扱われる対象は、P. D. コンヴァース、L. O. ブラウン、W. オルダースン& R. コックス、R. S. ヴェイル、C. W. チャーチマン、R. バートルス、K. D. ハッチンソン、S. F. オテスン、S. D. ハント等の所説の内容である。

マクロ・マーケティング特論（マーケティング学説史）（春学期）

教 授 堀 越 比呂志

授業科目の内容：

マーケティング研究の諸成果の史的展開を構造化することからその現在の到達点を確認することが本講の目的である。特に、現在のマーケティング研究の理論的発展に影響を与えたと思われる論文、研究者を取り上げ、そ

の知的脈絡が検討される。

授業は、事前に配布する関連文献に関して、英論文ならば全訳、和論文なら要約を発表してもらい、全員での討議という形式で進めていく。

マイクロ・マーケティング特論（マーケティング意思決定論）（春学期）

准教授 小 野 晃 典

授業科目の内容：

マーケティング活動の行為主体である企業は、マーケティングにかかわる様々な局面において多様な意思決定課題に直面しています。そうした様子を描写した理論の構築を目指すマーケティング研究を紐解くことによって、本科目は受講生自身によるマーケティング理論の構築の一助となることを目指します。

マイクロ・マーケティング特論（マーケティング経済学）（春学期）

名誉教授 樫 原 正 勝

授業科目の内容：

マーケティング研究の方向を研究関心に即して大別すると、(1) 理論的関心 (2) 歴史的関心 (3) 応用的関心に分けることが出来る。本講義は、(1) の方向を目指すものである。具体的には、マーケティング現象の経済的側面に焦点を当て、その反復的な定型的現象や法則的關係を経済学的に解明することに関心が向けられる。

授業は講義形式で行なうが、履修者にはマーケティング経済学関係の英文論文（30 ページ程度）を全訳し、発表することを各人1回お願いする予定である。

講義内容は、

- (1) 市場交換行為としてのマーケティング（計1回）
- (2) マーケティングと経済学（計2回）
- (3) 新古典派経済学とオーストリア学派経済学の性格（計2回）
- (4) マーケティングへのオーストリア学派経済学的接近（計1～2回）
- (5) 4Pにおける具体的展開（計3～4回）

※残りの回数は翻訳発表

マイクロ・マーケティング特論（マーケティング経済学・方法論）（秋学期）

名誉教授 樫 原 正 勝

授業科目の内容：

本講義はマーケティング経済学における理論構築をめぐる方法論について取り上げる。現実に行なわれているマーケティング研究の実際は、研究者の自由な研究関心のもと、多種多様に行なわれ、百花繚乱の様相を呈している。しかしながら、それら諸研究から生み出される知

識が科学的性格のものとして批判に耐えうる資格を持つものであるかどうかは方法論的吟味を必要とする。マーケティング研究をなす上で、どのような方法と論理をもって研究するかの方法論を学ぶことは、実り豊かな研究をもたらす上で欠かすことが出来ない重要性を持つ。

本講義はマーケティング経済学をめぐる方法論を下記著作を輪読することを通じて学びたい。

マイクロ・マーケティング特論（秋学期特定期間集中）

特別招聘教授 小田部 正 明

授業日：月曜日 1・2 限 12月14日・21日

火曜日 1・2 限 12月15日・22日

土曜日 1～3 限 12月12日（2・3限のみ）・19日

授業科目の内容：

The course challenges you to *think critically* about global competition. As such, rote learning of terms and concepts is *not* sufficient; you are prepared to take the executive's seat in managing business in global markets. Specifically, the course is designed to provide you with (a) familiarity with the problems and perspectives of marketing across national boundaries and with those within foreign countries; (b) insights into environmental perspectives of doing business outside the home country; (c) analytical ability to make marketing decisions facing all firms (exporters, licensor/licensee, joint venture firms, firms with overseas subsidiaries) engaged in business overseas; (d) understanding of the interfaces of marketing with other business functions, particularly with R&D and manufacturing, (e) knowledge of tools and practices for structuring and controlling marketing programs on a global basis, and (e) discussion of the possibilities and limitations of the Internet in conducting international marketing.

マイクロ・マーケティング特論（消費者行動論）（秋学期）

准教授 斎藤 通 貴

授業科目の内容：

マイクロ（個別企業の経営的視点）からのマーケティングへのアプローチを考える上で、市場行動の理解が重要なことは言うまでもない。本講義では、マーケティング戦略研究において必要な消費者の選択行動を中心に、消費者行動研究の基本的な文献の講読とそれをもとにしたディスカッションを行っていききたいと考えている。

本講義を履修する際には、少なくとも学部での商業学分野の科目、特に、「マイクロ・マーケティング各論（消費者行動論）」「マイクロ・マーケティング各論（市場調査論）」を履修済みであるか、同程度の知識があることを必要とする。

使用する文献に関しては、Journal of Consumer Research, Journal of Marketing Research などのジャーナルと研究書

（英文が主）から論文を中心に選択する。

成績の評価は、クラス・パーティシペーションとレポートによって行う。授業への出席はもちろんであるが、毎クラスごとの平常点が重視される。

マイクロ・マーケティング特論（情報化と消費者行動）（春学期）

教授 清 水 聰

授業科目の内容：

インターネットの発達とともに、それまでの購買までを考えればよかった消費者行動の研究対象は、購買後の情報発信や情報共有までも含むように、その概念の拡張がなされてきている。このような情報化時代の中、インターネットをはじめとするさまざまな情報はどのような役割を果たしてきているのだろうか。日本・欧米の最新の論文を輪読しながら、情報化時代の消費者行動はどうあるべきなのかを考えていく。

マイクロ・マーケティング特論（イノベーション・新製品開発）（秋学期）

教授 濱 岡 豊

授業科目の内容：

○意義と目的

この授業では、イノベーションが生まれ新製品を開発する段階に注目し、主にマイクロな視点からの研究を進める。

○授業内容とスケジュール

『目次』

マーケティングに限定せず、イノベーション研究、技術のマネジメント、心理学における創造性研究、組織論、社会学など、学際的な視点から研究を進めて行きたい。参加者の興味に応じて、以下のトピックを適宜選択する。

- ・イノベーション・新製品の源泉
- ・人や消費者の創造性と創造プロセス
- ・イノベーション・新製品の開発プロセス
- ・イノベーション・新製品の開発組織、コミュニケーション
- ・イノベーション・新製品の開発プロセス改善のためのツール、メディア
- ・イノベーション・新製品のパフォーマンス指標
- ・ブランドのマネジメント

< 金融・証券論分野 >

金融特論（企業金融論）（春学期）（秋学期）

教授 辻 幸 民

授業科目の内容：

この授業では、企業金融論の代表的なテキストを通じて、ファイナンス理論 financial economics を修得し、専門

的な研究に向けての理論的ツールに関する基本的理解に努めたい。

授業は原則として下記テキストの輪読であり、履修者による報告が義務付けられる。下記テキストのどの部分をどのように取り上げるかは、履修者と相談して決めたい。なお履修者は春学期と秋学期あわせて履修されることが望ましい。

金融特論（春学期）

教授 和田 賢 治

授業科目の内容：

この授業ではファイナンス理論のツールの習得のため以下の本の輪読を行う。履修者は報告が義務付けられる。なお履修者は秋学期もあわせて履修することが望ましい。

金融特論（秋学期）

教授 和田 賢 治

授業科目の内容：

この授業では春学期のファイナンス理論の習得を受けて、最近の資産理論のトピックスを研究するため以下の本の輪読を行う。履修者は報告が義務付けられる。なお履修者は春学期もあわせて履修することが望ましい。

金融特論（秋学期）

Advanced Study of Finance (Autumn term)

教授 深 尾 光 洋

Professor Mitsuhiro FUKAO

授業科目の内容：

Corporate Governance and Financial System:

The governance structure of limited liability companies that stipulates the relationship among the management, stockholders, creditors, employees, suppliers and customers is important in determining the performance of the economy. Although the OECD countries are generally characterized as market economies, there are considerable differences among these countries in the organizational structure of the economy.

One of the major aims of this course is to understand the institutional differences in corporate-governance structures of companies in major industrial countries including the United States, Japan, Germany, France and the United Kingdom. The differences in the corporate-governance structure have a number of implications for the performance of companies. For example, the cost of capital and the effective use of human resources would be affected by this structure.

In recent years, the deepening international integration of economic activities has heightened awareness of cross-country differences in corporate-governance structure and putting a strong pressures for convergence in some aspects of corporate

governance systems. The course will also survey these trends.

1. General Concept

Fukao, Mitsuhiro, *Financial Integration, Corporate Governance, and the Performance of Multinational Companies*, Brookings, 1995.

2. Hostile Takeovers

Shleifer, Andrei, and Lawrence H. Summers, "Breach of Trust in Hostile Takeovers," in *Corporate Takeovers: Causes and Consequences*, edited by Alan J. Auerbach, University of Chicago Press, 1988.

Roe, Mark J. "Takeover Politics," in *Deal Decade*, edited by M. Blair, 1993.

3. Elements of Governance

Kaplan, Steven N., "Top Executive Rewards and Firm Performance: A Comparison of Japan and the United States," *JPE*, Vol. 102, No. 3, June 1994

Christine Pochet, "Corporate Governance and Bankruptcy: a Comparative Study," *Cahier de recherche no. 2002-152*, Centre de Recherche en Gestion, IAE de Toulouse.

Naoto Osawa, Kazushige Kamiyama, Koji Nakamura, Tomohiro Noguchi, and Eiji Maeda, "An Examination of Structural Changes in Employment and Wages in Japan," *Bank of Japan Monthly Bulletin*, August 2002.

Black, Bernard, "Creating Strong Stock Market by Protecting Outside Shareholders." remarks at OECD/KDI conference on Corporate Governance in Asia: A Comparative Perspective, Seoul, March 3-5, 1999.

Jolene Dugan, Fahad Kamal, David Morrison, Ali Saribas and Barbara Thomas, *Board Practices/Board Pay 2006 Edition*, Institutional Shareholder Services, 2006

William C. Powers, Jr., Raymond S. Trough, and Herbert S. Winokur, Jr., "Report of Investigation by the special investigative committee of the board of directors of Enron corp.," February, 2002.

4. Financial System

Fukao, Mitsuhiro, "Japanese Financial Instability and Weaknesses in the Corporate Governance Structure," *Seoul Journal of Economics*, Vol.11, No.4, 1998.

Fukao, Mitsuhiro. "Financial Crisis and the Lost Decade," in *Asian Economic Policy Review*, Vol.2 No.2, Blackwell, 2007, pp. 273-297.

証券特論（資本市場構造論）（春学期）

名誉教授 赤川元章

授業科目の内容：

証券市場とは、証券発行を行う近代株式会社や公経済などの社会的資産の集中機構を前提として成立する証券の売買運動＝証券の需要・供給の場である。この証券市場は、商品としての証券（株式・社債・公債）を取扱う特殊な資本、証券取引資本（証券会社・銀行）の機能に支えられ、証券資本主義の発展と共に、その役割はますます重要となっている。かかる証券市場の構造を貨幣的経済理論の観点からとくに、景気循環との関連から究明する。

テキストは1920年～1930年代に至るアメリカの証券市場の構造を経済理論の中に包摂しようとしたウィーン学派の経済学者マハループ、Fの：Machlup, F., *The Stock Market, Credit and Capital Formation*『株式市場、信用および資本形成』（千倉書房）を用いる。

証券特論（証券市場制度論）（秋学期）

名誉教授 赤川元章

授業科目の内容：

証券のもつ様々な属性はその保有者との関係において、特殊なもの（たとえば、利子・配当請求権証券、投機的売買差益証券、経営支配証券など）に限定されて現れる。とりわけ、価格論として証券を対象とする場合には、収益とリスクの両面において、発行主体の経営体の個別的状态ならびに金融市場の一般的動向に依存する。証券は、今日、「信用代位」の高度形態としての「証券代位」として展開され、証券市場の範囲を一層拡大している。このような証券市場のシステムを証券取引所の機能も含めて制度論的側面から検討する。本年度は、東欧・中国などの国有企業の民営化を踏まえた金融・資本市場論について取り上げる予定。

財政特論（春学期）

Advanced Study of Public Finance (Spring term)

特別研究教授 北村行伸

Professor Yukinobu KITAMURA

授業科目の内容：

Objective: To provide a basic framework of public finance at macroeconomic level, starting from fiscal and monetary policy in a standard macroeconomics, public debt in a growing economy, cost-benefit analysis, public goods, international debt and international tax issues.

Teaching Method: Lecture is given and then discuss on the

topic.

Covered Topic:

Monetary and Fiscal Policy

Budget

Revenue Forecasting

Public Debt

Cost-Benefit Analysis

Public Goods and Bads

Local Public Finance

Finance and Development

International Issues in Public Finance

財政特論（秋学期）

Advanced Study of Public Finance (Autumn term)

特別研究教授 北村行伸

Professor Yukinobu KITAMURA

授業科目の内容：

Objective: To provide a basic framework of public finance, at microeconomic level, starting from a general theory of taxation on commodity, income and corporate profits and then extending issues of tax evasion, and compliance, and tax reform.

Teaching Method: Lecture is given and then discuss on the topic. Sometimes, exercise is given for clarifying your understanding.

Covered Topic:

A Framework of Taxation

Consumption Taxation

Individual Income Taxation

Corporate Taxation

Capital Income Taxation

Inheritance and Gift Taxation

Tax Compliance and Evasion

Tax Reform

税務行政特論（秋学期）

Advanced Study of Tax Administration (Autumn term)

特別招聘教授 鞍谷雅敏

Guest Professor Masatoshi KURATANI

授業科目の内容：

Economic approach to tax administration and related problems: tax arbitrage, tax saving, tax avoidance, tax evasion, compliance cost, information system, whistleblower, tax examination and investigation, punishment against illegal conduct, enforcement cost, corruption, state of taxpayers, structure of tax bases, tax reform and politics.

＜保険論分野＞

リスク・マネジメント特論（春学期）（秋学期）

教授 堀田 一吉

授業科目の内容：

経済発展に伴い、現代社会においては、リスクの多様化および巨大化が著しい。それに応じて、保険商品の開発は、様々な分野に及んでいる。そこでは、リスクの性質との関わりにおいて保険の限界を探ることが必要であり、これは保険学研究の中心的課題の一つである。本講義では、地震リスクやPLリスクなど現代保険の主要な問題を取り上げて、関連するいくつかの文献を通じて、保険制度の可能性を論ずることにしたい。特別に受講者に対して事前に要求することはないが、レポートや討論などにおいて、積極的な参加を期待している。ただし、講義は基礎的な保険理論を習得していることを前提に進めることにしたい。具体的内容は、最初の授業の時に説明する。

リスク・マネジメント特論（危険処理手段としての保険） （秋学期）

講師 真屋 尚生

授業科目の内容：

保険は、危険の転嫁を通じて危険を処理する方法にして、経済的合理性を有している、とされますが、危険そのものを除去しえない点で、消極的な危険処理手段といわざるをえません。危険が予知されるならば、その危険の積極的な予防・軽減に、まず努めることが肝要であり、保険は、いわば最終的な対策です。早い話が、いくら高額な保険金が支払われても、たとえば、地震や交通事故によって失われた生命はかえってはいきません。保険があれば、いつでも安心というわけではありません。保険は確かに現代社会において欠かせない制度です。しかし、保険的な手法で問題の根本的な解決を図ることは困難であるということ、十分に認識しておく必要があります。

本講義では、次の諸課題に焦点を合わせ、現代社会における「危険と保険」の関係についての考察を試みます。

- (1) リスク・マネジメントと生命保険
- (2) リスク・マネジメントと損害保険
- (3) リスク・マネジメントと第三分野の保険
- (4) リスク・マネジメントと社会保険
- (5) リスク・マネジメントと産業支援保険
- (6) リスク・マネジメントと生活福祉保険

保険特論（春学期）

教授 堀田 一吉

授業科目の内容：

保険学は、その特殊性から、経済学、金融論、制度論、経営論、法律論、数理論その他、いろいろな学問分野と隣接し、それぞれの成果を取り入れて従来理論をより精緻にする形で発展してきた。

ところが、現在の保険学研究を概観すると、研究者の興味対象が細分化された結果、研究相互の関連性が不明確になりつつあるように見える。これからの研究の方向性を定める上では、これまでの研究成果を整理し、残された課題を確認しておくことが不可欠である。

本講義では、代表的な研究書または論文を読むことを通じて、保険学研究の動向を探りながら、多様な研究アプローチを習得することを目的とする。授業は、指定した文献について、予め指名されたレポーターが、要約およびコメントを行い、それに対して、問題点を整理しながら議論しあう形で進めたい。したがって、言うまでもなく、受講者は、相当量の準備が要求される。評価は、授業で平常点と、学期末のレポートによって行なう。

保険経営特論（秋学期）

教授 堀田 一吉

授業科目の内容：

本講義は、企業としての保険会社の行動理論を取り扱う。規制緩和の流れの中で、保険業界は、将来の構造変化に備えて、厳しい選択を迫られているということが言える。授業では、現在、わが国の保険業界が抱えている課題をいくつか取り上げて、問題解決に向けてさまざまな角度から再検討してみる。授業の進め方は、毎回レポーターを決めて、事前に与えたテーマについて現状および課題を整理してもらい、それをふまえて全員で討議を行なう。併せて、適宜、関連した文献を紹介しながら、現在の研究段階を確認していくことにする。

受講者に対しては、保険業界の現状について、ある程度問題意識を持っていることが望ましい。

＜交通・公共政策・産業組織論分野＞

交通・公共政策特論（交通産業・公共事業の基礎理論） （春学期）

准教授 伊藤 規子

授業科目の内容：

主に価格メカニズムか規制システムについての基本的理論を研究します。1冊か2冊、理論的かつ基礎研究の蓄積に役立つベーシックなテキストを講読する、または、

交通・公益事業論・規制の各分野における基礎理論の出発点となった論文の内容を適切に理解することを予定しています。

交通・公共政策特論（秋学期）

准教授 田邊勝巳

授業科目の内容：

交通経済学，規制の経済学，産業組織論に関する基本的なテキストを輪読します。昨年度はS. Martin「Advanced Industrial Economics」を輪読しました。テキストは初講日に受講者と相談した上で決めるので，履修予定者は必ず出席して下さい。

交通・公共政策特論（市場規制論）（春学期）

教授 中条潮

授業科目の内容：

履修者と相談の上，決定する。

産業組織特論（イノベーションと中小企業）（春学期）

教授 高橋美樹

授業科目の内容：

この授業では，産業組織論と中小企業論との接点に当たる分野をとりあげ，議論します。具体的には，ネットワーク型企業間関係，イノベーションと企業規模，中小企業政策などのテーマについて、『日本の中小企業研究』“Small Business Economics”所収論文などを適宜輪読し，議論を整理，検討してゆきます。

（注）履修予定者は，申告前に，必ず授業担当者，メールにてコンタクトをとること（メール・アドレス：takamiki@fbc.keio.ac.jp）。また，履修者の問題意識に応じて，テーマが若干かわることもあり得ます。

なお，議論の場を確保するために，履修者数によっては，博士課程の「産業組織論特殊研究」と合同で授業を行う可能性があります。

< 計量経済学分野 >

計量経済学特論（パネル計量経済学Ⅰ）（春学期）

准教授 山本勲

授業科目の内容：

授業では，個人や企業を対象にしたパネル・データ的设计・標本特性・計量経済分析手法などについて，多角的・実践的に学習する。履修者は計量経済学の初級程度の知識を有していることを前提とする。具体的な内容やテキスト・参考書は初講日に決めるので，履修予定者は必ず出席すること。

計量経済学特論（パネル計量経済学Ⅱ）（秋学期）

准教授 山本勲

授業科目の内容：

授業では，個人や企業を対象にしたパネル・データ的设计・標本特性・計量経済分析手法などについて，多角的・実践的に学習する。履修者は春学期の「計量経済学特論（パネル計量経済学Ⅰ）」を履修していることを前提とする。具体的な内容やテキスト・参考書は初講日に決めるので，履修予定者は必ず出席すること。

計量経済学特論（マネタリー・エコノミクス）（秋学期）

准教授 渡部和孝

授業科目の内容：

金融政策の理論と実務，銀行経営，銀行規制などについて，米国の実践的テキスト，日本の政策エコノミストが執筆したマクロ経済学の上級テキストをベースにした講義を行う。

計量経済学特論（経商連携 Global COE 科目）

（パネルデータ設計・解析論）（春学期）（秋学期）

教授 樋口美雄

授業科目の内容：

家計および企業のパネルデータの海外および国内における調査の現状，これらを使った先駆的研究をサーベイし，「市場の質」理論が求める実証分析のためのパネルデータ的设计・解析について論ずる。

計量経済学特論（野村証券未来先導チェアシップ講座）

（GMMとマクロ経済学の最前線）（春学期特定期間集中）

野村証券チェアシップ講座教授（特別招聘教授）ハンセン，ラース P.

教授 早見均

教授 和田賢治

准教授 渡部和孝

授業日：

第1－2回 6月25日：早見均，和田賢治

第3－4回 6月26日：和田賢治，渡部和孝

第5－6回 7月2日：ハンセン教授

第7－8回 7月3日：ハンセン教授

第9－10回 7月4日 13：30－16：30

シンポジウム：ハンセン教授ほか

第11－12回 7月9日：ハンセン教授

第13－14回 7月10日：ハンセン教授

授業科目の内容：

講義目的：

未来先導チェアシップ講座の一環として，シカゴ大学教授でGMM推定の開拓者であるハンセン教授を招聘する機会が得られたので，そのアイディアの基本と最先端の研究動向について知識を深めると同時に計量経済学の最

前線の現場に接する機会を提供する。

GMM 推定は現代の計量経済学の推定方法としては極めて一般性が高く共通の分析ツールとして定着している。この分析手法をマスターすることはもとより、どのようにして開発されたのか、創始者の証言を聞くことができる。

さらに、最近の教授の関心と計量分析への貢献の一端を紹介していただくことにより、大学院生が自らの研究に役立てるべく最先端の分析ツールをいち早く習得することを目的とする。

数理統計学特論（統計的推論の最近の話題）（春学期）

教授 早見 均

授業科目の内容：

近年の統計的手法を理解するには、(1) 基本的な確率論あるいは確率過程論の知識が必要なこと、(2) 利用されるデータに即した確率的モデルが作成できること、(3) コンピュータの性能を駆使したシミュレーション手法が使えること、などが必要条件となっている。修士論文の作成にあたってデータを利用した分析を考えている人を前提にして、一歩踏み込んだ基礎知識を習得することをねらいとしている。

これまでに扱った文献テキストは B.L.S. Prakasa Rao (1999) *Statistical inference for diffusion type process*, *Kendall's Library of Statistics 8*, Arnold, H. Goldstein (1995) *Multilevel statistical models*, *Kendall's Library of Statistics 3*, Arnold, G. Grimmett and D. Stirzaker (2001) *Probability and random processes*, 3rd ed., Oxford University Press, D. Williams (2001) *Weighing the Odds*, Cambridge University Press, S. Jewson, and A. Brix with C. Ziehmann (2005) *Weather Derivative Valuation*, Cambridge University Press, D B Percival and A T Walden (2000) *Wavelet Methods for Time Series Analysis*, Cambridge University Press である。

最初の講義でいくつかの参考文献を持参しながら、どのように講義を進めて行くかを定めることにする。博士課程の「統計学特殊研究」と併設講義である。

産業連関特論（産業連関分析）（春学期）

教授 桜本 光

授業科目の内容：

産業連関分析の基礎理論及び応用例を講義する。国際間分析例としては、日米・アセアン産業連関分析、地域間分析例としては東京都産業連関分析をとりあげ、日米間・東アジア間及び地域間の相互依存関係を分析する二つのモデル（静学・動学）を述べ受講者にも演習してもらおう予定である。

I . 概説 現代における産業連関分析の意義

II . 国民経済計算と産業連関表（SNA と I—O 表及び SAM）

III . 産業連関分析の基礎理論

3.1 数量分析と価格分析（レオンチェフ・オープンモデル）の解説

3.2 産業連関分析に関連する諸係数の解説

3.3 パソコンによる生産・労働・資本波及効果分析（演習）

3.4 生産関数と産業連関分析
生産者行動理論の系譜と I—O 分析

IV . 産業連関表と一般均衡分析

4.1 一般均衡モデルの解説

4.2 パソコンモデルによる演習予定

V . 産業連関分析の応用

5.1 家計消費の内生化（消費関数と産業連関分析）
消費者行動理論の系譜と I—O 分析（消費コンバータの解説）

5.2 民間設備投資の内生化（投資関数と産業連関分析）
設備投資行動と固定資本マトリックス

5.3 輸出・輸入の内生化（国際産業連関分析）
日米産業連関表と国際産業連関表の解説とその応用（貿易摩擦）

5.4 移出・移入の内生化（地域産業連関分析）
東京都地域間産業連関表の解説とその応用（東京一極集中のメカニズム）

5.5 経済成長と技術進歩
産業構造の三角化と T. F. P.（全要素生産性）の計測例

5.6 持続的成長と環境保全
エネルギー・環境分析用産業連関表（EDEN 表）の応用例

VI . 産業連関表とエネルギー・環境分析

VII . 産業連関表の推計と今後の課題

< 国際経済学分野 >

国際関係特論（グローバル化の政策的含意）

（経商連携 Global COE 科目）（秋学期）

Advanced Study of International Relations

(Globalization and its Policy Implications)

(Autumn term)

教授（フジタ・チェアシップ基金） 柏木 茂雄

Professor Shigeo KASHIWAGI

授業科目の内容：

Objectives and Description

The objective of the course is to discuss and understand the policy implications of economic globalization.

The course will provide opportunities for students to examine

various aspects of policy issues that have arisen from the increased integration of economies and the emergence of many global issues. Students will review the challenges imposed on policymakers from globalization and explore ways to enhance international cooperation to meet these challenges. Classroom discussions will enable students to follow and understand the discussions that are taking place at various international meetings and to engage in more informed and effective discussions on various issues related to economic globalization. The focus of the discussions will be on issues that are particularly relevant to developing countries and will be discussed from the perspective of policy makers. The emphasis will be more on what is happening in the real world and less on theoretical aspects of the issues.

The course will be organized as a combination of lectures and seminars, and will be conducted in English. There will be no textbooks. Handouts and copies of background material will be distributed from time to time. Students are expected to make presentations on his/her assigned papers and engage in active classroom discussions.

Issues to be covered include the following (subject to change):

- Introductory discussions
- Globalization and macroeconomic policies
- Globalization and fiscal policies
- Financial globalization
- Globalization of labor
- Globalization and trade policies
- Globalization and income inequality
- Policy coherence for development
- Globalization and regional integration
- Global governance

国際金融特論（秋学期）

教授 深尾光洋

授業科目の内容：

Corporate Governance and Financial System:

The governance structure of limited liability companies that stipulates the relationship among the management, stockholders, creditors, employees, suppliers and customers is important in determining the performance of the economy. Although the OECD countries are generally characterized as market economies, there are considerable differences among these countries in the organizational structure of the economy.

One of the major aims of this course is to understand the institutional differences in corporate-governance structures of

companies in major industrial countries including the United States, Japan, Germany, France and the United Kingdom. The differences in the corporate-governance structure have a number of implications for the performance of companies. For example, the cost of capital and the effective use of human resources would be affected by this structure.

In recent years, the deepening international integration of economic activities has heightened awareness of cross-country differences in corporate-governance structure and putting a strong pressures for convergence in some aspects of corporate governance systems. The course will also survey these trends.

1. General Concept

Fukao, Mitsuhiro, *Financial Integration, Corporate Governance, and the Performance of Multinational Companies*, Brookings, 1995.

2. Hostile Takeovers

Shleifer, Andrei, and Lawrence H. Summers, "Breach of Trust in Hostile Takeovers," in *Corporate Takeovers: Causes and Consequences*, edited by Alan J. Auerbach, University of Chicago Press, 1988.

Roe, Mark J. "Takeover Politics," in *Deal Decade*, edited by M. Blair, 1993.

3. Elements of Governance

Kaplan, Steven N., "Top Executive Rewards and Firm Performance: A Comparison of Japan and the United States," *JPE*, Vol. 102, No. 3, June 1994

Christine Pochet, "Corporate Governance and Bankruptcy: a Comparative Study," *Cahier de recherche no. 2002-152*, Centre de Recherche en Gestion, IAE de Toulouse.

Naoto Osawa, Kazushige Kamiyama, Koji Nakamura, Tomohiro Noguchi, and Eiji Maeda, "An Examination of Structural Changes in Employment and Wages in Japan," *Bank of Japan Monthly Bulletin*, August 2002.

Black, Bernard, "Creating Strong Stock Market by Protecting Outside Shareholders." remarks at OECD/KDI conference on Corporate Governance in Asia: A Comparative Perspective, Seoul, March 3-5, 1999.

Jolene Dugan, Fahad Kamal, David Morrison, Ali Saribas and Barbara Thomas, *Board Practices/Board Pay 2006 Edition*, Institutional Shareholder Services, 2006

William C. Powers, Jr., Raymond S. Toubh, and Herbert S. Winokur, Jr., "Report of Investigation by the special investigative committee of the board of directors of Enron corp.," February, 2002.

4. Financial System

Fukao, Mitsuhiro, "Japanese Financial Instability and Weaknesses in the Corporate Governance Structure," *Seoul Journal of Economics*, Vol.11, No.4, 1998.

Fukao, Mitsuhiro, "Financial Crisis and the Lost Decade," in *Asian Economic Policy Review*, Vol.2 No.2, Blackwell, 2007, pp. 273-297.

国際経済特論（国際経済政策Ⅰ）（春学期）

教授 和 気 洋 子

授業科目の内容：

1. 現代社会において、財・サービスの国際貿易の拡大と金融・資本市場の国際化の進展、そして企業経営の一層のグローバル化を通じて、各国間の国際的な相互依存関係はこれまで以上に高まっている。こうしたなかでわれわれの眼前には、各国経済間のボーダー分析、経済政策運営、ビジネスの競争と協調のロジック、そして地球環境問題など多くのグローバルイシューが、問われるべき課題として次から次へと現れている。

本講は、これらの今日的な問題意識を基礎にして、とくに「貿易・直接投資・地球環境問題」をめぐる論点をさまざまな視点から整理し、いわば新しい国際経済政策論の枠組みのなかでより自由で活発な議論が行われることが目的である。

2. 授業内容および方法については、受講者の専門レベルなどに応じて、具体的に決めるつもりであるが、とくに地球環境問題に関連する資料など、とりあえず議論をすすめる上で必要と思われる基礎的な参考資料・文献については、その都度、講義のなかで紹介する予定である。これに並行して、受講者による自主的な論文解題を積極的に取り入れて行きたいと考えている。

国際経済特論（国際経済政策Ⅱ）（秋学期）

教授 和 気 洋 子

授業科目の内容：

春学期の「国際経済特論（国際経済政策Ⅰ）」の履修を前提に、各履修者の研究テーマを中心に、理論分析・実証研究・政策評価などの議論を深めて行きたいと考えている。

国際経済特論（秋学期）

Advanced Study of International Economic Policy (Autumn term)

教授 遠 藤 正 寛

Professor Masahiro ENDOH

授業科目の内容：

Discuss some topics of international economics, with emphasis on policy issues: Trade policy, float and fixed exchange rate systems, and economic development. After this course, you'll be able to analyze some international economics issues theoretically with confidence.

1. The Instruments of Trade Policy
2. The Political Economy of Trade Policy
3. Trade Policy in Developing Countries
4. Exchange Rates and the Foreign Exchange Market
5. Money, Interest Rates, and Exchange Rates
6. Output and the Exchange Rate in the Short Run
7. Fixed Exchange Rates and Foreign Exchange Intervention
8. Developing Countries: Growth, Crisis, and Reform

< 産業史・経営史分野 >

産業史特論（20世紀イギリス経済史）（秋学期）

教授 工 藤 教 和

授業科目の内容：

ここ10数年にわたる「活況」によって、イギリス経済の「衰退」をめぐる議論はやや下火になってきたが、1990年代までは「衰退」論が学界の大きなテーマであった。このような状況にあるとはいえ、歴史的な事象を捉え、それを評価する試みの是非を問う活動が無意味になったわけでもない。むしろ一定の時を経た現在、今一度そのときの諸論文を見直し、それ以後の経験とも照らし合わせ、ある時期の事象を評価する試みの有効性を考えてみる必要と責務が歴史研究者にはある。「衰退論」研究の第一人者 Supple 教授にささげられた論文集を素材にして、「衰退」の実像に迫った試みを再評価してみたい。

産業史特論（経商連携 Global COE 科目）（秋学期）

教授 牛 島 利 明

経済学部 教授 杉 山 伸 也

経済学部 教授 古 田 和 子

経済学部 教授 柳 沢 遊

経済学部 准教授 神 田 さやこ

授業科目の内容：

経済史を専攻する院生を主な対象とする共同セミナー

である。今年度は、日本およびアジア諸地域における市場の質の問題、および市場を支える諸制度を歴史的パースペクティブのなかで検討することを主たるテーマとし、基本的な研究文献を体系的にとりあげ、報告と討論を行う。

成績評価は、授業での報告や討論への参加などを考慮に入れて、総合的に判断する。

経営史特論（比較経営史）（春学期）

教授 平野 隆

授業科目の内容：

19世紀後半から第2次世界大戦期までを対象に、欧米および日本における諸産業の発展と企業経営の展開を比較史の視点から検討する。授業は、下記の文献の輪読および履修者の調査報告によってすすめる。

テキスト：

Michael J. Piore & Charles F. Sabel, *The Second Industrial Devide* (Basic Books Inc., 1984)

Alfred D. Chandler, Jr., *Scale and Scope: The Dynamics of Industrial Capitalism* (Belknap Press of Harvard University Press, 1990).

※テキストは履修者との相談により変更する可能性もある。

経営史特論（秋学期）

名誉教授 吉田 正 樹

授業科目の内容：

戦前期の国内工作機械産業の発展を取り上げる。「機械の母」と称された工作機械の輸入を開始した明治から国家にとって国産化が緊急課題となった戦時体制下までの、国産技術および国内企業の成長過程を分析する。さらに国策となった航空機、自動車産業育成と工作機械の関係を考察することにより、高度な技術を要する新産業形成における工作機械産業の存在意義を検討していく。

< 経営学分野 >

現代企業経営特論

（コーポレート・ガバナンスの比較制度分析）（秋学期）

名誉教授 植竹 晃 久

授業科目の内容：

「企業は誰のために、いかに運営されるべきか」という基本課題について、株主主権論とステイクホルダー論の検討、また市場指向的アプローチと機関ないし制度指向的アプローチの検討を踏まえて、各国の歴史経路と制度補完関係に対応したコーポレート・ガバナンスのあり方

について考察していく。

現代企業経営特論（企業倫理）（秋学期）

准教授 梅津 光 弘

ケース・メソッドによる倫理的意思決定のトレーニング

授業科目の内容：

目的：

企業の不祥事が絶えない。西武、カネボウ、中央青山、耐震偽装事件等の最近の事例が示すように、倫理を無視した経営に対して社会や市場が厳しい裁定をくだすようになってきた。倫理と企業経営とをどのように調和させるかがこれからの経営者にとって必須の課題となっている。また、会計専門職の倫理と責任は特に重大である。このクラスではこうした現状をふまえつつ、経営と倫理との関係について、様々な角度から考えていきたい。具体的には1) 経営における営利と倫理、2) 消費者関連の倫理問題、3) 多国籍企業、国際化をめぐる倫理問題、4) 技術と情報の倫理、5) CSRとSRI、6) 企業倫理の制度化等の問題を扱う予定である。活発な討論を通じて、国際的にも通用する経営理念や専門職倫理を確立する契機を提供するとともに、日常見過ごされがちな個人々の価値観や人生観をも点検、自覚する場になればと思う。

教育方法：

「ハーバードのケースで学ぶ企業倫理」リン・シャープ・ペイン著（慶應義塾大学出版会）を使用して、誠実な組織を構築する方法、戦略と倫理との関係、企業倫理の制度化とその管理・運営、を中心に講義を進めていく。はじめの数回の授業は「ビジネスの倫理学」の理論編を中心にして規範倫理学を概説し、その後はケースを中心に授業をすすめる。参加者の問題意識や希望によって、ケースの差し換え、補充も考慮する。

現代企業経営特論（企業評価）（春学期）

教授 岡本 大 輔

授業科目の内容：

企業評価研究のテーマは、視点の研究と手法の研究に分けることができる。前者は何を以って評価基準とするかという評価内容・評価視点の研究であり、いわばWHATの研究である。一方後者はそれをいかにして評価するかという分析方法・分析手法の研究であり、いわばHOWの研究である。本講義では両者それぞれについての考察を行なう。

前者に関しては従来の評価基準である収益性と成長性に加えて、近年注目されている持続可能性（Sustainability）をとりあげる。後者に関しては人工知能手法の企業評価への適用、特にニューラルネットワーク（Artificial Neural Networks）を取り上げる。

授業は参加者の報告と討論という形式で進めていく。なお、続いて行なわれる「経営学演習」の時間も利用するので、参加者は両方の授業に参加してもらいたい。

現代企業経営特論（組織と戦略に関する新制度派経済学の理論研究）（春学期）

教授 菊 澤 研 宗

授業科目の内容：

「新制度派経済学」と呼ばれている「取引コスト理論」、「エージェント理論」、「所有権理論」等に関連する基本文献を精読し、これらの理論がどのように企業組織、経営戦略、コーポレート・ガバナンス問題に応用されるのかを議論する。

議論する論文は、こちらから配布する。たとえば、O. Williamson の取引コスト理論の論文、M. Jensen のエージェント理論論文、H. Demsetz や所有権理論、O. Hart の新所有権理論論文等を読む予定である。

現代企業経営特論（戦略経営論）（秋学期）

名誉教授 十 川 廣 國

授業科目の内容：

イノベーション戦略を考える

企業は、基本的ミッション達成のためにイノベーションに取り組みなければならない。企業は新たな価値を創造することによって市場から認められる存在であるからである。イノベーション実践のためには価値創造プロセスの活性化、つまり戦略的イノベーションに挑戦しなければならない。そのためには組織変革に取り組むことが条件となろう。組織変革は企業のおかれている状況によって異なるが、いずれのケースでも構造的要因の変革、業務的要因についての新たな施策の実施が必要とされる。それによって組織能力が改善され、技術的知識としての組織知の構築・更新が可能になると考えられる。

こうした点に留意して、現代企業におけるイノベーション戦略を検討するのがこの講義の目的である。授業の方法としては、前半は、基本的な問題の所在について講義を行い、後半は関連論文を用いて討論を行なう予定である。

現代企業経営特論（マクロ組織論）（秋学期）

准教授 三 橋 平

授業科目の内容：

本講義の目的は、マクロ組織論分野における最新の理論、および、実証研究のレビューを行うことである。マクロ組織論とは、組織レベルの戦略的行動に関する法則性の発見を目的とした領域学であり、主に、社会的インターアクションがもたらす組織の行動変容と価値創造に関する研究が行われている分野である。また、アカデミックな研究で必要となるスキルなどについても適宜紹介する。

なお、コンティンジェンシー理論以前の学説、理論等を議論する機会は、他の講義等に譲りたい。

本講義で議論するトピックは以下のとおりである。

Population ecology
Resource dependence theory
Institutional theory
Organizational economics
Competitive interactions
Mutualism of organizations
Organizational learning
Power theory
Interorganizational network theory
Organizational demography
Historical dependence

リーディング・リストは最初の講義で配布する。毎週4～5本程度の英語論文がアサインされ、それぞれの論文について毎回ノートを作成し、提出しなければならない。また、研究プロポーザルの作成が学期末の課題となるため、本講義に相当程度の時間を割くことができる学生のみを期待する。成績評価は、ノートの質、ディスカッション・リーダーとしてのパフォーマンス、ディスカッションへの参加度、研究プロポーザルの質、で行う。重回帰分析やイベント・ヒストリー分析などについての大まかな知識なしには実証論文を読むことが難しいため、ある程度の統計学、計量経済学の理解が履修の前提となる。第1回目の講義にUSBメモリースティックを持参すること。

現代企業経営特論（組織の経済学）（秋学期）

教授 渡 部 直 樹

授業科目の内容：

当授業では、現代の組織経済学のパースペクティブである、契約論的観点とケーパビリティ的観点に焦点を当て、それぞれがどのような議論に影響されて生成されたものか、それらの方法論的相違は何か、またそれぞれが、組織における諸活動について、どのような仮定に立って、説明を果たそうとしているのか、といった点を具体的に探ってみる。特に、企業戦略とかコーポレート・ガバナンスといった具体的な状況に対して、どのようなスタンスをとるのかを明らかにしたい。また、今日の組織の経済学において重要問題になりつつある、組織の進化の問題やゲーム理論とのかかわりについても検討していきたい。

授業の進行は、以上の点に関わるテキストを幾つか選び、授業の参加者がそれに対してそれぞれ報告をし、全員でそれを討論するという形式をとる。成績は、レポート提出ということも考えられるが、基本的には報告とそ

れに対する討論に対する評価を中心に、行っていきたい。

なお授業で用いるテキストは、両者の学説研究を行っている Rutherford や Hodgson の 2000 年以降の最新の論文と、契約論では、Williamson, O. Hart 等の論文をピック・アップしていきたい。ケーパビリティ論の中では、Langlois や Foss の論文を取り上げてみたい。

経営管理特論（組織のマネジメント）（春学期）

教授 今口忠政

授業科目の内容：

現代企業は事業の選択と集中を通して、事業の再構築を進めると同時に、新たな事業創造に向けて、イノベーション的な取り組みを増大させている。

講義では再成長のための戦略、組織変革のマネジメント、組織能力の再構築などのマネジメント活動に焦点をあて、関連する書物や論文を輪読しながら、討議を通じて理解を深めるような授業にしたい。

経営管理特論（イノベーションとダイバーシティマネジメント）（春学期）（秋学期）

講師 林 倬史

授業科目の内容：

講義内容については、院生諸君の希望に沿うように配慮するが、本年度は以下のような講義概要としたい。春学期の講義内容は、いよいよ本格的に始動するインターネット資本主義時代の国際経営戦略論の再構成を中心とする。とりわけ、春学期には以下の4点を中心的検討課題とし、国際経営戦略に関する諸説を再検証していく。

（春学期）

IT時代の競争優位

- (1) 競争のグローバル化と国際経営戦略
- (2) 競争戦略と国際競争優位の規定要因
- (3) イノベーションと競争優位
- (4) 競争戦略論の系譜

秋学期では、「知識資本主義時代の競争優位」を技術、研究開発、および組織におけるイノベーションの視点から検討していく。さらに企業の国際競争力の源泉ともいえる技術開発力と知識創造の問題を、文化的多様性との関連、および競争戦略論の再検討の視点から明らかにしていく。

以上の諸点に留意しながら、秋学期の講義ならびに共通の研究課題を以下の5点とする。

- (1) 知識資本主義時代の競争とその源泉
- (2) Virtual Integration と Vertical Integration
- (3) 異文化マネジメントと Knowledge Management の重要性
- (4) 知識創造と Diversity Management
- (5) 知識資本主義時代の競争優位－イノベーションと組織・文化

経営管理特論（日本の経営事情）（春学期）（秋学期）

名誉教授 藤森三男

授業科目の内容：

経営学を研究しようとするとき、理論的分析が重要になる。が、それよりも前に経営事象そのものを知らねばならない。経営の実態がどうであるかを知ることによって、経営学研究の道程を間違えないように援助するのが本講義である。

アメリカの経営の上にアメリカ経営学があり、日本の経営の上に日本経営学があるのか、世界の経営学は世界共通のものであるか、を考えるのは、面白い問題である。日本式経営は存在しうるのかどうかである。この問題に解答するには、まず日本の経営事情を知らねばならない。

又、日本の経営の実態調査を重ねた清水龍瑩の考え方、発掘した事実も紹介する。

講義は私の解説を中心に行う。

1. 江戸時代

三井高利の革新的商法、商家と家訓、奉公人雇用制度、商家の会計制度、住友の銅山経営と鉱夫管理など

2. 明治期

商家の新時代への対応と盛衰、政府の殖産興業と官業払下、渋沢栄一と明治期の実業界、岩崎弥太郎と三菱の創業、高等教育の発展と専門経営者の登場など

3. 大正、昭和初期

財閥間競争と3大財閥の覇権確立、財閥のコンツェルン形式活動、「ドル買い」事件と財閥の「転向」、経営者企業の登場とホワイトカラーの形式、呉服店から百貨店へなど

4. 戦中・戦後初期

軍需産業の展開、電力国家管理、企業整備、第2次世界大戦期の遺産、金融業界の再編など

5. 戦後期

鉄鋼業における競争、エネルギー革命、商社の大型化、企業集団の形成、松下電器の発展など

比較経営特論（春学期特定期間集中）

特別招聘教授 フルーイン、マーク

授業日：火曜日1限 5月12日・19日・26日

木曜日1限 5月7日・14日・21日・28日

金曜日1限 5月1日・8日・15日・22日・29日

授業科目の内容：

Strategic and Comparative Management – Course Outline

1. Course and instructor introduction; course management and communication issues
2. What is strategy and strategic management?
 - a. What is a firm?
 - b. How does the theory of the firm relate to strategic management?

- c. Strategy stack; how many different kinds of strategy are there?
- d. Michael Porter-style strategy versus Resource-based strategy
- e. Industry life cycles as environments
- 3. Law of adaptation: firms adapt to their environments or fail
 - a. What's different about Japanese firms = what different about Japanese environments
 - b. Development before development (early development) or the origins of Japan's industrial development
 - i. 1603: Sekigahara and Battle of Glen Fruin
 - ii. demographic factors
 - iii. urbanization, transportation & sankin kotai
 - iv. decentralization = self-organization
- 4. The Late Development Model; how much does it explain?
 - a. Alexander Gerschenkron's model & Ron Dore's use of it
 - b. Combining early and late development
 - c. Sangyo hariasage
 - d. Market as limit to growth and role of import substitution
- 5. The Japanese Enterprise System - history, development & transformation
 - a. Japanese firms compared with EU and USA firms
 - b. Institutional lock-in and global competition
- 6. Varieties of Modern Firms - the Expanded Model
 - a. modern firms, business groups, and interfirm networks
 - b. from 2x2 to 3x3: expanding the model
- 7. Global competition and national models of organization & management
 - a. What is globalization - alternative definitions
 - b. How is globalization different from internationalization?
 - c. Three news: the environment, global technologies, emerging economies
 - d. Competition and cooperation: local, regional & global dynamics (different strategies for different niches)
- 8. Comparative Advantage versus Competitive Advantage
 - a. Combining Porter and RBV approaches
 - b. The R-C-C model in global practice
 - c. Creating competitive advantage and moving it globally
- 9. Innovation - the sine qua non for strategic success
 - a. Innovation models
 - b. Innovation + models of the firm + global competition
 - c. Imitation and innovation
- 10. Some examples: Kikkoman, Toshiba, and Toyota in national and global competition; each represents the best of the best in some ways
- 11. It's the environment, stupid! Adaptation, Mitigation & Global Warming; Japan's the world's most energy efficient industrial economy versus China and the USA

- 12. Comparative and Strategic Management - a review
- 13. Student presentations and future directions

＜ 会 計 学 分 野 ＞

財務会計特論（現行会計の再検討）（春学期）（秋学期）

名誉教授 笠井昭次

授業科目の内容：

現代会計は、大きく揺れ動いており、さまざまな視点からさまざまな会計学説が、主張されており、混乱の極にあると言ってよいであろう。そこで、本講義では、日本の代表的な会計学説を整理する枠組を構築し、そのことを通して、現代会計の将来を考えることにしたい。

以下の順序で議論する予定である。

- I 会計理論の現状と現行会計の全体的性格
- II 現代諸会計学説の類型化およびその推移の動因

- (1) 類型化の枠組
- (2) 計算対象に関する分類のメルクマール
- (3) 収益費用観・資産負債観の理論的意義
- (4) 取得原価主義会計論の意義

III 現代会計理論に共通する理論的欠陥

- (1) 説明理論と規範理論との混淆
- (2) 現代会計理論の理論的欠陥の整理
- (3) 首尾一貫性の欠如
- (4) 論証の欠如

財務会計特論（会計情報の有用性と財務分析）

（春学期）（秋学期）

教授 黒川行治

授業科目の内容：

- I. ①会計に関する基礎概念を検討する。
②ケーススタディにより、会計情報の分析手法を理解する。
- II. テキストにそって、各章末の演習問題をディスカッションする。
ディスカッションの準備のため、予習が必要である。

管理会計特論（サービスレベルアグリーメント（SLA））

（春学期）（秋学期）

教授 園田智昭

授業科目の内容：

近年、多くのシェアードサービスセンター（企業の本社部門を集約化した組織）では、サービスレベルアグリーメント（SLA）の導入が検討されている。SLAは、業務を委託するときに委託先と交わす一種の契約書で、価格だけでなく保証される業務品質なども記載される。本講

義では、SLA について主に英文の文献を用いて検討する。

管理会計特論（業績評価会計）（春学期）

教授 横田 絵理

授業科目の内容：

管理会計の分野の中で組織行動との関係が強い業績評価に関する論文、著書を検討します。業績評価は単に測定だけでなく、それをどのように利用するのか、他のどのような経営の仕組みとどのように関連させるのかによって、経営管理の仕組みとして重要な役割を持つこととなります。この重要性を認識しながら、先行研究の文献を検討し、今後の研究課題について考察していきます。

管理会計特論（マネジメント・コントロール）（秋学期）

教授 横田 絵理

授業科目の内容：

マネジメント・コントロールは管理会計の1つの大きな柱です。

現在では組織論、人的資源論、組織行動など広い分野との関係からの研究が広がっていることを受け、ここでも広い視野から検討することになります。

授業では、テキスト、論文の検討とともに、および事例の検討、ケースディスカッションにより、マネジメント・コントロールを理論とともに、それが実務でどのように機能するのかということも考察していきます。

管理会計特論（研究方法論）（春学期）

准教授 吉田 栄介

授業科目の内容：

社会科学としての管理会計研究に必要な論理的思考方法、学説、パースペクティブ、研究方法論、論文の書き方などの基礎的な習得を目指す。

毎回の予習、レポート、発表、質疑、復習が必要である。

会計史特論（会計の機能）（春学期）

教授 友岡 賛

授業科目の内容：

会計の機能にかかわる理論、主としていわゆる「基礎理論」を吟味する。

会計史、とタイトルされてはいるが、歴史それ自体を対象とするというよりは、いわゆる理論研究にさいして、ときとして歴史的な視座をもちいようとするものである。あるいはまた、歴史的な視座などというものはもちいなくても、すくなくもその問題の歴史的な背景を念頭に置くことによって、理論研究に「厚み」をもたせようとするものである。

形式としては、ひとつの問題について参加者全員がとつおいつする、そんな「ブレインストーミングの場」を

提供したい。

会計史特論（会計の構造）（秋学期）

教授 友岡 賛

授業科目の内容：

会計の構造にかかわる理論、主としていわゆる「基礎理論」を吟味する。

会計史、とタイトルされてはいるが、歴史それ自体を対象とするというよりは、いわゆる理論研究にさいして、ときとして歴史的な視座をもちいようとするものである。あるいはまた、歴史的な視座などというものはもちいなくても、すくなくもその問題の歴史的な背景を念頭に置くことによって、理論研究に「厚み」をもたせようとするものである。

形式としては、ひとつの問題について参加者全員がとつおいつする、そんな「ブレインストーミングの場」を提供したい。

< 産業関係論分野 >

労働経済特論（労働市場研究）（経商連携 Global COE 科目）（秋学期）

教授 清家 篤

授業科目の内容：

この特論では労働市場の個別問題について講義と討論を行う。具体的には、賃金決定、人的資本投資、労働移動、失業などの諸問題についてあつかう。

産業関係特論（春学期）

講師 菊野 一雄

授業科目の内容：

近代以降の産業（工業化）社会を、我々は「インダストリアル・ソサエティー」ないし「ビジネス・ソサエティー」と呼び、豊かな生活を約束された素晴らしい社会と思い込んできた。しかし、インダストリーは「勤勉」、ビジネスは「忙しい」（ビジー）であり、「物的豊かさ」を求めて「物の加工」に忙しい時代であった。「忙しい」とは「心を亡ぼす」ことである。事実、我々は物的に豊かになればなる程、心を亡ぼしてきたように思う。だが、それは何故か？ 何故、物的豊かさを求めて工業を興し、労働の細分化（分業）と機械化を推進すればする程、雇用をめぐる諸関係（産業関係）に様々な副作用（矛盾）が生じてきたのか。商（ビジネス）学研究科において産業（インダストリー）関係論を研究する意義はまさにこの点にある。

テキストは諸君と相談して決めたい。

産業関係特論（秋学期）

講師 菊野 一雄

授業科目の内容：

「産業関係」(Industrial Relations=IR) という用語は 1910 年頃から英米において使われ始めたが、いまだ研究者の間で共有できる統一的なコンセプトや理論体系を有していない。産業関係 (IR) は広義には、「雇用関係から派生する全ての行動、ないし雇用過程に関連する全ての行動」(D. ヨーダー) であるが、ここでは労働市場と雇用管理に焦点をあてて進めて行きたい。

テキストは諸君と相談して決めたい。

産業社会特論（経済法・国際経済法に関する事例研究） （春学期集中）

法学部教授 田村 次朗

授業科目の内容：

経済法、国際経済法に関する最新の重要な判例および事件を素材とした研究報告を行う。なお、経済法については、競争法および競争政策に関する日本、アメリカおよび欧州競争法の事例を取り扱い、国際経済法については、WTO における小委員会、上級委員会報告を取り上げる。授業は、報告者による判例・事例研究報告発表およびそれに引き続く質疑および討議によって構成される。

産業社会特論（産業社会学Ⅰ（理論編））（春学期）

名誉教授 三浦 雄二

授業科目の内容：

現代の産業社会に関する内外の文献の検討を中心にする。中心的に取り上げられるのは社会学になるであろうが、必ずしも社会学をメインの学問的方法にしようとする人だけを対象にしているのではない。現在の社会の在り方に関心があるならば、自ずと議論はその方向に向かうであろう。我々が現在、企業活動を中心にした産業社会、それも高度な段階のそれにあることは誰もが認めることであり、そこにどのような問題性が潜んでいるかを確認することは、広い角度からこの社会に生きていくということを考えようとしているものにプラスになるところがあるであろう。

産業社会特論（産業社会学Ⅱ（実態編））（秋学期）

名誉教授 三浦 雄二

授業科目の内容：

日本の産業社会の現状を掘り下げて検討することを目的にする。具体的な素材は受講生の顔触れを見て決めたいが、今日出版されている日本についての産業・経営・労働の社会学的研究になることは当然であろう。それらの文献・資料が直ちに私の考える「産業社会特論（実態編）」にフィットするとは考えにくい、たたき台になる

のは間違いない。良い悪いは別にして、我々は紛れもなく現代日本の産業社会で生きているのであり、それには実態を知り、問題点をより鮮明にしておく必要のあるものが数多く存在している。問題性は多方面に伸びていくが、ここでの整理軸は社会学になる。それ以外のものは許されないということにはならないが、科学的思考を深めるという意味では一つのきっかけにはなるであろう。

社会保障特論（社会保障論）（春学期）（秋学期）

教授 権 文 善 一

授業科目の内容：

授業の中で適宜指示する。

< 会計職分野 >

国際会計論Ⅰ（国際財務報告基準とコンバージェンス・プロジェクト）（春学期）

教授（大正製薬チェアシップ基金） 坂本 道美

授業科目の内容：

国際財務報告基準 (IFRSs: 国際会計基準 (IASs) を含む。) の内容と日米における IFRSs とのコンバージェンス・プロジェクトの動向に焦点を当て、将来のわが国の会計基準への影響を検討する。具体的な講義計画は次のとおり。

- 1 オリエンテーション、企業会計基準委員会の活動との関係
- 2-3 フレームワーク、IAS10 後発事象
- 4-5 IFRS1 初年度適用
- 6-7 IAS1 財務諸表の表示
- 8-9 IAS7 キャッシュ・フロー計算書、IAS8 会計方針、会計上の見積りの変更と誤謬
- 10 IFRS8 セグメント別報告
- 11 IAS33 1株当たり利益
- 12 IAS24 関連当事者についての開示、IAS34 中間財務報告及びラップ・アップ
- 13 テスト

国際会計論Ⅱ（国際財務報告基準とコンバージェンス・プロジェクト）（春学期）

教授（大正製薬チェアシップ基金） 坂本 道美

授業科目の内容：

国際財務報告基準 (IFRSs: 国際会計基準 (IASs) を含む。) の内容と日米における IFRSs とのコンバージェンス・プロジェクトの動向に焦点を当て、将来のわが国の会計基準への影響を検討する。具体的な講義計画は次のとおり。

- 1-3 IFRS3 企業結合
- 4-5 IAS27 連結及び個別財務諸表

- 6 IAS28 関連会社に対する投資
- 7 IAS31 ジョイントベンチャーに対する持分
- 8-9 IAS38 無形資産
- 10-11 IAS12 法人所得税
- 12 IFRS5 売買目的非流動資産, 廃止事業
- 13 テスト

国際会計論Ⅲ (国際財務報告基準とコンバージェンス・プロジェクト) (秋学期)

教授 (大正製薬チェアシップ基金) 坂本道美

授業科目の内容:

国際財務報告基準 (IFRSs:国際会計基準 (IASs) を含む。)の内容と日米における IFRSs とのコンバージェンス・プロジェクトの動向に焦点を当て、将来のわが国の会計基準への影響を検討する。具体的な講義計画は次のとおり。

- 1 新規会計基準の動向, IAS2 棚卸資産
- 2 IAS16 有形固定資産, IAS23 借入費用
- 3 IAS11 工事契約
- 4 IAS17 リース
- 5-7 IAS19 従業員給付
- 8-9 IAS36 資産の減損
- 10-12 IFRS2 株式報酬
- 13 テスト

国際会計論Ⅳ (国際財務報告基準とコンバージェンス・プロジェクト) (秋学期)

教授 (大正製薬チェアシップ基金) 坂本道美

授業科目の内容:

国際財務報告基準 (IFRSs:国際会計基準 (IASs) を含む。)の内容と日米における IFRSs とのコンバージェンス・プロジェクトの動向に焦点を当て、将来のわが国の会計基準への影響を検討する。具体的な講義計画は次のとおり。

- 1-2 IAS32 金融商品: 表示
- 3-5 IAS39 金融商品: 認識及び測定
- 6 IFRS7 金融商品: 開示
- 7 IAS21 外国為替レート変動の影響
- 8-9 IAS37 引当金, 偶発負債及び偶発資産
- 10 IAS40 投資不動産
- 11 IAS18 収益
- 12 IAS20 政府補助金, その他新たに出された基準等, ラップアップ
- 13 テスト

会計測定論 (春学期)

准教授 前川千春

授業科目の内容:

取得原価主義会計と比較しながら、これまで提案されてきた種々の利益計算方法について具体的に学習する。資

産評価方法だけでなく資本維持概念、測定単位の問題についても詳細に検討していく。授業は単なる講義形式ではなく受講者の発表を交えながら進める予定である。予め配付した資料に基づいてレジュメを作成の上、発表してもらう。受講者数にもよるが、1人2~3回ずつ担当してもらう予定である。

公会計論(公的主体における財務情報と会計の機能)(春学期)

特別招聘教授 大塚成男

授業科目の内容:

国や地方公共団体の財政運営では、予算の審議と議決を通じた事前統制が重視されてきた。しかしながら、行政活動を遂行するための財務的資源が限られたものになる中で、国と地方のいずれのレベルにおいても、事前統制だけでは適切な行財政運営を実現することはできない状況となっている。有効な事後的統制や日常的な統制を通じて、それぞれの主体の現実の状況や活動内容を把握・評価し、その結果に基づいて政策が実行されていかなければならない。そこで公的主体における財務会計制度も、単に予算の適切な実行を支援・確認するための手段ではなく、公的主体の政策立案や事業の効率的な実施に役立つ情報システムとして強化されなければならない。そのためには、1999年の経済戦略会議答申の中で求められた決算重視の姿勢と「会計財務情報基盤」の整備が大きなポイントとなる。

本講義では、国と地方の双方のレベルにおける財務会計制度改革(公会計改革)の動きを、決算重視と情報基盤の整備という観点から検討し、公的主体においても企業会計の手法を採用することが大きな意味を持っていることを示す。ただし、単純に企業会計の手法を礼賛するのではない。投下した資金を回収することができなければ存続することができない民間企業とは異なり、公的主体では資金の回収は絶対の条件ではなく、財務会計を通じて表現されるべき主体の活動内容も異なる。公的主体の行財政活動と合致しないのであれば、たとえ企業会計で採用されている手法であっても、公的主体における有益な情報システムとして機能するわけではない。本講義で検討するのは、あくまで現在のわが国における財政制度で機能する公会計の仕組みである。それゆえ本講義では「骨太の方針」や地方財政健全化法と公会計改革との結びつきについても論じる。

本講義では、以下のようなトピックスを取り上げることを予定している。

- ・公的主体における現在の財務会計制度の特徴と意味
- ・国のバランスシートと官庁別バランスシート
- ・「決算統計」による地方公共団体の財政評価とその限界
- ・地方公共団体が作成する財務4表(貸借対照表, 行政コスト計算書等)

- ・地方財政健全化法に基づく「健全化判断比率」と公会計
- ・実際の公表数値を用いた地方公共団体の分析

なお、本講義で取り上げる公会計という領域はまだまだ発展途上にあり、受講者は常に問題意識を持って講義における検討・議論に参加することが望ましい。

マネジメント・アカウンティング（秋学期）

准教授 吉田 栄介

授業科目の内容：

この授業では、管理会計（マネジメント・アカウンティング：会計情報を中心とした経営管理）の様々な考え方・手法について、講義・議論する。管理会計は、利益管理、原価管理、業績評価など組織設計・運営に関わる様々な手法により構成されます。具体的には、予算管理、CVP分析、投資プロジェクトの評価、原価企画・改善・維持、活動基準原価計算・管理・予算、バランスト・スコアカード、などその他にも多くの考え方・手法が存在します。

毎回の授業は、教科書の指定範囲の予習を前提とします。必ず、予習の上、質問を考えて、授業に参加してください。

リスク・コミュニケーション論（春学期）

特別招聘教授 織 朱 貫

授業科目の内容：

私たちの周りは様々なリスクがあふれている。日常生活において無意識にコントロールされているリスクを、より科学的に論理的にコントロールしていこうというのがリスクマネジメントの考え方である。このリスクマネジメントを、適切に行っていくためには、リスクに関する関係者間のコミュニケーション、リスクコミュニケーションが不可欠である。リスクコミュニケーションを促進するためには、制度的枠組みの構築、人材、教育、情報の共有システムなど様々な取組が必要となる。また、関係者間でリスクコミュニケーションの構造、市民参加の概念について理解する必要がある。この授業では、環境リスクをテーマとして、政策決定における市民参加のあり方、市民・行政・事業者のリスクコミュニケーションのあり方を検討していく。理論の説明とともに、諸外国の状況やリスクコミュニケーションの現場にたたれている方のお話を伺う機会を設け、実際のリスクコミュニケーションの課題を実感しながら問題の検討を行っていきたい。

- 第1回 リスクマネジメント総論 リスクの考え方・リスクマネジメントの考え方
- 第2回 リスクコミュニケーション総論(1) リスクコミュニケーションとは何か、背景
- 第3回 リスクコミュニケーション総論(2) リスクコミュニケーションの難しさ、特性

- 第4回 リスクコミュニケーション総論(3) 政策におけるリスクコミュニケーションの議論
- 第5回 事例研究：化学物質政策とリスクコミュニケーション 環境ホルモンをめぐる問題
- 第6回 事例研究：化学物質政策とリスクコミュニケーション 地域対話の課題
- 第7回 事例研究：土壌汚染とリスクコミュニケーション
- 第8回 事例研究：産業廃棄物とリスクコミュニケーション 新設に関わる問題
- 第9回 事例研究：産業廃棄物とリスクコミュニケーション 操業に関わる問題
- 第10回 事例研究：事故時のリスクコミュニケーション
- 第11回 海外の環境政策におけるリスクコミュニケーションの取組 欧州・米国
- 第12回 海外の環境政策におけるリスクコミュニケーションの取組 アジア
- 第13回 リスクコミュニケーションの課題と今後の展望

内部監査論（春学期）

特別招聘教授 箱田 順哉

授業科目の内容：

内部監査は経営を支える機能です。経営者は経営戦略をたてて実行に移し、経営組織を動かして経営目標を達成するよう経営活動を主導します。内部監査部門は経営者の目となり、耳となり、手足となって、経営活動が経営者の意図通りに行われているか確かめます。

企業活動が多角化、大規模化、グローバル化する中で、経営者自身が直接把握することのできる経営活動の範囲には限界があります。経営者になりかわって経営活動のモニタリングを行う内部監査の重要性は一段と高まっています。

折しも、2008年4月から金融商品取引法に基づく内部統制監査が始まりました。経営者には、監査対象となる内部統制を構築する義務があります。内部監査は内部統制の基本的要素であるモニタリングの中核機能を担うと同時に、経営者の立場にたつて内部統制が整備、運用されていることを確かめて評価する役割を果たします。従来、任意の制度であった内部監査に、制度的な位置づけがもたらされたということが出来ます。

本講座は、内部監査がどのようにして経営を支えるのか、受講者が理解することに主眼を置きます。そのために、内部監査の基本について一通りの講義を行い、内部統制、コーポレート・ガバナンス、リスク・マネジメントといった内部監査の周辺領域と内部監査の関連についても解説します。さらに、受講者が内部監査の最先端のツール、国内・海外のベストプラクティスにふれる機会も作りたいと考えています。

コーポレート・ガバナンス論（秋学期）

特別招聘教授 鶴 光太郎

授業科目の内容：

本講は、コーポレート・ガバナンスに関しできるだけ幅広い視野・考え方及び知識が得られるように、主として「比較制度分析」の視点からアプローチする。つまり、最新の応用ミクロ経済学（ゲーム理論、契約理論など）をベースに、国際比較を行いながら、日本を中心としたコーポレート・ガバナンスに関する現実的な諸問題を扱う。その際、最近、発展の著しい法と経済学の視点や会計・監査の役割も強調する。また、企業システムの中核をなすコーポレート・ガバナンスの包括的な理解のために、経済システムについての基本的な考え方、金融システム、雇用システム、企業組織、政府のガバナンスとの関連についても適宜言及する。

職業倫理と公認会計士法

（監査に関する品質管理と公認会計士法）（春学期）

教授（大正製薬チェアシップ基金） 坂本道美

授業科目の内容：

1996年の日本版会計ビック・バン以来、多くの会計・監査にまつわる不祥事が起こった。また、海外では、米国で2001年にエンロンを始め会計監査の不信を招く事件が起こった。それ以来、再発防止に向けて様々な制度改革が行われてきた。当該制度改革の一環として、2005年企業会計審議会は「監査に関する品質管理基準」を制定し、これに続く2006年の倫理規則と2007年の公認会計士法が改正された。

当科目は、公認会計士試験合格者又は将来公認会計士業務に従事する予定者にとって、監査に関する品質管理、公認会計士法及び倫理規則を理解するためのものである。

倫理規則では、中でも重要な公認会計士監査業務における独立性規則の解説を行う。また、監査の品質をモニターするために組織された、公認会計士・監査審査会の活動内容を紹介する。さらに、過去に起こった様々な不正事例を引用して、監査人が具備しなければならない倫理観や遵守すべき公認会計士法の解説を試みる。

具体的講義内容は以下のとおり。

1. オリエンテーション、米国エンロン破綻からの教訓
2. 米国サーベンス・オクスリー法（企業改革法）の概要
- 3-4 財務諸表監査における職業倫理
5. 監査人の独立性
- 6-7 公認会計士法の概要
- 8-9 監査法人の品質管理とレビュー制度
10. 財務諸表監査における不正への対応・関連当事者の監査

11. 公認会計士・監査審査会の活動状況
12. 日本版SOX法（内部統制報告制度）の解説
13. テスト

租税法概論（春学期）

准教授 高久隆太

授業科目の内容：

租税法概論においては、租税法について学習し、国民として知っておくべき知識及びビジネス上必要とされる知識の習得を図る。

「租税とは何か」から始まって、各税法に共通する基礎理論を理解する。さらに、主要な各税について概要と課題等について概説する。また、マスコミで報道されたトピックにも触れ、政府税制調査会での議論等も紹介していく。

なお、租税は法律的な側面だけでなく、財政経済的な側面、会計的な側面からもアプローチをする必要があり、それら隣接する学問についても学習していただきたい。

講義内容

- (1) イントロダクション
- (2) 租税の意義・目的
- (3) 租税の分類
- (4) 租税法の基本原則
- (5) 租税法の法体系
- (6) 税務行政
- (7) 各税
①所得税、②法人税、③消費税、④相続税、⑤その他の国税、⑥地方税
- (8) 租税徴収
- (9) 租税争訟

法人税法（秋学期）

特別招聘教授 清水文彦

授業科目の内容：

法人税法および関連法令の基本的な事項について全般的な理解を得て法人税の実務を身につけることを目標とする。理解を助けるため、できるだけ制度の趣旨や沿革を解説することを心がける。カレントなトピックスについても基礎的な観点から考察をしてみようとする。

サブジェクト

- 第1回 法人税のあらまし、納税義務者、事業年度納税地、課税標準、青色申告制度
- 第2回 所得の金額、益金・損金の額、税務上の所得と企業会計上の利益
- 第3回 収益・費用等の計上時期、帰属事業年度の特例、受取配当の益金不算入
- 第4回 棚卸資産、有価証券

- 第5回 固定資産の減価償却，繰延資産の償却
- 第6回 役員の給与
- 第7回 その他の営業経費（寄付金，交際費，租税公課）
- 第8回 貸倒損失・貸倒引当金，圧縮記帳，引当金・準備金
- 第9回 税率，税額控除，申告・納付
- 第10回 同族会社と留保金課税，使途秘匿金課税，その他の損益
- 第11回 借地権，リース取引
- 第12回 海外取引（国外関連者取引，国外支配株主等にかかる負債利子，特定外国子会社等の留保金）
- 最終回 企業組織再編成の税務，連結納税制度

現代会計論（秋学期）

特別招聘教授 醍醐 聡

授業科目の内容：

以下のテーマを取り上げ，論点を整理し，分析できる能力を養う。

1. M&A とのれんの会計問題

M&A における企業評価と会計的評価の関係，取得法（買収法）とフレッシュスタート法の選択適用のあり方，結合のシナジー，コントロールプレミアムとのれんの関係，正と負ののれんの会計処理方法（規則的償却と減損処理）などを取り上げる。

2. 複合金融商品，負債と資本の区分の会計問題

各種の新株予約権を主な題材にして，負債と資本の区別をめぐる研究動向を概観したのち，ストック・オプションの会計問題を取り上げる。

3. 新しい負債と収益認識の会計問題

環境負債，資産除去債務など新しい負債の認識と開示のあり方を事例分析を交えながら検討する。また，近年の収益認識基準の見直しの動向を概観しながら，負債の認識と収益の認識の連携性を探る。

4. パブリック・セクターの会計問題

国と地方の公会計をめぐる近年の動向を概観したのち，国の特別会計をフローとストックの両面から検討し，いわゆる「埋蔵金」論争を考える。

中国会計論（中国会計の理論と実務）（春学期）

特別招聘教授 成 立

授業科目の内容：

中国の歴史的な流れにそって中国会計の変遷をとらえ，国際的な観点から現状と将来を展望します。中国会計を管理する中国財政部等の政府機関の考え方や，会計と関連の深い税法や企業の内部統制についてもふれ，実務上の問題点について解説します。

IT 監査（システム監査）論（春学期）

特別招聘准教授 木村 章展

授業科目の内容：

財務諸表監査と IT について理解をいただくことを目的としています。

企業における IT の役割－財務諸表作成プロセスでの IT の役割や，財務諸表監査における IT の評価－IT 評価の必要性，IT に対する統制，IT を利用した統制，IT 評価の具体的手法を紹介し，財務諸表監査における IT の利用－手作業の代替，IT 利用の必要性，財務諸表監査との関係で IT の役割・重要性を理解できることを目標としています。内部統制監査との関係も合わせて解説します。監査論の講義を受講していることが必要です。

講義項目

監査基準および監査基準委員会報告書との関係

IT の基礎知識と企業での IT 利用

IT リスク評価の考え方

全般統制の評価

IT 業務処理統制の評価

CAAT と電子証拠論

米国及び日本の内部統制監査との関係

全般統制の評価と運用評価手続きの演習

IT 業務処理統制の評価と運用評価手続きの演習

電子情報開示

保証業務との関係

アシュアランス論（秋学期）

特別招聘教授 青木 雄二

授業科目の内容：

財務情報等に係る保証業務の理論と実務を講義します。会計監査を中心に財務情報に係る保証業務は急激な勢いで国際的に統一された基準とその実施が求められてきています。日本の現状では会計監査以外の保証業務に関しては十分な体系化はなされていません。しかし，従来からあった「監査人から事務幹事証券会社への書簡」に加え，「四半期レビュー」や「財務報告に係る内部統制の監査」等が 2008 年 4 月以降開始事業年度から導入されたため，国際会計士連盟の下にある国際監査・保証基準審議会（IAASB）の基準書を参考に日本の基準もいくつか整備されつつあります。本講座では IAASB の体系を参考に次のような点について理論と実務の内容を扱います。

- ・保証業務の体系
- ・保証業務の概念的枠組
- ・保証業務と倫理
- ・監査事務所における品質管理
- ・レビュー業務（監査人による期中財務情報のレビューも含む）

- ・財務情報に関する合意された手続
- ・財務報告に係る内部統制の監査
- ・品質管理レビューの基準と手続

財務諸表に係る監査の実務は、その基準との関係も含め別の講座である「監査実務」で扱いますので、理解を深められるにはこの講座と両方受講されることをお勧めします。

監査実務（春学期）

特別招聘教授 青木雄二

授業科目の内容：

資本市場の国際的統合の中で、財務諸表の監査は基準から始まりその実務も急激に国際的に統一化されつつあります。特に国際会計事務所と提携関係にある場合はその品質管理も国際的レベルのものが要求されてきています。このような流れの中で監査の基準との関係で監査の実務がどのように行われているか、次の内容を中心に講義します。

- ・監査の流れの概要
- ・監査の受入・更新と契約
- ・監査計画の策定

エンゲージメント・チームの編成、独立性の確認、リスク評価、重要性基準値の決定、リスクに対応した手続、予算・投入人員と日程の策定、クライアントとの協議、品質審査

- ・監査の実施

主要サイクルの内部統制の評価と監査手続（販売、購買、棚卸資産、原価計算、固定資産、人件費、財務、決算報告）、分析的手続、監査証拠の入手、試査、実査、立会、確認、会計上の見積、期末の期間帰属、ITを利用した手続、後発事象、訴訟、関連当事者との取引、財務諸表及び開示資料の検討、重要事項の検討、修正しない事項の検討、品質審査、弁護士への確認、経営者からの確認、監査の完了手続

- ・監査の報告

クライアントへの報告（重要事項の確認、修正しない事項の確認、内部統制に係る勧告）、監査意見の種類、監査報告書の発行、法定監査の報告

- ・その他の基本項目

監査業務の品質管理、監査調書、不正・違法行為への対応、継続企業の前提、監査人の交代

- ・綱紀関係事例

監査事務所における品質管理、倫理関係、四半期レビュー、財務報告に係る内部統制の監査は別の講座である「アシュアランス論」で扱いますので、理解を深められるにはこの講座と両方受講されることをお勧めします。

ビジネスリスク・マネジメント論（現代企業のリスク管理） （秋学期）

特別招聘准教授 小見門 恵

授業科目の内容：

2004年3月期から有価証券報告書等において、企業はコーポレートガバナンスの状況として、内部統制やリスクマネジメントを含む自社の体制について開示を行っている。2006年5月に施行された会社法により、企業の取締役会は、「損失の危険の管理」すなわち、リスクマネジメントを含む内部統制システムの基本方針を決議し、その内容を事業報告で開示することとなった。ついで成立した金融商品取引法により、米国の2002年サーベンズ=オクスリー法（企業改革法）第404条に倣い、2008年4月1日以降開始事業年度から、有価証券報告書を提出している企業の経営者は、自社グループの財務報告に係る内部統制について有効性を評価し、内部統制報告書で評価結果を開示すべきこととなっている。

こうした企業の内部統制やリスクマネジメントを巡る法令等の要求を背景に、企業のリスクマネジメントに対する関心は、かつてないほどの高まりを見せている。本講義は、企業の仕組み作りに携わる実務家の視点から、現代企業のリスクマネジメントとはどうあるべきか、について、その本質を考えることを目的としている。13回の講義を通じて、受講生の理解度に応じて若干の変更はあるものの、以下のような内容を解説する予定である。

■リスクマネジメントの基本的考え方

◇企業活動と各組織の役割

◇リスクとリスクマネジメント

◇リスクマネジメントと内部統制

- ・米国 COSO による枠組み

エンタープライズリスクマネジメント

内部統制

◇エンタープライズリスクマネジメントを実現するための企業の体制

■リスクマネジメント各論

◇リスク分類、評価と意思決定

- ・市場リスク、信用リスク、オペレーショナルリスク

- ・コンプライアンスリスク

- ・情報リスク

- ・財務報告リスク

- ・戦略的リスク

◇危機管理と事業継続マネジメント

■リスクマネジメントの本質とは何か

情報セキュリティ論（企業の戦略的情報マネジメント）
（秋学期）

特別招聘教授 榎木千昭

授業科目の内容：

本講義では現在および今後の企業に必要な情報マネジメントについて解説します。情報漏えいや情報に関わる法律や規制に効率的に対応していくことに加え、情報をいかに活用し、競争力を高めていくかといった戦略的な情報マネジメントの在り方についてもふれます。

中小企業とタックス・プランニング（春学期）

特別招聘教授 小見山 満

授業科目の内容：

当講義では、以下の項目を課題に採り上げ日本の中小企業（Small and Medium-sized Entities, SME）のタックス・プランニングに焦点を当てる共に、海外の中小企業の会計・監査・税務とタックス・プランニングを研究しながら、今後の日本の中小企業の姿を検討する。

なお、対象となる税法は、法人税法、所得税法、相続税法が中心となり、消費税法ならびに地方税法は必要な場合に触れることとする。従って、講義の前に対象となる税法の基本的内容を理解していることが望ましい。

1. 日本の中小企業に対する租税政策
2. 中小企業の資金繰りとタックス・プランニング
3. 中小企業の事業継承とタックス・プランニング
4. 中小企業の事業拡大とタックス・プランニング
5. 中小企業の国際戦略とタックス・プランニング
6. 中小企業の税務調査とタックス・プランニング
7. 海外の中小企業の会計・監査・税務とタックス・プランニング
8. 今後の日本と世界の中小企業の会計と税務

講義は次の日程で行う予定である。

- 第1回. 中小企業と法人税①（租税政策の内容）；
法人税法上の「中小企業」の定義、そして中小企業への恩典。また、中小企業だけに課される特有の税金の内容とその設定理由。それらの政策により生じる中小企業への影響などを検討する。
- 第2回. 中小企業と法人税②（タックス・プランニング）；
中小企業に特有の法人税などに対し、中小企業はどのように税を捉えタックス・プランニングを行っているか。オーナー経営者を前提にした税制についての考察と、彼らのタックス・プランニングや事業継承問題、更には複数の会社を保有する目的、黒字年度と赤字年度の対処に差があるか、そして節税策の種類とその功罪などを検討する。

- 第3回. 中小企業と法人税③（同族会社の行為否認）；
同族会社を利用した、いきすぎたタックスプランニングに対する判例を挙げ、オーナー経営者が考える具体的プラン等を検討する。
- 第4回. 中小企業と所得税；
「法人成り」との関係で、租税政策は如何に執り行われているか。中小企業特有のオーナー経営者と租税の関係について、報酬、配当、貸付金、個人的支出など所得税の面から検討する。
- 第5回. 中小企業と消費税・地方税；
法人税・所得税以外の税金として、消費税や地方税に的を絞る、中小企業特有の税制の内容と、簡易課税制度の功罪、固定資産税や外形標準課税を含んだ地方税課税で生じている問題点など、その実例を検討する。
- 第6回. 資金繰りの重要性と納税；
税率の高い所得税を支払ってもなぜ個人で資金をためるのか？なぜ、金融機関からの借入よりオーナーからの借入が多いのか？オーナーの視点から見たときの資金繰りと納税の関係を検討する。また、オーナー企業を上場させることによるタックス・プランニング上のメリット・デメリットについても検討する。
- 第7回. 事業承継①（親族内承継）；
事業承継の際に相続税と贈与税が与える影響と、そのタックス・プランニングの実例を検討する。
- 第8回. 事業承継②（親族外承継）；
M & A や M B O を利用してオーナー経営者一族以外へ事業承継をする場合の税務面からの企業価値の評価と、オーナーが受け取る対価の問題、ならびにそのタックス・プランニングを検討する。また、会社法上の種類株式の評価とそれらを利用した中小企業のタックス・プランニングを、事業継承・社員へのインセンティブなどの側面から検討する。
- 第9回. 中小企業の国際戦略；
中小企業が海外進出を行う際に検討しておくべきタックス・プランニング（タックスヘイブン・移転価格・ロイヤリティ課税・関税など）を検討する。また、駐在員の給与・退職金などの社員の福利厚生などの課題についての課税関係を検討する。さらに、日本での海外労働者の確保と源泉税についても研究する。
- 第10回. 中小企業の税務調査①；
法人税を中心にした実例・判例を検討する。
課税当局の研究と必要に応じ、税務署等の訪

間も検討する。

- 第11回. 中小企業の税務調査②；
相続税・所得税を中心にした実例・判例を検討する。
- 第12回. 海外の SME；
諸外国における中小企業の会計・監査・税務ならびにタックスプランニングについて検討する。
- 第13回. 税務会計と GAAP, 税務会計と会計参与；
中小企業における税務会計と GAAP の関係、さらに今後中小企業の会計の信頼性を高めるために導入された会計参与制度と税務会計が如何なる関係にあるのか検討する。

海外進出とタックス・プランニング（春学期）

特別招聘准教授 露 木 正 人

授業科目の内容：

- 以下の点について解説します。
- ・日本企業が海外進出する際に生じる税務問題の全体像と、そこで必要とされるタックス・コンサルティングの内容。
 - ・進出国の税制を理解するために必要な基本的な概念。
 - ・アジアを中心とした進出国での税制。

国際税務論（秋学期）

准教授 高 久 隆 太

授業科目の内容：

近年企業活動のより一層の国際化の進展、企業組織形態の多様化等を背景にクロスボーダー取引が拡大かつ複雑化している。その結果、各国の課税権が衝突し、国際的^{二重課税}が発生する可能性が高まっている。企業にとってはどの国にどのような企業形態で進出するかが重要な経営判断項目となっており、国際的税務戦略の構築が必要となってきた。一方、国家にとっても、他国の課税権との競合を調整しつつ、課税の空白を防止することにより、自国の課税権を確保しなければならない。

本講義では、次の項目について理解を深めることを目的とする。

- (1) 国際課税の基礎概念
- (2) 租税条約と国内税法
- (3) 外国人及び外国法人に対する課税
- (4) 国際的^{二重課税}の発生とその排除
- (5) 国際的租税回避対策税制（移転価格税制、タックス・ヘイブン対策税制、過少資本税制）
- (6) 国際課税問題に係る政府間協議
- (7) 国際的租税回避スキームに係るケーススタディ

倒産法制（倒産法制と会計事務）（秋学期）

特別招聘教授 名古屋 信 夫

授業科目の内容：

倒産法制に係る会計実務の概要とその問題点を中心に解説し、事業再生関連の業務に従事できる基本的な力を身につけることが本授業の目標です。予定している授業の内容は以下のとおりです。

- ①倒産法制や裁判外での事業再生手続について解説し、事業再生時での合理的手続の選択、事業再生手続で必要とされる会計情報の在り方等を理解できるようにします。
- ②倒産法制の中から会社更生法を中心に、会社更生法の手続の流れ、貸借対照表の作成、財産の価額の評定、更生手続の特殊な会計処理について解説し、実務問題である財産評定後貸借対照表を作成するための精算表等を理解できるようにします。
- ③会社更生法要綱草案をもとに会社更生法の財産の価額の評定に関する改正過程を解説し、第 83 条時価・事業全体の価値・処分価額が事業再生において果たす役割等を理解できるようにします。
- ④第 83 条時価の意義等の概要、我が国会計基準との関連を解説し、資産に係る財産評定上の問題である担保権付き事業用不動産、事前求償権等の評定問題等を理解できるようにします。
- ⑤開始決定時の負債関連問題として債権（更生会社の債務）の分類、債権の届出および調査を解説し、簿外債務のオンバランス処理や退職給付引当金、環境修繕費用の在り方等を理解できるようにします。
- ⑥事業全体の価値の意義等の概要、DCF 法や乗数法による計算方法等を解説し、事業全体の価値に係る事業価値、DCF 法、乗数法の実務上の問題点を理解できるようにします。
- ⑦処分価額の意義等の概要、処分価額と清算価値保障原則、清算貸借対照表を解説し、実務問題である清算貸借対照表を作成するための精算表、破産配当率の試算方法を理解できるようにします。
- ⑧認可日以降の会計実務上の問題として、のれんの計上、債務免除額の試算、債務免除に係る税務問題等を解説し、資産負債見合い方式、事業全体の価値をもとにした債務免除額の計算の是非を理解できるようにします。
- ⑨財産評定・債権の届出および調査と更生計画の策定、更生計画に記載されている内容や更生計画と再生計画の相違点について解説し、更生計画の策定期間、計画案の開示内容等を理解できるようにします。
- ⑩更生計画の事例の分析データをもとに、更生手続の流れの実態、更生計画案添付資料等について解説し、開示内容等の会計実務上の問題点を理解できるようにし

ます。

- ⑪民事再生手続の概要等について解説し、会社更生手続と民事再生手続等に関する相違等を理解できるようにします。
- ⑫民事再生手続の会計実務、民事再生手続における固有の税務問題について解説し、事業の再生の可能性問題等を理解できるようにします。

ベンチャー株式公開論（秋学期）

特別招聘教授 柿塚正勝

授業科目の内容：

ベンチャー企業が株式を上場するための実践的知識を講義する。

【講義内容】

1. 新規上場の現状（新規上場会社の属性分析）
2. 新規上場のための基準（上場審査の形式的、実質的基準）
3. 新規上場のスケジュール（上場日程、上場準備資料、スケジュール）
4. 社内体制の整備（企業統治体制、開示能力）
5. 内部統制の評価（日本版 SOX 法対応）
6. 関係会社等の再編（その 1. 関係会社、関連当事者の整理、会社分割）
7. " （その 2. 株式交換、株式移転）
8. " （その 3. 合併ケーススタディ）
9. 上場のための資本政策（第三者割当、ストックオプション等）
10. 未公開株式の株価算定（その 1. 純資産法、類似業種比準法）
11. " （その 2. DCF 法）
12. 資本政策の税金（株式売却、ストックオプション等）
13. 株式上場と公認会計士

組織再編論（秋学期）

特別招聘准教授 岡田光

授業科目の内容：

【概要】

- 企業戦略における組織再編（M&A）の重要性、その効果、プロセス・手続等について解説する。
- 解説においては、理論と近時の実務とのバランスをとり、事例にふれながらそのポイントを明確にする。
- トピックにより、ケーススタディを用いて、実践的な要素も取り込んだ講義内容とする。

【講義内容】

1. M&A と企業戦略
(ア)イントロダクション（M&A 戦略による価値創出、企業価値最大化のためのポートフォリオ・マ

ネジメント）

- (イ)企業買収のプロセス（目的の明確化と目的に沿ったプロセスの構築）
2. 再編形態の検討（ストラクチャリング）：M&A における取引スキームの検討（手法とポイント）
3. 企業価値評価①（評価理論と実務の概要、株価倍率法、修正純資産法の解説等）
4. 企業価値評価②（ディスカунテッド・キャッシュ・フロー法の解説）
5. 企業価値評価③（演習問題）
6. デューデリジェンス①（財務 DD の目的、類型、手続きのポイント等）
7. デューデリジェンス②（収益力分析、財政状態分析等）
8. デューデリジェンス③（DD 結果に対する対応等）
9. 契約と交渉のポイント①（M&A 契約に関する基礎事項の解説）
10. 契約と交渉のポイント②（交渉実務に関する解説）
11. 契約と交渉のポイント③（ケーススタディ）
12. 買収後のマネジメント（ポスト・アクジション・マネジメント／ポスト・マージャー・インテグレーション）
13. 企業・事業売却（売却のプロセスとポイント）／敵対的買収と防衛策

事業再生論（秋学期）

特別招聘准教授 知野雅彦

授業科目の内容：

事業再生の意義、メカニズム、プロセス、手続等について、豊富な実例を用いながら、その理論と実務、再生成功のためのポイントを解説します。その範囲は、危機管理と資金繰り安定化策、事業や財務の現況把握（事業・財務デューデリジェンス等）、オペレーショナル・リストラクチャリング（事業ポートフォリオ最適化、収益性向上、コスト削減、運転資金効率化、組織・人事制度改革等のための施策）、財務リストラクチャリング（法的整理、私的整理、債務の株式化（DES）、債務の劣後化（DDS）、M & A や会社分割等の組織再編制度の活用による財務健全化施策）に及びます。

事業再生のプロセスは経営に関する知識や実務そしてアイデアの凝縮です。事業再生に関する理論や実務的な知識を習得するだけではなく、一般の経営にも必須の経営・財務基礎知識のより深い理解をめざします。

< 学際領域分野 >

経済学と法制度（秋学期）

産業研究所准教授 石岡克俊

授業科目の内容：

経済学（殊にミクロ経済学）は、経済（の諸活動）に関連し、その資源配分に関わる諸問題を主に理論的見地から解明・考察しようとする学問領域である。ここでいう経済の諸活動には、生産・交換・消費といった活動が含まれるが、これらはいずれも私有財産制や契約自由などの私法制度や私法原則によって支えられている。他方、前世紀における福祉国家の登場以来、国民国家単位での経済政策の必要性に応じ政府・公権力の経済活動への介入は日常的なものとなった。法治国家であるわが国においては、こうした権力作用を根拠づける法は不可欠であり、これまで社会政策立法として労働法・社会保障法などの社会法および経済政策立法として独占禁止法を中核とする経済法を構想してきた。しばしばわが国などの先進資本主義諸国の経済システムを指して「市場経済体制」との呼び名が通用しているが、この市場経済こそ私法制度によりその基礎を与えられたものであり、また、社会法・経済法は市場経済の「失敗」や「暴走」の修正・補完のためにこそ存在する。このように、法（学）の領域は、経済（学）の領域の全面を覆うわけではないが、その多くの部分において密接に結びついている。確かに、経済問題の分析や経済学の研究にあって、法や法制度は所与であり前提であり、そして、しばしば懸念の対象でもある。だが、法学者の目から見ると、経済分析の成果が法律論の枠組みと大きく乖離しているために、しばしばその成果の意義にも関わらず、無価値な容貌を呈することがある。モデルに用いられる変数が、法的判断の際に参照される諸要素と必ずしも一致していないためである。そこで、本講義では、かかる経済（学）と法（学）のギャップを埋めるべく、両学問分野に共通するいくつかの経済問題を設定し、経済学的方法論を身につけた受講生に対し、法的思考や方法論、また、経済法的な発想とはいかなるものかを説明して行く。真の学際的な研究とは、互いの学問領域に精通した者の間の議論により成立するのではなく、互いの学問領域の方法論にまで踏み込んで（欲を言えば、相手方の学問領域の専門家になるほどに）互いが理解しあった上で成立するものと信じるからである（授業の進め方については講義初回のガイダンスにおいて説明する）。

戦略の経済・商業（秋学期）

准教授 木戸一夫

准教授 鄭潤澈

授業科目の内容：

戦略の経済学的視点（第1回～第6回 計6回）

担当 木戸一夫

ごく目先の利益ではなく、長期的視点での利益を考えた時、どこにその利益を見出し、いかにしてそれを実現していくのか、といったことを考えるのが戦略的思考と言えよう。本講義では、その中でも、利益の源泉の部分に特に焦点を当て、コア・コンピタンスとなるような補完性の利益の数理的構造を学ぶ。

- ・さまざまな補完性（1回）
- ・補完性の定式化と基本性質（2回）
- ・補完性を示す方法（1回）
- ・スーパーモジュラー関数の最適化と単調比較静学（1回）
- ・スーパーモジュラー・ゲーム（1回）

6回目の授業終了後に課すレポートで成績を評価する。

相互依存関係から見た戦略（第7回～第13回 計7回）

担当 鄭潤澈

講義の後半では、応用ミクロ経済学の観点で経済主体の様々な戦略的行動プロセスを考察していく。特に、取引関係などにおいて、個別主体間の相互依存関係（競争と協力）が各自の最適化行動（戦略）にどうつながるのかを理解することを授業の目標とする。

- ・消費者と生産者との葛藤（1回）
- ・企業間の競争（2回）
- ・戦略的相互依存関係（1回）
- ・企業の最適化行動（2回）
- ・情報と戦略の関係（1回）

後半の成績は平常点（出席状況）と後半13回目の授業終了後に課すレポートで評価。そして、最終成績は前半の成績と後半の成績と合算して総合評価をする。

戦略の経営・会計（秋学期）

准教授 三橋平

講師 西村優子

授業科目の内容：

戦略について経営学と会計学の立場からアプローチし、総合的に考察することが目的である。1回目にオリエンテーションを行なった後、経営学から6回の講義、会計学から6回の講義を行なう。

イノベーションの経営・商業（春学期）

教授 今 口 忠 政
教授 佐 藤 和
教授 濱 岡 豊
准教授 小 野 晃 典

授業科目の内容：

イノベーションについて経営学と商業学の立場からアプローチし、革新的な企業行動を総合的に理解することが目的である。1回目に簡単にガイダンスを行った後、経営学から6回の講義、商業学から6回の講義を行う。

環境と経済政策（春学期）

教授 和 気 洋 子
教授 早 見 均
教授 遠 藤 正 寛

授業科目の内容：

持続的な経済発展のビジョンを実現させるために、国内あるいは地球規模での環境保全と経済成長の両立は必須かつ喫緊の課題である。一方、研究史の視点では、経済分析の枠組みの中で環境問題を明示的に扱う研究領域はむしろ緒に付いたばかりである。ましてや一般的かつ標準的な分析枠組みが確立している段階とは言いがたい。本講義の目的は、こうした学術的ニーズに応えるために、環境と経済を統合的にアプローチする実証的手法を考察し、それらを政策として実践的に応用するための基本的な知見を提供することである。

1) 授業計画として、まず、次のようなサブ・テーマを設定し、各テーマにつき数回程度の講義を行う。

1. 環境指標の導出と環境評価について
環境分析用産業連関、CO₂森林吸収量の測定、CDMプロジェクト評価など
2. 世界経済モデル分析と環境政策の評価について
モデル構築の手法、政策シミュレーション分析など
3. 国際協調の効果的かつ効率的な枠組みについて
環境政策と国際競争力問題、FTA交渉と環境影響評価、排出権市場の役割など

2) なお随時、必要に応じて、履修者の研究テーマおよび論文作成を論題とした演習的な講義も含める予定である。3名の担当教員はそれぞれの専門性を反映して、上記テーマの講義を分担するが、原則として、担当教員は毎回出席し、適宜議論を補完し、共同で演習的な指導を行う予定である。

3. 演習科目

< 商業学分野 >

商業学演習（春学期）（秋学期）

准教授 小 野 晃 典

授業科目の内容：

本演習科目は、マーケティング学徒を対象にして、次のようにして進められる予定である。

- 1) 履修者全員が毎週、自身が執筆中ないし構想中の修士論文に関連した外国語の既存論文を1本、全文和訳する。さらに、パワーポイント資料として要約する。
- 2) 履修者相互間で、それらのデータを交換する。
- 3) 毎週抽選を行うなどして1人ないし2人の口頭報告者を決め、自分の論文について学会報告を行うかのようにして、パワーポイントを使って既存論文の内容を紹介する。
- 4) 他の履修者は、聴衆の立場から、報告内容に対して質問やコメントを行う。

本科目のねらいは、以下のとおりである。

- 1) 修士論文の執筆に不可欠な既存研究レビューを一定ペースで行う機会を提供する。
- 2) 既存研究について討議することによって、履修者自身の論文のアイディア着想に貢献する。
- 3) 他の履修者の関心領域についての知識をも蓄積し、視野を広げる。
- 4) 外国語（外国人の場合には日本語も）に大量に触れ、それに慣れ親しむ。
- 5) 文献収集能力を身に付ける。

商業学演習（消費者行動とマーケティング戦略）

（春学期）（秋学期）

准教授 齋 藤 通 貴

授業科目の内容：

- 1) 講義のテーマ

有効なマーケティング戦略を構築する上で消費者行動研究の果たす役割は大きい。社会における企業などのマーケティング行動を観察しても、消費者行動研究の成果が現実のマーケティング戦略に用いられ、ビジネスの成功へと導いた例も少なくは無い。

- 2) 授業項目の概要

本科目では、マーケティング戦略に豊かな示唆を与えらると思われる主要な消費者行動理論研究のレビューとその戦略へのインプリケーションを考え、これを視座とし

た現実の企業のケースを用いたケース分析も行っていく。

3) 授業の進め方

毎回の担当者を決めて行う論文の輪読、ケース分析のためのグループ・ディスカッション、ケース分析を中心に行う。

4) 対象とする学生

上記内容に関心のある学生

商業学演習（日本の消費者研究）（春学期）（秋学期）

教授 清水 聡

授業科目の内容：

日本のマーケティング理論は、欧米の理論を紹介・援用して発展してきた。しかし、欧米で生活してみた経験のある人ならわかるように、日本の消費者は欧米人とはさまざまな面で異なり、欧米人を想定したマーケティングの理論がそのまま日本に当てはまるとは考えにくい。本演習では、日本の消費者が欧米の消費者とどう異なるのか、特にマーケティングの理論とマーケティングにかかわる実際のデータを分析することで明らかにしていく。演習に参加する条件として、消費者行動論の知識を一通り持っていること、データを分析するスキル（SPSS）がある程度あることが望ましい。

商業学演習（マーケティングの理論と実証）（春学期）（秋学期）

教授 高橋 郁夫

授業科目の内容：

本講は商業学を専攻する履修者の修士論文執筆のための指導を行う。その前提として、商業学の知識と統計的解析能力が必要とされる。ゼミ形式と個別指導形式を適宜組み合わせる。

商業学演習（マーケティングにおけるイノベーションとコミュニケーション）（春学期）（秋学期）

教授 濱岡 豊

授業科目の内容：

本演習では、マーケティングにおけるイノベーションおよびコミュニケーションを中心に先行研究について学び、これまでの知見および課題をまとめてもらう。さらに、現実の事例をまとめ、理論との対比を行いながら、新たな理論、仮説を設定し、さらには検証してもらいたいと考えている。

商業学演習（マーケティング・メタ研究とマーケティング研究の理論化）（春学期）（秋学期）

教授 堀越 比呂志

授業科目の内容：

これまでのマーケティング研究の成果を、その対象、

方法、学説という3つの視点から整理し、分析するマーケティング・メタ研究を基礎として、マーケティング研究の理論化を探索する。授業は、このテーマに興味を持つ履修者の論文作成のための発表と討論が中心となり、修士課程および博士課程合同で、両者の時間帯（4時限、5時限）を連続して行うので、履修申告の際は注意されたい。詳しいスケジュールは、最初の授業の時に、履修者と相談の上決める予定なので、必ず出席されたい。

<金融・証券論分野>

金融論演習（ファイナンス）（春学期）（秋学期）

教授 辻 幸民
教授 和田 賢治

授業科目の内容：

ファイナンスに関する研究テーマに取り組んでいる大学院生と研究者を対象とした金融ワークショップを開催する。履修者には現在手掛けている論文の中間報告をしてもらおう。報告すべき段階に至っていない人は、研究テーマに関連した文献の紹介・検討でもよい。教員やゲスト・スピーカーによる報告も適宜取り入れる。

こういう趣旨で行うので、毎週定期的開催されるには限らない。初回に履修者と相談して大体のスケジュールを決定する。

金融論合同演習（経商連携 Global COE 科目）（春学期）（秋学期）

コーディネーター 教授 深尾 光洋

授業科目の内容：

国際経済学、金融論、計量経済学各分野の合同演習として設置する。この演習に参加することにより、自分の専攻分野はもちろんのこと、他の分野でも現在、何が問題になっており、これに対してどのような分析手法がとられているかを理解できるよう努める。報告は授業担当者を含め、授業参加者、および塾内外のゲスト・スピーカーにより行う。テーマは経済分野であれば、一切問わない。

成績評価は、発表者は発表内容、発表者でないものは学期末のレポートによる。

財政論演習（春学期）（秋学期）

Seminar: Public Finance (Spring term) (Autumn term)

特別研究教授 北村 行伸
Professor Yukinobu KITAMURA

授業科目の内容：

Objective: To write, at least, one research paper on the topics related to public finance as a term paper or a part of

Master's thesis. The research paper must be clearly written (precise, crispy) and may not be too long (approximately 20pages).

Teaching Method: Presentation of assigned papers/ chapters of a book and discussion after presentation. Once each participant's research topic is selected, participant's own paper in progress is to be presented and discussed by me and other participants.

Possible Research Topics: The topic must be narrowly focused and well defined. The core idea must be something new and have some policy relevance.

- (1) Fiscal Policy in the Process of Economic Development
Provision and effectiveness of social capital and infrastructure.
- (2) Consumption Tax versus Income Tax
Means of raising revenue from taxation.
- (3) Economics of Tax Evasion
How widely tax evasion prevails? What mechanism to prevent it?
- (4) Debt Management Policy or Measurement of Public Deficits and Its Implications
What determine optimal debt management? How harmful public deficits in the conduct of fiscal policy?
- (5) Social Security and Public Pension Design
Intergenerational transfers and generational accounting
- (6) Provision of Public Goods and Externalities.
Must transportation, housing, telecommunication, TV network, among others be provided publicly?
- (7) Others

税制・経済政策演習（春学期）（秋学期）

Seminar : Advanced Study of Taxation and Economic Policies (Spring term) (Autumn term)

教授（フジタ・チェアシップ基金） 柏木茂雄
Professor Shigeo KASHIWAGI

授業科目の内容：

This seminar will discuss various aspects of economic policy making in meeting the challenges of globalization. The goal is to broaden and deepen students' knowledge and understanding of issues in tax and economic policies by studying the experiences of other countries and reviewing issues that are currently being discussed at various international meetings. The extensive discussions during the course will enable the students to familiarize themselves with these issues and to engage in more informed and effective discussions.

Seminar students are required to participate in active classroom discussions and to present their own views in their

papers to be prepared on relevant topics. The discussions will be conducted in English. Evaluation will be based on term paper, attendance and class participation.

There will be no textbooks; copies of required/recommended reading material will be distributed from time to time.

< 保険論分野 >

リスク・保険論演習（春学期）（秋学期）

教授 堀田一吉

授業科目の内容：

本講座では、履修者の論文指導を主な目的とする。そのために、まず、各自の研究テーマに関連する文献を取り上げて、文献研究を通じて問題意識を鮮明にすべく議論を行なう。さらに、適宜各自の研究報告をしてもらい、質疑応答により改善点を確認し、論文作成の進捗を図る。

< 交通・公共政策・産業組織論分野 >

交通・公共政策演習（規制システム・交通産業・交通政策）（春学期）

准教授 伊藤規子

授業科目の内容：

受講者の目的意識（基礎的な理論または政策のサーベイ等の研究）に応じて、文献講読およびディスカッションを行う。

交通・公共政策演習（規制の経済学・交通経済学）（秋学期）

教授 中条潮

授業科目の内容：

受講生と相談の上、決定する。

産業組織論演習（秋学期）

教授 井手秀樹

授業科目の内容：

産業組織、公的規制、および関連領域の問題について最近の文献と事例を中心に議論する。

産業組織論演習（日本の企業と産業組織）（秋学期）

教授 高橋美樹

授業科目の内容：

本演習では、履修者各自の問題意識向上・明確化、論文作成能力の向上を目的とします。

具体的には、「日本の企業と産業組織」を大きなテーマとして、履修者による発表、議論を中心に授業をすすめます。

なお、議論の場を確保するために、履修者数によっては、博士課程の「産業組織論特殊演習」と合同で授業を行う可能性があります。

(注)履修予定者は、申告前に、必ず授業担当者と、メールにてコンタクトをとること(メール・アドレス: takamiki@fbc.keio.ac.jp)。

公共政策・産業組織論合同演習(春学期)

コーディネーター 教授 井手 秀 樹

授業科目の内容:

ネットワーク産業と競争政策、規制のあり方について文献講読と参加者の発表を中心に議論する。

< 計量経済学分野 >

計量経済学演習(数理的基礎理論)(春学期)(秋学期)

准教授 木 戸 一 夫

授業科目の内容:

ゲーム理論や補完性の理論等の数理的モデルを用いて修士論文を作成するための指導を行う。具体的な指導は参加者と相談して決めるが、例えば、G. F. Simmons の“Introduction to Topology and Modern Analysis”のような本をじっくりと読んで数理的基礎力を固める、というものであっても良い。

計量経済学演習(産業連関分析)(春学期)(秋学期)

教授 桜 本 光

授業科目の内容:

受講者による研究発表を予定している。

計量経済学演習(銀行行動の理論・実証分析)

(春学期)(秋学期)

准教授 渡 部 和 孝

授業科目の内容:

銀行行動、応用マクロ経済学に関するリサーチセミナーである。テキストによる学習とプロジェクトによる研究によって、理論と実証の双方から銀行行動、応用マクロ経済学への理解を深める。

計量経済学演習(市場の質に関する理論形成と実証分析)

(経商連携 Global COE 科目)(春学期)(秋学期)

教授 樋 口 美 雄

授業科目の内容:

毎週、外部から計量経済学、経済政策等に関連する研究者を招聘し、報告してもらうことにより、国内外の最先端の分析について、研究していく。

計量経済学合同演習(経済学の実証研究)(春学期)

教授 中 島 隆 信

授業科目の内容:

国際経済学、金融論、計量経済学各分野の合同演習として設置する。報告は授業担当者を含め、授業参加者、および塾内外のゲスト・スピーカーにより行う。テーマは経済分析であれば、一切問わない。

計量経済学合同演習(経済関連分野における実証分析の手法)(春学期)(秋学期)

教授 早 見 均

授業科目の内容:

この演習では主に計量経済学の応用分野での研究報告をおこない、実証分析の手法・政策的課題について議論する。商学部・経済学部と産業研究所に在籍し経済分野の実証研究を中心におこなっている専任教員・共同研究員も参加する。

今年度もできるかぎり広い分野からの報告を募り、研究活動の最前線を体験できる演習の時間としたいと考えている。春学期・秋学期ともに最初の講義の時間にだいたいの報告予定を決めることにしている。はじめの数回はスタッフによる研究報告をおこなうので見学するだけでなく、なるべく発言するつもりで参加して欲しい。計量経済学特殊合同演習と併設科目。

各年度の報告者とタイトルは産業研究所の Website で見られる。

<http://www.sanken.keio.ac.jp/keo/seminar/index.html>

計量経済学合同演習(経商連携 Global COE 科目)

(春学期)(秋学期)

コーディネーター 教授 樋 口 美 雄

授業科目の内容:

国際経済学、金融論、計量経済学各分野の合同演習として設置する。この演習に参加することにより、自分の専攻分野はもちろんのこと、他の分野でも現在、何が問題となっており、これに対しどのような分析手法がとられているかを理解できるよう努める。報告は授業担当者を含め、授業参加者、および塾内外のゲスト・スピーカーにより行う。テーマは経済分析であれば、一切問わない。

＜国際経済学分野＞

国際経済学演習（応用国際貿易）（経商連携 Global COE 科目）
（春学期）（秋学期）

教授 遠藤 正寛

授業科目の内容：

国際貿易に関するセミナーである。テキストや論文を用いて、理論と実証の双方から国際貿易への理解を深める。

国際経済学合同演習（経商連携 Global COE 科目）
（春学期）（秋学期）

コーディネーター 教授 和気 洋子

授業科目の内容：

国際経済学、金融論、計量経済学各分野の合同演習として設置する。この演習に参加することにより、自分の専攻分野はもちろんのこと、他の分野でも現在、何が問題となっており、これに対しどのような分析手法がとられているかを理解できるよう努める。報告は授業担当者を含め、授業参加者、および塾内外のゲスト・スピーカーにより行う。テーマは経済分析であれば、一切問わない。

＜産業史・経営史分野＞

産業史・経営史演習（春学期）（秋学期）

教授 平野 隆

授業科目の内容：

修士論文作成のための個別指導を行なう。また、修士論文のテーマと関連した文献に関するディスカッションも併行して行なう。

産業史・経営史演習（春学期）

名誉教授 吉田 正樹

授業科目の内容：

この演習は受講者の論文作成指導を目的としておこなうため、本人の研究テーマにそった文献をとりあげ議論をすすめることにする。

産業史・経営史演習（秋学期）

名誉教授 吉田 正樹

授業科目の内容：

春学期に引き続き、受講者の論文作成を指導していくが、より具体的な資料の収集、検討の作業を各人に要求

していくこともある。

＜経営学分野＞

経営学演習（組織のマネジメント）（春学期）（秋学期）

教授 今口 忠政

授業科目の内容：

演習科目であるので、組織のマネジメントを中心としながら、修士論文のテーマと関係させた関連する論文の輪読、発表、調査・分析を混ぜ合わせて授業を行う。

2年生にとっては修士論文を完成させるための指導、1年生に対しては修士論文の作成に向けての論題の選定、体系化、調査・分析の指導を行う。

経営学演習（春学期）

准教授 梅津 光弘

授業科目の内容：

この科目では企業倫理学、企業社会責任論に関する英文のテキストを講読する。初回の授業で参加者の英語力を確かめ、またある程度まで要望を踏まえた上でクラスを進めていく予定である。

経営学演習（秋学期）

准教授 梅津 光弘

目的：

企業の不祥事が絶えない。西武、カネボウ、中央青山、耐震偽装事件等の最近の事例が示すように、倫理を無視した経営に対して社会や市場が厳しい裁定をくだすようになってきた。倫理と企業経営とをどのように調和させるかがこれからの経営者にとって必須の課題となっている。また、会計専門職の倫理と責任は特に重大である。このクラスではこうした現状をふまえつつ、経営と倫理との関係について、様々な角度から考えていきたい。具体的には1) 経営における営利と倫理、2) 消費者関連の倫理問題、3) 多国籍企業、国際化をめぐる倫理問題、4) 技術と情報の倫理、5) CSRとSRI、6) 企業倫理の制度化等の問題を扱う予定である。活発な討論を通じて、国際的にも通用する経営理念や専門職倫理を確立する契機を提供するとともに、日常見過ごされがちな個人個人の価値観や人生観をも点検、自覚する場になればと思う。

経営学演習（企業評価）（春学期）（秋学期）

教授 岡本 大輔

授業科目の内容：

本演習では修士論文作成のための指導を行なう。具体的な指導方法については参加者と相談のうえ、決定する

予定である。また、本演習は前の時間に行なわれる現代企業経営特論（企業評価）の補完的な役割も果たすので、参加者は両方の授業に参加してもらいたい。

経営学演習（企業と情報）（春学期）（秋学期）

准教授 神戸 和雄

授業科目の内容：

企業内の情報全般について輪読，討論を行う。特に意思決定のプログラム化について検討を加える予定である。詳細については履修者と相談の上決定する。

経営学演習（組織と戦略に関する新制度派経済学の応用研究）（春学期）（秋学期）

教授 菊澤 研宗

授業科目の内容：

「組織の経済学」あるいは「新制度派経済学」と呼ばれている理論を積極的に組織や戦略問題に応用した研究論文の書き方について指導する。特に、「取引コスト理論」，「エージェンシー理論」，「所有権理論」を用いて，どのようにして組織，戦略，コーポレート・ガバナンス問題に関する論文を展開するのかについて指導する。

経営学演習（春学期）（秋学期）

教授 榊原 研互

授業科目の内容：

学説分析の方法や経営学の方法論的諸問題について輪読，討論を行う。詳細については履修者との相談の上決定する。

経営学演習（組織文化）（春学期）（秋学期）

教授 佐藤 和

授業科目の内容：

本演習では修士論文作成のための指導を行うので，詳細については履修者と相談して決めたい。

経営学演習（企業のグローバル化）（春学期）

教授 谷口 和弘

授業科目の内容：

近年，グローバル経済における企業の制度的問題にたいする関心が高まりつつある。本講の目的は，制度の多様性と進化を重視する「比較制度分析」の視点から，企業にかんする制度（戦略，組織，そしてガバナンスなど）の多様性と進化，そして企業境界と国際分業のあり方などを理解することにある。本講では，とくにアジア企業のケース・スタディや学際的な研究成果を適宜取り入れていく。

経営学演習（春学期）

教授 前田 淳

授業科目の内容：

経営学を扱う学術書の輪読を通して，企業経営の課題や問題点を理解し，現代的意義についても把握できるように指導したい。

経営学演習（組織と進化）（春学期）

教授 渡部 直樹

授業科目の内容：

当授業では，組織を進化という観点から捉え，それが組織行動を理解する上でいかなる意義があるのかを明らかにしたい。まずはダーウィニズムとラマルキズムに代表される進化概念の明確化から始め，その後，より組織に即した進化概念について検討を加えていきたい。

なお授業の進め方は，以上の問題に関する報告と討論を中心に行っていく，成績評価もそれに対する評価という点から行いたい。

また，演習という性格から，その内容の具体的な詳細は，参加者と相談して決めていきたい。

経営学演習（制度とゲーム理論）（秋学期）

教授 渡部 直樹

授業科目の内容：

当授業は，組織を含めた制度が，如何に成立するのか，なぜ安定性を保っているのかについて，ゲーム理論の観点から検討する。この研究は1980年代90年代から盛んになったものだが，特に基本的な文献の理解から進めていきたい。なお，成績評価は，各自の報告と討論から行なっていきたい。また，演習という性格から，その内容の具体的な詳細は，参加者と相談して決めていきたい。

経営学合同演習（秋学期）

コーディネーター 教授 渡部 直樹
教授 今口 忠政

授業科目の内容：

この演習は，基本的には修士課程在籍者の修士論文作成指導をより適切なものにするために個々の指導教授や他の教員が合同で論文発表の討論に参加する。また，学生の論文発表の機会だけではなく，教員が各自の研究成果を報告し，討論を行うことによって相互交流をはかる機会としても利用される。

なお単位付与は，平常の討論状況や論文発表による。

< 会計学分野 >

会計学演習（会計の理論と実務）（春学期）（秋学期）

教授 伊藤 眞

授業科目の内容：

修士論文の指導を行う。

毎回、一人から論文の中間報告をしてもらい、参加者で議論し、相互に理解を深める。論文の輪読も行い議論し探求する。

登録前に担当教員とコンタクトすること。

会計学演習（会計研究論文の検討）（春学期）（秋学期）

教授 黒川 行治

授業科目の内容：

- I. 修士論文の指導を行なう。
- II. 修士論文に関連する文献を議論する。

会計学演習（財務会計論（国際会計論））（春学期）（秋学期）

教授（大正製薬チェアシップ基金）坂本 道美

授業科目の内容：

修士論文を作成するための指導を行う。研究課題の選定、文献の調査、論理展開についての議論を行う。

会計学演習（管理会計論）（春学期）（秋学期）

教授 園田 智昭

授業科目の内容：

修士論文を作成するための指導をします。

会計学演習（税務会計論）（春学期）（秋学期）

准教授 高久 隆太

授業科目の内容：

税務会計に関する研究、ディスカッションを行い、論文を作成する。

会計学演習（会計ないし監査の基礎理論ないし歴史）（春学期）（秋学期）

教授 友岡 賛

授業科目の内容：

論文の作成を目的として、研究報告にもとづくディスカッションをおこなう。

会計学演習（財務会計論）（春学期）（秋学期）

准教授 前川 千春

授業科目の内容：

修士論文の指導を行う。毎回、受講者に研究発表をし

てもらう予定である。

会計学演習（管理会計）（春学期）（秋学期）

教授 横田 絵理

授業科目の内容：

演習では、受講生の修士論文テーマに沿い、研究課題の発見、基礎・関連研究の文選サーベイと質疑応答を経ながら論文作成を指導する。

会計学演習（管理会計論）（春学期）（秋学期）

准教授 吉田 栄介

授業科目の内容：

修士論文研究を指導する。

会計学合同演習（経商連携 Global COE 科目）（春学期）（秋学期）

教授 園田 智昭

教授 横田 絵理

准教授 吉田 栄介

授業科目の内容：

本講義では、慶應義塾大学に所属する研究者に加えて、商学研究科出身の他大学の研究者も加わって、管理会計を専攻する学生に対して、多方面から論文作成や学会報告の準備などに対する指導を行う。

また、経商連携 Global COE 科目とすることで、同プロジェクトで経営会計班が実施するパネル調査の設問作成・実施・検討・報告などを行う。

< 産業関係論分野 >

産業関係論演習（組織心理学）（春学期）

准教授 吉川 肇子

授業科目の内容：

論文を輪読する。受講者は担当を決めてレジュメを用意し、発表する。

産業関係論演習（組織心理学）（秋学期）

准教授 吉川 肇子

授業科目の内容：

論文を輪読する。20回以降の授業については、受講生の研究計画を発表し、討論する。

産業関係論演習（社会保障論）（春学期）（秋学期）

教授 権 丈 善一

授業科目の内容：

修士論文の作成に向けて履修者の研究報告を行う。

産業関係論演習（人的資源管理）（春学期）（秋学期）

教授 八 代 充 史

授業科目の内容：

修士論文の執筆を行うための必要な指導を行う。

産業関係論演習（労働市場研究）（経商連携 Global COE 科目）（春学期）（秋学期）

教授 清 家 篤

授業科目の内容：

労働市場分析の研究指導を行います。この演習で指導する研究範囲は、

- (1) 労働供給、労働需要にかんする理論および実証分析
- (2) 労働市場の調整（失業、雇用調整、雇用情報、雇用のフローなど）にかんする理論および実証分析
- (3) 雇用制度、慣行にかんする経済分析
- (4) 労働市場の構造変化にかんする実証分析などです。ただし履修者の研究興味によっては上にあげた以外の項目についてとりあげることもあります。具体的には、演習参加者の研究報告、およびそれに対する討論を中心に進めていきたいと思っています。

産業関係論合同演習（春学期）（秋学期）

教授 八 代 充 史

授業科目の内容：

研究科及び学部のスタッフ、学内外の研究者、実務家、並びに大学院生による研究報告と討議を行う。

< 会計職分野 >

経営分析演習（春学期）

教授 黒 川 行 治

授業科目の内容：

- I. テキストにそって、各章末の演習問題を議論する。

ディスカッションの準備のため、毎日、一章分の熟語及び演習問題（約10問）の解答作成に関する予習が必要である。
- II. 授業終了時に、小論文の提出が要求される。

本年度の課題（予定）は、①受講者が我国の上場会社の中から1社を選択し、②テキストで学んだ分析手法に則って企業評価を行う、③5000字程度（A4版4～5枚）である。

会計政策演習（国際財務報告基準へのコンバージェンスに向けての日本の取組）（秋学期）

教授（大正製薬チェアシップ基金） 坂 本 道 美

授業科目の内容：

我が国の企業会計基準は、現在国際財務報告基準（IFRS）との差異を縮小する努力を続けている。2007年8月に日本の企業会計基準委員会（ASBJ）が国際会計基準審議会（IASB）との間で合意した、2011年6月までに、現行の両会計基準の差異を事実上解消するという宣言（東京合意）が出されている。また、連結財務諸表にIFRSを適用して開示することを容認する議論（連結先行論）がなされている。このような状況のもと、主要な会計基準の内容を、テーマごとに議論して日本の会計基準の向かうべき方向性を分析・研究する。

演習では、ASBJが取り組んでいる以下の会計基準の改定プロジェクト項目の中から適宜、テーマを選択し、報告し、ディスカッションをしていく。

1. 企業結合会計
2. 棚卸資産
3. 研究開発費
4. 資産除去債務
5. 工事契約
6. 金融商品時価開示
7. セグメント情報開示
8. その他2009年度に新たに公表される基準（案）

授業終了時に、小論文の提出が要求される。

管理会計演習（秋学期）

教授 横 田 絵 理

授業科目の内容：

管理会計の理論を踏まえ、各自が事例研究論文（タームペーパー）を所定の期日までに作成することを目標とする。

具体的には、テキストをベースとしながら、各自の問題意識のもとに選択した企業の管理会計システムについて調査研究、分析を行う。

演習では、各自の問題意識と調査の経過について報告とディスカッションを行う。

会計監査演習（春学期）

教授 永 見 尊

授業科目の内容：

公認会計士による財務諸表監査の新しい枠組みとしてKPMGによって公表された研究書を原文（英語）で輪読し、監査における基本的な事項をおさえつつ、財務諸表監査が従来の志向からどのようにシフトしているのか、またどこに新たな視点が見いだされているのかを理解してい

きます。

企業倫理演習（秋学期）

准教授 梅 津 光 弘

ケース・メソッドによる倫理的意思決定のトレーニング

授業科目の内容：

目的：

企業の不祥事が絶えない。西武、カネボウ、中央青山、耐震偽装事件等の最近の事例が示すように、倫理を無視した経営に対して社会や市場が厳しい裁定をくだすようになってきた。倫理と企業経営とをどのように調和させるかがこれからの経営者にとって必須の課題となっている。また、会計専門職の倫理と責任は特に重大である。このクラスではこうした現状をふまえて、経営と倫理との関係について、様々な角度から考えていきたい。具体的には1) 経営における営利と倫理、2) 消費者関連の倫理問題、3) 多国籍企業、国際化をめぐる倫理問題、4) 技術と情報の倫理、5) CSR と SRI、6) 企業倫理の制度化等の問題を扱う予定である。活発な討論を通じて、国際的にも通用する経営理念や専門職倫理を確立する契機を提供するとともに、日常見過ごされがちな個々人の価値観や人生観をも点検、自覚するに場になればと思う。

教育方法：

「ハーバードのケースで学ぶ企業倫理」リン・シャープ・ペイン著（慶應義塾大学出版会）を使用して、誠実な組織を構築する方法、戦略と倫理との関係、企業倫理の制度化とその管理・運営、を中心に講義を進めていく。はじめの数回の授業は「ビジネスの倫理学」の理論編を中心にして規範倫理学を概説し、その後はケースを中心に授業をすすめる。参加者の問題意識や希望によって、ケースの差し換え、補充も考慮する。

コーポレート・ガバナンス演習（秋学期）

教授 深 尾 光 洋

授業科目の内容：

Corporate Governance and Financial System:

The governance structure of limited liability companies that stipulates the relationship among the management, stockholders, creditors, employees, suppliers and customers is important in determining the performance of the economy. Although the OECD countries are generally characterized as market economies, there are considerable differences among these countries in the organizational structure of the economy.

One of the major aims of this course is to understand the institutional differences in corporate-governance structures of companies in major industrial countries including the United States, Japan, Germany, France and the United Kingdom.

The differences in the corporate-governance structure have a number of implications for the performance of companies. For example, the cost of capital and the effective use of human resources would be affected by this structure.

In recent years, the deepening international integration of economic activities has heightened awareness of cross-country differences in corporate-governance structure and putting a strong pressures for convergence in some aspects of corporate governance systems. The course will also survey these trends.

1. General Concept

Fukao, Mitsuhiro, *Financial Integration, Corporate Governance, and the Performance of Multinational Companies*, Brookings, 1995.

2. Hostile Takeovers

Shleifer, Andrei, and Lawrence H. Summers, "Breach of Trust in Hostile Takeovers," in *Corporate Takeovers: Causes and Consequences*, edited by Alan J. Auerbach, University of Chicago Press, 1988.

Roe, Mark J. "Takeover Politics," in *Deal Decade*, edited by M. Blair, 1993.

3. Elements of Governance

Kaplan, Steven N., "Top Executive Rewards and Firm Performance: A Comparison of Japan and the United States," *JPE*, Vol. 102, No. 3, June 1994

Christine Pochet, "Corporate Governance and Bankruptcy: a Comparative Study," *Cahier de recherche no. 2002-152*, Centre de Recherche en Gestion, IAE de Toulouse.

Naoto Osawa, Kazushige Kamiyama, Koji Nakamura, Tomohiro Noguchi, and Eiji Maeda, "An Examination of Structural Changes in Employment and Wages in Japan," *Bank of Japan Monthly Bulletin*, August 2002.

Black, Bernard, "Creating Strong Stock Market by Protecting Outside Shareholders." remarks at OECD/KDI conference on Corporate Governance in Asia: A Comparative Perspective, Seoul, March 3-5, 1999.

Jolene Dugan, Fahad Kamal, David Morrison, Ali Saribas and Barbara Thomas, *Board Practices/Board Pay 2006 Edition*, Institutional Shareholder Services, 2006

William C. Powers, Jr., Raymond S. Troubh, and Herbert S. Winokur, Jr., "Report of Investigation by the special

investigative committee of the board of directors of Enron corp.," February, 2002.

4. Financial System

Fukao, Mitsuhiro, "Japanese Financial Instability and Weaknesses in the Corporate Governance Structure," *Seoul Journal of Economics*, Vol.11, No.4, 1998.

Fukao, Mitsuhiro, "Financial Crisis and the Lost Decade," in *Asian Economic Policy Review*, Vol.2 No.2, Blackwell, 2007, pp. 273-297.

博士課程設置科目

【09】 商学専攻
【95】 商学専攻

商業学特殊研究（新しいマーケティング技法と消費者行動） （春学期）

教授 清水 聰

授業科目の内容：

テキストマイニング、データマイニングなど、新しいデータ分析手法が導入されてきたことにより、消費者に関する大量データの分析や言語の分析が可能になり、今までではわからなかったことが、明らかになるようになってきた。本講義では、これらの新しい技法を用いて、大量データを分析することから何がわかるのか、既存のマーケティングリサーチの手法とどう異なるのかを、実際にデータをハンドリングするなどして考えていく。履修の前提としてマーケティングリサーチ、ならびに顧客データの分析について、一通りの知識を持っていることを求める。

商業学特殊研究（流通分析）（秋学期）

名誉教授 清水 猛

授業科目の内容：

本講はマクロ視点から流通問題の解明を目指す諸君を対象として講義、報告、議論を行う。日本の流通分析を具体的な研究素材とするため、多変量解析の知識と実行力が必要であるが、流通分析の具体的内容については、受講生の研究テーマと関心に応じて考慮する。

秋学期に2回のレポートを課す。

商業学特殊研究（消費者行動とマーケティングへの実証的アプローチ）（秋学期）

教授 高橋 郁夫

授業科目の内容：

消費者行動およびマーケティングへの実証的方法に関する文献を講読し、議論することを通じて、その意義と限界について考える。あらかじめ、多変量解析に関する基礎知識を要する。クラスにおける報告に加え、学期末にはまとめとしてのレポート提出が要求される。ただし、人数によっては、個別指導や修士課程の演習との連携によって履修者の学習効果の向上を図る予定である。

商業学特殊研究（マーケティング・サイエンス）（春学期）

教授 濱 岡 豊

授業科目の内容：

この授業では、マーケティング・サイエンスで開発されてきたモデルについて基本的な文献を講読しつつ、データを用いた演習も行う。トピックについては受講生の興味や研究テーマに応じて選択する。

商業学特殊研究（マーケティング方法論）（秋学期）

教授 堀 越 比呂志

授業科目の内容：

マーケティング研究は、様々な隣接諸学科の影響を受けながら進展してきているのであり、それゆえマーケティング研究に取り入れられた研究方法も多様である。本講では、関連論文の輪読・発表をもとに全員での討議を中心に、マーケティング研究の科学化という観点から、これらの様々な方法、アプローチが検討される。

受講者は、出席はもちろんであるが、相当量の準備が必要とされるであろうし、自分の進めている研究における方法を自覚したうえで議論に参加することが望まれる。

商業学特殊演習（日本からのマーケティング）

（春学期）（秋学期）

教授 清 水 聡

授業科目の内容：

日本のマーケティング研究は、欧米のマーケティング理論を導入することで発展してきた。しかし、日本の消費者は欧米の消費者と比べると、情報感度やライフスタイルの面で大きく異なり、欧米の理論が当てはまらないことも多い。本演習では、このような問題意識のもと、欧米で言われている理論が日本の消費者に当てはまるかどうかを文献やデータ分析から明らかにして、日本から発信できる独自のマーケティング理論の構築を考えていく。欧米で言われている基本的な消費者行動の理論を一通りマスターしていること、データ分析をしたことがあること、がのぞましい。

商業学特殊演習（マーケティングの理論と実証）（春学期）

教授 高 橋 郁 夫

授業科目の内容：

商業学を専攻する受講者の研究課題に即し、クラスおよび個別の機会を通じて論文作成上の指導を行う。ここでは、あらかじめ多変量解析およびその計算作業に関する基礎知識が必要とされる。また、研究テーマによっては、大学院高度化推進研究プロジェクト等の各種研究プログラムへの積極的な参画を促す。さらに、修士課程の演習との連携によって履修者の学習効果の向上を図ることも計画している。

商業学特殊演習（マーケティングにおけるイノベーションとコミュニケーション）（春学期）（秋学期）

教授 濱 岡 豊

授業科目の内容：

イノベーションとコミュニケーションはマーケティングのみならず経営学、経済学などとも関連する重要な問題である。この課題に関心を持つ受講者による報告を中心として研究の指導を行う。少人数の場合、個人指導および他のクラスとの合同での演習も行う。

商業学特殊演習（マーケティング・メタ研究とマーケティング研究の理論化）（春学期）（秋学期）

教授 堀 越 比呂志

授業科目の内容：

これまでのマーケティング研究の成果を、その対象、方法、学説という3つの視点から整理し、分析するマーケティング・メタ研究を基礎として、マーケティング研究の理論化を探求する。授業は、このテーマに興味を持つ履修者の論文作成の為に発表と討論が中心となり、修士課程および博士課程合同で、両者の時間帯（4時限、5時限）を連続して行うので、履修申告の際は注意されたい。詳しいスケジュールは、最初の授業の時に、履修者と相談の上決める予定なので、必ず出席されたい。

商業学特殊演習（経商連携 Global COE 科目）（秋学期）

教授 高 橋 郁 夫

授業科目の内容：

博士課程に在籍し商業学を専攻する学生の論文指導を行う。また、これと併せて経商連携 Global COE プログラム参加者の研究指導を行う。

金融論特殊研究（金融構造論Ⅰ / 金融構造論Ⅱ）

（春学期）（秋学期）

名誉教授 赤 川 元 章

授業科目の内容：

経済社会において資金の経済・仲介機能を果たす銀行は、預金と貸付を通じて資金の配分を行い、結果的には、社会的資源の配分に寄与する。また、資金の受入れとその運用の仕方によって各種の金融業務が発生し、これらを制度的に特殊化することによって専門的金融機関が成立する。

本年度の春・秋セメスターを通しての授業は、伝統的に、すべての金融業務を遂行しているユニバーサル・バンキングシステムに基づくドイツ銀行業の経営について多面的に検討したい。履修者は、両セメスターを継続して参加することが望ましい。授業の形式は、テキストを用い、輪読によって研究・討論する。

なお、テキストとして、定評のある基本的教科書、

Wirtschaftslehre des kreditwesens, Gehlen, 2000. を用いる予定である。

金融論特殊研究（企業金融論）（春学期）（秋学期）

教授 辻 幸 民

授業科目の内容：

この授業では、下記文献の融合および発展を目指して、資本構成と負債構成のミックスモデルを構築したい。テキストとして、具体的に何を読むかは履修者と相談した上で決定するが、履修者は以下の参考文献を読んでおいて頂きたい。授業はこれら文献を出発点に進められる。なお履修者は通年で履修されることが望ましい。

金融論特殊研究（春学期）（秋学期）

教授 深 尾 光 洋

授業科目の内容：

受講者の博士論文執筆に必要な文献を指示し、その内容についての報告を行わせる。

金融論特殊研究（春学期）（秋学期）

教授 和 田 賢 治

授業科目の内容：

このコースでは、ファイナンスに関する研究を行っている博士課程の学生を対象に論文発表の訓練を行う。「金融論特殊演習」では論文発表内容の指導を、このコースでは論文発表の仕方の訓練を行うため、「金融論特殊演習」の履修がのぞましい。

金融論特殊演習（ファイナンス）（春学期）（秋学期）

教授 辻 幸 民

教授 和 田 賢 治

授業科目の内容：

ファイナンスに関する研究テーマに取り組んでいる大学院生と研究者を対象とした金融ワークショップを開催する。履修者には現在手掛けている論文の中間報告をしてもらう。報告すべき段階に至っていない人は、研究テーマに関連した文献の紹介・検討でもよい。教員やゲスト・スピーカーによる報告も適宜取り入れる。

こういう趣旨で行うので、毎週定期的に開催されるとは限らない。初回に履修者と相談して大体のスケジュールを決定する。

金融論特殊合同演習（経商連携 Global COE 科目）

（春学期）（秋学期）

コーディネーター 教授 深 尾 光 洋

授業科目の内容：

国際経済学、金融論、計量経済学各分野の合同演習として設置する。この演習に参加することにより、自分の

専攻分野はもちろんのこと、他の分野でも現在、何が問題になっており、これに対してどのような分析手法がとられているかを理解できるよう努める。報告は授業担当者を含め、授業参加者、および塾内外のゲスト・スピーカーにより行う。テーマは経済分野であれば、一切問わない。

成績評価は、発表者は発表内容、発表者でないものは学期末のレポートによる。

財政論特殊研究（春学期）

特別研究教授 北 村 行 伸

授業科目の内容：

Objective: To provide a basic framework of public finance at macroeconomic level, starting from fiscal and monetary policy in a standard macroeconomics, tax and debt in a growing economy, cost-benefit analysis, public goods, international debt and international tax issues.

Teaching Method: Lecture is given and then discuss on the topic.

Covered topic:

Monetary and Fiscal Policy
Public Debt
Budget
Revenue Forecasting
Cost-Benefit Analysis
Public Goods and Bads
Local Public Finance
Finance and Development
International Issues in public finance

財政論特殊研究（秋学期）

特別研究教授 北 村 行 伸

授業科目の内容：

Objective: To provide a basic framework of public finance, at microeconomic level, starting from a general theory of taxation on commodity, income and corporate profits and then extending issues of tax evasion, and compliance, and tax reform.

Teaching Method: Lecture is given and then discuss on the topic. Sometimes, exercise is given for clarifying your understanding.

Covered Topic:

A Framework of Taxation
Consumption Taxation
Individual Income Taxation
Corporate Taxation
Capital Income Taxation
Inheritance and Gift Taxation
Tax Compliance and Evasion

リスク・保険論特殊研究（Ⅰ）（春学期）

教授 堀田 一吉

授業科目の内容：

経済発展に伴い、現代社会においては、リスクの多様化および巨大化が著しい。それに応じて、保険商品の開発は、様々な分野に及んでいる。そこでは、リスクの性質との関わりにおいて保険の限界を探ることが必要であり、これは保険学研究の中心的課題の一つである。本講義では、地震リスクやPLリスクなど現代保険の主要な問題を取り上げて、関連するいくつかの文献を通じて、保険制度の可能性を論ずることにしたい。特別に受講者に対して事前に要求することはないが、レポートや討論などにおいて、積極的な参加を期待している。ただし、講義は基礎的な保険理論を習得していることを前提に進めることにしたい。具体的内容は、最初の授業の時に説明する。

リスク・保険論特殊研究（Ⅱ）（秋学期）

教授 堀田 一吉

授業科目の内容：

経済発展に伴い、現代社会においては、リスクの多様化および巨大化が著しい。それに応じて、保険商品の開発は、様々な分野に及んでいる。そこでは、リスクの性質との関わりにおいて保険の限界を探ることが必要であり、これは保険学研究の中心的課題の一つである。本講義では、地震リスクやPLリスクなど現代保険の主要な問題を取り上げて、関連するいくつかの文献を通じて、保険制度の可能性を論ずることにしたい。特別に受講者に対して事前に要求することはないが、レポートや討論などにおいて、積極的な参加を期待している。ただし、講義は基礎的な保険理論を習得していることを前提に進めることにしたい。具体的内容は、最初の授業の時に説明する。

リスク・保険論特殊演習（高齢社会における危険と保険）（春学期）

講師 真屋 尚生

授業科目の内容：

In societies oriented towards growth and stability, insurance is closely linked to both domestic and global economies in the sense that it fulfils the need for economic security and stability. As a result of the development of insurance systems and increased levels of funding from all sectors of society, insurance today at least from the management perspective is at the stage where financial functions and activities are considered more important than the provision of economic security and stability. Investment by insurance companies has taken on increasing socio-economic importance, and now has

a significant influence on economic growth and development.

Modern insurance systems, while fulfilling the traditional role of providing economic security and stability, also engage in financial activities that are closely tied to the economy. Today, this derivative function is comparable in significance to the traditional function of providing economic security and stability. Furthermore, both of these functions of modern insurance are, in their own way, closely related to the rising emphasis on economic planning.

Over a period of many years, insurance, a socio-economic system developed on the basis of accumulated human knowledge and experience, has changed in response to its environment. Discussion will focus on the relationship between risk and insurance, a subject of considerable debate in recent years in connection with the ongoing ageing of the population.

リスク・保険論特殊合同演習（保険原理と保険経営）（秋学期）

講師 真屋 尚生

授業科目の内容：

How should we evaluate insurance principles and techniques including those in the public insurance domain, and in turn the very essence of insurance itself? Insurance principles and techniques must be seen as relative concepts. Insurance has developed during the age of liberalism in a capitalist world. In other words, it has developed in the context of a civil society in which systems, transactions and contracts are essentially voluntary in form, where contracts are based on agreement between two parties through free interaction of ideas. This has been a major tenet of the capitalist economy.

The creation and operation of insurance systems or indeed any socio-economic system generally involves value judgments in some form or other. The "no risk, no insurance" adage has been around for considerable time, but the risks with which insurance is concerned are different from simple, ordinary risks. Although risks might be viewed in many different ways, it is most important to understand that insurable risks are socio-economic ones. Only when a given phenomenon is perceived as a risk in socio-economic terms, does it have significance in terms of insurance. Thus, in a given society at a given point in time, a phenomenon that is objectively considered to be a risk might not in fact be considered a risk or might be considered only a minor risk, in which case it would not be covered by insurance; indeed, the society in question would not even consider it an issue.

Discussion will focus on the relationship between insurance principles and insurance management from the socio-economic viewpoint.

交通・公共政策特殊研究（市場規制論）（春学期）

教授 中 条 潮

授業科目の内容：

履修者と相談の上、決定する。

交通・公共政策特殊演習（規制の経済学・交通経済学）（秋学期）

教授 中 条 潮

授業科目の内容：

受講生と相談の上、決定する。

産業組織論特殊研究（春学期）

教授 井 手 秀 樹

授業科目の内容：

産業組織に関する内外の適切な論文を輪読し、議論する。

産業組織論特殊研究（中小・ベンチャー企業と産業組織）（春学期）

教授 高 橋 美 樹

授業科目の内容：

産業組織論と中小・ベンチャー企業論との接点にあたる分野の文献を輪読し、議論します。具体的な文献は以下のような候補の中から、履修者の研究テーマ等にしたがって、適宜、取捨選択します。

中小企業総合研究機構『日本の中小企業研究 1990 - 1999』同友館 2003

中小企業事業団中小企業研究所編『日本の中小企業研究：1980 - 1989』同友館 1992

中小企業事業団中小企業研究所編『日本の中小企業研究』有斐閣 1985

Zoltan J. Acs and David B. Audretsch (ed.) *Handbook of entrepreneurship research*, Boston: Kluwer Academic, 2003

なお、議論の場を確保するために、履修者数によっては、修士課程の「産業組織論特論」と合同で授業を行う可能性があります。

(注) 履修予定者は、申告前に、必ず授業担当者と、メールにてコンタクトをとること（メール・アドレス：takamiki@fbc.keio.ac.jp）。

産業組織論特殊演習（秋学期）

教授 高 橋 美 樹

授業科目の内容：

博士論文執筆を進めている学生による報告と授業参加者を交えた討議を中心に授業を進めます。

なお、できるかぎり授業外でも研究発表の機会を設け、研究の進展に役立ててもらおう予定です。

また、議論の場を確保するために、履修者数によっては、

修士課程の「産業組織論演習」と合同で授業を行うことがあり得ます。

(注) 履修予定者は、申告前に、必ず授業担当者と、メールにてコンタクトをとること（メール・アドレス：takamiki@fbc.keio.ac.jp）。

交通・公共政策・産業組織論特殊合同演習（春学期）

コーディネーター 教授 井 手 秀 樹

授業科目の内容：

運輸、エネルギー等ネットワーク産業の競争政策のあり方について議論する。

計量経済学特殊研究（経済指数論）（秋学期）

教授 桜 本 光

授業科目の内容：

経済指数理論をめぐる最近の理論的成果を展望し、応用例として主な官庁の経済統計の価格指数（C.P.I.等）あるいは数量指数（I.I.P.等）の作成方法及びその特性（作成目的、作成方法、採用品目等）を講義し、集計理論の応用として、小分類あるいは中分類のレベルから大分類への集計を様々な集計方法による差を比較検討する演習を受講者にもしてもらおう予定である。

- I. 概説
- II. 指数理論の系譜
- III. 指数理論の基礎と応用
- IV. 現代指数理論の展望
- V. 指数理論の応用
 - 5.1 卸売物価指数（W.P.I.）（日本銀行）
 - 5.2 消費者物価指数（C.P.I.）（総務省）
 - 5.3 鉱工業生産指数（I.I.P.）（経済産業省）
 - 5.4 景気動向指数（DI, CI）（内閣府）等
- VI. 経済指数と今後の課題

計量経済学特殊研究（パネルデータ設計・解析論）

（経商連携 Global COE 科目）（春学期）（秋学期）

教授 樋 口 美 雄

授業科目の内容：

家計および企業のパネルデータの海外および国内における調査の現状、これらを使った先駆的研究をサーベイし、「市場の質」理論が求める実証分析のためのパネルデータの設計・解析について論ずる。

計量経済学特殊研究（野村証券未来先導チェアシップ講座）
（GMMとマクロ経済学の最前線）（春学期特定期間集中）

野村証券チェアシップ講座教授（特別招聘教授） ハンセン, ラース P.

教授 早見 均

教授 和田 賢治

准教授 渡部 和孝

授業日：

第1-2回 6月25日：早見 均, 和田賢治

第3-4回 6月26日：和田賢治, 渡部和孝

第5-6回 7月2日：ハンセン教授

第7-8回 7月3日：ハンセン教授

第9-10回 7月4日 13:30-16:30

シンポジウム：ハンセン教授ほか

第11-12回 7月9日：ハンセン教授

第13-14回 7月10日：ハンセン教授

授業科目の内容：

講義目的：

未来先導チェアシップ講座の一環として、シカゴ大学教授でGMM推定の開拓者であるハンセン教授を招聘する機会が得られたので、そのアイデアの基本と最先端の研究動向について知識を深めると同時に計量経済学の最前線の現場に接する機会を提供する。

GMM推定は現代の計量経済学の推定方法としては極めて一般性が高く共通の分析ツールとして定着している。この分析手法をマスターすることはもとより、どのようにして開発されたのか、創始者の証言を聞くことができる。

さらに、最近の教授の関心と計量分析への貢献の一端を紹介していただくことにより、大学院生が自らの研究に役立てるべく最先端の分析ツールをいち早く習得することを目的とする。

講義計画：

最初の4回は商学研究科スタッフ分担して、ハンセン教授の業績を理解できるよう予備知識を講義する。

第1回：一般化モーメントによる推計方法の基本的アイデア（早見）

第2回：不確実性下の最適化問題とマクロ経済学（和田）

第3回：マクロ経済学の最適化とGMMの対応関係について（和田）

第4回：GMM推計の応用例（渡部）

第5回から第14回まではハンセン教授の講義

計量経済学特殊演習（生産関数論・消費関数論）
（春学期）（秋学期）

教授 桜本 光

授業科目の内容：

受講者による研究発表を予定している。

計量経済学特殊演習（市場の質に関する理論形成と実証分析）（経商連携 Global COE 科目）（春学期）（秋学期）

教授 樋口 美雄

授業科目の内容：

毎週、外部から計量経済学、経済政策等に関連する研究者を招聘し、報告してもらうことにより、国内外の最先端の分析について、研究していく。

計量経済学特殊合同演習（経済関連分野における数量分析の手法と課題）（春学期）（秋学期）

教授 早見 均

授業科目の内容：

この演習では主に計量経済学の応用分野での研究報告をおこない、実証分析の手法・政策的課題について議論する。商学部・経済学部と産業研究所に在籍し経済分野の実証研究を中心におこなっている専任教員・共同研究員も参加する。

今年度もできるかぎり広い分野からの報告を募り、研究活動の最前線を体験できる演習の時間としたいと考えている。春学期・秋学期ともに最初の講義の時間にだいたい報告予定を決めることにしている。はじめの数回はスタッフによる研究報告をおこなうので見学するだけでなく、なるべく発言するつもりで参加して欲しい。計量経済学特殊合同演習と併設科目。

各年度の報告者とタイトルは産業研究所の Website で見られる。

<http://www.sanken.keio.ac.jp/keo/seminar/index.html>

計量経済学特殊合同演習（経商連携 Global COE 科目）
（春学期）（秋学期）

教授 樋口 美雄

授業科目の内容：

国際経済学、金融論、計量経済学各分野の合同演習として設置する。この演習に参加することにより、自分の専攻分野はもちろんのこと、他の分野でも現在、何が問題となっており、これに対しどのような分析手法がとられているかを理解できるよう努める。報告は授業担当者を含め、授業参加者、および塾内外のゲスト・スピーカーにより行う。テーマは経済分析であれば、一切問わない。

統計学特殊研究（統計的手法の最近の話題）（春学期）

教授 早見 均

授業科目の内容：

研究を進めていくうえで必要になる統計的手法の基本は変わらないものの時代とともに変化している。しかも各自の研究テーマに即してベストの統計的手法を利用することがのがぞましい。この講義では受講生の研究対象に応じて必要となる統計学の最近の話題をピックアップし

て検討していきたい。

これまでに扱った文献テキストは B.L.S. Prakasa Rao (1999) *Statistical inference for diffusion type process*, *Kendall's Library of Statistics 8*, Anrold, H. Goldstein (1995) *Multilevel statistical models*, *Kendall's Library of Statistics 3*, Anrold, G. Grimmett and D. Stirzaker (2001) *Probability and random processes*, 3rd ed., Oxford University Press, D. Williams (2001) *Weighing the Odds*, Cambridge University Press, S. Jewson, and A. Brix with C. Ziehmman (2005) *Weather Derivative Valuation*, Cambridge University Press, D B Percival and A T Walden (2000) *Wavelet Methods for Time Series Analysis*, Cambridge University Press である。

最初の講義でいくつかの参考文献を持参しながら、どのように講義を進めて行くかを定めることにする。修士課程設置の「数理統計学特論」と併設である。

国際経済学特殊研究 (国際経済政策) (秋学期)

教授 和 気 洋 子

授業科目の内容 :

1. 現代社会において、財・サービスの国際貿易の拡大と金融・資本市場の国際化の進展、そして企業経営の一層のグローバル化を通じて、各国間の国際的な相互依存関係はこれまで以上に高まっている。こうしたなかでわれわれの眼前には、各国経済間のボーダー分析、経済政策運営、ビジネスの競争と協調のロジック、そして地球環境問題など多くのグローバルイシューが、問われるべき課題として次から次へと現れている。本講は、これらの今日的な問題意識を基礎にして、とくに「貿易・直接投資・地球環境問題」をめぐる論点をさまざまな視点から整理し、いわば新しい国際経済政策論の枠組みのなかでより自由で活発な議論が行われることが目的である。

2. 授業内容および方法については、受講者の専門レベルなどに応じて、具体的に決めるつもりであるが、とくに地球環境問題に関連する資料など、とりあえず議論をすすめる上で必要と思われる基礎的な参考資料・文献については、その都度、講義のなかで紹介する予定である。

これに並行して、受講者による自主的な論文解題を積極的に取り入れていきたいと考えている。

国際経済学特殊演習 (応用国際貿易)

(経商連携 Global COE 科目) (春学期) (秋学期)

教授 遠 藤 正 寛

授業科目の内容 :

国際貿易に関するセミナーである。テキストや論文を用いて、理論と実証の双方から国際貿易への理解を深める。

国際経済学特殊合同演習 (経商連携 Global COE 科目)

(春学期) (秋学期)

教授 和 気 洋 子

授業科目の内容 :

国際経済学、金融論、計量経済学各分野の合同演習として設置する。この演習に参加することにより、自分の専攻分野はもちろんのこと、他の分野でも現在、何が問題となっており、これに対しどのような分析手法がとられているかを理解できるよう努める。報告は授業担当者を含め、授業参加者、および塾内外のゲスト・スピーカーにより行う。テーマは経済分析であれば、一切問わない。

産業史・経営史特殊研究 (比較小売業史) (春学期)

教授 平 野 隆

授業科目の内容 :

18 世紀後半から 20 世紀後半までの時期を対象として、欧米および日本における小売業の発展と消費社会の変容の関係について比較史の視点から検討する。授業は、関連文献の輪読および履修者の調査報告によってすすめる。

産業史・経営史特殊研究 (技術教育史) (秋学期)

名誉教授 吉 田 正 樹

授業科目の内容 :

技術移転の受け皿となるべき人材育成の視点から、明治期の近代技術者の育成過程の検討をおこなう。受講生は工学、医学、農学などから一分野を選び、その教育制度の確立過程をレポートしながら、教育を受けた者の出自、動機さらに教育制度の確立を急いだ政府の役割などについて議論していくことになる。

産業史・経営史特殊研究 (経商連携 Global COE 科目) (秋学期)

教授 牛 島 利 明

経済学部 教授 杉 山 伸 也

経済学部 教授 古 田 和 子

経済学部 教授 柳 沢 遊

経済学部 准教授 神 田 さやこ

授業科目の内容 :

経済史を専攻する院生を主な対象とする共同セミナーである。今年度は、日本およびアジア諸地域における市場の質の問題、および市場を支える諸制度を歴史的パースペクティブのなかで検討することを主たるテーマとし、基本的な研究文献を体系的にとりあげ、報告と討論を行う。

成績評価は、授業での報告や討論への参加などを考慮に入れて、総合的に判断する。

産業史・経営史特殊演習（産業史関連博士論文作成指導）
（春学期）（秋学期）

教授 工藤 教和

授業科目の内容：

博士論文作成に向けての個人指導と、履修者と相談して選んだ関連文献の批判的な検討を行なう。分野は18世紀以降の産業史・経済史が中心となる。

産業史・経営史特殊演習（春学期）

教授 平野 隆

授業科目の内容：

産業史・経営史を専攻する学生を対象として、博士論文作成の個別指導および関連文献・資料の検討を行う。

【09】商学専攻
【95】経営学・会計学専攻

経営学特殊研究（組織のマネジメント）（秋学期）

教授 今口 忠政

授業科目の内容：

現代企業は事業の選択と集中を通して、コアコンピタンスを強化すると同時に、新たな事業創造に向けて、イノベティブな組織の取り組みを増大させている。

講義では、再成長のための戦略、組織変革のマネジメント、組織能力の再構築によるケイパビリティの強化などのマネジメント活動に焦点をあて、関連する書物や論文を輪読しながら、討議を通じて理解を深めるような授業にしたい。

修士の講義の後を受けて、関連する文献、資料を輪読する。

経営学特殊研究（企業環境の変化と経営組織原理の転換）
（春学期）

名誉教授 植竹 晃久

授業科目の内容：

今日の企業環境の変化にともなって生じてきている企業経営上の課題について、内外の基本文献や論文を取り上げ、輪読と討論形式で検討していく。

経営学特殊研究（企業評価）（春学期）

教授 岡本 大輔

授業科目の内容：

近年、脳の働きをコンピュータ上で実現するニューラルネットワークの研究がマネジメントの世界でも注目され始めている。企業評価の分野でもさまざまな研究が進められている。本講義では企業評価におけるニューラル

ネットワークの適用問題を検討する。授業は関連文献の輪読を予定している。

経営学特殊研究（組織と戦略に関する新制度派と経済心理学の統合研究）（春学期）

教授 菊澤 研宗

授業科目の内容：

O. Williamson の取引コスト理論、M. Jensen のエージェンシー理論、H. Demsetz や O. Hart の所有権理論など新制度派経済学と D. Kahneman, A. Tversky, R. Thaler によって展開された行動経済学、心理経済学、心理会計論の理論的統合可能性について、より進んだ理論研究を行う。（詳細については、参加者と相談の上、決定する。）

経営学特殊研究（現代科学理論と経営経済学）（秋学期）

教授 榊原 研互

授業科目の内容：

経営学の方法論的諸問題について考察する。詳細については初回の授業で説明する。

経営学特殊研究（組織文化）（秋学期）

教授 佐藤 和

授業科目の内容：

組織文化とは、あるグループに共有されている価値観や行動パターンの事である。そしてこれはグローバル化、情報化の進む現代企業経営を考える上で、欠かすことのできない論点となっている。組織文化論は、経営学と社会学、心理学等との学際領域の研究分野であり、日本型経営論、比較経営的な視点や CSR、倫理をはじめとした国や社会の文化との関係、あるいは戦略、組織、管理、制度やシステムをはじめとした経営の諸要素との関連等、非常に広い問題領域が考えられる。

そのため授業は参加者の報告と討論という形ですすめるが、輪読する論文等については受講者の希望に沿う形で考えたい。なお、「経営学特殊演習」の時間も利用するので、参加者は両方の授業に参加して欲しい。

経営学特殊研究（組織と進化・ゲーム理論の観点から）
（春学期）

教授 渡部 直樹

授業科目の内容：

当授業では、組織に対する経済学的分析を進化の観点から検討する。特にゲームの理論の中でも囚人のジレンマ・ゲーム、繰り返しゲーム、進化ゲームに着目し、これらがどのように組織の進化、制度の進化の説明するのかを明らかにする。さらに Nelson や Winter による Evolutionary Economics や Langlois 等の Capability 論、ならびに Milgrom and Roberts 等のスーパーモジュラーゲームの進展がいかに

なる影響を与えているかを解明する。

授業の進め方は、授業の参加者による報告と討論が中心になる。成績評価もこの点を勘案して行いたい。

経営学特殊演習（組織のマネジメント）（春学期）（秋学期）

教授 今口 忠政

授業科目の内容：

演習科目であるので、組織のマネジメントを中心としながら、博士論文のテーマと関係させて関連する論文の輪読、発表、調査・分析を混ぜ合わせた授業を行う。

最終的に博士論文を完成させるために必要とされる理論枠組みの研究、実証研究を行う。

経営学特殊演習（企業評価）（春学期）（秋学期）

教授 岡本 大輔

授業科目の内容：

本演習では参加者の論文作成のための発表と討論を行なう。具体的な指導方法については参加者と相談のうえ、決定する予定である。

経営学特殊演習（組織と戦略に関する新制度派と経済心理学の応用研究）（春学期）（秋学期）

教授 菊澤 研宗

授業科目の内容：

限定合理性にもとづく多様なアプローチ、例えば O. Williamson の取引コスト理論、M. Jensen のエージェンシー理論、H. Demsetz や O. Hart の所有権理論などの新制度派経済学、D. Kreps のゲーム論、Polinsky の法と経済学、D. Kahneman、A. Tversky、R. Thaler によって展開された行動経済学、経済心理学、心理会計を用いて、どのようにして組織、戦略、コーポレート・ガバナンス問題に応用した論文が展開できるのか、それについて指導する。（詳細については、参加者と相談の上、決定する。）

経営学特殊演習（春学期）（秋学期）

教授 榊原 研互

授業科目の内容：

経営学の方法論的諸問題について輪読、討論を行う。詳細については履修者との相談の上決定する。

経営学特殊演習（組織文化）（春学期）（秋学期）

教授 佐藤 和

授業科目の内容：

本演習では博士論文作成のための指導を行うので、詳細については履修者と相談して決めたい。

経営学特殊演習（組織の経済学の基礎）（春学期）

教授 渡部 直樹

授業科目の内容：

当授業では、組織の経済学の基礎概念について、吟味を加えたい。特にこのアプローチにおける種々の概念、例えば、限られた合理性、情報の非対称性、方法論的個人主義といったものに焦点を当ててみる。

授業は各自の報告と全員での討論が中心になる。成績評価もこれに関してなされる。

また、演習という性格から、その内容の具体的な詳細は、参加者と相談して決めて行きたい。

経営学特殊演習（組織の経済学の基礎）（秋学期）

教授 渡部 直樹

授業科目の内容：

当授業では、新制度派経済学の基礎概念について、吟味を加えたい。特にこのアプローチにおける制度概念について焦点を当ててみる。制度とはなにか、組織と市場は対立するような概念なのか、といった点を中心に討論を加えてみたい。

授業は演習形式のため、各人の報告が中心になる。

また、演習という性格から、その内容の具体的な詳細は、参加者と相談して決めて行きたい。

経営学特殊合同演習（秋学期）

教授 渡部 直樹

教授 今口 忠政

授業科目の内容：

この演習は、基本的には、博士課程在籍者の論文作成指導をより適切なものにするためのものであり、個々の指導教授のみならず、多くの教員も参加して合同で論文発表の討論に参加する形式をとる。また、ここでは、学生の論文発表のみならず、教員、時には外部からの講師も参加して、それぞれの研究成果を報告し、学生とともに討論を行う機会を提供するものである。

なお単位付与は、平常の討論状況や論文発表による。

会計学特殊研究（実現概念）（春学期）（秋学期）

名誉教授 笠井 昭次

授業科目の内容：

現代会計は、制度的には時価評価が組み込まれているが、しかし、その理論的根拠は、けっして明らかになっていない。そのことは、時価評価差額としての保有損益の計上根拠が明らかになっていないことと深く結び付いている。そこで、本講義では、実現概念の問題を取り上げることとしたい。

会計学特殊研究（会計思考の拡張）（春学期）（秋学期）

教授 黒川 行治

授業科目の内容：

- I. ①会計・監査に関する基礎概念を検討する。
②会計と法、経済との関連にも着目し、会計学の思考範囲の拡張を試みる。
- II. テキストにそって、輪読を行う。毎回1～2章の予定。
報告者は、担当章の準備のため、予習が必要である。

会計学特殊研究（サービスレベルアグリーメント（SLA））（春学期）（秋学期）

教授 園田 智昭

授業科目の内容：

近年、多くのシェアードサービスセンター（企業の本社部門を集約化した組織）では、サービスレベルアグリーメント（SLA）の導入が検討されている。SLAは、業務を委託するときに委託先と交わす一種の契約書で、価格だけでなく保証される業務品質なども記載される。本講義では、SLAについて主に英文の文献を用いて検討する。

会計学特殊研究（会計ないし監査の基礎理論ないし歴史）（春学期）（秋学期）

教授 友岡 賛

授業科目の内容：

会計ないし監査にかかわる基本的な論点について参加者全員でもってとつおいつしたい。

会計学特殊研究（管理会計）（春学期）（秋学期）

教授 横田 絵理

授業科目の内容：

マネジメント・コントロールに焦点をあて、理論的、実証的な研究を行う。
基本的なテキスト・論文の精読を通じ、理論的基盤を形成する。また、事例から、マネジメント・コントロールの実証的意義を検討する。

会計学特殊演習（会計の理論と実務）（春学期）（秋学期）

教授 伊藤 眞

授業科目の内容：

博士論文の指導を行う。
毎回、一人から論文の中間報告をしてもらい、参加者で議論し、相互に理解を深める。論文の輪読も行い、議論し探求する。登録前に担当教員とコンタクトすること。

会計学特殊演習（非営利組織体の会計）（春学期）（秋学期）

教授 黒川 行治

授業科目の内容：

- I. ①非営利会計に関する基礎概念を検討する。

②非営利組織体の業績評価手法について検討する。

- II. テキストにそって、輪読を行う。毎回1～2章の予定。
報告者は、担当章の準備のため、予習が必要である。

会計学特殊演習（財務会計論（国際会計論））（春学期）（秋学期）

教授（大正製薬チェアシップ基金） 坂本 道美

授業科目の内容：

博士論文の作成指導を行う。研究の中間報告に基づきディスカッションを行う。

会計学特殊演習（管理会計論）（春学期）（秋学期）

教授 園田 智昭

授業科目の内容：

博士論文を作成するための指導をします。

会計学特殊演習（会計ないし監査の基礎理論ないし歴史）（春学期）（秋学期）

教授 友岡 賛

授業科目の内容：

論文の作成を目的として、研究報告にもとづくディスカッションをおこなう。

会計学特殊演習（管理会計）（春学期）（秋学期）

教授 横田 絵理

授業科目の内容：

博士論文に向けた指導を基本とする。各学生の研究上の関心、これまでの研究成果の理論的意義を再確認しながら、理論研究、実証研究、分析などの報告とそれに基づいた議論を行う。

会計学特殊合同演習（経商連携 Global COE 科目）（春学期）（秋学期）

教授 園田 智昭

教授 横田 絵理

准教授 吉田 栄介

授業科目の内容：

本講義では、慶應義塾大学に所属する研究者に加えて、商学研究科出身の他大学の研究者も加わって、管理会計を専攻する学生に対して、多方面から論文作成や学会報告の準備などに対する指導を行う。

また、経商連携 Global COE 科目とすることで、同プロジェクトで経営会計班が実施するパネル調査の設問作成・実施・検討・報告などを行う。

産業関係論特殊研究（社会保障論）（春学期）（秋学期）

教授 権 丈 善 一

授業科目の内容：

博士論文の作成に向けて履修者の研究報告を行う。

産業関係論特殊研究（産業社会研究Ⅰ（理論編））（春学期）

名誉教授 三 浦 雄 二

授業科目の内容：

「産業社会特論」（産業社会学Ⅰ（理論編））の延長線上に置かれる。理論的考察を行なうが、受講生が当該領域にそれなりに踏み込んでいることを前提にしている。

産業関係論特殊研究（産業社会研究Ⅱ（実態編））（秋学期）

名誉教授 三 浦 雄 二

授業科目の内容：

「産業社会特論」（産業社会学Ⅱ（実態編））の延長線上に置かれる。受講生は、ある程度、当該領域についての具体的テーマを持っていることが望まれる。

産業関係論特殊研究（人的資源管理）（春学期）（秋学期）

教授 八 代 充 史

授業科目の内容：

詳細は、履修希望者と相談の上決定する。

産業関係論特殊演習（社会保障論）（春学期）（秋学期）

教授 権 丈 善 一

授業科目の内容：

論文の作成に向けて履修者の研究報告を行う。

産業関係論特殊演習（人的資源管理）（春学期）（秋学期）

教授 八 代 充 史

授業科目の内容：

博士論文を執筆するために必要な指導を行う。

産業関係論特殊演習（経商連携 Global COE 科目）

（春学期）（秋学期）

教授 清 家 篤

授業科目の内容：

労働市場分析の論文指導を行います。具体的には研究報告およびそれに対する討論のかたちで授業を進めます。

産業関係論特殊合同演習（春学期）（秋学期）

教授 八 代 充 史

授業科目の内容：

研究科および学部のスタッフ、学内外の研究者、実務家、並びに大学院生による研究報告と討議を行う。

諸 研 究 所 設 置 講 座

教 職 課 程 セ ン タ ー

国 際 セ ン タ ー

ア ー ト ・ セ ン タ ー

教 職 課 程 セ ン タ ー

中学あるいは高校の教員免許状を取得しようとする場合、教職課程を履修することになりますが、学生諸君は教職課程センターにおいて、教職課程登録の手続きをしなければなりません。教員免許状取得を志す学生は、学事日程表の「教職課程ガイダンス」に必ず出席してください。その際教職課程の履修案内等を配布します。

※ 学事日程表の「教職課程ガイダンス」および「教育実習事前指導」以外に、教員免許状を取得するためには諸ガイダンスや説明があり本人が必ず出席しなければなりません。「教職課程履修案内」には、日程その他について詳しく記載されていますから必ず読んでください。

また、ガイダンス日程・場所・時間・教職諸行事等については、西校舎中央入口右側手前の「教職課程掲示板」の掲示にも常時注意してください。

慶應義塾大学国際センター 在外研修プログラム

全学部・研究科在籍生を対象に、夏季・春季休業期間中に開催されます。単なる語学研修でなく、講義やディスカッションのほか大学内の寮生活をはじめとする多彩な諸活動を通して様々な異文化交流を体験することで国際性豊かな学生を育成することを目的としており、短期間で集中して国外学習を経験できる貴重な機会になっています。

現地への出発前には事前研修を数回実施します。(事後研修を実施する場合があります。)

新たなプログラムが追加されることもありますので、国際センターホームページを参照してください。

なお、プログラムは、自然災害、戦争、航空機等交通機関にかかわる事故ならびに前記以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する可能性があることをあらかじめご了承ください。

〔問合せ先〕 三田国際センター

URL: <http://www.ic.keio.ac.jp/index.html> 「海外に関心のある塾生へ」の「短期プログラム」

詳細や変更は、随時ホームページ等で発表します。春季講座の詳細は10月ごろホームページで発表します。

〔夏季講座ガイダンス〕 4月2日(木) SFC Ω11 番教室 16:30~18:00 4月6日(月) 三田 526 番教室 10:45~12:15
4月4日(土) 矢上 12-211 番教室 12:00~13:00 4月6日(月) 日吉 33 番教室 16:30~18:00

〔夏季講座応募について〕(すべて予定)

- (1) オンラインレジストレーション期限 4月12日(日)
- (2) 募集期間 4月13日(月), 14日(火)
- (3) 一次合格発表 4月22日(水)
- (4) 面接審査 4月25日(土)
- (5) 選考結果発表 5月1日(金)

〔単位について〕

各講座の単位は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは、各学部・研究科によって異なりますので各自確認してください。ただし、春季講座は次年度春学期設置科目として認定のため、参加時に最終学年の場合は対象外となります。

① ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座

ケンブリッジ大学教員による6つの講義の中から3つを自由に選択する方式のため、自分の専攻分野の学習を深めるだけでなく、知識の幅を広げることができます。

〔現地研修期間〕2009年8月3日(月)~9月2日(水)(予定)

〔研修内容〕講義(午前)、ケンブリッジ大生(TA)をまじえてのディスカッション(午後)。エッセイ作成(週末)。

〔開講予定科目〕(予定)

English Literature, British Art, Ancient Greece and Western Civilization, Astronomy: Unveiling the Universe, The Science of Chaos, Evolution and Behavior.

〔単位数〕4単位

〔募集人数〕60名

② ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

ウィリアム・アンド・メアリー大学は1693年創立の州立大学で、教育・研究で高い評価を得ています。両校の学生が混在する小グループで日米文化をめぐるトピックを研究します。

〔現地研修期間〕2009年7月29日(水)~8月13日(木)(予定)

〔研修内容〕ダイアログクラス、ウィリアム・アンド・メアリー大生をまじえてのグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーションなど。

〔単位数〕4単位

〔募集人数〕40名

③ ワシントン大学夏季講座

シアトルの豊かな自然を活かしたフィールドトリップを織り込みながら「環境」を多面的な視点から学びます。この講座にはAPRU(環太平洋大学協会)に加盟している海外大学からも数名の学生が参加する予定です。

〔現地研修期間〕2009年8月3日(月)~8月22日(土)(予定)

〔研修内容〕講義/ワークショップ、ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーション、体験宿泊旅行

〔単位数〕4単位

〔募集人数〕30名

④ オックスフォード大学リンカーンコレッジ夏季講座

ディベート、演劇のワークショップなどを織り込みながら、イギリスの歴史・政治・文化を学びます、また、800年に亘り英国エリートを輩出してきたオックスフォード教育を体験できます。

〔現地研修期間〕2009年8月21日（金）～9月5日（土）（予定）

〔研修内容〕講義、ディベート、ディスカッション、ワークショップ、観劇など

〔単位数〕4単位

〔募集人数〕20名

⑤ パリ政治学院春季講座

拡大するEUの政治・経済・社会・文化の諸問題、EU対諸外国との国際関係等、ヨーロッパをめぐる様々なテーマを学びます。フランス語の研修もあり、2カ国語を同時に磨く機会となります。講義はすべて英語で行われます。

〔現地研修 2008年度参考〕2009年2月16日～2009年3月13日

〔講義内容 2008年度参考〕共通ブロック1つと、選択ブロックの中から2つの計3ブロックを履修。

共通ブロック

“Europe: what are we talking about?”

選択ブロック

“Economics of the Euro area”

“Europe and its external relations”

“Migration and identities”

〔単位数〕4単位

〔募集人数〕定員：20名

⑥ 延世大学春季講座

政治・経済・社会・文化についての講義、韓国語の授業や延世大学学生との交流、慶州へのツアー、テコンドー教室などがあり、韓国を全般的に理解することができます。講義はすべて英語で行われます。

〔現地研修 2008年度参考〕2009年2月9日～2009年2月21日

〔講義内容 2008年度参考〕

- 1 Japan-Korea Relationship: Current Issues and Prospects
- 2 Contemporary Korean Pop Culture and the Cultural Wave of "Hallyu"
- 3 Environmental Protection and the Role of NGOs in Korea
- 4 North-South Korean Relations: Challenges and Opportunities
- 5 Political Economy of Korean Development

〔単位数〕2単位

〔募集人数〕20名（学部生対象）

国際センター設置講座

国際研究講座ならびに日本研究講座受講希望者へ

国際センターでは、外国および日本の文化や社会、国際関係を理解するための英語による講座を開講しています。本年度国際研究講座で取扱う国／地域は、アジア・オセアニア、北米・南米、ヨーロッパからアフリカにおよぶほか、国際社会、異文化理解をうながす講座もあります。一方日本研究講座では、社会、経済、ビジネス、政治をはじめ歴史、文学、芸術、思想・宗教など幅広い側面から日本を探求します。

海外からの外国人留学生と共に英語で学ぶ授業としてユニークなものであり、学問を通しての国際交流の場として日本人学生の積極的な参加を歓迎します。

なお、本講座の履修単位の取扱いは各学部・研究科により異なりますので、所属する学部・研究科の履修案内に従ってください。

1. 対象 大学学部生、大学院生、別科生および特別短期留学生（原則として学部の新入生を除く）

2. 単位 各科目 2 単位
(なお、医学部・医学研究科および法務研究科ではすべての授業科目が履修の対象となりません)

3. 手続方法

履修申告をしてください。国際センターに出向く必要はありません。

学部・大学院が設置主体の科目については、学部・大学院の登録番号を使用してください。

所属する学部・研究科で履修対象とならない場合は、三田、日吉の国際センターで相談してください。

4. 受講料 無料

5. 掲示 休講などの連絡事項は、三田の国際センター掲示板および以下の WEBSITE の掲示板に掲示されます。

6. WEBSITE

この講義要綱には、各科目の概要（Course Description）しか掲載していません。「テキスト」「参考書」「授業の計画」「担当教員から履修者へのコメント」「成績評価方法」等については以下の WEBSITE を参照してください。

<http://www.ic.keio.ac.jp/iccourse/index.html>

2009-2010 Keio University International Center: International Studies Courses (2009年度 慶應義塾大学国際センター国際研究講座)

(*)This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students. (**のついた科目は学部生履修不可)
Unless otherwise indicated, classes are offered by the International Center. (特に記載がないものは国際センター設置科目)

Field	Semester	Day	Slot	Course Title	Lecturer	Course Title(Japanese)	Lecturer(Japanese)	Offered by
	Spring	Fri	5	CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY	Farrar, Gracia	現代中国社会	ファーラー, グラシア	
	Fall	Thu	3	SPECIAL STUDY OF INTERNATIONAL RELATIONS IN THE EAST ASIA 2	Soeya, Yoshihide	東アジアの国際関係特殊研究 II	森谷 芳秀	F(Law)
Area Study: Asia, Oceania	Spring	Fri	1	SPECIAL COLLOQUIUM ON INTERNATIONAL RELATIONS(*)	Yamamoto, Nobuto	国際政治論特殊研究(*)	山本 健人	GS(Law)
	Spring	Wed	4	DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE	Kurasawa, Aiko	開発と社会変容	倉沢 愛子	
	Fall	Mon	4	WORLD OF SOUTHEAST ASIA	Nonura, Toru	東南アジア世界の諸相	野村 亨	
	Spring	Wed	4	CONSTRUCTING INDIA	Williams, Mukesh	インドをソウゾウする	ウィリアムス, ムケーシュ	
	Fall	Thu	5	INDIA TODAY	Nishimura, Yuko	現代インド事情	西村 祐子	
	Spring	Thu	4	INDIAN MUSIC	Hoffman, T.M.	体系等としてのインド音楽	ホッフマン, T-M	
	Fall	Wed	4	LISTENING TO ASIA	Hoffman, T.M.	アジアの音楽	ホッフマン, T-M	
	Spring	Wed	5	AUSTRALIA AND THE ASIA-PACIFIC REGION	Ackland, Michael	オーストラリアとアジア太平洋地域	ア克蘭ド, マイケル	
	Spring	Mon	4	AREA STUDIES (THE UNITED STATES)	Okuda, Akiyo	地域文化論(アメリカ)	奥田 暎代	
	Area Study: North America, South America	Fall	Wed	4	AMERICAN STUDIES	Williams, Mukesh	アメリカ研究, アメリカの歴史, 文化と外交政策	ウィリアムス, ムケーシュ
Area Study: Europe, Russia	Fall	Tue	5	CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE	Yellowlees, James	カナダという国とカナダの国際的な役割	イエローリース, ジェームズ	
	Spring	Tue	5	LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS	Antolinez, Mario	世界政治におけるラテンアメリカ	アントリネス, マリオ	
	Fall	Thu	5	PROJECT 2: SEMINAR ON EUROPEAN INTEGRATION (*)	Tanaka, Toshiro	プロジェクトII-欧州統合(*)	田中 俊郎	GS(Law)
	Fall	Thu	5	EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS	Hayashi, Hideki	EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS	林 秀敏	F(Economics)
	Spring	Fri	4	AFRICAN ISSUES: THE MEANING OF MODERNITY AND CRISES IN AFRICA	Kondo, Hidetoshi	アフリカン イシューズ: アフリカにおける近代と危機の意味	近藤 英後	
	Fall	Tue	4	BUILDING THE GLOBAL VILLAGE	Freedman, David	グローバルヴィレッジ構築に向けて	フリードマン, デビッド	
	Spring	Fri	3	COMPREHENSIVE STUDIES OF INTERNATIONAL RELATIONS	Abe, Tadahiro	国際関係概論	安部 忠宏	
	Fall	Thu	3	CONTEMPORARY GLOBAL ISSUES AND THE ROLE OF THE UNITED NATIONS	Malik, Rabinder	現代の国際問題と国連の役割	マリク, ラビンダー	
	Fall	Fri	4	INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION	Goto, Kazumi	国際開発協力論	後藤 一美	
	Global Community	Fall	Wed	3	LAW AND DEVELOPMENT	Matsuo, Hiroshi	開発法学	松尾 弘
Fall		Wed	5	THIRD WORLD DEVELOPMENT AND THE POOR	Bockmann, David	第三世界の開発と貧困	ボックマン, デイヴ	
Spring		Fri	3	INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW	Hosotani, Akiko	国際人権法	細谷 明子	
Spring		Thu	3	INTRODUCTION TO PRINT JOURNALISM	Holley, David	プリントジャーナリズム入門	ホーリー, デイヴィッド	
Fall		Thu	4	COMMUNISM'S COLLAPSE	Holley, David	共産主義の崩壊	ホーリー, デイヴィッド	
Spring		Wed	2	SPECIAL LECTURE OF ETHICS 3B(*)	Ertl, Wolfgang	倫理学特殊講義III B(*)	エアトル, ヴォルフガング	GS(Letters)
Fall		Wed	2	SPECIAL LECTURE OF ETHICS 4B(*)	Ertl, Wolfgang	倫理学特殊講義IV B(*)	エアトル, ヴォルフガング	GS(Letters)
Fall		Tue	2	ADVANCED STUDY OF FINANCE(*)	Fukao, Mitsuhiro	金融特論(*)	深尾 光洋	GS(Business&Commerce)
Spring		Thu	2	INTERNATIONAL ECONOMY(*)	Kashiwagi, Shigeo	国際経済(*)	柏木 茂雄	GS(Business&Commerce)
Fall		Wed	3	ADVANCED STUDIES OF INTERNATIONAL RELATIONS(*)	Kashiwagi, Shigeo	国際関係特論(*)	柏木 茂雄	GS(Business&Commerce)
Culture, Cross-cultural Understanding	Spring	Mon	5	LITERATURE AS HISTORY	Chandra, Elizabeth	歴史としての文学	チャンドラ, エリザベス	
	Fall	Mon	5	VISIONS OF THE PAST	Ainge, Michael W.	比較映画論	エインジ, マイケル	
	Spring	Wed	5	CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY	Yokokawa, Mariko	文化-文化適応とアイデンティティ	横川 真理子	
	Fall	Wed	5	DISCOVERING CULTURE THROUGH OBSERVATION	Yokokawa, Mariko	文化観察による発見と理解	横川 真理子	

(*)This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students. (※)のついた科目は学部生履修不可
 Unless otherwise indicated, classes are offered by the International Center. (特に記載がないものは国際センター設置科目)

Field	Semester	Day	Slot	Course Title	Lecturer	Course Title(Japanese)	Lecture(Japanese)	Offered by
Culture, Cross-cultural Understanding	Spring	Tue	4	CULTURE AND THE UNCONSCIOUS	Shaules, Joseph	異文化と自己理解	ショールズ, ジョセフ	
	Fall	Tue	3	LEARNING FROM LIFE ABROAD	Shaules, Joseph	海外生活から学ぶ	ショールズ, ジョセフ	
Science	Spring	Mon	5	HUMAN ENGINEERING	Waniek, Jacqueline	人間工学	ワニエク, ヤクリーン	
	Fall	Mon	5	HUMAN RESOURCE MANAGEMENT FROM A PSYCHOLOGICAL PERSPECTIVE	Waniek, Jacqueline	心理学的観点から見る人材管理	ワニエク, ヤクリーン	

2009-2010 Keio University International Center: Japanese Studies Courses (2009年度 慶應義塾大学国際センター日本研究講座)

(*)This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students. (※のついた科目は学部生履修不可)
Unless otherwise indicated, classes are offered by the International Center. (特に記載がないものは国際センター設置科目)

Field	Semester	Day	Slot	Course Title	Lecturer	Course Title(Japanese)	Lecturer(Japanese)	Offered by
	Spring	Mon	5	LANGUAGE BEYOND GRAMMAR	Kim, Angela	日本語の話ことばと書外の意味	キム, アンジェラ	
	Spring	Wed	4	TWENTIETH-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION	Raeiside, James M.	20世紀の日本と欧米の小説	レイサイド, ジェイムス	
	Spring	Wed	3	JOURNEY THROUGH THE FLOATING WORLD	Armour, Andrew	浮世と道行き	アーマー, アンドルー	
	Fall	Wed	3	JAPANESE LITERATURE	Armour, Andrew	日本の文学	アーマー, アンドルー	
Culture	Fall	Mon	3	INTRODUCTION TO MODERN JAPANESE ARTS AND VISUAL CULTURE	Murai, Noriko	日本の近現代美術	村井 剛子	
	Spring	Tue	4	INTRODUCTION TO JAPANESE ART HISTORY	Shirahara, Yukiko	日本美術史入門	白原 由紀子	
	Fall	Thu	6	ARTS/ART WORKSHOP THROUGH CROSS-CULTURAL EXPERIENCE	Hishiyama, Yuko	アートワークショップ/日本のアートと文化	藪山 裕子	
	Spring	Mon	4	JAPANESE CINEMA	Ainge, Michael W.	日本映画入門	エインジ, マイケル	
	Spring	Thu	3	GEISHA	Graham, Fiona	「芸者」	グラハム, フiona	
	Fall	Tue	2	SCIENCE, TECHNOLOGY AND CULTURE (*)	Inoue, Kyoko	科学技術文化特論 (*)	井上 京子	GS(Science&Technology) Note: YAGAMI Campus
Thought, Religion	Spring	Fri	4	JAPANESE BUDDHISM AND SOCIAL SUFFERING	Watts, Jonathan	日本仏教と現代社会	ワッツ, ジョナサン	
	Fall	Mon	5	SEMINAR (Seminar in Intellectual History)	Sakamoto, Tatsuya	演習 (権澤論吉田学問のすすめ)を讀む	坂本 達哉	F(Economics)
History	Fall	Tue	5	JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA	Iikura, Akira	政策決定, 歴史的記憶, 人種から見る明治期日本外交	飯倉 暁	
	Fall	Mon	4	MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD	Ota, Akiko	近代日本の対外交流史	太田 昭子	
	Spring	Tue	3	JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION	Kinmonth, Earl H.	英国と米国のマスコミに描かれた日本	キンモンズ, アール	
	Fall	Tue	3	A SOCIAL HISTORY OF POST-WAR JAPAN	Kinmonth, Earl H.	戦後日本の社会史	キンモンズ, アール	
	Fall	Fri	4	POPULAR MUSIC AND THE CULTURAL HISTORY OF POSTWAR JAPAN	Dorsey, James	日本の戦後史とポピュラーミュージック	ドーシー, ジェームズ	
Society	Spring	Thu	5	IN SEARCH OF NEW CIVIC SOCIETIES	Bockmann, David	新市民社会論	ボックマン, デイヴ	
	Fall	Tue	4	MULTIETHNIC JAPAN	Kashiwazaki, Chikako	多民族社会としての日本	柏崎 千佳子	
	Fall	Fri	5	THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE	Notter, David	家族の近代	ノッター, デビッド	
	Spring	Mon	3	INTERCULTURAL COMMUNICATION 1	Tezuka, Chizuko	異文化コミュニケーション1	手塚 千鶴子	
	Fall	Mon	3	INTERCULTURAL COMMUNICATION 2	Tezuka, Chizuko	異文化コミュニケーション2	手塚 千鶴子	
	Spring	Thu	4	JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (1)	Tezuka, Chizuko	日本人の心理学(1)	手塚 千鶴子	
	Fall	Thu	4	JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (2)	Tezuka, Chizuko	日本人の心理学(2)	手塚 千鶴子	
Politics	Spring	Fri	5	INTRODUCTION TO POLITICS IN JAPAN	Aoki, Hiroko	日本政治論	青木 裕子	
	Fall	Thu	5	JAPANESE FOREIGN POLICY	Nobori, Amiko	日本の対外政策	昇 亜美子	
	Fall	Thu	2	JAPANESE ECONOMY	Kashiwagi, Shigeo	ジャパニーズ・エコノミー	柏木 茂雄	GS(Business&Commerce)
Economy, Business	Spring	Mon	5	FOREIGN COMPANIES IN JAPAN	Harris, Graham	日本における外資系企業	ハリス, グレアム	F(Business&Commerce)
	Spring	Thu	5	MANAGEMENT IN JAPAN	Haghian, Parissa	日本のビジネスマネジメント	ハギリアン, パリッサ	
	Fall	Thu	3	INTERNATIONAL COMPARISON OF MANAGEMENT SYSTEMS	Yoshida, Fumikazu	国際経営比較	吉田 文一	
	Fall	Fri	3	JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS	Umezui, Mitsuhiro	日本の経営	梅津 光弘	
Economy, Business	Spring	Fri	3	LEADING CREATIVE BUSINESS IN JAPAN	Tobin, Robert	日本の最先端創造的ビジネス	トビン, ロバート	
	Fall	Fri	3	ARTISANRY IN JAPAN'S SMALL BUSINESS	Tobin, Robert	日本の中小企業における職人芸	トビン, ロバート	
Law	Fall	Fri	5	INTRODUCTION TO JAPANESE LAW	Kobayashi, Satsuo	日本法の制度と変遷	小林 節	

国際研究講座 (INTERNATIONAL STUDIES)

CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY

(Spring)

現代中国社会

Farrer, Gracia

ファーラー, グラシア

Lecturer, International Center

国際センター講師

Course Description:

This course surveys the post-1978 Chinese society, focusing on social issues under the market reform and conditions of increasingly globalized economy. China's transition to a market-oriented society has effected fundamental changes in the lives of its citizens. Topics include regional economic disparities, changing patterns of employment and unemployment, gender inequality, and both internal and international migration. We will ask: How are women and men faring differently in China's new labor market and workplaces? Are rural peasants and the emerging underclass of urban laid-off workers being left behind by market transition? How are minorities faring in China's transition? How does the emerging digital divide play into the dichotomies of east-west and urban-rural in China? What is the plight of millions of "floaters" migrating into China's cities, with minimal legal rights and protections? How has the one-child policy affected women, children, and society in China? The objectives of the course are 1) to offer exposure to a broad overview of social issues in contemporary China, and 2) to familiarize students with available resources for learning about Chinese society. The class will combine lectures, academic readings, narrative accounts, films, and discussions.

SPECIAL STUDY OF INTERNATIONAL RELATIONS IN THE EAST ASIA 2

(Fall)

東アジアの国際関係特殊研究II

Soeya, Yoshihide

添谷 芳秀

Professor, Faculty of Law

法学部教授

Course Description:

This course is offered primarily as an introductory course for the "Three-Campus Comparative East Asian Studies Program," a collaborative program among the Underwood International College of Yonsei University, the Faculty of Social Sciences of the University of Hong Kong, and the International Center of Keio University.

The aim of the course is to give a general overview to the postwar history of international relations in East Asia as well as to more recent post-Cold War developments therein, including Japan's role and external relations in the region. It begins with an overview of the postwar evolution of East Asian politics and security, and proceeds to the discussions of U.S.-China-Japan relations after the Cold War, followed by the examination of the roles of the three countries represented by the three-campus program, i.e., China, Korea and Japan.

The course is thus divided into three parts. In **Part 1 and Part 2**, students are expected to read assigned articles for each week (30-50 pages in English) in order to familiarize themselves with the major issues and themes of postwar and post-Cold War international relations in East Asia. For these parts, **the enrolled students other than those in the three-campus program** are required to present a list of questions for discussion based on the assigned readings, both in writing (one page) and orally (5 minutes), at least once during the course.

Then, we will move on to **Part 3**, where **the students of the three-campus program** will take the role of leading the discussions relevant to the roles of their respective countries in contemporary East Asia.

DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE

(Spring)

開発と社会変容

Kurasawa, Aiko

倉沢 愛子

Professor, Faculty of Economics

経済学部教授

Sub Title:

Effect of Development Policy and Social Change at Grass-roots Community in Indonesia

Course Description:

I will describe social changes brought by rapid and heavy development policy, taking a case of Indonesia. My analysis is based on field research in two sites (one urban and another rural) where I have been watching since 1996. I will focus on changes on such aspects as human relations within the community, flow of information and changes in communication mode, religious piety, life-style etc. I will show you video which I recorded at the research sites.

Through this course first of all I want you to get clear image on people's life in a relatively "unknown" world, and so doing, to reconsider such questions as what is "development" and what is "prosperity. Does economic development really bring you prosperity and happiness ?

Critical analysis and evaluation are most welcome.

WORLD OF SOUTHEAST ASIA

(Fall)

東南アジア世界の諸相

Nomura, Toru

野村 亨

Professor, Faculty of Policy Management

総合政策学部教授

Sub Title:

Understanding Contemporary & Historical Aspects

Course Description:

In this class, students are exposed to contemporary as well as historical aspect of Southeast Asia. The information acquired in this lecture will surely be quite useful for those who want to be engaged in business in this fast-developing region.

Sub Title:

Indian Identities and Japanese Policies

Course Description:

In August 2007, the Japanese prime minister Shinzo Abe, visited India as part of an emerging policy of building a bilateral relationship between India and Japan. He gave a speech outlining his concepts entitled, "Futatsu no umi no majiwari."

(<http://www.mofa.go.jp/region/asia-paci/pmv0708/speech-2.html>) The speech was replete with Indian cultural references as the title of speech came from a 17th century book *Confluence of the Two Seas* by a Mughal prince and a "history" of Japan-India contacts over the centuries. Some commentators saw the speech as a "paradigm shift" in Japan's foreign policy with South Asia. (<http://japanfocus.org/products/details/2514>) As part of this visit and policy, Japan became an official partner in the Delhi-Mumbai Industrial Corridor Project (DMIC) agreeing to finance 30 billion USD of the project. (http://commerce.nic.in/PressRelease/pressrelease_detail.asp?id=2090)

Yet there is a wide gap between public policy and public knowledge, particularly as it relates to the multi-ethnic nature of Indian histories and societies. To bridge this gap, there is a need within Japanese academic context, to focus on the multiplicity of identities that have emerged in India since the last century and their impact on the contemporary political world, especially Japan. This course will use an interdisciplinary approach to explore the varieties of India's past, the development of Indian identities through literature and language, and how all of this goes to form fragments of a nation and its multiplicities, rather than a "grand" unified narrative. Beginning with an examination of the histories of an Indian past, the course will proceed through lectures by representatives of the India Embassy, Indian multinational companies, Keio University and Sophia University faculties and the Japanese Foreign Service to develop a more comprehensive perspective of India and the historical and cultural connections that inform Japan's policies today.

The class will be conducted in English and reading and writing will be primarily in English.

Grades are also based on attendance classroom participation.

INDIA TODAY

(Fall)

現代インド事情

Nishimura, Yuko

西村 祐子

Lecturer, International Center (Professor, Komazawa University)

国際センター講師 (駒澤大学教授)

Sub Title:

An Introduction to Social and Cultural Studies of Post-Modern India

Course Description:

This course is aimed at describing India through the 'the middle class', studying the post-colonial socio-cultural history and current problems/burning issues of Indian society. In this course, participants will learn where India's new middle class is at, how globalization influences Indian people (including the diasporas). We will study how caste, class, kinship and gender are inter-related. We will also study the cultural difference between the North, the South, and the West and the East. The emergence of Indian civic sector such as NGOs and grassroots organizations will be discussed and we will study the collaborative efforts between the local government and the grassroots civic organizations. We will also discuss how increasing earning power of women is changing the social relationships. Students are encouraged to study issues from cross-cultural perspective. Essay writing and discussion will focus on understanding such issues as the modernity in Asia, the subalterns (marginalized communities), development and untouchability. Handouts are to be distributed as essential reading materials, and some internet websites are to be suggested for reading. Guest speakers will be invited from time to time.

INDIAN MUSIC

(Spring)

体系学としてのインド音楽

Hoffman, T. M.

ホッフマン, T. M.

Lecturer, International Center (Director, Indo - Japanese Music Exchange Association)

国際センター講師 (日印音楽交流会会長)

Sub Title:

Systematics, Mathematics, Linguistics and Poetics in Indian Music: Practical and theoretical studies in creative expression

数学・言語学・詩学・音楽学をむすぶ理論と実践

Course Description:

While Western music studies train individuals to follow a written script (notation) in a group situation featuring harmony, in Indian classical music the student is trained to improvise based on principles of melody and rhythm. This resembles the process of speech in language, where information and ideas are given form in verbal communication through spontaneous combination of phonetics and grammar. Proficiency in speech can also be nurtured through applying the time-tested theories and practices of Indian music. This is best achieved through the enjoyable study and practice of rhythm, melody and text in vocal music. This course will examine structural features of Indian music and apply them in experiencing the process of improvisation. Systematic exercises in rhythm and melody will introduce sophisticated concepts of time and space. Indian vocal music compositions will present language in relation to melody and emotion. Exercises for group, pair and individual will be introduced, and participants will be encouraged and assisted in composing and improvising upon their own creations. This course will promote understanding of the world of creative arts in general.

No prior experience in music or performing arts is required.

LISTENING TO ASIA

(Fall)

アジアの音楽

Hoffman, T. M.

ホッフマン, T. M.

Lecturer, International Center (Director, Indo - Japanese Music Exchange Association)

国際センター講師 (日印音楽交流会会長)

Sub Title:

Sounds Divine and Mundane in Nature, Language and Music

音楽・言葉・自然の音の構成・神性・魅力

Course Description:

We will become familiar with the sound culture of Asia, focusing on the various natural environments, languages and musics in the region with a view to discovering both distinctions and universalities that may also aid us in understanding other disciplines and regions. From their origins in classical India, Greece and China and evolution in other places and times, we will trace influences of sound in health, religion, society, politics, and material worlds of traditional and contemporary culture. Examining principles and examples of instruments, rhythm, melody, improvisation and composition, we will approach music as both art and science, and discuss its interface with mathematics and linguistics. We will try to be aware of cultural and economic development, regional identity and globalization, and gender and other factors facing the makers and consumers of sound culture, and recognize East-West and North-South exchanges that have shaped our respective musical and linguistic identities.

We will begin with a survey of the nature of sound and its use as a means of communication and expression, then travel through the sound cultures of Asia with the aid of audio-visual materials, live music demonstrations, and whatever other resources are available. Students will find opportunities for active participation, and to share their perceptions and experiences in class.

AUSTRALIA AND THE ASIA-PACIFIC REGION

(Spring)

オーストラリアとアジア太平洋地域

Ackland, Michael

アクランド, マイケル

Lecturer, International Center (Guest Professor, Center for Pacific and American Studies, University of Tokyo / Professor, Monash University)

国際センター講師 (東京大学アメリカ太平洋地域研究センター客員教授, モナッシュ大学教授)

Sub Title:

Records of a changing relationship in short fiction and film

Course Description:

This course introduces students to changing Australian attitudes to our common region, and to relevant, recent influential theories of racial and national interaction such as 'Orientalism'. It begins by examining notions of white supremacy and their origins, investigates the impact of successive waves of Asian immigration on Australian society, the development and eclipse of the White Australia policy, Australia's fluctuating attempts to engage with its region, and the growth of internal criticism of racist and paternalistic attitudes, as presented in a variety of short fiction and film. The first part of the course will trace these issues in the period up to, and including the First World War, the latter part will focus in particular on post-war Australia-Japan relations.

AREA STUDIES (THE UNITED STATES)

(Spring)

地域文化論 (アメリカ)

Okuda, Akiyo

奥田 暁代

Professor, Faculty of Law

法学部教授

Sub Title:

Multicultural History of the United States

Course Description:

One in three Americans is now a member of a minority group. The heated national debate on how government should respond to illegal immigration reveals the country's anxiety about the changing face of America. Yet the United States has always been multiracial/multicultural and indeed shaped by the presence of diverse groups. The objective of this course is to promote the student's understanding of American history and culture by exploring the diverse experiences of these "minorities" in the United States. The approach is primarily historical and assumes that the culture we describe as American derives its special characteristics from the presence of multiracial/ multicultural Americans. Emphasis will be placed on contemporary public issues as well as on historical events. We will examine specifically the continuities and changes in the lives of Native Americans, African Americans, Japanese Americans, and Mexican Americans, and see how their experiences relate to the history of the United States. By means of discussion, lectures, reading, writing, and class presentation, this course will provide new insights and perspectives into American history and culture.

AMERICAN STUDIES

(Fall)

アメリカ研究: アメリカの歴史・文化と外交政策

Williams, Mukesh K.

ウィリアムス, ムケーシュ

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

American History, Culture and Foreign Policy

Course Description:

Rationale: After the collapse of the Soviet Union in 1991 the United States emerged as the most important nation in the world. Every nation has some kind of relationship with the United States, which is either profitable or unprofitable. No nation can ignore the United States or fail to understand its history, culture and foreign policy. Most nations therefore include American Studies as a part of their academic, bureaucratic and administrative orientation. Since the nineteenth century nation states especially America have tried to define key words and ideas relating to freedom, welfare, civil

rights, sovereignty, representation, democracy and religion to create a composite intellectual and political culture. The American Studies Program will introduce students to the integrated disciplinary study of American history, culture and foreign policy and help them to understand how Americans and non-Americans think about America. The students will get an opportunity to:

1. acquire presentation and negotiation skills
2. learn new concepts, methods and vocabulary
3. understand stereotypes of knowledge, reason/critical thinking, culture, gender and politics (bias, manipulation, prejudice, discrimination and hegemony)
4. synthesize diverse opinions and perspectives from within and outside America
5. develop skills to write/think purposefully and strategically
6. acquire the habit to pursue knowledge independently and scientifically

CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE

(Fall)

カナダという国とカナダの国際的な役割

Yellowlees, James

Lecturer, International Center (Director-Japan, Canadian Education Alliance)

イエローリーズ, ジェームズ

国際センター講師 (カナダ教育連盟日本代表)

Sub Title:

Canada's Vast Potential

Course Description:

We will learn about the various key aspects of Canada as a nation, including the history, economy, society and international role of Canada. It is an interactive class so participants will be expected to contribute each class.

LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS

(Spring)

世界政治におけるラテンアメリカ

Antolinez, Mario

Lecturer, International Center

アントリネス, マリオ

国際センター講師

Course Description:

The countries of Latin America and the Caribbean form a vast and complex part of the Western Hemisphere. Although the strategic geopolitical relevance of the region has been recognized, Latin American values and attitudes regarding politics, business and life in general remain profoundly misunderstood, if not totally unknown by many. Not surprisingly, what people think they know about the region is based on unfair stereotypes and generalizations generated by some dramatic event covered by the world media.

Thus, the main objective of this course is to foster a greater understanding of the region's realities. The course is designed as a multidisciplinary study focusing on Latin American politics, economics and foreign policy, and it is divided in two parts. Part I deals with the main features of Latin America as a region, while Part II consists mainly of a country-by-country approach.

EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS

(Fall)

Hayashi, Hideki

Lecturer, Faculty of Economics (Global Strategist, Mizuho Financial Group/Shinko Securities Co., Ltd.)

林 秀毅

経済学部講師 (みずほフィナンシャルグループ・新光証券グローバルストラテジスト)

Course Description:

This course is offered in English. The goal is to broaden and deepen students' knowledge in EU-Japan relations, mainly on the economic aspects, as well as on the political and social aspects.

Whole lecture is divided into two parts: in part1, each lecture will be based on different chapters of Gilson(2000) and in part2, the national economy of EU countries and its relations with Japan will be discussed. Related statistics and case studies are also introduced in both parts.

In each lecture, Powerpoint will be used for exposition.

As it is expected to be a small class composed of Japanese and non-Japanese students, active questions and comments by students are welcome.

Students are supposed to submit a report on one of the questions based on each lecture and submit it at the beginning of the next lecture.

AFRICAN ISSUES : THE MEANING OF MODERNITY AND CRISES IN AFRICA

(Spring)

アフリカン イシューズ：アフリカにおける近代と危機の意味

Kondo, Hidetoshi

Lecturer, International Center (Associate Professor, Kansai Gaidai University)

近藤 英俊

国際センター講師 (関西外国語大学准教授)

Sub Title:

Social and Cultural Aspects of AIDS Epidemic in Africa

Course Description:

Children, who are emaciated with protruding bellies and fly-infested faces, are crying for food, or worse, already motionless in their mothers' arms. For many, such a shocking scene is typically associated with Africa. This popular imagery has its origin in mass media that are often sensationalistic as to African coverage. The truth is that Africa is the continent of wonderfully rich and diverse cultures, where people live their vibrant everyday life. Yet, from this, it does not immediately follow that Africa is a trouble-free region. Just as Japan and other industrial countries have many social problems, Africa does have critical issues to be pursued.

This course is intended to explore some of the major problems that Africa is currently facing. This year we will focus on the issues of HIV and AIDS in Africa. Using wide range of academic disciplines, we will explore the social and cultural aspects of African AIDS epidemic. Thus, the topics we deal with include: (1) history of HIV and AIDS in Africa, (2) popular conceptions and therapy management of AIDS, (3) AIDS epidemic in the context of urbanization and social mobility, (4) AIDS and gender relations, (5) AIDS and children, (6) The role of the state, international organizations and NGO, (7) AIDS and pharmaceutical industry.

Sub Title:

Sub-Saharan Africa

Course Description:

Focus: Japanese Policies in Southern Africa: Trans-National Issues/ Individual Response

In an increasingly connected world, there are no specialty areas. Integration into a growing global economy encompasses both economic and trans-economic issues. At the Davos World Economic Forum 2001, the term “culturnomics” was coined to define how various intellectual disciplines needed to be combined in order to gain a more complete view of the issues facing a “global” economy. This course will focus on a particular area, Sub-Saharan Africa and the various issues: political, cultural, economic and environmental, that the people of this region face as they look to integrate into the “global village.” Speakers from the various embassies of the region will be invited to speak on the theme of global economy, culture and change and the impact of Japanese policies within the region.

As the countries of sub-Saharan Africa attempt to formulate policies in areas such as HIV care and education, sustainable development, conflict management and the growth of open societies, these policies connect with similar policies and issues around the world. Japan has made aid for African nations and support for the New Partnership for Africa's Development a major part of its international policy. In 2004, Japanese Prime Minister Junichiro Koizumi pledged \$1 billion for education and health care in Africa making Japan one of the major aid donors for Africa. Next year at the fourth Tokyo International Conference on African Development these efforts will face a renewed evaluation.

(<http://www.jica.go.jp/english/resources/field/2007/aug30.html>) Yet, there is an “information gap” between the policies and intents of the Japanese government and business community and the response and knowledge of the Japanese citizen as to the recent history, the varied cultures and issues in Africa today, and the goals and effects of the Japanese policies themselves.

This is course will be an introduction for students interested in issues affecting global governance and Africa. Through a series of lectures offered by ambassadors and embassy officials from the S.A.D.C. group, (<http://www.mbendi.co.za/orsadc.htm>) students will explore the variety of links diplomatic, educational, economic and cultural that tie Japan to contemporary Africa, and the possibilities of active response by the individual Japanese consumer.

Each student will be expected to join a study group that will focus one of the African countries represented by the speakers. The groups will research and present on the ties and programs between their “study” country and Japan on the focus issue of the course. This year, the focus will be on the individual consumer as an active participant in development policies.

COMPREHENSIVE STUDIES OF INTERNATIONAL RELATIONS

(Spring)

国際関係概論

Abe, Tadahihiro

安部 忠宏

Ambassador extraordinary and plenipotentiary, Ministry of Foreign Affairs of Japan

外務省特命全権大使

Sub Title:

Multi-Faceted International Relations

Course Description:

At the outset of the 21st century, people expected that they could enjoy real peace and prosperity in the new century as a member of the international community where the global structure turned into the post-Cold-War regime from the Cold-War regime. The reality, however, was to the contrary as we see various incidents taking place in the international arena: From terrorist attacks to the alleged nuclear arms development in the supposedly war-less world with the prevailing Non Proliferation Treaty and so forth. Prospect of economic development in one country is more hinged upon politically maneuverable supply of energy and natural resources in the international markets, etc.

People are living in the age of uncertainty. It is becoming more important for us, under these circumstances, to understand international relations in a more comprehensive manner. We need to think about our future based on an accurate knowledge on the reality of the multi faceted international relations built upon various kinds of causality among various factors such as economy, politics and security considerations.

So, in my lecture, I would like to focus on major playing factors and mechanisms supporting the multi-layer international/regional relations, such as ASEAN, APEC, NATO, OSCE, NPT, WTO as well as Japanese bilateral relations with the US, North-Eastern/South-Eastern Asian countries and European countries. I also intend to touch on horizontal issues such as International Economy/Trade, Human Security, Development Assistance, etc. Eventual target of my lecture is to explore the possibility of working together with students a kind of global mechanism which may help us to materialize real peace and stability for the people in the future generation.

CONTEMPORARY GLOBAL ISSUES AND THE ROLE OF THE UNITED NATIONS

(Fall)

現代の国際問題と国連の役割

Malik, Rabinder N.

マリク, ラビンダー

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

Multi-disciplinary approach to the study of major global issues that confront the world community in the 21st century, and the role of the United Nations and International Organizations in addressing these issues.

Course Description:

A critical review and assessment will be undertaken of the origin and present condition of the major global issues and problems and how these are being addressed by the national governments and the international community. Special attention will be paid to the role of the United Nations and other International Organizations as a tool of global governance in addressing these issues. We shall also explore ideas and concepts of peace and security, human rights, coexistence among peoples of different cultures and other critical global issues such as poverty eradication, environmental degradation, aging society and gender issues.

The objective of the course, which is suitable for students from all faculties, is to enable the students to gain a better understanding of the world around them and about the role of the United Nations so that they are able to evaluate current and future international trends and formulate their own well thought-out opinions based on facts. It should help enhance the trans-cultural literacy and competence and enable them to interact with confidence with peoples of different cultural backgrounds and orientations in an interdependent and interlinked world.

Group discussions will be an important part of the course, which will be conducted in English.

The course is open to students from all faculties.

INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION

(Fall)

国際開発協力論

Goto, Kazumi

後藤 一美

Lecturer, International Center (Professor, Hosei University)

国際センター講師 (法政大学教授)

Course Description:

The twenty-first century is an era of global governance. The realm of contemporary international relations has seen the commencement of new political attempts to gradually reform existing systems in complex governance with different players and multi-tiered networks for the creation of a convivial global society, in which the common values of peace, prosperity and stability are pluralistically shared, overcoming the risks of asymmetry and tit-for-tat sequences. In this new political initiative towards an unknown world, there are some critical challenges, including the pursuit of public goals in the international community and of effective measures to reach them. In the new world of international development cooperation, aid donors and aid recipients have different dreams yet lie in the same bed with a dynamic and tense relationship. By reviewing frontline efforts in international development cooperation with a view towards sustainable growth and poverty reduction from the perspective of cooperation policies, this course is intended to provide some basic foundations and applications for the management of international development cooperation with students that are interested in the main issues of poverty and development in the developing regions, and that wish to be involved in the world of international development cooperation in the future. Several guest speakers shall be invited from international aid agencies.

LAW AND DEVELOPMENT

(Fall)

開発法学

Matsuo, Hiroshi

松尾 弘

Professor, Law School

法務研究科教授

Sub Title:

Institutional Reform through Law to Get the Good Governance

Course Description:

This course aims to provide with the basic knowledge of Law and Development from a practical as well as a theoretical aspect. Development can be regarded as a comprehensive institutional reform of a society, in which a number of informal rules have been binding and restricting the attitudes and behaviors of its members. However, it is sometimes difficult for societies to reform their institutions for themselves when they are heavily burdened by the conventions maintained by the strict regimes. As the international societies have been more and more globalizing, it is becoming duties for each society to assist others to undertake their institutional reform.

Although it would be hard for us to expect the international societies to establish the world government, we should be able to keep our security by getting the global governance, which consists of the good governance of each state in the world. Good governance may be obtained through the institutional reform led by the good government, markets and firms, and civil societies, which are mutually assisted and assisting in their own functions. Law may be a strong measure to facilitate such an institutional reform to get good governance, and the legal assistance activities among nations should promote the global governance, which might be the only path to the international security and peace. In this context, we should explore the indicators of governance and the way by which developed countries can cooperate with developing countries to accomplish their legal reform that actually leads to development.

THIRD WORLD DEVELOPMENT AND THE POOR

(Fall)

第三世界の開発と貧困

Bockmann, Dave

ボックマン, デイヴ

Lecturer, International Center (Consultant)

国際センター講師 (コンサルタント)

Sub Title:

Lessons from the Developing World

Course Description:

This course is designed to increase the student's awareness of third-world communities and the challenges they face in overcoming poverty. The U.N. Millennium Development Goals promise to end poverty by 2015. The goals are lofty and costly, but will they actually help the poor? Based on the lecturer's 30 years of community development experience in the U.S. and India, another approach, that of small locally based projects bringing real and immediate change to real people's lives will be examined. In this course, students will learn about:

- **Self Help Groups (SHGs):** How SHGs are organized and why. How the SHGs improve the financial stability of families and enhance the status of women.
- **Micro-Finance:** How small loans, often times of less than \$100, can move whole families out of poverty.
- **Appropriate Technology:** How, when the poor themselves are involved, appropriate technologies can be successfully conceived, designed and implemented by developing communities. Learn some of the skills required to help implement actual projects.
- **Culture and social-economic** factors that must be taken into account in planning and implementing development projects.
- **Hands-On Case-Study:** Working in small groups, the students will identify real 'problems' facing poor people in the developing world and propose a plan to solve the problem.

Sub Title:

Issues, procedures, and advocacy strategies regarding the promotion and protection of human rights worldwide

Course Description:

Students will study five different aspects of international human rights including:

(1) Procedures for implementing international human rights involving state reporting to treaty bodies; individual complaints; thematic, country rapporteurs, and other U.N. emergency procedures for dealing with gross violations; humanitarian intervention; criminal prosecution and procedures for compensating victims; diplomatic intervention; state v. state complaints; litigation in domestic courts; the work of nongovernmental organizations; etc.

(2) Major international institutions including the human rights treaty bodies; the U.N. Commission on Human Rights and its Sub-Commission on the Promotion and Protection of Human Rights; the U.N. Security Council; international criminal tribunals; the International Criminal Court; U.N. field operations authorized by the U.N. Security Council or under the authority of the U.N. High Commissioner for Human Rights; the Inter-American Commission on and Court of Human Rights; the European Court of Human Rights and other parts of the European human rights system; the U.N. High Commissioner for Refugees; and the International Labor Organization

(3) Human rights situations in various countries such as South Africa, Iran, Myanmar, East Timor, Kosovo, Cambodia, former Yugoslavia, the Democratic Republic of Congo, Japan, the United States, Europe, Sudan, Ghana, and India

(4) Substantive human rights problems related to the rights of the child, economic rights, the right to development, torture and other ill-treatment, minority rights, the right to a free and fair election, human rights in armed conflict, crimes against humanity, arbitrary killing, indigenous rights, self-determination, discrimination against women, the rights of refugees, etc.

(5) Learning methods such as advising a client, role-playing, the dialogue methods, drafting, and advocacy in litigation

INTRODUCTION TO PRINT JOURNALISM

(Spring)

プリントジャーナリズム入門

Holley, David

ホーリー, デイヴィッド

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

Reporting on the World Around You

Course Description:

This course will cover the basics of journalistic writing. Students will get practice in writing both in a wire-service style and in the kind of feature approach favored by many newspapers and magazines for longer articles. Students will write articles both as quick in-class exercises and as homework assignments that require interviews. Journalistic ethics will be addressed, as will trends in the media business. The course will help students improve their writing and give them increased confidence in approaching and interviewing strangers.

COMMUNISM'S COLLAPSE

(Fall)

共産主義の崩壊

Holley, David

ホーリー, デイヴィッド

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

States in Transition

Course Description:

This course will examine three models of how political systems can change. South Korea and Taiwan will be viewed as examples of transition from the authoritarianism of several decades ago to today's democracy. Post-1989 Eastern Europe will be studied as an example of Communist states quickly becoming democratic. China and Russia will be examined as cases where Communism has mutated into capitalist authoritarianism with many political features similar to Taiwan and South Korea of the 1970s and 1980s. Particular attention will be paid to the 1980 Kwangju Incident in South Korea, the 1989 Tiananmen Square protests and subsequent crackdown in China, and the role of Mikhail Gorbachev in the collapse of Communism in the Soviet Union and Eastern Europe. Students will consider what can be learned from these transitions of past decades in thinking about possible future paths for China and Russia. What factors might cause China and Russia to follow the same type of path to democracy as South Korea and Taiwan, and what might cause them to develop in other directions?

LITERATURE AS HISTORY

(Spring)

歴史としての文学

Chandra, Elizabeth

チャンドラ, エリザベス

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

The Colonial Experience

Course Description:

This course will consider issues in historiography, particularly the use of fiction as source. Filling in the gaps in the so-called conventional historiography, literary works provide what institutional libraries, judicial/criminal proceedings, church records, civil registry, and state archives fail to capture. They have the capacity to represent the fine curves of the political landscape, the nuances of cultural connotations, the minute features in social relations, and the complexity of human emotions.

The colonial experience is precisely a context that calls for such “sensitive” historical inquiries due to the cultural gap between our Western intellectual tradition and the colonized people’s particular schemes of culture. The fact that most records from the colonial period were produced by and spoke from the point of view of “power” further complicates historical reconstruction of the encounter.

For this course we shall consider novels, short stories and films, and attempt to catch glimpses of the colonial experience as diverse and intimate as the domestic order, racial negotiation, sexual taboos, humor, paranoia, and melancholia.

VISIONS OF THE PAST: REPRESENTING HISTORY ON FILM

(Fall)

比較映画論

Ainge, Michael W.

エインジ, マイケル W.

Associate Professor, Faculty of Economics

経済学部准教授

Course Description:

Films about the past are often dismissed by historians as trifles. In this course, we will consider the conventions of representing history on film, starting with mainstream Hollywood historical drama, and then consider alternatives which have arisen in opposition to the dominant American mode, in various countries around the world. Readings in film criticism and in History will complement the films whose viewing constitutes the main homework for the class. No previous experience in Film Studies is required. Students will be introduced to basic critical and technical language to discuss films, and thus will learn to distinguish between personal taste (“I liked this film,” “I hated it.”) and analytic evaluation (using various intellectual and artistic standards to judge a film). Needless to say, issues related to cultural differences will arise throughout the semester, and no doubt form an important part of class discussions.

CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY

(Spring)

文化・文化適応とアイデンティティ

Yokokawa, Mariko

横川 真理子

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

How communication and understanding are affected by culture

文化がコミュニケーションと相互理解に与える影響

Course Description:

This course examines the impact of cultural values and beliefs, the process of cultural adjustment, the formation of cultural identity, and the relationship between language and culture. Third Culture Kids (Global Nomads) and returnees will be studied along with other topics related to culture, cultural adjustment, and communication across cultures.

In addition to the readings, students will be given opportunities to discuss critical incidents on instances of cultural misunderstanding, do presentation, as well as other projects.

DISCOVERING CULTURE THROUGH OBSERVATION

(Fall)

文化観察による発見と理解

Yokokawa, Mariko

横川 真理子

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

Doing Observational/Ethnographic Studies to Understand Culture

観察研究により文化理解を深める

Course Description:

When one encounters different behaviors and assumptions in a different culture, often the immediate reaction is one of irritation and confusion. “What is wrong with THESE people?”, we ask. Actually, people in a particular society are behaving according to patterns that make sense within the larger framework of their culture. This course is designed to discover those patterns through conducting observational/ethnographic studies on the behavior of people in different settings.

After explaining the concepts of culture and subculture, the methods used in observational studies will be introduced. Students will be given an opportunity to do observational studies on their own or in groups, discovering both behavioral patterns and the cultural patterns that underlie those behavioral patterns.

Students will be asked to come up with tentative behavioral and cultural patterns gleaned from their observations, and present their findings to the class, opening their study to discussion. They will then be asked to go back and reaffirm or modify their observations, which will result in a final report.

Through their own study and those of the others, students are expected to gain a deeper understanding of both the culture they observe and of their own unconscious cultural patterns.

CULTURE AND THE UNCONSCIOUS

(Spring)

異文化と自己理解

Shaules, Joseph

ショールズ, ジョセフ

Lecturer, International Center (Director, Japan Intercultural Institute)

国際センター講師 (異文化教育研究所所長)

Sub Title:

Looking for the hidden roots of deep cultural difference

Course Description:

Culture has two sides, a visible side – food, clothing, architecture – and a hidden side of unconscious beliefs, values and assumptions. In this course we will learn the story of the discovery of hidden culture. We will explore culture’s unconscious influence over us, and see how hidden cultural difference creates conflict in relationships and communication. This will involve learning hidden patterns of cultural difference related to things like:

time, personal space, cooperation, independence, fairness, equality, emotion. Students will discuss their intercultural experiences, share their opinions and give presentations. The ultimate goal of this course is a deeper self-understanding.

LEARNING FROM LIFE ABROAD

(Fall)

海外生活から学ぶ

Shaules, Joseph

ショールズ, ジョセフ

Lecturer, International Center (Director, Japan Intercultural Institute)

国際センター講師 (異文化教育研究所所長)

Sub Title:

Internationalism and the cultural learning process

Course Description:

Traveling, living abroad and dealing with people from other cultures sometimes leads to understanding, tolerance and rich human relations. At other times, it increases stereotypes, creates conflict, causes culture shock and even identity crises. In this course, we will study this process of cultural learning. We will look at the stages that sojourners (travelers, expatriates etc.) go through when adapting to new environments, including how one's view of the world, values, and even identity can change. We will try to understand what it means to be "international" or "bi-cultural". The emphasis will be on the personal cultural learning experience, rather than geopolitical issues. There will strong emphasis on student discussion, student presentations, and students' intercultural experiences.

HUMAN ENGINEERING

(Spring)

人間工学

Waniek, Jacqueline

ワニェク, ヤクリーン

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

Human Factors

Course Description:

The ergonomic design of products, working systems and interfaces focuses on designing a comfortable environment, and aims to prevent damages and accidents. Goal of the course is to provide an overview of the interdisciplinary field ergonomics. Furthermore the course intends to help students to understand what impact ergonomic product design has for our environment and in our everyday life. The course introduces various aspects of ergonomic design such as "Universal Design", "Accessibility" or "Emotional Design", demonstrates methods for the evaluation of products and systems, and discusses future trends. By means of practical examples students will experience the importance of an ergonomic design of products and systems. Discussions will help participants to clarify the goals of ergonomic design, and to understand its potential and its feasibility.

HUMAN RESOURCE MANAGEMENT FROM A PSYCHOLOGICAL PERSPECTIVE

(Fall)

心理学的観点から見る人材管理

Waniek, Jacqueline

ワニェク, ヤクリーン

Lecturer, International Center

国際センター講師

Course Description:

Human Resources are the most valued assets in an organization and a critical success factor in business. Goal of Human Resource Management (HRM) from a Psychological Perspective is to enable employees to contribute to the enterprise productively. This course focuses on HRM from a psychological perspective. The employee is seen as an individual person with own motives, attitudes, emotions and goals that have to be considered in business management. Basic HRM topics such as Leadership, Recruitment, and Training are discussed as well as factors that affect employees' well-being and performance. The course intends to prepare students for their later working life and helps them to understand how to create a working environment that ensures employee well-being and enhances productivity.

国際政治論特殊研究

Yamamoto, Nobuto Professor, Faculty of Law

山本 信人 法学部教授

Sub Title:

Security Issues in Southeast Asia

Course Description:

This seminar offers a comprehensive understanding of Southeast Asia's international relations from the standpoint of non-traditional security. Non-traditional security broadens the scope of security analysis from traditional politico-military affairs to embrace non-traditional security issues like environmental degradation, global circulation, and socio-economic stability. It points out the importance of considering multiple security referents – the state, civil society, individuals, and transnational cooperation. By referring to various case studies, the seminar helps explain how specific issues become framed as matters of national security. The course thus identifies the spectrum of forces that shape security discourse and practice in Southeast Asia.

PROJECT 2: SEMINAR ON EUROPEAN INTEGRATION

(Fall)

プロジェクト科目Ⅱ・欧州統合

Tanaka, Toshiro Professor, Jean Monnet Chair

田中 俊郎 ジャン・モネチェア教授

Course Description:

The European Union strives to establish a new order in Europe. While the EU attempts to deepen its construction through the Maastricht Treaty, the Amsterdam Treaty, the Nice Treaty and the Lisbon Treaty, it has enlarged its scope to South and East, from 15 to 27 member states by January 2007.

This year, the seminar will focus on the enlargement and the deepening of the EU, trying to shed more lights on the historical development, to analyze its problems and outline future perspectives on the subject.

SPECIAL LECTURE OF ETHICS 3B

(Spring)

倫理学特殊講義 III B

Ertl, Wolfgang Associate Professor, Faculty of Letters

エアトル, ヴォルフガング 文学部准教授

Course Description:

In the opinion of many commentators, the spirit of Kant's philosophy is anti-metaphysical, anti-theological and diametrically opposed to a religious point of view. Taking a look into Kant's writings, however, it becomes clear rather quickly that the frequent remarks about God cannot be a mere concession to the feeble minded readers, as Heine and Schopenhauer wanted to make us believe. Rather, for Kant religion is an integral element in the realization of the demands of morality. But in order to be compatible with the autonomy of practical reason, religion itself needs to be subjected to the process of enlightenment and philosophical critique.

This is precisely what Kant is doing in his late work under consideration. As it will turn out he (rather than Hegel) is giving us something like a rational reconstruction of Christianity. This reconstruction provides us with the full picture of Kant's moral theory, which can only be fully understood in the overall framework of his practical philosophy.

In this respect, the following features of his moral theory are of particular interest: 1) its anti-individualistic nature, 2) the reconciliation of a cosmopolitan dimension with the particularity of political entities, 3) the interplay of ethics and law in bringing about perpetual peace, 4) the role of the rationally reconstructed theological virtues in moral, motivation.

We will also take a fresh look at the famous royal reprimand which this work provoked and which forced Kant to promise not to publish anything dealing with religious questions again. Usually, this incident is seen as a close parallel to the cases of Wolff's dismissal from Halle earlier and Fichte's removal from Jena later. As we shall see, though, this standard interpretation is highly questionable.

In the spring term we will look at the first and the second "piece" of the text which deal with the notion of radical evil in human nature – a doctrine which many commentators find rather irritating – and with the doctrine of Christ as the personified idea of the principle of good respectively.

倫理学特殊講義 IVB

Ertl, Wolfgang Associate Professor, Faculty of Letters

エートル, ヴォルフガング 文学部准教授

Course Description:

In the autumn term we turn to pieces three and four. Piece three deals with the role of the ethical community, i.e. the enlightened universal church — encompassing all Christian and possibly also non-Christian creeds — in the realization of the highest good. Piece four consists of an account of the requirements religion must meet in order to be in accordance with critical philosophical principles. This involves rather straightforward claims about which aspects of established religion need urgent reform or even abolishment.

ADVANCED STUDY OF FINANCE

(Fall)

金融特論

Fukao, Mitsuhiro Professor, Faculty of Business and Commerce

深尾 光洋 商学部教授

Course Description:

Corporate Governance and Financial System

The governance structure of limited liability companies that stipulates the relationship among the management, stockholders, creditors, employees, suppliers and customers is important in determining the performance of the economy. Although the OECD countries are generally characterized as market economies, there are considerable differences among these countries in the organizational structure of the economy.

One of the major aims of this course is to understand the institutional differences in corporate-governance structures of companies in major industrial countries including the United States, Japan, Germany, France and the United Kingdom. The differences in the corporate-governance structure have a number of implications for the performance of companies. For example, the cost of capital and the effective use of human resources would be affected by this structure.

In recent years, the deepening international integration of economic activities has heightened awareness of cross-country differences in corporate-governance structure and putting strong pressures for convergence in some aspects of corporate governance systems. The course will also survey these trends.

1. General Concept

Fukao, Mitsuhiro, *Financial Integration, Corporate Governance, and the Performance of Multinational Companies*, Brookings, 1995.

2. Hostile Takeovers

Shleifer, Andrei, and Lawrence H. Summers, "Breach of Trust in Hostile Takeovers," in *Corporate Takeovers: Causes and Consequences*, edited by Alan J. Auerbach, University of Chicago Press, 1988.

Roe, Mark J. "Takeover Politics," in *Deal Decade*, edited by M. Blair, 1993.

3. Elements of Governance

Kaplan, Steven N., "Top Executive Rewards and Firm Performance: A Comparison of Japan and the United States," *JPE*, Vol. 102, No. 3, June 1994.

Christine Pochet, "Corporate Governance and Bankruptcy: a Comparative Study," *Cahier de recherche no. 2002 - 152*, Centre de Recherche en Gestion, IAE de Toulouse.

Naoto Osawa, Kazushige Kamiyama, Koji Nakamura, Tomohiro Noguchi, and Eiji Maeda, "An Examination of Structural Changes in Employment and Wages in Japan," *Bank of Japan Monthly Bulletin*, August 2002.

Black, Bernard, "Creating Strong Stock Market by Protecting Outside Shareholders," remarks at OECD/KDI conference on Corporate Governance in Asia: A Comparative Perspective, Seoul, March 3-5, 1999.

Jolene Dugan, Fahad Kamal, David Morrison, Ali Saribas and Barbara Thomas, *Board Practices/Board Pay 2006 Edition*, Institutional Shareholder Services, 2006.

William C. Powers, Jr., Raymond S. Troubh, and Herbert S. Winokur, Jr., "Report of Investigation by the special investigative committee of the board of directors of Enron corp.," February, 2002.

4. Financial System

Fukao, Mitsuhiro, "Japanese Financial Instability and Weaknesses in the Corporate Governance Structure," *Seoul Journal of Economics*, Vol. 11, No. 4, 1998.

Fukao, Mitsuhiro, "Financial Crisis and the Lost Decade," in *Asian Economic Policy Review*, Vol.2 No.2, Blackwell, 2007, pp. 273-297.

INTERNATIONAL ECONOMY

(Spring)

国際経済

Kashiwagi, Shigeo Professor, Graduate School of Business and Commerce

柏木 茂雄 商学研究科教授

Course Description:

The objective of this course is to discuss and understand how international economic issues are being addressed by policy makers around the world.

The course will take up issues such as those related to global economic situations and various policy issues that have recently arisen in the international context. Students will have the opportunity to study and discuss the challenges imposed on policy makers in the current globalized world. The focus of the discussions will be on issues that are particularly relevant to developing countries and will be discussed from the perspective of policy makers. The class discussions will enable students to familiarize themselves with these issues and to engage in discussions in a more informed and effective manner.

There will be no textbooks. Handouts and/or copies of background material will be distributed from time to time. Students are expected to make presentations on his/her assigned papers and engage in active class discussions.

Issues to be covered include the following (subject to change)

- Introductory discussions
- The world economic outlook
- The global financial crisis
- The global imbalance
- The role of the IMF
- Climate change and economic policies
- Poverty reduction and economic development
- Aid effectiveness
- Foreign direct investment
- The role of effective institutions

This course will be organized as a combination of lectures and seminars, and will be conducted in English. The emphasis of this course will be more on what is happening in the real world and less on theoretical aspects of the issues. There are no pre-requisites for this course, but it would be preferable and advisable for students to have strong interest in and basic knowledge about international economics.

Evaluation will be based on attendance, class participation and presentation of a term paper to be prepared on a relevant topic towards the end of the semester.

ADVANCED STUDIES OF INTERNATIONAL RELATIONS

(Fall)

国際関係特論

Kashiwagi, Shigeo Professor, Graduate School of Business and Commerce

柏木 茂雄 商学研究科教授

Course Description:

The objective of the course is to discuss and understand the policy implications of economic globalization.

The course will provide opportunities for students to examine various aspects of policy issues that have arisen from the increased integration of economies and the emergence of many global issues. Students will review the challenges imposed on policymakers from globalization and explore ways to enhance international cooperation to meet these challenges. Classroom discussions will enable students to follow and understand the discussions that are taking place at various international meetings and to engage in more informed and effective discussions on various issues related to economic globalization. The focus of the discussions will be on issues that are particularly relevant to developing countries and will be discussed from the perspective of policy makers. The emphasis will be more on what is happening in the real world and less on theoretical aspects of the issues.

The course will be organized as a combination of lectures and seminars, and will be conducted in English. There will be no textbooks. Handouts and copies of background material will be distributed from time to time. Students are expected to make presentations on his/her assigned papers and engage in active classroom discussions.

Issues to be covered include the following (subject to change):

- Introductory discussions
- Globalization and macroeconomic policies
- Globalization and fiscal policies
- Financial globalization
- Globalization of labor
- Globalization and trade policies
- Globalization and income inequality
- Policy coherence for development
- Globalization and regional integration
- Global governance

Evaluation will be based on attendance, class participation and presentation of a final report to be prepared on a relevant topic towards the end of the semester.

日本研究講座 (JAPANESE STUDIES)

LANGUAGE BEYOND GRAMMAR

(Spring)

日本語の話しことばと言外の意味

Kim, Angela A-Jeoung

Assistant Professor, Center for Japanese Studies

キム, アジョン

日本語・日本文化教育センター専任講師

Sub Title:

Expressing 'something else' beyond information— markers and functions in spoken Japanese

Course Description:

Mastering the grammar of a particular language does not guarantee a successful communication with a native speaker of that language. This is because language not only functions as a medium through which information can be conveyed, but also as a conduit for the speaker's attitude/emotions. The objective of this course is to encourage a more profound understanding of the functions of language that exist beyond referential meaning, with particular attention given to markers and their uses in Japanese. An understanding of this aspect of language, and the function of particular markers, will lead to a deeper understanding of communication in Japanese in general. This course comprises three main parts: (i) general review of the non-referential function of language; (ii) the case of English briefly reviewing markers such as *you know, I mean, like*; and just and (iii) the case of Japanese which will include markers such as *ne, yo, -janai, datte, maa, nan(i), no*, and *yappari* etc.

TWENTIETH-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION

(Spring)

20世紀の日本と欧米の小説

Raeseide, James

Professor, Faculty of Law

レイサイド, ジェイムス

法学部教授

Sub Title:

Comparative Readings

Course Description:

In these classes we will attempt to understand something of the nature of Japanese fiction writing by comparative close reading of Japanese texts with those by Western (European and American) writers. Evidence of influence and assimilation may be observable from West to East, particularly in the early years of the 20th century, but in all cases we will attempt to identify both what is distinctive, and what the different traditions have in common. By close reading and comparative analysis we should be afforded some useful insights into Japanese prose fiction writing—particularly that of the short story.

Each class will focus on a pair of texts: one by a Japanese and one by an American or European writer. The texts chosen will be relatively short: wherever possible, complete short stories. All texts will be discussed on the basis of their English language translations and the language of discussion will be English. However, the original Japanese texts will also be distributed and native speakers of Japanese are particularly encouraged to use their knowledge of the original language to add to the discussion. Those students with knowledge of European languages other than English are also welcome to use this knowledge in discussion, where appropriate. However, the original versions of texts in languages other than Japanese will not be provided. In any case, it is imperative to the functioning of the class that all participants make time to read the set texts beforehand, and be prepared to talk about them in detail. Only those who have made this effort will be able to participate usefully in the discussion.

JOURNEY THROUGH THE FLOATING WORLD

(Spring)

浮世と道行き

Armour, Andrew

Professor, Faculty of Letters

アーマー, アンドルー

文学部教授

Course Description:

This course focuses on the pre-modern Japanese literature of the Edo period (1600-1867). Marking a contrast with both the war tales of the samurai and the contemplative works of the solitary priests, much of the literature of this period reflects the concerns and tastes of the common townspeople. It was their prosperity and vitality that spurred the growth of printed literature and popular drama, encouraging men like Saikaku, Bashō, Chikamatsu and Akinari. As well as the "floating world" of prose fiction, we shall be covering such topics as haiku poetry and love suicides in the puppet theatre.

JAPANESE LITERATURE

(Fall)

日本の文学

Armour, Andrew

Professor, Faculty of Letters

アーマー, アンドルー

文学部教授

Course Description:

This course is intended to cover the history of Japanese literature from earliest times up to the modern era. Starting with the writing system, we will trace the conspicuous developments in poetry, prose and drama through the Nara, Heian, Kamakura, Muromachi and Edo periods.

Included are such works as the *Manyōshū*, *Genji monogatari*, *Heike monogatari*, *Oku-no-hosomichi* and *Sonezaki shinjū*.

INTRODUCTION TO MODERN JAPANESE ART AND VISUAL CULTURE**(Fall)**

日本の近現代美術

Murai, Noriko

村井 則子

Lecturer, International Center (Assistant Professor, Temple University)

国際センター講師 (テンブル大学専任講師)

Sub Title:

Introduction to Modern Japanese Art and Visual Culture

Course Description:

This course explores the history of Japanese art from the mid-nineteenth century to the present. Visual culture has played a central role in providing modern Japan with a cultural, social, and psychological identity. We will study the significance of modernity and modernism in various media including painting, sculpture, photography, performance and architecture. We will also consider issues related to gender, imperialism, and commodity consumption in the context of visual representation.

INTRODUCTION TO JAPANESE ART HISTORY**(Spring)**

日本史美術入門

Shirahara, Yukiko

白原 由起子

Lecturer, International Center (Chief Curator, Nezu Museum)

国際センター講師 ((財)根津美術館学芸部課長)

Sub Title:

From Ancient to the Medieval Periods

古代—中世

Course Description:

This course explores the history of Japanese art from the mid sixth century to the early seventeenth century. How religious imagery, decorative styles and techniques were introduced from the continent, transformed to be Japanese own? Each class will focus on one of a few artworks, about which the function, iconology, technique and artistic significance will be discussed.

ARTS / ART WORKSHOP THROUGH CROSS - CULTURAL EXPERIENCE**(Fall)**

アートワークショップ／日本のアートと文化

Hishiyama, Yuko

菱山 裕子

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

With a focus on Japanese Art

Course Description:Course Description:

This is a course designed to provide both international and Japanese students who are interested in art from comparative culture or intercultural communication perspectives with student-centered learning experience of Japanese art. Thus students in this course will engage in diverse activities both in and outside of class within this multicultural student body. The activities include workshops, field trips, and research. The goal of this workshop is to give students a firm grounding in cultural, social, historical, and practical aspects of art in contemporary Japan.

Final Project:

After accumulating various experiences in Japan, students make a self-portrait in any media in 2D, 3D or as an installation.

JAPANESE CINEMA**(Spring)**

日本映画入門

Ainge, Michael W.

エインジ, マイケル W.

Associate Professor, Faculty of Economics

経済学部准教授

Course Description:

This is an introductory course that examines Japanese cinema from the perspectives of history, authorship, genre, and film art. Though by no means comprehensive due to the restriction of time, this course will allow students to gain an overview of a century of Japanese film, become familiar with a selection of major directors and film genres, as well as acquire a fundamental critical and technical language to discuss films. They will learn to distinguish between personal taste ("I liked this film," "I hated it") and evaluative judgment (using various intellectual and artistic standards to judge a film). Needless to say, issues related to cultural differences will arise throughout the semester, and no doubt form an important part of class discussions.

GEISHA**(Spring)**

「芸者」

Graham, Fiona

グラハム, フィオナ

Lecturer, International Center

国際センター講師

Course Description:

This course will start with the narrow topic of geisha and spread out from there to consider the topic on a deeper anthropological level: how the West views the East, history, myth and tourism, the changing roles of women, and traditional culture, who decides what is traditional, how and why does this change, what is lost and what retained, and who controls the process?

This class will make use of DVDs and other visual resources and may have a class research trip. Students won't be able to passively rely on a single textbook, but will need to actively participate in collecting their own research materials from books, media, video and internet.

The course lecturer is an actively working geisha in one of Tokyo's geisha districts.

JAPANESE BUDDHISM AND SOCIAL SUFFERING

(Spring)

日本仏教と現代社会

Watts, Jonathan

ワッツ, ジョナサン

Lecturer, International Center (Research Fellow, International Buddhist Exchange Center,
Research Fellow, Jodo Shu Research Institute)

国際センター講師 ((財) 国際仏教交流センター研究員・浄土宗総合研究所研究員)

Sub Title:

Priests and Temples Reviving Human Relationship and Civil Society

僧侶と寺による人間関係と市民社会の再生

Course Description:

This course will look at Buddhism in Japan in a very different way – through the actions of Buddhist priests and followers to confront the real life problems and suffering of people in Japan today. We will look at such issues as: 1) human relationships (alienation, depression, suicide, *hikikomori*, and NEET); 2) development (social and economic gaps, aging society, community breakdown and depopulation of the countryside); 3) the environment and consumption; 4) politics and peace; and 5) gender. The creative solutions some individual Buddhists are developing in response to these problems mark an attempt to revive Japanese Buddhism, which is now primarily associated with funerals and tourism. These efforts are trying to remake the temple as a center of community in an increasingly alienated society.

This course will use a variety of teaching methods from homework readings, games and group processes, in-class videos and guest speakers, and occasional field trips. This course will attempt to be as interactive as possible, so students should be ready to reflect on the issues personally as they experience them as residents of Japan, and to express these reflections not only intellectually but emotionally as well.

SEMINAR (Seminar in Intellectual History)

(Fall)

演習 (福澤諭吉『学問のすすめ』を読む)

Sakamoto, Tatsuya

坂本 達哉

Professor, Faculty of Economics

経済学部教授

Sub Title:

Reading Yukichi Fukuzawa's "Encouragement of Learning"

Course Description:

This course will center on the theme of Keio University's founder Yukichi Fukuzawa (1835-1901), his thought and its legacy to our time. Among his numerous works, both academic and popular, is included "Encouragement of Learning" (『学問のすすめ』), as the single most famous and influential. This course will read this classical text on chapter-by-chapter basis in English translation from a variety of perspectives, historical, philosophical and social. Prospective students will be welcome who are seriously interested in the overall character and the precise details of one of the greatest intellectual leaders of the time. Any prior knowledge of Fukuzawa's life and work will not be required.

This course will also be offered at International Center for international students. I truly hope that the course will present an opportunity for intellectual exchanges between Japanese and non-Japanese students. Official language of this course will be English, but some subsidiary use of Japanese will be allowed.

JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA

(Fall)

政策決定, 歴史的記憶, 人種から見る明治期日本外交

Iikura, Akira

飯倉 章

Lecturer, International Center (Professor, Josai International University)

国際センター講師 (城西国際大学教授)

Sub Title:

Decision-making, historical memory and race

Course Description:

This course aims to examine Japanese diplomacy in the Meiji era from diverse angles and provide students with some new perspectives on the historical events in the period such as the triple intervention, the Anglo-Japanese alliance, and the Russo-Japanese War. Students will gain an understanding of Japanese diplomacy in the Meiji era and learn how to analyze historical events through decision-making historical memory, and the concept of race.

MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD

(Fall)

近代日本の対外交流史

Ohta, Akiko

太田 昭子

Professor, Faculty of Law

法学部教授

Course Description:

The course aims to provide an introductory and comprehensive view of the history of diplomatic and cultural relations between Japan and the World in the latter half of the nineteenth century and the beginning of the twentieth century. A basic knowledge of Japanese history is desirable, but no previous knowledge of this particular subject will be assumed. A small amount of reading will be expected each week.

Students are expected to make a short report on a research project of their own choosing and hand in a term paper of about 3,000 words (at least five pages, A4, double space) in January, and take the final examination.

JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION

(Spring)

英国と米国のマスコミに描かれた日本

Kinmonth, Earl H.

キンモンズ, アール

Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

国際センター講師 (大正大学教授)

Course Description:

This course examines foreign (primarily Anglo-American) views of Japan, both contemporary and historical. Materials used and discussed range from Hollywood films to academic works by Ivy League professors. Knowing the common and often highly distorted images of Japan and the Japanese, both positive and negative, presented in foreign mass media and popular culture is important to both Japanese and foreign students. These images have been and continue to be significant in Japan's diplomatic and economic relations with other countries. Moreover, the mechanisms that distort the foreign view of Japan also work to distort the Japanese view of foreign countries. Teaching students how to recognize distorted images of foreign countries and peoples is a major goal of this course.

A SOCIAL HISTORY OF POST-WAR JAPAN

(Fall)

戦後日本の社会史

Kinmonth, Earl H.

キンモンズ, アール

Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

国際センター講師 (大正大学教授)

Course Description:

More than a half-century has elapsed since the end of the Pacific War. For most university students, this war is part of a distant past and references to prewar and postwar carry no special significance. In contrast, for those old enough to have experienced the Pacific War or its immediate aftermath, the terms prewar and postwar are very evocative and are part of the historical consciousness of many Japanese. This course attempts to answer three basic questions: 1) why is a distinction made between prewar and postwar Japan; 2) how was Japan changed by the Pacific War; 3) what has changed in the fifty-plus years the end of the war. To give students additional perspective on the Japanese experience, the course will make explicit comparisons with Germany and the United Kingdom.

POPULAR MUSIC AND THE CULTURAL HISTORY OF POSTWAR JAPAN

(Fall)

日本の戦後史とポピュラーミュージック

Dorsey, James

ドーシー, ジェームズ

Lecturer, International Center (Associate Professor, Dartmouth College)

国際センター講師 (ダートマス大学准教授)

Course Description:

Crucial issues in Japan's postwar cultural history can be examined through its music:

- shifting social taboos are revealed in the songs banned from the airwaves
- Japan-U.S. tensions are visible in musical adaptations, imitations and subversions
- the values and aspirations of an age are apparent in its choice of musical stars and genres (including sentimental *enka*, breezy "group sounds," political folk and cutesy pre-pubescent "idol" singers)
- attitudes towards race and history come forth in groups singing in blackface, the embrace of hip-hop culture, the treatment of non-Japanese musicians, and the "invasion" of J-Pop throughout Asia
- technological advances and trends in consumer electronics, many of them pioneered by Japanese companies, have altered the world's experience of culture; much can be learned by pondering the cultural significance of karaoke, the walkman, and the digital sound file
- the changing attitudes concerning gender, love, sex and marriage inevitably appear in song

Using theories from the Frankfurt school and more recent work in cultural studies, this course will introduce students to the history of postwar Japan (with special focus on the 1960s and 1970s) as well as coach them in the interpretation of music as a window onto the workings of culture.

IN SEARCH OF NEW CIVIC SOCIETIES

(Spring)

新市民社会論

Bockmann, Dave

ボックマン, デイヴ

Lecturer, International Center (Consultant)

国際センター講師 (コンサルタント)

Sub Title:

How NGOs and NPOs are changing society and the environment

Course Description:

"Civic engagement" refers to the participation of individuals and voluntary organizations (NGOs and NPOs) in the political and the public sectors, including governmental decision-making. "Civic Engagement" and "Civil Society" are sometimes used interchangeably and in this sense, civil society is well established in the U.S., less so in Japan. We will find out why.

In this course, we will examine civic engagement from several perspectives, globally and locally. We will examine civic engagement in the U.S. as well as Asia where the focus will be on Japan, India and China. We will see how the struggles by minorities, women and the poor for human rights alter the relationships of power and how environmental organizations are playing a leading role in the efforts to stop global warming.

MULTIETHNIC JAPAN

多民族社会としての日本

(Fall)

Kashiwazaki, Chikako

柏崎 千佳子

Associate Professor, Faculty of Economics

経済学部准教授

Course Description:

This course introduces students to 'multiethnic Japan'. Although Japanese society is often portrayed as ethnically homogeneous, its members include diverse groups of people such as the Ainu, Okinawans, zainichi Koreans, and various 'newcomer' immigrants. In this course, students will learn about minority groups in Japan and their relations with the majority 'Japanese' population. The goal of this course is to acquire basic knowledge and analytic tools to discuss issues concerning ethnic relations in Japan and elsewhere.

THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE

家族の近代

(Fall)

Notter, David

ノッター, デビット

Associate Professor, Faculty of Economics

経済学部准教授

Course Description:

Over the past 40 years or so, new work in the field of social history combined with new research on the family conducted by social scientists has produced a 'new history of the family'. In this course we will draw on this body of research to examine the institution of the family in historical and comparative perspective. The book we will use as our main text is a sociological study of the family system in postwar Japan. Lectures, by contrast, will focus on the emergence of the 'modern family' and modern family arrangements in nineteenth- and twentieth-century America. Some consideration will also be given to Europe, the emergence of the modern family in Japan, and traditional family arrangements.

INTERCULTURAL COMMUNICATION 1

異文化コミュニケーション1

(Spring)

Tezuka, Chizuko

手塚 千鶴子

Professor, Center for Japanese Studies

日本語・日本文化教育センター教授

Sub Title:

Seen from Japanese communication patterns

Course Description:

This course has three interrelated purposes. The first is to help students learn some essential elements of Japanese psychology and culture, and their implications for communication patterns of Japanese people both among themselves and in intercultural settings. The second is to help students to examine both difficulties/challenges and excitements/joys of intercultural communication by learning key concepts and issues of intercultural communication. The third is to facilitate both Japanese and international students' on-going intercultural communication both by increasing self-awareness of how their respective cultures affect their communication patterns and by arranging them to learn to work together successfully on group projects which will serve as testing grounds for their intercultural communication.

INTERCULTURAL COMMUNICATION 2

異文化コミュニケーション2

(Fall)

Tezuka, Chizuko

手塚 千鶴子

Professor, Center for Japanese Studies

日本語・日本文化教育センター教授

Sub Title:

Identity of Japanese Sojourners

Course Description:

The first purpose is to help students learn how Japanese people have been experiencing exciting as well as confusing encounters with cultures different from their own and how such cross cultural encounters in and outside of Japan have been affecting their sense of identity and communication styles as an individual (and as people) from the times of Japan's First Opening to the world in the late Edo Period up to the present from the three perspectives: history, cultural adjustment, and intercultural communication, utilizing case studies. The second purpose is to help both Japanese and international students who are brought together to Mita campus by the globalization and internationalization to make best use of this class to communicate effectively through discussion and other student-centered activities.

JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN(1)

日本人の心理学 (1)

(Spring)

Tezuka, Chizuko

手塚 千鶴子

Professor, Center for Japanese Studies

日本語・日本文化教育センター教授

Sub Title:

Conflict Management

Course Description:

This course is designed to explore how Japanese manage interpersonal conflict both among themselves as well as in interaction with foreigners, and its implications for Japanese society which is becoming more multicultural in this accelerated globalization age. Though a Western notion of conflict claims that conflict is inevitable yet not necessarily bad, the Japanese society has been described to believe in its selfimage as a conflict-free society and to abhor and avoid interpersonal conflicts as any cost. With this apparent contrast in mind, students will learn characteristics of Japanese conflict management strategies, their cultural and social psychological background, and the challenges for both Japanese and foreigners in trying to creatively

deal with intercultural conflicts. And students will be asked to take some psychological measures related to conflict for self-understanding.

JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (2)

(Fall)

日本人の心理学 (2)

Tezuka, Chizuko

手塚 千鶴子

Professor, Center for Japanese Studies

日本語・日本文化教育センター教授

Sub Title:

'*Amae*' Reconsidered

Course Description:

This course is designed to reconsider comprehensively the concept of '*Amae*' which was first introduced as a key concept for understanding Japanese psychology by Dr. Doi, as the Japanese society itself has undergone a considerable change under the influence of the globalization since then, and because there has been the accumulated theoretical, speculative or empirical research including cross cultural one which shows the existence of *Amae* outside of Japan. Therefore, this course will explore answers to the following questions: 1) is *Amae* still a key concept for understanding Japanese psychology?, 2) how the expression and satisfaction of *Amae* needs is transformed in contemporary Japan, 3) to what extent and in what form *Amae* is found among people across cultures, and 4) what kind of challenges and/or benefits this Japanese concept can give to those people who do not find the exact equivalent in their mother tongues.

INTRODUCTION TO POLITICS IN JAPAN

(Spring)

日本政治論

Aoki, Hiroko

青木 裕子

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

The history of Japanese politics after World War II

Course Description:

The aim of this lecture is to acquire knowledge and thinking ability for problems that beset modern Japanese society by studying history of Japanese politics after WWII and reading newspaper articles on current affairs.

JAPANESE FOREIGN POLICY

(Fall)

日本の対外政策

Nobori, Amiko

昇 亜美子

Lecturer, International Center

国際センター講師

Course Description:

This course is a general introduction to postwar Japanese history with a focus on foreign policy; it also addresses important aspects of Japanese domestic politics as well as cultural issues. It will also deal with international relations of the Asia-Pacific region while offering an overview of Japan's evolving relations with a number of important actors in the region, such as the U.S., China and the ASEAN countries.

Also throughout the course, contemporary issues within the post-Cold War global environment as well as controversial issues within Japan, such as constitutional revision and Yasukuni issue, will be discussed using a historical perspective.

The class will combine lectures, academic readings, films, students' presentations and discussions in order to cover these areas noted above.

JAPANESE ECONOMY

(Fall)

ジャパニーズ・エコノミー

Kashiwagi, Shigeo

柏木 茂雄

Professor, Graduate School of Business and Commerce

商学研究科教授

Course Description:

The objective of this course is to discuss and understand the developments in the Japanese economy and its policies from a global perspective.

The course will provide opportunities for students, especially for those coming from abroad, to examine various policy issues that have arisen in Japan in the last three decades. The focus will be to understand the economic as well as political and social background of the specific economic actions taken during these years. Efforts will be made to enable students to understand the recent economic and political developments in Japan, based on my 34 years of experience with the Japanese government.

FOREIGN COMPANIES IN JAPAN

(Spring)

日本における外資系企業

Harris, Graham

ハリス, グレアム

Lecturer, Faculty of Business and Commerce (President, Harris Consultancy)

商学部講師 (ハリス・コンサルタンシー社長)

Sub Title:

A Success or a Failure?

Understanding the True situation of foreign companies in Japan

Course Description:

This course will explain the role of foreign companies in Japan since the Meiji Restoration, through the "Bubble era" and up to the present day. Students will learn the reasons why foreign companies choose Japan; to what degree they have been successful; and to what extent foreign investment is good for Japan.

The Course which will be conducted in English will be a combination of lectures, discussions, student group presentations; case studies and research assignments.

MANAGEMENT IN JAPAN**(Spring)**

日本のビジネスマネジメント

Haghirian, Parissa

ハギリアン, パリッサ

Lecturer, International Center (Assistant Professor, Sofia University)

国際センター講師 (上智大学専任講師)

Sub Title:

The Kaisha in the 21st Century

Course Description:

The course introduces the characteristics of the Japan as a place of business and the main aspects of Japanese management. The course starts with a theory lecture on culture and its relevance for international management and business communication. After this an overview of the modern Japanese business environment is given. Major points of discussion are the most prominent aspects of Japanese management, such as production management, distribution as well as human resource and knowledge management within Japanese corporations.

The course aims to:

- provide an overview of the modern Japanese business environment
- explain the most important social concepts in Japanese society and their relevance for Japanese management and Japanese business culture
- discuss the most prominent aspects of Japanese management, such as production management, distribution and management activities within a Japanese corporation
- present the latest developments in the Japanese management environment

INTERNATIONAL COMPARISON OF MANAGEMENT SYSTEMS**(Fall)**

国際経営比較

Yoshida, Fumikazu

吉田 文一

Lecturer, International Center (Professor, Sanno University)

国際センター講師 (産業能率大学教授)

Sub Title:

Pros and Cons of Japanese and American Management Systems

Course Description:

This course aims to clarify the differences between the Japanese management system and the American system. Over the last two decades, the appraisal of Japanese management has fallen sharply from a high level during the 1980s, while the evaluation of American management has risen equally sharply. In particular, in the "post-bubble" period in Japan, there is a strong tendency to criticize the domestic management system, and praise American-style management nationwide. This raises a major question: how can the appraisal of a well-established management system change so uncritically in a stable and peaceful society? We will discuss this issue in order to understand the significance of management systems.

Based on this understanding, we examine the current issues that both systems face today.

JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS**(Fall)**

日本の経営

Umezu, Mitsuhiro

梅津 光弘

Associate Professor, Faculty of Business and Commerce

商学部准教授

Course Description:

Goal:

In this course, we will analyse contemporary Japanese society and business from an ethical perspective.

Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized management and globally acceptable norms for future international business. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese Style Management which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable.

Method:

First, I will highlight the historical and theoretical aspects fundamental to analyzing Japanese society and business from an ethical perspective. Then I will assign you to read short cases which describe recent incidents that have caused public controversy both in Japan and elsewhere.

LEADING CREATIVE BUSINESS IN JAPAN**(Spring)**

日本の最先端創造的ビジネス

Tobin, Robert I.

トビン, ロバート

Professor, Faculty of Business and Commerce

商学部教授

Course Description:

This course will provide students with an understanding of the unique challenges of starting and leading creative businesses in Japan. The focus will be on Japan-based businesses in fashion, art, music, food, advertising, and design.

Students will understand what is involved in starting and leading a company in one of these fields. We will examine some of the ways of doing business in Japan that are unique, such as the barriers of language and trade, agent arrangements, cultural aspects of creative businesses, consumer expectations, as well as recent efforts at pan-Asian alliances and the impact of globalization.

An important part of this course will be individual research projects to gain a greater understanding of a particular industry and a career plan that includes elements of starting a creative business.

Students will enhance their communication and leadership skills on group projects with other students.

Course Description:

This course will focus on selected Japanese small businesses that have developed world class products. The focus will be decidedly on low tech businesses with an examination of industries such as sporting goods, stationery goods, pharmaceuticals, and traditional Japanese sweets and cultural products. Among the companies we will examine will be Olfa, Pilot, and Molten.

Students will explore the economic history of Japan, the motivation for entrepreneurs in Japan, consumer expectations, the compelling stories for starting certain types of businesses here, the focus on quality, the relationships between entrepreneurs and the larger trading companies, the challenges of globalization for these companies, and the efforts of revival of selected industries.

An important part of this course will be individual research projects to gain a greater understanding of particular industries and companies.

Students will enhance their communication and leadership skills on group projects with other students.

Course Description:

1. Outline of Japanese Legal System
 - (1) Constitutional Law
 - (2) Civil Law
 - (3) Commercial Law & Corporation Law
 - (4) Security Exchange Law
 - (5) Bank Law
 - (6) Real Estate Law
 - (7) Intellectual Property
 - (8) Civil Procedure
 - (9) Labor Law
 - (10) Criminal Law
 - (11) Criminal Procedure
2. How to associate with Japanese People and Legal Professions on Legal Matters
 - (1) Characteristics of Japanese People
 - (2) Attitude of Japanese Officials and Lawyers
 - ①Administration
 - ②Judges and Public Prosecutors
 - ③Attorneys and Law Firms
 - (3) Clients
 - (4) Taboos
 - (5) Languages

Sub Title:

Science and Technology in Space and Time

Course Description:

This course is intended for students from various backgrounds. The main purpose of the course is to introduce students to the cultural bases that the development of science and technology stands on.

In the first half of each class hour, a topic from the latest Japanese news in science or technology fields will be selected for discussion. Here, the instructor will provide some materials to refer to, but students are encouraged to throw in their ideas, insights, and interpretations of the Japanese cultural context to which the topic is related.

In the second half of each class hour, students will take turns and give presentations on the place science and technology hold in the past, present, and future of their own home countries.

The topics will depend on students' special fields as well as current topics, but will probably include issues such as:

- entertainment business/technology in music; movies; games
- robots
- communication technology: mobile phones; MP3 players; Internet
- environmental problems: ecology; energy
- architecture/industrial design
- economics/politics
- language and culture

アート・センター

アート・センターはこれまでに、身体表現・美術・環境デザイン・音楽・評論にまたがる四つのアート・アーカイヴ、すなわち土方巽、瀧口修造、ノグチ・ルーム、油井正一のアーカイヴを構築してきました。本講座は、その実績をふまえ、また世界のアート・アーカイヴの実践活動を参照しつつ、アート・アーキヴィストの養成およびリカレント的な教育を目的として開設されました。アート・アーキヴィストとは、美術資料の収集・保存・調査・研究・公開・普及を目的とする学芸員の活動にくわえ、対象とする資料の範囲を音楽、演劇、舞踊、身体表現、文学などの芸術領域とし、またデジタル情報化を中心に知的財産、公共財、社会受容の視点から資料の研究と活用を行う専門家です。現代社会は、文化活動を支える創造的なコンテンツ・デザイン、コンテナー・デザインを要請しています。この講座は、そうした求めに対応しうる新しいアーキヴィスト概念を追究し、人材の育成をめざします。

1. 履修上の取り扱い
慶應義塾大学大学院生が対象です。受講資格・条件等はありませんが、履修の取り扱いについて各研究科の履修案内で確認の上、履修申告をしてください。
2. ガイダンス
履修希望者は、4月7日(火) 12:30～13:00(524番教室)に出席してください。秋学期にはガイダンスは行いません。

アート・アーカイヴ特殊講義(春学期) 2単位

アート・センター 准教授(有期) 渡部 葉子
講師 前田 富士男
講師 上崎 千

授業科目の内容:

講義、購読、討論を行う。芸術の諸領域における様々な事象を「アーカイヴ」の水準において扱う本講座の射程には、「アーカイヴ」という知の在り方それ自体への方法論的な関心が含まれている。アーカイヴとは何か。いかにしてアーカイヴは可能となるのか。本講座が標榜する「アート・アーカイヴ」は、アーカイヴとして実現される知のカルトグラフィを芸術学の範疇において捉え、アーカイヴについて思考すること(さらに、アーキヴィストとして思考すること)と、「芸術作品とは何か」という根源的な問いとの接続を図るものである。

テキスト:

ヴァルター・ベンヤミン「エードゥアルト・フックス——蒐集家と歴史家」(1937年)、『ベンヤミン・コレクション2: エッセイの思想』、浅井健二郎編訳(ちくま学芸文庫、1996年)所収。
ミシェル・フーコー『言葉と物——人文科学の考古学』(1966年)、渡辺一民・佐々木明訳(新潮社、1974年)。
ミシェル・フーコー「汚辱に塗れた人々の生」(1977年)、丹生谷貴志訳、『フーコー・コレクション6: 生政治・統治』、小林康夫・松浦寿輝・石田英敬編(ちくま学芸文庫、2006年)所収。
前田富士男「アーカイヴと生成論(Genetics)——『新しさ』と『似ていること』の解説にむけて」、『Booklet 06: ジェネティック・アーカイヴ・エンジン——デジタルの森で踊る土方巽』(慶應義塾大学アート・センター、2000年)所収。
ジョルジュ・ディディ＝ユベルマン『残存するイメージ: アビ・ヴァールブルクによる美術史と幽霊たちの時間』(2002年)、竹内孝宏・水野千依訳(人文書院、2005年)。
上崎千「アーカイヴと表現(a whole list of things)」、『ARTLET』28号(慶應義塾大学アート・センター、2007年9月)所収。
その他、適宜指示、配布する。

参考書:

適宜指示する。

授業の計画:

- ① 基本概念の検討(ミュージアム、ライブラリー、アーカイヴ、造形(美術工芸)資料、音響資料、書写資料ほか)
- ② 芸術資料論(収集・分類・記録・保存・公開、および各プロセスにおける調査の方法、システム論、情報化の手法、データベース概念)
- ③ 制度としてのアーカイヴ論(博物館法・文化財保護法・著作権法関連、IT環境など)
- ④ 価値概念の検証(情動的価値と芸術的価値、文化情報と公共性デザイン)

履修者へのコメント:

履修希望者は、ガイダンスおよび初回の授業には必ず出席すること。アート・アーカイヴ特殊講義演習(秋学期)とあわせて履修するのが望ましい。

成績評価方法:

レポートによる評価ならびに平常点

アート・アーカイヴ特殊講義演習(秋学期) 2単位

アート・センター 准教授(有期) 渡部 葉子
講師 前田 富士男
講師 上崎 千

授業科目の内容:

ケース・スタディ、実習、討論を行う。

テキスト:

適宜指示する。

参考書:

適宜指示する。

授業の計画:

- ① 芸術資料調査(資料の分類、形状、性質の検討、調書作成法、データ化手法)
- ② 研究アーカイヴ特殊資料論(制作関連資料、二次資料の運用、造形系資料・音響系資料・身体表現系資料・言語系資料の分類)
- ③ ケース・スタディ(絵画資料、楽譜資料、書写資料、写真資料、動画像資料、録音資料)
- ④ アート・アーカイヴの設計と構築と運用

履修者へのコメント:

原則として10名程度とする。履修希望者がこれを大きく超える場合には履修者数を制限するので、ガイダンスおよび春学期初回の授業には必ず出席すること。アート・アーカイヴ特殊講義(春学期)とあわせて履修するのが望ましい。

成績評価方法:

レポートによる評価ならびに平常点

関係規程抜粋

商学研究科在籍者に特に関わりの深い規程について抜粋してありますので、履修要項と合わせて参照してください。なお、大学院学則については、入学時に配付する慶應義塾大学大学院学則を参照してください。

〈1 学 位〉

- 1-1 学位規程（抜粋）
- 1-2 学位の授与に関する内規
- 1-3 商学研究科における課程による博士学位の授与要件に関する内規（抜粋）

〈2 奨 学 金〉

- 2-1 大学院奨学規程
- 2-2 小泉信三記念大学院特別奨学金規程
- 2-3 小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則

〈3 授業料減免〉

- 3-1 授業料等減免規程
- 3-2 留学期間中の学費の取り扱いに関する規程
- 3-3 大学院生が私費により留学した場合の学費の取り扱いに関する内規

〈4 そ の 他〉

- 4-1 大学院在学期間延長者取扱い内規
- 4-2 大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学科
その他の学費に関する取扱内規

学位請求論文製本表紙見本

1 学 位

1 - 1 学位規程 (抜粋)

昭和31年2月17日制定
平成20年6月4日改正

(目的)

第1条 本規程は、慶應義塾大学学部学則（大正9年5月5日制定）および慶應義塾大学大学院学則（大正9年5月5日制定）に規定するもののほか、慶應義塾大学が授与する学位について必要な事項を定めることを目的とする。

(学位)

第2条 ① 本大学において授与する学位は次のとおりとする。

1 学 士

文 学 部

人文社会学科

哲学専攻	学士 (哲学)
倫理学専攻	学士 (哲学)
美学美術史学専攻	学士 (美学)
日本史学専攻	学士 (史学)
東洋史学専攻	学士 (史学)
西洋史学専攻	学士 (史学)
民族学考古学専攻	学士 (史学)
国文学専攻	学士 (文学)
中国文学専攻	学士 (文学)
英米文学専攻	学士 (文学)
独文学専攻	学士 (文学)
仏文学専攻	学士 (文学)
図書館・情報学専攻	学士 (図書館・情報学)
社会学専攻	学士 (人間関係学)
心理学専攻	学士 (人間関係学)
教育学専攻	学士 (人間関係学)
人間科学専攻	学士 (人間関係学)

経済学部

法 学 部

商 学 部

医 学 部

理工学部

機械工学科

電子工学科

応用化学科

物理情報工学科

管理工学科

数理科学科

数学専攻

統計学専攻

物理学科

化学科

システムデザイン工学科

情報工学科

生命情報科

総合政策学部

環境情報学部

看護医療学部

薬学部

薬学科	学士 (薬学)
薬科学科	学士 (薬科学)
薬学科 (旧課程)	学士 (薬学)
医療薬学科 (旧課程)	学士 (薬学)

2 修 士

文学研究科

哲学・倫理学専攻	修士 (哲学)
美学美術史学専攻	修士 (美学)
史学専攻	修士 (史学)
国文学専攻	修士 (文学) または 修士 (日本語教育学)

中国文学専攻

英米文学専攻

独文学専攻

仏文学専攻

図書館・情報学専攻

経済学研究科

法学研究科

社会学研究科

社会学専攻

心理学専攻

教育学専攻

商学研究科

医学研究科

医科学専攻

理工学研究科

基礎理工学専攻

修士 (理学) または 修士 (工学)

総合デザイン工学専攻

修士 (理学) または 修士 (工学)

開放環境科学専攻

経営管理研究科

政策・メディア研究科

政策・メディア専攻

健康マネジメント研究科

看護・医療・スポーツ マネジメント専攻

修士 (看護学) または 修士 (健康マネジメント学)

システムデザイン・

マネジメント研究科

システムデザイン・

マネジメント専攻

修士 (システムエンジニアリ ング学) または修士 (システ ムデザイン・マネジメント学)

メディアデザイン研究科

メディアデザイン専攻

薬学研究科

薬学専攻

修士 (薬学) または 修士 (医療薬学)

医療薬学専攻

修士 (薬学) または 修士 (医療薬学)

3 博 士

文学研究科

哲学・倫理学専攻

修士 (哲学)

美学美術史学専攻

修士 (美学)

史学専攻

修士 (史学)

国文学専攻	博士（文学）
中国文学専攻	博士（文学）
英米文学専攻	博士（文学）
独文学専攻	博士（文学）
仏文学専攻	博士（文学）
図書館・情報学専攻	博士（図書館・情報学）
経済学研究科	博士（経済学）
法学研究科	博士（法学）
社会学研究科	
社会学専攻	博士（社会学）
心理学専攻	博士（心理学）
教育学専攻	博士（教育学）
商学研究科	博士（商学）
医学研究科	博士（医学）
理工学研究科	
基礎理工学専攻	博士（理学）または 博士（工学）
総合デザイン工学専攻	博士（理学）または 博士（工学）
開放環境科学専攻	博士（工学）
経営管理研究科	博士（経営学）
政策・メディア研究科	
政策・メディア専攻	博士（政策・メディア）
健康マネジメント研究科	
看護・医療・スポーツ マネジメント専攻	博士（看護学）または 博士（健康マネジメント学）
システムデザイン・ マネジメント研究科	
システムデザイン・ マネジメント専攻	博士（システムエンジニアリ ング学）または博士（システ ムデザイン・マネジメント学）
メディアデザイン研究科	
メディアデザイン専攻	博士（メディアデザイン学）
薬学研究科	
薬学専攻	博士（薬学）または 博士（医療薬学）
医療薬学専攻	博士（薬学）または 博士（医療薬学）

4 専門職学位

法務研究科

法務専攻

法務博士（専門職）

- ② 前項第3号に定めるほか博士（学術）の学位を授与することができる。

（学士学位の授与要件）

第2条の2 学士の学位は、大学を卒業した者に与えられる。

（修士学位の授与要件）

第3条 修士の学位は、大学院前期博士課程を修了した者に与えられる。

（課程による博士学位の授与要件）

第4条 博士の学位は、大学院博士課程を修了した者に与えられる。

（論文による博士学位の授与要件）

第5条 博士の学位は、研究科委員会の承認を得て学位論文を提出して論文の審査に合格し、かつ大学院博士課程の修了者と同等以上の学識があることを確認（以下「学識の確認」という。）された者に与えられる。

（専門職学位の授与要件）

第5条の2 専門職学位は、専門職大学院の課程を修了した者に与えられる。

（学識の確認の特例）

第6条 ① 大学院博士課程における教育課程を終え、学位論文を提出しないで退学した者のうち、退学の日から起算して研究科委員会が定める年限以内に論文による博士学位を申請した者については、研究科委員会が適当と認めた場合、学識の確認の一部もしくはすべてを行わないことができる。

② 学位論文以外の業績および経歴の審査によって、研究科委員会が学識の確認の一部もしくはすべてを行う必要がないと認めた場合には、当該審査をもって学識の確認の一部もしくはすべてに代えることができる。

（課程による学位の申請）

第7条 ① 第3条の規定に基づき修士学位を申請する者は、学位論文3部を指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。

② 第4条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部および所定の書類を添え、指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。

（論文による学位の申請）

第8条 第5条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部および所定の書類を添え、その申請する学位の種類を指定して、学長に提出しなければならない。

（審査料）

第9条 第5条の規定に基づき博士学位を申請する者に対する審査料は、次のとおりとする。

- | | |
|--------------------------------------|----------|
| 1 本大学大学院博士課程の教育課程を終え学位論文を提出しないで退学した者 | 50,000円 |
| 2 本大学学士、修士または専門職の学位を与えられた者で前号の定め以外の者 | 70,000円 |
| 3 前2号のいずれにも該当しない者 | 100,000円 |
| 4 本塾専任教職員である者 | 20,000円 |
- （医学研究科については40,000円）

（審査ならびに期間）

第10条 ① 修士および博士の学位論文の審査ならびにこれに関連する試験等の合否は、当該研究科委員会が判定する。

② 博士の学位論文の審査ならびにこれに関連する試験および学識の確認等は、論文受理後1年以内に終了するものとする。

（審査委員会）

第11条 研究科委員会は、学位論文の審査ならびにこれに関連する試験等を行うために、関係指導教授および関連科目担当教授2名以上からなる審査委員会（主査および副査）を設置しこれに当たらせる。ただし、必要がある場合は准教授または専任講師・講師（非常勤）等を特に審査委員会に加えることができる。

（審査結果の報告・判定方法）

第12条 ① 審査委員会は、論文審査の要旨ならびに試験の成績等を記録して研究科委員会に報告し、かつ、その意見を開陳する。

② 研究科委員会は、委員の3分の2以上の出席により成立し、その3分の2以上の賛同をもって学位論文の審査ならびに試験の合否を決定する。

③ 前項の議決は、無記名投票をもって行う。

（学位授与）

第13条 ① 修士または博士の学位は、研究科委員会において

学位論文の審査ならびに試験に合格した者に対し、学長が当該研究科委員会の報告に基づき授与する。

- ② 専門職学位は、当該研究科の修了要件を満たした者に対し、学長が当該研究科委員会の報告に基づき授与する。

(学位論文要旨の公表)

第14条 本大学は博士の学位を授与したとき、当該博士の学位を授与した日から3月以内にその論文の内容の要旨および論文審査の結果の要旨を公表する。

(学位論文の公表)

第15条 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位の授与を受けた日から1年以内にその論文を印刷公表し「慶應義塾大学審査学位論文」と明記するものとする。ただし、学位の授与を受ける前にすでに印刷公表したときはこの限りではない。

(学位の表示)

第16条 学位の授与を受けた者が学位の名称を用いるときは、学位の後にこれを授与した本大学名を「(慶應義塾大学)」と付記するものとする。

(学位の取消)

第17条 不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき、または学位を得た者がその名誉を汚辱する行為があったときは、当該研究科委員会および大学院委員会の議を経てその学位を取消すものとする。

(学位記および書類)

第18条 学位記および学位授与申請関係書類の様式は、別表1から別表6までのとおりとする。

(規程の改廃)

第19条 この規程の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。ただし、第2条第1項第1号および第2条の2については大学評議会の議を経てこれを行う。

附 則 (平成20年6月4日)

この規程は平成21年4月1日から施行する。

1-2 学位の授与に関する内規

昭和59年3月16日制定

平成12年5月16日改正

第1条 慶應義塾大学学位規程第13条(学位授与)に関する取り扱いは、この内規の定めるところによる。

第2条 論文博士の学位授与および博士課程単位修得退学者で、再入学しない者に対する課程博士の学位授与に関しては、次の通り行うものとする。

- 学位授与日は、研究科委員会の議決日とする。
- 研究科委員会が学位論文審査合格を議決した日以降、「学位取得証明書」を発行できるものとする。
- 学位の授与手続きは、次の通りとする。
 - 研究科委員会の合否判定議決に基づき、研究科委員長はその結果を速やかに学長に報告する。
 - 学長は、研究科委員長の報告に基づき合格者に学位を授与する。
- 学位記は、学位授与式において授与する。

第3条 修士の学位授与および博士課程に在学している者に対する課程博士の学位授与に関しては、前第2条第3号と同様の手続きを経て、当該年度末(3月23日)をもって学位を授

与する。

② 前項の規定にかかわらず、修士課程においてあらかじめ研究科委員会の承認を得て、学位論文を提出締切期日までに提出せず、次年度も引き続き在学している者が、研究科委員会の特に認めた期日までに学位論文を提出し、課程修了を認定された場合には、春学期末日をもって学位を授与することができる。

③ 第1項の規定にかかわらず、後期博士課程(医学研究科にあっては博士課程)に在学する者で、大学院学則第109条第3項のただし書(医学研究科については同条第4項のただし書)の適用を受け、春学期末日をもって課程修了を認定された場合には、当該春学期末日をもって学位を授与することができる。

④ 前項の規定にかかわらず後期博士課程(医学研究科にあっては博士課程)に在学する者で、大学院学則第109条第3項のただし書(医学研究科については同条第4項のただし書)の適用を受け、在学する年度途中において特に課程修了を認定された場合には、認定された日をもって学位を授与することができる。

⑤ 第1項の規定にかかわらず、「大学院在学期間延長者取扱内規」により在学する者が、春学期末日をもって課程修了を認定された場合には、当該春学期末日をもって学位を授与することができる。

⑥ 前項の規定にかかわらず、「大学院在学期間延長者取扱内規」により在学する者が、在学する年度途中において、特に課程修了を認定された場合には、認定された日をもって学位を授与することができる。

⑦ 学位記は、学位授与式において授与する。

第4条 学長は、学位を授与した者の氏名その他必要事項を取りまとめて、年2回大学院委員会の各委員に報告しなければならない。

第5条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

附 則 (平成12年5月16日)

この内規は、平成12年4月1日から実施する。

1-3 商学研究科における課程による 博士学位の授与要件に関する 内規(抜粋)

1. 学位論文の提出要件

学位論文を提出しようとする者は、原則として次の2要件を充たすものとする。

- 『三田商学研究』またはこれに準ずる学術研究誌に論文を1編以上掲載しなければならない。
- 商学研究科研究報告会において口頭による研究発表を少なくとも1回は行わなければならない。また、研究発表を行おうとする者は、下記附則の手続きを踏まなければならない。

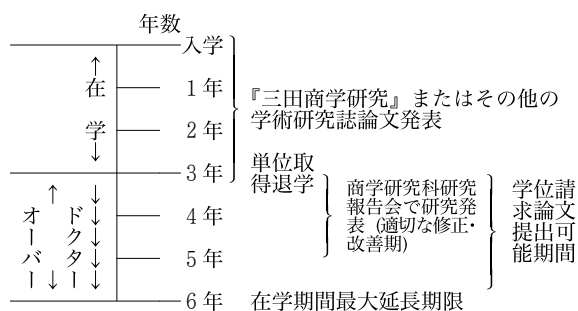
但し、1の②における研究発表は、学位請求論文(予定)の内容を含むこと。

附則 商学研究科研究報告会についての特別運用規定

報告者は、遅くとも研究報告会開催日の1ヶ月前までに研究科委員会宛に下記の書類を提出のこと。(付表)

- 発表内容のレジメ(6000字程度でA4版使用を6部)

2. 発表用フルペーパー（4部）
 3. これまでの業績一覧（3部）
- ① 学位論文審査の基準
- 学位論文は、概ね以下に掲げる要件を充たすものとする。
- イ. 論理的・体系的な論旨の展開が認められるものであること。
- ロ. 研究成果に独創性が認められるものであること。
- この場合独創性とは、新しい視点からの問題への接近、新しい分析方法の採用、あるいは新しい所見、結論への到達等のいずれかが含まれていることを意味する。
- ハ. 当該分野の過去の研究成果を十分に参酌したものであること。
- ② 課程による博士学位取得のプロセス（モデル）



2 奨学金

2-1 大学院奨学規程

平成2年4月13日制定

平成20年3月11日改正

第1章 総 則

(根拠)

第1条 慶應義塾大学は、慶應義塾大学大学院学則（大正9年5月5日制定。以下「大学院学則」という。）第16節奨学制度に基づき、貸費および給費の奨学制度を置く。

(奨学金の種類・金額)

第2条 ① 奨学金の種類は、次のとおりとする。

- 1 貸費奨学金（無利子） 修士課程（前期博士課程）学生対象（ただし、外国人留学生を除く。）
- 2 給費奨学金 後期博士課程（以下「博士課程」という。）学生、医学研究科博士課程学生、私費外国人留学生対象

② 前項に定める奨学金の年額は、次のとおりとする。ただし、私費外国人留学生は半額とする。

- | | |
|--|-----------|
| 1 文、経済、法、社会、商学研究科 | 400,000 円 |
| 2 医学、経営管理、健康マネジメント、システムデザイン・マネジメント、メディアデザイン研究科 | 600,000 円 |
| 3 理工学、政策・メディア、薬学研究科 | 500,000 円 |

第2章 貸 費 生

(資格)

第3条 貸費生の資格は、大学院修士課程の学生（ただし、外国人留学生を除く。）とし、次の条件を備えていなければならない。

- 1 研究の意欲を持ち、経済的に修学が困難であること。
- 2 学業成績・人物共に優秀で健康であること。
- 3 原則として、修士課程1年生であること。

(期間)

第4条 貸費の期間は、大学院学則に定める修士課程標準修業年限の2か年とする。ただし、修士課程2年生が貸費生に採用された場合は、1か年とする。

(申請)

第5条 貸費を受けようとする者は、所定の申請書に学業成績証明書、健康診断書および連帯保証人等の所得証明書を添えて、学生総合センターに申請するものとする。

(選考)

第6条 貸費生は、第3条の条件により選考する。

(決定)

第7条 前条による選考は、別に定める大学院奨学委員会（以下「委員会」という。）において行い、塾長がこれを決定する。（家計急変者に対する救済措置等）

第8条 天災その他の災害および家計支持者の死亡、失職等のため家計が急激に変化し、学費の納入が困難になった者等若干名については、第3条第3号の規定にかかわらず、貸費生として追加採用することができる。

(誓約書)

第9条 貸費生として決定された者は、所定の誓約書を連帯保証人と連署の上、学生総合センターに提出しなければならない。

(身分等変更の届出)

第10条 貸費生は、次の各号に該当する場合は、直ちに学生総合センターに届け出なければならない。ただし、本人の病気・死亡などの場合は、連帯保証人が代わって届け出なければならない。

- 1 休学、留学、就学、退学
- 2 本人および連帯保証人の氏名、住所、その他重要事項の変更

(貸与の休止)

第11条 委員会は、貸費生が休学・留学した場合、その間貸費生の資格を休止することができる。

(貸与の復活)

第12条 前条の規定により貸費生の資格を休止された者が、休止の理由となったものが消滅した場合、委員会は、申請により貸与を復活することができる。ただし、休止された時から3か年を経過したときは、この限りではない。

(失格)

第13条 委員会が次の各号により不適格と認めた場合、貸費生はその資格を失う。

- 1 大学院学則に基づく退学、停学の場合
- 2 申請書および提出書類の記載内容に虚偽があった場合
- 3 正当な理由がなく第10条に定める届け出を怠った場合
- 4 その他貸費生として不適当と認められた場合

(貸与の辞退)

第14条 貸費生は、いつでも貸与を辞退することができる。この場合には、連帯保証人と連署の届出書を、学生総合センターに提出しなければならない。

(貸与金借用証書の提出)

第15条 貸費生が次の各号に該当する場合は、貸与金借用証書に貸与金返還総額等を記載し、連帯保証人および保証人と連署の上、学生総合センターに提出しなければならない。連帯

保証人および保証人の使用する印鑑については、印鑑証明を必要とする。

- 1 貸与期間が満了した場合
- 2 貸与を期間中に辞退した場合
- 3 第13条による失格の場合

(貸与金の返還)

第16条 ① 貸与金の返還は、原則として貸与が終了した年の12月から毎年1回の年賦とし、貸与年数の4倍の年数以内に全額を返還するものとする。ただし、貸与金はいつでも繰り上げ返還することができる。

② 第13条による失格者については、貸与金の全額を直ちに返還しなければならない。

(返還猶予)

第17条 ① 貸費生であった者が次の各号に該当する場合には、委員会は、本人の申請により貸与金の返還を猶予することができる。

- 1 災害または疾病により返済が困難となった場合
- 2 貸与期間終了後、引き続き修士課程に在学している場合
- 3 修士課程修了後、博士課程進学を目指している場合

② 前項の規定にかかわらず、委員会は、その理由が相当であると認めるときは、申請により貸与金の返還を猶予することができる。

③ 返還猶予期間は1か年とするが、返還猶予の理由が存続する場合は、第1項第3号に基づく場合を除いて、申請により1年ごとに延長することができる。ただし、原則として3か年を超えて延長することはできない。

(返還免除)

第18条 ① 貸費生であった者が次の各号に該当する場合には、委員会は、本人または連帯保証人の申請により、貸与金の全部または一部の返還を免除することができる。

- 1 博士課程に進学し、学位を取得した場合、あるいは博士課程に3か年以上在学して所定の単位を取得し退学した場合。ただし、博士課程を途中で退学した者については免除を認めない。
- 2 貸与金返還完了前に死亡した場合。この場合には、連帯保証人または相続人は、死亡時から6か月以内に、貸与金返還免除申請書を、死亡診断書または戸籍抄本を添えて、学生総合センターに提出しなければならない。

② 前項の規定にかかわらず、委員会は、その理由が相当であると認めるときは、申請により貸与金の全部または一部の返還を免除することができる。

第3章 給費生

(資格)

第19条 給費生の資格は、大学院博士課程学生および私費外国人留学生とし、次の条件を備えていなければならない。

- 1 研究の意欲を持ち、経済的に修学が困難であること。
- 2 学業成績・人物共に優秀で健康であること。

(期間)

第20条 給費の期間は、1か年とする。引き続き給費を希望する場合、再申請は妨げないが、3か年(医学研究科は4か年)を超えて給費を受けることはできない。

(申請)

第21条 給費を受けようとする者は、所定の申請書および必要書類により、学生総合センターに申請するものとする。

(選考)

第22条 給費生は、第19条の条件により選考する。

(決定)

第23条 前条による選考は、委員会において行い、塾長がこれを決定する。

(身分等変更の届出)

第24条 給費生は、次の各号に該当する場合は、直ちに学生総合センターに届け出なければならない。ただし、本人の病気・死亡などの場合は、保証人が代わって届け出なければならない。

- 1 休学、留学、退学
- 2 本人および保証人の氏名、住所、その他重要事項の変更

(失格)

第25条 委員会が次の各号により不適格と認めた場合、給費生はその資格を失う。

- 1 大学院学則に基づく休学、退学、停学の場合
- 2 申請書および提出書類の記載内容に虚偽があった場合
- 3 正当な理由がなく前条に定める届け出を怠った場合
- 4 その他給費生として不適格と認められた場合

(返還)

第26条 ① 給費生が前条の規定により給費生としての資格を失った場合は、すでにその年度に給付された金額の全部または一部を返還しなければならない。委員会は、この場合の返還方法を、審査の上で定める。

② 前項の規定にかかわらず、次の各号に該当する場合は、委員会は、申請によりすでに給付された奨学金の全部または一部の返還を免除することができる。

- 1 死亡した場合
- 2 前条第1号の規定により、給費生として資格を失った場合

(事務)

第27条 本制度の運営事務は、学生総合センターの所管とする。

(規程の改廃)

第28条 この規程の改廃は、委員会の議を経て、塾長が行う。

附 則 (平成20年3月11日)

- ① この規程は、平成20年4月1日から施行する。
- ② 旧・慶應義塾大学大学院奨学規程は、平成20年3月31日をもって廃止する。

2-2 小泉信三記念大学院特別奨学金規程

昭和52年4月12日制定

平成16年3月15日改正

第1条 小泉信三記念奨学金規程(昭和52年4月12日制定)第2条第1号に基づき、研究者の養成を目的として大学院に特別奨学金による奨学研究生を置く。

第2条 奨学研究生は、学部第4学年に在学し大学院への進学を志願する学生、または大学院に在学する学生の中から、これを選考する。

第3条 奨学研究生の選考は、各研究科委員会の推薦により、小泉基金運営委員会の議を経て学長がこれを決定する。

第4条 奨学研究生には特別奨学金として、月額30,000円を給付し、その期間は1年とする。ただし、審査の上、この期間を更新することができる。

第5条 この特別奨学金規程に関する事務は、研究支援センター本部が担当する。

第6条 この規程に関する細則は別に定める。

附 則 (平成16年3月15日)

この規程は、平成16年3月15日から施行する。

2-3 小泉信三記念大学院特別奨学金 規程施行細則

昭和52年4月12日制定

平成16年3月15日改正

第1条 小泉基金運営委員会委員長は、毎年奨学研究生を公募する。

第2条 奨学研究生は、大学院に在学し、次に掲げる各号の条件を備えていなければならない。

- 1 学業成績・人物共に優秀であること。
- 2 将来、研究者たり得る資質ありと認められること。
- 3 健康であること。

第3条 奨学研究生を志望する者は、次の書類を整えて、保証人連署の上、研究支援センター本部に提出しなければならない。

- 1 願 書
- 2 履歴書
- 3 成績証明書 大学学部1年から申請時までの成績証明書
- 4 健康診断書

第4条 各研究科委員会は、奨学研究生を志望した者について審議し、順位を付して小泉基金運営委員会に推薦しなければならない。

第5条 奨学研究生は、次の理由により身分に変更を生じた場合は、保証人連署の上、直ちに学長に届け出なければならない。

- 1 休学・復学・退学
- 2 本人および保証人の身分・住所その他重要事項の変更。ただし、本人が病気・死亡等の場合は、保証人が代って届け出なければならない。

第6条 小泉基金運営委員会が、次の理由により不適格と認めた場合は、奨学研究生としての資格を失うものとし、すでに支給した奨学金の全部もしくは一部を返還させることがある。

- 1 この奨学金設定の趣旨に反し、かつ塾生としての本分にもとる行為があった場合
- 2 提出書類に虚偽の記載をした場合
- 3 正当な理由なく前条に定める届け出を怠った場合

第7条 奨学研究生が退学した場合は、給付を打ち切るものとする。

附 則 (平成16年3月15日)

この細則は、平成16年3月15日から施行する。

3 授業料減免

3-1 授業料等減免規程

平成元年7月18日制定

平成20年12月16日改正

(目的)

第1条 慶應義塾大学は、疾病・傷害によって授業を長期にわたり休学している学部学生ならびに大学院生で、経済上授業料等(大学院にあっては在学料等。以下「授業料等」という。)の納入が著しく困難な学生に対し、審査のうえ、一定の期間授業料等を減免することができる。

(対象)

第2条 ① 減免を受けようとする者は、1年以上の長期にわたり入院または通院している者ならびに自宅療養をしている者で、休学の2年目以降の者でなければならない。

② 母国において兵役義務により休学する者。この場合に限り1年目から減免する。

③ 法務研究科(法科大学院)については別に定める。

(申請)

第3条 前条に該当する者が減免を申請する場合は、所定の申請書に休学許可書、診断書ならびに家計支持者の所得を証明する書類を添えて、学生総合センター長に提出しなければならない。

(減免額)

第4条 ① 減免を認められた者の減免額は、文学部、経済学部、法学部、商学部、文学研究科、経済学研究科、法学研究科、社会学研究科、商学研究科、政策・メディア研究科、システムデザイン・マネジメント研究科およびメディアデザイン研究科については当該休学期間の授業料等の半額、医学部、理工学部、総合政策学部、環境情報学部、看護医療学部、薬学部、医学研究科、理工学研究科、経営管理研究科、健康マネジメント研究科および薬学研究科については当該休学期間の授業料等の半額および当該休学期間の実験実習費の半額とする。

② 正課または課外活動中の事故による傷害で休学している場合、その事由を斟酌し、減免額を全額とすることができる。

③ 母国において兵役義務により休学する場合は、当該休学期間の授業料等の全額を免除する。

(審査)

第5条 第1条による審査は、大学学部生については大学奨学委員会、大学院生については大学院奨学委員会が行い、塾長が決定する。

(減免の取消し)

第6条 休学者が虚偽の申請その他不正の方法で減免を受けた場合には、減免の措置を取り消すとともに、すでに減免を受けた授業料等の全部または一部を納入させることができる。

(就学の届出)

第7条 休学者が就学した時は、速やかに書面をもってその旨学生総合センター長に届け出なければならない。

(規程の改廃)

第8条 この規程の改廃は、大学奨学委員会ならびに大学院奨学委員会の議を経て、塾長が決定する。

(所管)

第9条 この規程の運営事務は、学生総合センターの所管と

する。

附 則（平成20年12月16日）

- ① この規程は、平成21年度以降学部に入学者（第2学年編入学については平成22年度以降、第3学年編入学については平成23年度以降に入学者のもの）には適用しない。
- ② この規程は、平成21年4月1日から施行する。

3-2 留学期間中の学費の取り扱いに関する規程

平成元年5月23日制定

平成21年1月13日改正

第1条 慶應義塾大学学部学則（大正9年5月5日制定）第153条および慶應義塾大学大学院学則（大正9年5月5日制定）第124条により外国の大学に留学する学生の学費に関する取り扱いは、この規程の定めるところによる。

第2条 留学期間中の学費の取り扱いは、次のとおりとする。

- 1 留学の始まる日（以下「留学開始日」という。）の属する年度の学費は納入するものとする。ただし、留学の奨励を図るため、別に定めるところにより、留学に要する経費の一部を補助することがある。
- 2 留学の延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して1年6か月以上2年以内（医学研究科博士課程は2年6か月以上3年以内）の場合は、留学開始日から1年（医学研究科博士課程は2年）を経過した日の属する年度の授業料（在学科）および実験実習費の半額を免除する。
- 3 留学の再延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して2年6か月以上3年以内（医学研究科博士課程は3年6か月以上4年以内）の場合は、留学開始日から2年（医学研究科博士課程は3年）を経過した日の属する年度の授業料（在学科）および実験実習費の半額を免除する。

第3条 前条にかかわらず、学部または大学院在学中に私費により留学する場合は別に定める。

第4条 学費の相互免除が含まれる交換協定による留学（ダブルディグリープログラムを含む）については、第2条第2号および第3号は適用しない。

第5条 留学の許可を取り消された場合は、その間に免除した学費の一部または全額を納入させることがある。

第6条 この規程の適用に当たり疑義を生じた場合は、その都度塾長が決定する。

第7条 この規程の改廃は、塾長がこれを決定する。

附 則（平成21年1月13日）

- ① この規程は、平成21年4月1日から施行する。
- ② この規程は、大学院生および平成20年度以前学部に入学者（第2学年編入学については平成21年度以前、第3学年編入学については平成22年度以前に入学者）に適用する。ただし、平成20年9月入学者については平成21年9月から適用する。
- ③ 平成21年4月1日以前に留学が開始した学部在学中の者については、第3条は適用外とする。

3-3 大学院生が私費により留学した場合の学費の取り扱いに関する内規

平成18年3月24日制定

第1条 「留学期間中の学費の取り扱いに関する規程」第3条については、この内規の定めるところによる。

第2条 大学院生が私費により留学した場合の学費の取り扱いは次のとおりとする。

〈取扱単位〉

1 留学期間は学期（春学期・秋学期）を単位として取り扱う。

〈対象学期〉

2 減免の対象となる学期とは留学により在学しなかった学期とする。

〈減免額〉

3 前項で減免の対象となった学期の属する年度の在学科および実験実習費について、年額の4分の1を各学期において免除する。

〈減免期間〉

4 免除される期間は最長6学期までとする。ただし、留学期間中に交換または奨学金による留学が含まれる場合は、その期間に該当する学期を含んで6学期までとする。

第3条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て塾長がこれを決定する。

附 則

- ① この内規は平成18年4月1日から施行する。
- ② この内規は、留学開始日が平成18年4月1日以降の者に適用する。
- ③ この内規の施行前、すでに留学を許可され留学している者の学費については、「留学期間中の学費の取り扱いに関する規程」第2条第1項～3項を適用する。

4 その他

4-1 大学院在学期間延長者取扱い内規

昭和59年3月16日制定

第1条 本塾大学大学院後期博士課程（医学研究科にあつては博士課程）において、当該課程修了要件のうち学位論文の審査並びに最終試験を除き所定の教育課程を終えた後、引続き博士學位取得のため在学する者の取扱いは、この内規の定めるところによる。

第2条 在学期間延長を希望する者は、指導教授の許可を得て研究科委員会に「在学期間延長許可願」を提出し、承認を得なければならない。

第3条 研究科委員会は、研究継続の必要性等在学を延長する十分な理由があると認め、かつ教育並びに研究に支障のない場合、大学院学則第128条に定める在学最長年限を超えない範囲で、引続き1年間（4月1日～翌年3月31日）の在学を許可できるものとする。

第4条 在学期間延長者が延長期間終了後も引続き在学を希望するときには、新たに「在学期間延長許可願」を提出し、研究科委員会の承認を得なければならない。

第5条 学則定員その他の理由から延長が認められない場合は、大学院学則第153条に定める研究生として受け入れるこ

とができる。

附 則

第1条 この内規は、昭和59年4月1日から施行する。

第2条 この内規は、昭和58年度以降に医学研究科博士課程に入学した者並びに昭和60年度以降に後期博士課程に入学又は進学した者に適用する。

第3条 附則第2条の規定にかかわらず、博士課程所定単位修得退学者に対して課程による学位論文提出年限を「博士学位に関する内規」に沿って定めている研究科に在学する者については、昭和59年4月1日からこの内規を適用することができる。

第4条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

② 前項の規定にかかわらず、博士課程所定単位修得退学者に対して課程による学位論文提出年限を「博士学位に関する内規」に沿って定めている研究科に在学する者については、昭和59年4月1日からこの内規を適用することができる。

第4条 この内規の改廃は、塾長が決定する。

4-2 大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学料その他の学費に関する取扱内規

昭和59年3月30日制定

平成8年3月8日改正

第1条 本塾大学大学院において「学位の授与に関する内規」第3条第2項若しくは第3項により第1学期末日をもって課程修了する者の学費は、次の通りとする。

1 在学料（毎年）

大学院学則第131条に定める金額の2分の1に相当する額

2 施設設備費（毎年）

大学院学則第131条に定める金額

3 実験実習費（毎年）

大学院学則第132条に定める金額

第2条 本塾大学大学院後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）において「大学院在学期間延長者取扱内規」による在学期間延長者の学費は、次の通りとする。

1 在学料（毎年）

大学院学則第131条に定める金額の4分の3

2 施設設備費（毎年）

免除

3 実験実習費（毎年）

大学院学則第132条に定める金額

② 在学期間延長者が「学位の授与に関する内規」第3条第4項および第5項により年度途中の日をもって課程修了する場合の在学料は、その課程修了の日が第1学期末日までの者に限り、前項に定める金額の2分の1に相当する額。

第3条 「大学院在学期間延長者取扱内規」第5条による研究生は、大学院学則第153条第2項に定める登録料を免除し、初年度に限り選考料を徴収しない。

附 則

第1条 この内規は、平成8年4月1日から施行する。

第2条 この内規の修士課程に係る本則第1条については、昭和59年4月1日から適用する。

第3条 この内規の後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）に係る本則第2条及び第3条については、昭和58年度以降に医学研究科博士課程に入学した者並びに昭和60年度以降に後期博士課程に入学又は進学した者に適用する。

学位請求論文製本表紙見本

(1) 表紙

○○論文 平成 21 年度 (2 0 0 9)	
<table border="1" style="margin: auto; width: 80%; height: 40px;"> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;"> 論 題 </td> </tr> </table>	論 題
論 題	
慶 應 義 塾 大 学 大 学 院 商 学 研 究 科	
<table border="1" style="margin: auto; width: 80%; height: 20px;"> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;"> 氏 名 </td> </tr> </table>	氏 名
氏 名	

(2) 背表紙

	} 1.0 cm
2 0 0 9	
	} 1.0 cm
○ ○ 論 文	
	} 1.0 cm
論	
題	
氏	
名	
	} 5.0 ~ 6.0 cm

※ 論文を提出される際は、「第 8 履修要項」の「6 学位請求論文の提出について」も参照してください。

- ① 本文の縦書き・横書きにかかわらず、原則として縦 A4 版で製本してください。
- ② 縦書きの場合は右綴じ、横書きの場合は左綴じとしてください。
- ③ 製本の表紙は、本文が縦書きの場合は縦書き、横書きの場合は横書きとしてください。
- ④ 製本の背文字は、本文の縦書き、横書きにかかわらず縦書きとしてください。
- ⑤ 製本は黒表紙を原則とし、白文字を使用してください。
- ⑥ 既に公刊されている書物等を学位請求論文とする場合についてはこの限りではありません。

塾生、保護者・保証人の方々にかかわる個人情報の取扱い

- 1 義塾の学生・生徒・児童等の主な個人情報は、次のとおりです。
 - ① 塾生本人の氏名・住所・電話番号・生年月日・出身校等
 - ② 保護者・保証人の氏名・住所・電話番号（自宅および緊急連絡先）・本人との続柄等
 - ③ 塾生等の学籍・成績・健康診断・在学中のその他の活動履歴情報、寄付金・慶應カードの申し込みデータなど

- 2 個人情報を取り扱うに当たっては、あらかじめ利用目的を特定し、明示いたします。特定した利用目的以外には利用しません。また、利用目的を変更する場合は、本人に通知するか、義塾のホームページへの掲載、所定掲示板への掲示等により公表いたします。

- 3 個人情報は、以下の諸業務遂行のために利用します。
 - ① 入学手続および学事に関する管理、連絡および手続
 - ② 学生生活全般に関する管理、連絡および手続き
 - ③ 大学内の施設・設備利用に関する管理、連絡および手続
 - ④ 寄付金、維持会・慶應カードの募集等に関する書類発送およびその他の連絡
 - ⑤ 本人および保護者・保証人に送付する各種書類の発送
 - ⑥ 卒業後の刊行物の発送、評議員選挙および寄付金・維持会・慶應カードの募集等に関する各種書類送付とこれらに付随する事項

- 4 上記3の業務のうち、一部の業務を慶應義塾から当該業務の委託を受けた受託業者において行います。業務委託に当たり、受託業者に対して委託した業務を遂行するために必要となる範囲で、個人情報を提供することがあります。

- 5 三田会または同窓会から要請があったときは、当該三田会または同窓会に所属する者の個人情報を当該組織の活動に必要な範囲で提供することがあります。

- 6 慶應義塾は、上記3～5の利用目的の他には、特にお断りする場合を除いて個人情報を利用もしくは第三者への提供をいたしません。ただし、法律上開示すべき義務を負う場合や、塾生本人または第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を保護するために必要であると判断できる場合、その他緊急の必要があり個別の承諾を得ることができない場合には、例外的に第三者に個人情報を提供することがあります。

- 7 慶應義塾の個人情報保護に関する規程は、URL (http://www.keio.ac.jp/ja/personal_information/index.html) でご覧頂くことができます。